

ハ脱退シタル當事者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

舊第六十二條 指名參加ノ意義及要件

第七十三條 【訴訟中ノ權利讓受ト主參加】

訴訟ノ繫屬中其ノ訴訟ノ目的タル權利ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタルコトヲ主張シ第七十一條ノ規定ニ依リテ訴訟參加ヲ爲シタルトキハ其ノ參加ハ訴訟ノ繫屬ノ初ニ週リテ時効ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守ノ效力ヲ生ス

第七十四條 【訴訟中ノ債務承繼ト訴訟ノ引受】

訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承繼シタルトキハ裁判所ハ當事者ノ申立ニ因リ其ノ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受ケシムルコトヲ得

2 裁判所ハ前項ノ規定ニ依リテ決定ヲ爲ス前當事者及第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

3 第七十二條ノ規定中脱退及判決ノ效力ニ關スルモノハ第一項ノ規定ニ依リテ訴訟ノ引受アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 【權利關係ノ合一ニ基ク參加】

訴訟ノ目的カ當事者ノ一方及第三者ニ付合一ニノミ確定スヘキ場合ニ於テハ其ノ第三者ハ共同訴訟人トシテ

訴訟ニ參加スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十六條 【訴訟ノ告知】

當事者ハ訴訟ノ繫屬中參加ヲ爲スコトヲ得ル第三者ニ其ノ訴訟ノ告知ヲ爲スコトヲ得

2 訴訟告知ヲ受ケタル者ハ更ニ訴訟告知ヲ爲スコトヲ得
舊第五十九條 告知參加ノ意義及要件
舊第六十二條 指名參加ノ意義及要件

第七十七條 【訴訟告知ノ書面】

訴訟告知ハ理由及訴訟ノ程度ヲ記載シタル書面ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

2 前項ノ書面ハ相手方ニモ之ヲ送達スルコトヲ要ス
舊第六十條 訴訟告知ノ方式

第七十八條 【訴訟告知ノ效力】

訴訟告知ヲ受ケタル者カ參加セザリシ場合ニ於テモ第七十條ノ規定ノ適用ニ付テハ參加スルコトヲ得ヘカリシ時ニ參加シタルモノト看做ス
舊第六十一條 訴訟告知ト本訴訟トノ關係

第四節 訴訟代理人及輔佐人

第七十九條 【訴訟代理人タリ得ル者】

法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ外辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得ス但シ區裁判所ニ於テハ許可ヲ得テ辯護士ニ非サル者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

2 前項ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

舊第六十三條 訴訟代理人任設ノ要件

舊第二百二十七條 裁判所ノ秩序維持權(一)

第八十條 【訴訟代理權ノ證明】

訴訟代理人ノ權限ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ要ス
2 前項ノ書面カ私文書ナルトキハ裁判所ハ當該吏員ノ認證ヲ受クヘキ旨ヲ訴訟代理人ニ命スルコトヲ得
3 前二項ノ規定ハ當事者カ口頭ヲ以テ訴訟代理人ヲ選任シ裁判所書記カ調書ニ其ノ陳述ヲ記載シタル場合ニハ之ヲ適用セス
舊第六十四條 訴訟委任ニ基ク代理權ノ證明方法

第八十一條 【訴訟代理人ノ權限】

訴訟代理人ハ委任ヲ受ケタル事件ニ付反訴、參加、強制執行、假差押及假處分ニ關スル訴訟行爲ヲ爲シ且辨濟ヲ受領スルコトヲ得

2 左ニ掲クル事項ニ付テハ特別ノ委任ヲ受クルコトヲ要ス

改正法 總則 當事者 訴訟代理人及輔佐人

ス

一 反訴ノ提起

二 訴ノ取下、和解、請求ノ拋棄若ハ認諾又ハ第七十二條ノ規定ニ依ル脱退

三 控訴、上告又ハ其ノ取下

四 代理人ノ選任

3 訴訟代理權ハ之ヲ制限スルコトヲ得ス但シ辯護士ニ非サル訴訟代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
舊第六十五條 訴訟代理權ノ範圍
舊第六十六條 代理權制限ノ效力

第八十二條 【法令ニ依ル代理人ノ權限】

前條ノ規定ハ法令ニ依リテ裁判上ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ル代理人ノ權限ヲ妨ケス

第八十三條 【訴訟代理人數人アル場合】

數人ノ訴訟代理人アルトキハ各自當事者ヲ代理ス
2 當事者カ前項ノ規定ニ異ル定ヲ爲スモ其ノ效力ヲ有セス
舊第六十七條 數人ノ訴訟代理人ト代理權ノ行使

第八十四條 【訴訟代理人陳述ノ效力】

訴訟代理人ノ事實上ノ陳述ハ當事者カ直ニ之ヲ取消シ

又ハ更正シタルトキハ其ノ效力ヲ生セス

舊第六十八條 訴訟代理人ノ行為ノ效力

第八十五條 【訴訟代理權ノ消滅（一）】

訴訟代理權ハ當事者ノ死亡若ハ訴訟能力ノ喪失、當事者タル法人ノ合併ニ因ル消滅、當事者タル受託者ノ信託ノ任務終了又ハ法定代理人ノ死亡、訴訟能力ノ喪失若ハ代理權ノ消滅、變更ニ因リテ消滅セス

舊第六十九條 訴訟委任消滅ノ效力發生時期

第八十六條 【訴訟代理權ノ消滅（二）】

一定ノ資格ヲ有スル者ニシテ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟ノ當事者タルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ當事者ノ資格ノ喪失ニ因リテ消滅セス

2 前項ノ規定ハ第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者力其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 【訴訟代理ノ準用條文】

第五十二條第二項、第五十三條、第五十四條及第五十七條ノ規定ハ訴訟代理ニ之ヲ準用ス

舊第六十九條 訴訟委任消滅ノ效力發生時期

舊第七十條 訴訟委任欠缺ノ效果

第八十八條 【輔佐人ニ關スル規定】

當事者又ハ訴訟代理人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ輔佐人ト共ニ出頭スルコトヲ得此ノ許可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

2 輔佐人ノ陳述ハ當事者又ハ訴訟代理人力直ニ之ヲ取消シ又ハ更正セサルトキハ自ラ之ヲ爲シタルモノト看做ス

舊第七十一條 輔佐人選任ノ要件

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔

第八十九條 【訴訟費用ノ負擔者】

訴訟費用ハ敗訴ノ當事者ノ負擔トス

舊第七十二條 訴訟費用負擔ノ原則

舊第七十七條 無益ナル上訴又ハ取下タル上訴ノ費用

第九十條 【勝訴者ト訴訟費用（一）】

裁判所ハ事情ニ從ヒ勝訴ノ當事者ヲシテ其ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナラサル行為ニ因リテ生シタル訴訟費用又ハ訴訟ノ程度ニ於テ相手方ノ權利ノ伸張若ハ防禦ニ必要ナリシ行為ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

舊第七十四條 勝訴者ト訴訟費用ノ負擔（一）

舊第七十六條 勝訴者ト訴訟費用ノ負擔（三）

舊第七十八條 上訴審ト訴訟費用ノ裁判

第九十一條 【勝訴者ト訴訟費用ノ負擔（二）】

當事者力適當ノ時期ニ攻撃若ハ防禦ノ方法ヲ提出セザル爲又ハ期日若ハ期間ノ懈怠其ノ他當事者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ訴訟ヲ遲滞セシメタルトキハ裁判所ハ之ヲシテ其ノ勝訴ノ場合ニ於テモ遲滞ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

舊第七十五條 勝訴者ト訴訟費用ノ負擔（二）

舊第七十八條 上訴審ト訴訟費用ノ裁判

第九十二條 【一部敗訴ト訴訟費用】

一部敗訴ノ場合ニ於テ各當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム但シ事情ニ從ヒ當事者ノ一方ヲシテ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルコトヲ得

舊第七十三條 一部敗訴ト費用負擔ノ標準

第九十三條 【共同訴訟ト訴訟費用】

共同訴訟人ハ平等ノ割合ヲ以テ訴訟費用ヲ負擔ス但シ裁判所ハ事情ニ從ヒ共同訴訟人ヲシテ連帶シテ訴訟費用ヲ負擔セシメ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲ負擔セシムルコトヲ得

第九十四條 【參加ニ因ル訴訟費用】

第八十九條乃至前條ノ規定ハ當事者力參加ニ付異議ヲ述ヘタル場合ニ於テハ其異議ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト異議ヲ述ヘタル當事者トノ間ニ於ケル負擔ニ關シ之ヲ準用ス參加ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ參加人ト相手方トノ間ニ於ケル負擔ニ付亦同シ

舊第八十一條 從參加ニ因ル訴訟費用

第九十五條 【訴訟費用ノ裁判】

裁判所ハ事件ヲ完結スル裁判ニ於テ職權ヲ以テ其ノ審級ニ於ケル訴訟費用ノ全部ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ事情ニ從ヒ事件ノ一部又ハ中間ノ争ニ關スル裁判ニ於テ其ノ費用ノ裁判ヲ爲スコトヲ得

舊第二百三十一條 判決ノ基礎ト當事者ノ申立

第九十六條 【上訴費用ノ裁判】

上級裁判所力本案ノ裁判ヲ變更スル場合ニ於テハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所力其ノ事件ヲ完結スル裁判ヲ爲ス

場合亦同シ

舊第七十八條 上訴審ト訴訟費用ノ裁判

第九十七條 【和解ノ場合ト訴訟費用】

當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定テ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

舊第七十九條 和解ノ場合ト費用ノ負擔

第九十八條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(一)】

法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生ゼシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

3 前二項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第八十三條 當事者以外ノ者ノ費用ヲ負擔スヘキ場合

第九十九條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(二)】

裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

舊第七十八條 上訴審ト訴訟費用ノ裁判

第九十七條 【和解ノ場合ト訴訟費用】

當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定テ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

舊第七十九條 和解ノ場合ト費用ノ負擔

第九十八條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(一)】

法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生ゼシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

3 前二項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第八十三條 當事者以外ノ者ノ費用ヲ負擔スヘキ場合

第九十九條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(二)】

裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

舊第七十八條 上訴審ト訴訟費用ノ裁判

第九十七條 【和解ノ場合ト訴訟費用】

當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定テ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

舊第七十九條 和解ノ場合ト費用ノ負擔

第九十八條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(一)】

法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生ゼシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

3 前二項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第八十三條 當事者以外ノ者ノ費用ヲ負擔スヘキ場合

第九十九條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(二)】

裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

舊第七十八條 上訴審ト訴訟費用ノ裁判

第九十七條 【和解ノ場合ト訴訟費用】

當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定テ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

舊第七十九條 和解ノ場合ト費用ノ負擔

第九十八條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(一)】

法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生ゼシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

3 前二項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第八十三條 當事者以外ノ者ノ費用ヲ負擔スヘキ場合

第九十九條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(二)】

裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

舊第七十八條 上訴審ト訴訟費用ノ裁判

第九十七條 【和解ノ場合ト訴訟費用】

當事者カ裁判所ニ於テ和解ヲ爲シタル場合ニ於テ和解ノ費用及訴訟費用ノ負擔ニ付別段ノ定テ爲ササルトキハ其ノ費用ハ各自之ヲ負擔ス

舊第七十九條 和解ノ場合ト費用ノ負擔

第九十八條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(一)】

法定代理人、訴訟代理人、裁判所書記又ハ執達吏カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ無益ナル費用ヲ生ゼシメタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ此等ノ者ニ對シ其ノ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ規定ハ法定代理人又ハ訴訟代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者カ其ノ代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル授權アルコトヲ證明スルコト能ハス又ハ追認ヲ得サリシ場合ニ於テ其ノ訴訟行爲ニ因リテ生シタル訴訟費用ニ之ヲ準用ス

3 前二項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第八十三條 當事者以外ノ者ノ費用ヲ負擔スヘキ場合

第九十九條 【當事者以外ノ者ト費用ノ負擔(二)】

裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

裁判所カ前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ訴訟費用ハ代理人トシテ訴訟行爲ヲ爲シタル者ノ負擔トス

舊第七十八條 上訴審ト訴訟費用ノ裁判

第九十七條 【訴訟費用額確定ノ裁判手續(一)】

裁判所カ訴訟費用ノ負擔ヲ定ムル裁判ニ於テ其ノ額ヲ定メサルトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ其ノ裁判カ執行力ヲ生シタル後申立ニ因リ決定ヲ以テ之ヲ定ム

2 訴訟費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ爲スニハ費用計算書及其ノ謄本並費用額ノ疏明ニ必要ナル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

3 第一項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第八十四條 訴訟費用額確定ノ申請要件

舊第八十五條 訴訟費用額確定ノ裁判手續(二)

第九十八條 【訴訟費用額確定ノ裁判手續(一)】

裁判所ハ訴訟費用額ヲ定ムル決定ヲ爲ス前相手方ニ費用計算書ノ謄本ヲ交付シ陳述ヲ爲スヘキ旨並一定ノ期間内ニ費用計算書及費用額ノ疏明ニ必要ナル書面ヲ提出スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

2 相手方カ期間内ニ前項ノ書面ヲ提出セサルトキハ裁判所ハ申立人ノ費用ノミニ付裁判ヲ爲スコトヲ得但シ相手方ノ費用額ノ確定ヲ求ムル申立ヲ妨ケス

舊第八十五條 訴訟費用額確定ノ裁判手續(二)

第九十九條 【訴訟費用額ノ計算】

裁判所ハ裁判所書記ヲシテ訴訟費用額ノ計算ヲ爲サシタルコトヲ得

舊第八十五條 訴訟費用額確定ノ裁判手續(二)

第一百零一條 【訴訟費用ノ豫納】

費用ヲ要スル行爲ニ付テハ裁判所ハ當事者チシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

2 當事者カ裁判所ノ命ニ從ヒ費用ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ前項ノ行爲ヲ爲ササルコトヲ得

舊第二百八十八條 證據調費用ノ豫納

第一百零二條 【外國人ノ訴ト訴訟費用ノ擔保】

原告カ日本ニ住所、事務所及營業所チ有セサルトキハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ訴訟費用ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ原告ニ命スルコトヲ要ス擔保ニ不足チ生シタルトキ亦同シ

2 前項ノ規定ハ請求ノ一部ニ付争ナキ場合ニ於テ其ノ額カ擔保ニ十分ナルトキハ之ヲ適用セス

舊第八十八條 外國人カ保證ヲ立ツヘキ場合

舊第八十九條 外國人ノ保證額ノ確定

第一百零二條——一〇七條 一七

第一百八條 【擔保提供申立權ノ喪失】

擔保ヲ供スヘキ事由アルコトヲ知リタル後被告カ本案ニ付辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタルトキハ擔保ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

舊第二百六條 妨訴抗辯ノ種類及提出時期

第一百九條 【擔保提供申立ノ效力】

擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告カ擔保ヲ供スル迄應訴ヲ拒ムコトヲ得

舊第二百六條 妨訴抗辯ノ種類及提出時期

舊第二百七條 妨訴抗辯ニ對スル審理裁判

第一百十條 【擔保提供ニ付テノ裁判】

裁判所ハ擔保ヲ供スヘキコトヲ命スル決定ニ於テ擔保額及擔保ヲ供スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ要ス

2 擔保額ハ被告カ各審ニ於テ支出スヘキ費用ノ總額ヲ標準トシテ之ヲ定ム

舊第八十九條 外國人ノ保證額ノ確定

舊第九十條 外國人ノ保證ヲ立ツヘキ期間

第一百十一條 【擔保提供ノ裁判ト不服申立】

擔保ノ申立ニ關スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第四百五十五條 抗告ヲ爲シ得ヘキ場合

第一百十二條 【擔保物ノ種類】

擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ其ノ契約ニ依ル

舊第八十七條 保證ヲ立ツル方法

第一百十三條 【擔保物ニ對スル優先權】

被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定ニ依リテ供託シタル金錢又ハ有價證券ノ上ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス

舊第八十七條 保證ヲ立ツル方法

第一百十四條 【擔保不提供ノ效果】

原告カ擔保ヲ供スヘキ期間内ニ之ヲ供セサルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

舊第九十條 外國人ノ保證ヲ立ツヘキ期間

第一百十五條 【擔保ノ取消ト其ノ裁判】

擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

2 擔保ヲ供シタル者カ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意ヲ得タルコトヲ證明シタルトキ亦前項ニ同シ

3 訴訟ノ完結後裁判所カ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ擔保權利者ニ對シ一定ノ期間内ニ其ノ權利ヲ行使スヘキ旨ヲ催告シ擔保權利者カ其ノ行使ヲ爲ササルトキハ擔保取消ニ付擔保權利者ノ同意アリタルモノト看做ス

4 第一項及第二項ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百十六條 【擔保物ノ變換】

裁判所ハ擔保ヲ供シタル者ノ申立ニ因リ決定ヲ以テ供託シタル擔保物ノ變換ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ規定ハ供託シタル擔保ヲ契約ニ因リテ他ノ擔保ニ變換スルコトヲ妨ケス

第一百十七條 【本邦人ノ訴ト法令ニ依ル擔保】

第一百九條、第一百十條第一項及第一百十一條乃至前條ノ規定ハ他ノ法令ニ依リテ訴ノ提起ニ付供スヘキ擔保ニ之ヲ準用ス

第三節 訴訟上ノ救助

第一百十八條 【訴訟上ノ救助ト其ノ要件(一)】

訴訟費用ヲ支拂フ資力ナキ者ニ對シテハ裁判所ハ申立

舊第四百五十五條 抗告ヲ爲シ得ヘキ場合

第一百十二條 【擔保物ノ種類】

擔保ヲ供スルニハ金錢又ハ裁判所カ相當ト認ムル有價證券ヲ供託スルコトヲ要ス但シ當事者カ別段ノ契約ヲ爲シタルトキハ其ノ契約ニ依ル

舊第八十七條 保證ヲ立ツル方法

第一百十三條 【擔保物ニ對スル優先權】

被告ハ訴訟費用ニ付前條ノ規定ニ依リテ供託シタル金錢又ハ有價證券ノ上ニ質權者ト同一ノ權利ヲ有ス

舊第八十七條 保證ヲ立ツル方法

第一百十四條 【擔保不提供ノ效果】

原告カ擔保ヲ供スヘキ期間内ニ之ヲ供セサルトキハ裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ訴ヲ却下スルコトヲ得但シ判決前擔保ヲ供シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

舊第九十條 外國人ノ保證ヲ立ツヘキ期間

第一百十五條 【擔保ノ取消ト其ノ裁判】

擔保ヲ供シタル者カ擔保ノ事由止ミタルコトヲ證明シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ擔保取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

ニ因リ訴訟上ノ救助ヲ與フルコトヲ得但シ勝訴ノ見込ナキニ非サルトキニ限ル

舊第九十一條 訴訟上救助ノ要件

舊第一百一條 救助ニ關スル裁判手續

第一百十九條 【訴訟上ノ救助ト其ノ要件(二)】

訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ與フ

2 救助ノ事由ハ之ヲ説明スルコトヲ要ス

舊第九十三條 訴訟上救助ノ申請ノ方式

舊第九十四條 訴訟上救助付與ノ裁判

第一百二十條 【訴訟上ノ救助ノ效力(一)】

訴訟上ノ救助ハ訴訟及強制執行ニ付左ノ效力ヲ生ス

一 裁判費用ノ支拂ノ猶豫

二 執達吏及裁判所ニ於テ附添テ命シタル辯護士ノ報酬及立替金ノ支拂ノ猶豫

三 訴訟費用ノ擔保ノ免除

舊第九十七條 訴訟上ノ救助ノ效力

第一百二十一條 【訴訟上ノ救助ノ效力(二)】

訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ノ爲ニミ其ノ效力ヲ有ス

2 裁判所ハ訴訟ノ承繼人ニ對シ猶豫シタル費用ノ支拂ヲ

命ス

舊九十六條 訴訟上ノ救助ハ一身ニ專屬ス

第二百二十二條 【訴訟上ノ救助ノ取消】

訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者カ訴訟費用ノ支拂ヲ爲ス實力ヲ有スルコト判明シ又ハ之ヲ有スルニ至リタルトキハ訴訟記録ノ存スル裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ救助ヲ取消シ猶豫シタル訴訟費用ノ支拂ヲ命スルコトヲ得

舊九十五條 訴訟上ノ救助ノ取消

舊第一百條 救助原因ノ消滅ト追拂義務

第二百二十三條 【救助費用徴收ノ方法】

訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ニ支拂ヲ猶豫シタル費用ハ其ノ負擔ヲ命セラレタル相手方ヨリ直接ニ之ヲ取立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ辯護士又ハ執達吏ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ有スル債務名義ニ依リ報酬及立替金ニ付費用額ヲ定ムル申立及強制執行ヲ爲スコトヲ得

2 辯護士又ハ執達吏ハ報酬及立替金ニ付當事者ニ代リ第三百三條又ハ第四百四條ノ裁判ヲ求ムル申立ヲ爲スコトヲ得

舊第九十九條 受救者ノ勝訴ト救助費用ノ徴收

2 裁判長ハ發言ヲ許シ又ハ其命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得

舊第九十九條 裁判長ノ訴訟指揮權

第二百二十七條 【訴訟關係ノ釋明(一)】

裁判長ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲事實上及法律上ノ事項ニ關シ當事者ニ對シテ問テ發シ又ハ立證ヲ促スコトヲ得

2 陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ前項ニ規定スル處置ヲ爲スコトヲ得

3 當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求ムルコトヲ得

舊第一百十二條 裁判所ノ釋明權

第二百二十八條 【訴訟關係ノ釋明(二)】

裁判長ハ前條ノ規定ニ依リテ當事者ヲシテ釋明セシムヘキ事項ヲ指示シ口頭辯論期日前準備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

舊第九十九條 答辯書ニ關スル規定

第二百二十九條 【辯論指揮ニ關スル裁判】

當事者カ辯論ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命又ハ第二百二十七條若ハ前條ノ規定ニ依リ裁判長若ハ陪席判事ノ處置ニ對シ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所決定ヲ以テ其ノ異

改正法 總則 訴訟手續 口頭辯論

第二百二十四條 【救助ニ關スル裁判ト不服申立】
本節ニ規定スル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第一百一條 救助ニ關スル裁判手續

舊第一百二條 救助ニ關スル裁判ト上訴

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論

第二百二十五條 【訴訟審理ノ方式】

當事者ハ訴訟ニ付裁判所ニ於テ口頭辯論ヲ爲スコトヲ要ス但シ決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テハ裁判所口頭辯論ヲ爲スヘキカ否ヲ定ム

2 前項但書ノ規定ニ依リテ口頭辯論ヲ爲ササル場合ニ於テハ裁判所ハ當事者ヲ審訊スルコトヲ得

3 前二項ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ニハ之ヲ適用セス

舊第一百三條 民事訴訟ノ審理ノ方式

舊第一百十條 口頭辯論ノ開始

舊第二百十三條 證據方法ノ申立及證據抗辯

舊第二百十六條 證據調ノ結果ニ付テノ辯論

第二百二十六條 【辯論ノ指揮】

口頭辯論ハ裁判長之ヲ指揮ス

議ニ付裁判ヲ爲ス

舊第一百十三條 違法ノ審理ト責問權

第二百三十條 【受命判事ノ指定並ニ裁判所ノ囑託】

受命判事ヲシテ其ノ職務ヲ行ハシムヘキ場合ニ於テハ裁判長其ノ判事ヲ指定ス

2 裁判所ノ爲ス囑託ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外裁判長之ヲ爲ス

舊第一百五十五條 囑託書及囑託送達書ノ作成者

舊第二百六十七條 準備手續ヲ命スル決定

舊第二百七十八條 受命判事ニ依リ證據調

第二百三十一條 【裁判所ノ處分權】

裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 當事者本人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコト

二 訴訟書類又ハ訴訟ニ於テ引用シタル文書其ノ他ノ物件ニシテ當事者ノ所持スルモノヲ提出セシムルコト

三 當事者又ハ第三者ノ提出シタル文書其ノ他ノ物件ヲ裁判所ニ留置クコト

四 檢證ヲ爲シ又ハ鑑定ヲ命スルコト

五 必要ナル調査ヲ囑託スルコト
2 前項ニ規定スル檢證、鑑定及調査ノ囑託ニ付テハ證據
調ニ關スル規定ヲ準用ス

舊第百十四條 本人出頭ヲ命スヘキ場合

舊第百十五條 採用證書提出ノ命令

舊第百十六條 裁判記録提出ノ命令

舊第百十七條 職權ヲ以テスル檢證及鑑定

第百三十二條 【辯論ノ制限、分離及併合】

裁判所ハ口頭辯論ノ制限、分離若ハ併合ヲ命シ又ハ其
ノ命ヲ取消スコトヲ得

舊第百十八條 辯論ノ分離

舊第百十九條 辯論ノ制限

舊第百二十條 辯論ノ併合

舊第百二十一條 辯論ノ中止(一)

舊第百二十二條 辯論ノ中止(二)

舊第百二十三條 分離又ハ併合ノ取消

第百三十三條 【辯論ノ再開】

裁判所ハ終結シタル口頭辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

舊第百二十四條 辯論ノ再開

第百三十四條 【通事ノ立會】

辯論ニ與ル者カ日本語ニ通セサルトキ又ハ雙若ハ啞ナ
ルトキハ通事ヲ立會ハシム但シ雙者若ハ啞者ニハ文字
ヲ以テ問ヒ又ハ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得
2 鑑定人ニ關スル規定ハ通事ニ之ヲ準用ス
舊第百二十五條 通事ヲ用フヘキ場合(一)
舊第百二十六條 通事ヲ用フヘキ場合(二)
第百三十五條 【裁判所ノ秩序維持權】
裁判所ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナル陳述
ヲ爲スコト能ハサル當事者、代理人又ハ輔佐人ノ陳述
ヲ禁シ辯論續行ノ爲新期日ヲ定ムルコトヲ得
2 前項ノ規定ニ依リテ陳述ヲ禁シタル場合ニ於テ必要ア
リト認ムルトキハ裁判所ハ辯護士ノ附添ヲ命スルコト
ヲ得
3 訴訟代理人ノ陳述ヲ禁シ又ハ辯護士ノ附添ヲ命シタル
トキハ本人ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要ス
舊第百二十七條 裁判所ノ秩序維持權(一)
第百三十六條 【裁判上ノ和解】
裁判所ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルチ間ハ和解ヲ試
ミ又ハ受命判事若ハ受託判事ヲシテ之ヲ試シシムルコ
トヲ得
2 裁判所又ハ受命判事若ハ受託判事ハ和解ノ爲當事者本
期日ニ出頭セサルトキ亦前項ニ同シ
舊第百二十八條 時機ニ後レテ提出シタル防禦方法

人又ハ其ノ法定代理人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

舊第百二十一條 訴訟上ノ和解

第百三十七條 【攻撃防禦ノ提出時期】

攻撃又ハ防禦ノ方法ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外
口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提出スルコトヲ得

舊第百二十九條 攻撃防禦ノ方法ノ提出時期

舊第百二十四條 證據方法及證據抗辯ノ主張時期

第百三十八條 【出頭シタル一方ノ辯論】

原告又ハ被告カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭
セズ又ハ出頭スルモ本案ノ辯論ヲ爲ササルトキハ其ノ
者ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載
シタル事項ハ之ヲ陳述シタルモノト看做シ出頭シタル
相手方ニ辯論ヲ命スルコトヲ得

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

第百三十九條 【時機ニ後レタル攻撃防禦ノ效力】

當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ提
出シタル攻撃又ハ防禦ノ方法ハ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲
延セシムヘキモノト認メタルトキハ裁判所ハ申立ニ因
リ又ハ職權ヲ以テ却下ノ決定ヲ爲スコトヲ得

舊第百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項

舊第百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項

舊第百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項

舊第百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項

2 攻撃又ハ防禦ノ方法ニシテ其趣旨明瞭ナラサルモノニ
付當事者カ必要ナル釋明ヲ爲サズ又ハ釋明ヲ爲スヘキ

期日ニ出頭セサルトキ亦前項ニ同シ

舊第百二十八條 時機ニ後レテ提出シタル防禦方法

第百四十條 【暗黙ノ自白及不知ノ陳述】

當事者カ口頭辯論ニ於テ相手方ノ主張シタル事實ヲ明
ニ争ハサルトキハ其ノ事實ヲ自白シタルモノト看做ス
但シ辯論ノ全趣旨ニ依リ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト認
ムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

2 相手方ノ主張シタル事實ヲ知ラサル旨ノ陳述ヲ爲シタ
ル者ハ其ノ事實ヲ争ヒタルモノト推定ス
舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百三十一條 暗黙ノ自白及不知ノ陳述

舊第百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項

舊第百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項

舊第百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項

舊第百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項

調書ニハ左ノ事項ヲ記載シ裁判長及裁判所書記之ニ署名捺印シ裁判長支障アルトキハ陪席判事其席次ニ從ヒ順次之ニ代リテ署名捺印シ且其ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス但シ判事皆支障アルトキハ書記其ノ旨ヲ記載スルヲ以テ足ル

- 一 事件ノ表示
- 二 判事及裁判所書記ノ氏名
- 三 立會ヒタル檢事ノ氏名
- 四 出頭シタル當事者、代理人、輔佐人及通事並闕席シタル當事者ノ氏名
- 五 辯論ノ場所及年月日
- 六 辯論ヲ公開シタルコト又ハ公開セサル場合ニ於テハ其ノ理由

舊第二百二十九條 口頭辯論調書ノ形式の事項
舊第三百二十二條 口頭辯論調書ト署名捺印

第四百四十四條 【調書ノ實質的要件】
調書ニハ辯論ノ要領ヲ記載シ殊ニ左ノ事項ヲ明確ニスルコトヲ要ス

- 一 和解、認諾、拋棄、取下及自白
- 二 證人、鑑定人ノ宣誓及陳述
- 三 檢證ノ結果

方法ノ限ニ在ラス

舊第三百三十四條 口頭辯論ノ方式ニ關スル證明

第四百四十八條 【速記者ヲ用フヘキ場合】
裁判所必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ速記者ヲシテ口頭辯論ニ於ケル陳述ノ全部又ハ一部ヲ筆記セシムルコトヲ得

第四百四十九條 【審訊、審問等ノ準用規定】

第四百四十二條乃至前條ノ規定ハ裁判所ノ審訊、受命判事又ハ受託判事ノ審問及證據調ニ之ヲ準用ス

舊第三百三十三條 法廷外ニ於ケル審問調書ノ方式

第五百十條 【申立、申述等ノ形式】

申立其ノ他ノ申述ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

2 口頭ヲ以テ申述ヲ爲スニハ裁判所書記ノ面前ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ要ス

3 前項ノ場合ニ於テハ書記調書ヲ作り之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

舊第三百三十五條 口頭ノ訴申立申請ト其ノ調書

第五百一十條 【記録ノ閲覧謄寫又ハ正本謄本等】

當事者ハ訴訟記録ノ閲覧若ハ謄寫又ハ其ノ正本、謄本

改正法 總則 訴訟手續 期日及期間

- 四 裁判長ノ記載ヲ命シタル事項及當事者ノ請求ニ因リ記載ヲ許シタル事項
- 五 書面ニ作ラサル裁判
- 六 裁判ノ言渡

舊第三百三十條 口頭辯論調書ノ實質的の事項
舊第三百五十九條 檢證ニ關スル調書ノ作成

第四百四十五條 【調書ト書面其ノ他ノ引用】
調書ニハ書面、寫眞其ノ他裁判所ニ於テ適當ト認ムルモノヲ引用シ訴訟記録ニ添附シテ之ヲ調書ノ一部ト爲スコトヲ得

第四百四十六條 【調書ノ讀聞及閱覽】

調書ノ記載ハ申立ニ因リ法廷ニ於テ關係人ニ之ヲ讀聞カセ又ハ閱覽セシメ且調書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

2 調書ノ記載ニ付關係人カ異議ヲ述ヘタルトキハ調書ニ其ノ趣旨ヲ記載スルコトヲ要ス

舊第三百三十一條 口頭辯論調書ノ讀聞又ハ閱覽

第四百四十七條 【辯論ノ方式ニ關スル證明】

口頭辯論ノ方式ニ關スル規定ノ遵守ハ調書ニ依リテノミ之ヲ證スルコトヲ得但シ調書カ滅失シタルトキハ此

抄本若ハ訴訟ニ關スル事項ノ證明書ノ交付ヲ裁判所書記ニ請求スルコトヲ得利害關係ヲ疏明シタル第三者亦同シ

2 訴訟記録ノ正本、謄本又ハ抄本ニハ其正本、謄本又ハ抄本ナルコトヲ記載シ書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス

舊第二百二十四條 記録ノ閲覧及其正本謄本ノ付與

舊第二百二十九條 判決送達ノ時期

舊第四百九十九條 判決確定ノ證明書

第二節 期日及期間

第五百二十二條 【期日ノ指定又ハ變更】

期日ハ裁判長之ヲ定ム

2 受命判事又ハ受託判事ノ審問ノ期日ハ其ノ判事之ヲ定ム

3 期日ノ指定ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

4 口頭辯論ニ於ケル最初ノ期日ノ變更ハ顯著ナル事由ノ存セサルトキト雖當事者ノ合意アル場合ニ於テハ之ヲ許ス準備手續ニ於ケル最初ノ期日ノ變更亦同シ

舊第九十九條 裁判長ノ訴訟指揮權

舊第一百五十九條 期日ノ定メ方

舊第一百六十九條 期日ノ變更辯論ノ延期及其續行

舊第七十一條 期日變更又ハ期間伸縮ノ手續
舊第七十二條 受命判事受託判事ノ定ムル期
日及期間

舊第七十條 準備手續完結後ノ手續(一)
舊第八十條 證據調期日ノ通知
舊第八十六條 證據調ニ於ケル新期日ノ指定
舊第八十七條 證據調期日ト辯論續行期日

第五十三條 【期日ニ關スル制限】
期日ハ己ムコトヲ得サル場合ニ限リ日曜日其ノ他ノ一
般ノ休日ニ之ヲ定ムルコトヲ得

舊第六十條 期日ニ關スル制限

第五十四條 【期日ニ付テノ呼出又ハ告知】
期日ニ於ケル呼出ハ呼出狀ヲ送達シテ之ヲ爲ス但シ當
該事件ニ付頭シタル者ニ對シテハ期日ヲ告知スルヲ
以テ足ル

舊第六十一條 期日ニ關スル通知

第五十五條 【期日開始ノ時期】
期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ之ヲ開始ス

舊第六十三條 期日開始ノ時期及其ノ效果

第五十六條 【期間ノ計算方(一)】

期間ノ計算ハ民法ニ從フ
2 期間ノ末日カ日曜日其ノ他ノ一般ノ休日ニ當ルトキハ
期間ハ其ノ翌日ヲ以テ滿了ス

舊第六十五條 期間ノ計算法(一)
舊第六十六條 期間ノ計算法(二)

第五十七條 【期間ノ計算方(二)】
期間ヲ定ムル裁判ニ於テ始期ヲ定メサルトキハ其ノ期
間ハ裁判力效力ヲ生シタル時ヨリ進行ヲ始ム

舊第六十四條 裁定期間ノ始期

第五十八條 【期間ノ伸縮並ニ附加期間】

裁判所ハ法定期間又ハ其ノ定メタル期間ヲ伸長シ又ノ
之ヲ短縮スルコトヲ得但シ不變期間ハ此ノ限ニ在ラス
2 不變期間ニ付テハ裁判所ハ遠隔ノ地ニ住所又ハ居所ヲ
有スル者ノ爲附加期間ヲ定ムルコトヲ得
3 裁判長、受命判事又ハ受託判事ハ其ノ定メタル期間ヲ
伸長シ又ハ之ヲ短縮スルコトヲ得

舊第六十七條 里程猶豫期間ト附加期間
舊第七十條 期間ノ短縮又ハ伸長

舊第七十二條 受命判事受託判事ノ定ムル期
日及期間

舊第二百三條 法定期間ニ對スル裁判長ノ伸縮權

第五十九條 【不變期間ノ懈怠ト其ノ追完】

當事者カ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不變期間
ヲ遵守スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ其ノ事由ノ止
ミタル後一週間内ニ限リ懈怠シタル訴訟行爲ノ追完ヲ
爲スコトヲ得

此ノ期間ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

舊第七十三條 訴訟行爲懈怠ノ一般ノ效果

舊第七十四條 原狀回復ヲ許スヘキ場合

舊第七十五條 原狀回復期間ノ申立

舊第七十六條 原狀回復申立ノ方式

舊第七十七條 原狀回復申立ノ審理手續

第三節 送 達

第六十條 【職權送達主義】

送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外職權ヲ以テ之ヲ
爲ス

舊第三十六條 職權送達主義及送達ノ機關

第六十一條 【送達ノ機關】

送達ニ關スル事務ハ裁判所書記之ヲ取扱フ
2 前項ノ事務ノ取扱ハ送達地ノ區裁判所ノ書記ニ之ヲ囑
託スルコトヲ得

舊第三十六條 職權送達主義及送達機關

第六十二條 【送達吏(一)】

送達ハ執達吏又ハ郵便ニ依リ之ヲ爲ス
2 郵便ニ依ル送達ニ在リテハ郵便集配人ヲ以テ送達ヲ爲
ス吏員トス

舊第三十六條 職權送達主義及送達機關

第六十三條 【送達吏(二)】

當該事件ニ付頭シタル者ニ對シテハ裁判所書記自ラ
送達ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 【送達スヘキ書面】

送達ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外送達ヲ受クヘキ
者ニ送達スヘキ書類ノ贈本ヲ交付シテ之ヲ爲ス
2 送達スヘキ書類ノ提出ニ代ヘ調書ヲ作りタルトキハ其
ノ調書ノ贈本又ハ抄本ヲ交付シテ送達ヲ爲ス

舊第三十七條 送達ノ意義及送達スヘキ書面

第六十五條 【無能力者ニ對スル送達】

訴訟無能力者ニ對スル送達ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ爲
ス

舊第三十八條 訴訟無能力者ニ對スル送達

第六十六條 【共同代理人ニ對スル送達】

數人カ共同シテ代理權ヲ行フヘキ場合ニ於テハ送達ハ其ノ一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

舊第三百三十七條 送達ノ意義及送達スヘキ書面

第三百六十七條 【軍人ニ對スル送達】

軍所用ノ廳舎又ハ艦船ニ屬スル者ニ對スル送達ハ其ノ廳舎又ハ艦船ノ長ニ之ヲ爲ス

舊第三百三十九條 現役軍人ニ對スル送達

第三百六十八條 【在監者ニ對スル送達】

在監者ニ對スル送達ハ監獄ノ長ニ之ヲ爲ス

舊第四百十條 囚人ニ對スル送達

第三百六十九條 【送達ノ場所】

送達ハ之ヲ受クヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲ス但シ法定代理人ニ對スル送達ハ本人ノ營業所又ハ事務所ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

2 送達ヲ受クヘキ者カ日本ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スルコト明ナラザルトキハ送達ハ其ノ者ニ出會ヒタル場所ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル者カ送達ヲ受クルコトヲ拒マサルトキ亦同シ

舊第四百十四條 送達ヲ爲スヘキ場所

第七十條 【送達場所及送達受取人ノ届出】

當事者、法定代理人又ハ訴訟代理人ハ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有セザルトキハ其ノ裁判所ノ所在地ニ於テ送達ヲ受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

2 送達ヲ受クヘキ者カ前項ノ届出ヲ爲サザルトキハ其ノ者ニ對シテ送達スヘキ書類ハ前條第一項ノ規定ニ依リ送達スヘキ場所ニ宛テ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

3 第一項ノ届出ハ送達ヲ受クヘキ者カ受訴裁判所ノ所在地ニ住所、居所、營業所又ハ事務所ヲ有スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

舊第四百十三條 送達ニ關スル假住所ノ選定

第七十一條 【受送達者ニ出會ハサル場合(一)】

送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會ハサルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事理ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具フル者ニ書類ヲ交付スルコトヲ得

2 前項ニ掲グルル者其ノ他書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ正當ノ事由ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ送達ヲ爲スヘキ場所ニ書類ヲ差置クコトヲ得

舊第四百十五條 親族又ハ雇人ニ爲ス送達及預置送達

置送達

舊第四百十六條 營業使用人又ハ學生ニ爲ス送達

舊第四百十七條 事務員又ハ雇人ニ爲ス送達

舊第四百十九條 差置送達

第七十二條 【受送達者ニ出會ハサル場合(二)】

前條ノ規定ニ依リテ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所書類ヲ書留郵便ニ付シテ之ヲ發送スルコトヲ得

舊第四百十五條 親族又ハ雇人ニ爲ス送達及預置送達

置送達

第七十三條 【郵便ニ付シタル送達ト完了時期】

第七十條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リテ書類ヲ郵便ニ付シテ發送シタル場合ニ於テハ其ノ發送ノ時ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

舊第四百十三條 郵便ニ付スル送達ト其完了

第七十四條 【日曜、休日又ハ夜間ノ送達】

日曜日其ノ他ノ一般ノ休日又ハ日出前日没後ニ於テ執達吏ニ依ル送達ヲ爲スニハ裁判長ノ許可アルコトヲ要ス

2 前項ノ許可アリタルトキハ裁判所書記ハ送達スヘキ書

改正法 總則 訴訟手續 送達

一七二條——一七七條 二九

類ニ其ノ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

3 前二項ノ規定ニ違背スル送達ハ書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ之ヲ受取リタル場合ニ限り其ノ效力ヲ有ス

舊第五百十條 送達施行ノ日時ニ關スル制限

第七十五條 【外國ニ於テ爲スヘキ送達】

外國ニ於テ爲スヘキ送達ハ裁判長其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス

舊第五百十二條 囑託送達ノ一

舊第五百十三條 囑託送達ノ二

第七十六條 【出陣ノ軍人ニ對スル送達】

出陣ノ軍隊若ハ外國駐在ノ軍隊ニ屬スル者又ハ役務ニ服スル艦船ノ乗組員ニ對スル送達ハ裁判長上級司令官聽ニ囑託シテ之ヲ爲ス

2 前項ノ送達ニ付テハ第六十七條ノ規定ヲ準用ス

舊第五百十四條 囑託送達ノ三

第七十七條 【送達ニ關スル證書】

送達ヲ爲シタル吏員ハ書面ヲ作り送達ニ關スル事項ヲ記載シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

舊第五百十一條 送達證書ノ作成方

第七十八條 【公示送達ヲ爲スヘキ場合】
當事者ノ住所、居所其ノ他送達ヲ爲スヘキ場所カ知レサル場合又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付第七十五條ノ規定ニ依ルコト能ハス若ハ之ニ依ルモ其ノ效ナシト認ムヘキ場合ニ於テハ申立ニ因リ裁判長ノ許可ヲ得テ公示送達ヲ爲スコトヲ得

2 同一ノ當事者ニ對スル爾後ノ公示送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

舊第五十六條 公示送達ヲ爲スヘキ場合

第七十九條 【公示送達ノ方法】

公示送達ハ裁判所書記送達スヘキ書類ヲ保管シ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ裁判所ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ爲ス但シ呼出狀ノ送達ハ呼出狀ヲ揭示場ニ貼附シテ之ヲ爲ス

2 裁判所ハ公示送達アリタルコトヲ官報又ハ新聞紙ニ掲載スヘキコトヲ命スルコトヲ得但シ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ公示送達アリタルコトヲ郵便ニ付シテ通知スルコトヲ得

舊第五十七條 公示送達ノ方法

第八十條 【公示送達ノ完了時期】

公示送達ハ前條第一項ノ規定ニ依ル揭示ヲ始メ又ハ貼附

附テ爲シタル日ヨリ二週間ヲ經過スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス但シ第七十八條第二項ノ公示送達ハ揭示ヲ始メ又ハ貼附ヲ爲シタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

2 前項ノ期間ハ之ヲ短縮スルコトヲ得ス

舊第五十八條 公示送達ニ依ル送達ノ時期

第八十一條 【送達ニ關スル受命判事等ノ權限】
送達ニ關スル裁判長ノ權限ハ受命判事、受託判事及送達地ノ區裁判所ノ判事亦之ヲ有ス

舊第五十條 送達施行ノ日時ニ關スル制限

第四節 裁判

第八十二條 【終局判決ヲ爲ス場合】

訴訟カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ終局判決ヲ爲ス

舊第二十五條 終局判決ヲ爲ス場合

第八十三條 【一部終局判決ノ場合】

訴訟ノ一部カ裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ其ノ一部ニ付終局判決ヲ爲スコトヲ得

2 前項ノ規定ハ口頭辯論ノ併合ヲ命シタル數箇ノ訴訟中其ノ一カ裁判ヲ爲スニ熟スル場合及本訴又ハ反訴カ裁判

判ヲ爲スニ熟スル場合ニ之ヲ準用ス

舊第二十六條 一分終局判決ヲ爲ス場合

舊第二十五條 終局判決ヲ爲ス場合

第八十四條 【中間判決ヲ爲ス場合】

獨立シタル攻撃又ハ防禦ノ方法其ノ他中間ノ争ニ付裁判ヲ爲スニ熟スルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ爲スコトヲ得請求ノ原因及數額ニ付争アル場合ニ於テ其ノ原因ニ付亦同シ

舊第二十七條 獨立ナル攻撃防禦ト中間判決

舊第二十八條 原因ニ付テノ中間判決

第八十五條 【自由心證主義ノ表明】

裁判所ハ判決ヲ爲スニ當リ其ノ爲シタル口頭辯論ノ全趣旨及證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ニ依リ事實上ノ主張ヲ眞實ト認ムヘキカ否ヲ判斷ス

舊第二十七條 自由心證主義ノ表明ト其ノ制限

舊第二十三條 判決ノ内容

第八十六條 【判決ノ基礎ト當事者ノ申立】

裁判所ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付判決ヲ爲スコトヲ得ス

舊第二三十一條 判決ノ基礎ト當事者ノ申立

第八十七條 【判決ヲ爲スヘキ判事】

判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關與シタル判事之ヲ爲ス

2 判事ノ更送アル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

舊第三十二條 判決ヲ爲スヘキ判事

第八十八條 【判決ノ效力發生時期】

判決ハ言渡ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

舊第二三十五條 判決言渡ノ效力

第八十九條 【判決言渡ノ方式】

判決ノ言渡ハ判決原本ニ基キ裁判長主文ヲ朗讀シテ之ヲ爲ス

2 裁判長ハ相當ト認ムルトキハ判決ノ理由ヲ朗讀シ又ハ口頭ヲ以テ其ノ要領ヲ告ケルコトヲ得

舊第二三十四條 判決言渡ノ方式

第九十條 【判決言渡ノ時期】

判決ノ言渡ハ口頭辯論終結ノ日ヨリ二週間内ニ之ヲ爲ス但シ事件繁雜ナルトキ其ノ他特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 判決ノ言渡ハ當事者カ在廷セサル場合ニ於テモ之ヲ爲

スコトヲ得

舊第二百三十三條 判決言渡ノ時期
舊第二百三十五條 判決言渡ノ效力

第九十一條 【判決ニ掲グヘキ事項】

判決ニハ左ノ事項ヲ記載シ判決ヲ爲シタル判事之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 主文
- 二 事實及争點
- 三 理由
- 四 當事者及法定代理人
- 五 裁判所

2 事實及争點ノ記載ハ口頭辯論ニ於ケル當事者ノ陳述ニ基キ要領ヲ摘示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

3 判事判決ニ署名捺印スルニ支障アルトキハ他ノ判事判決ニ其ノ事由ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

舊第二百三十六條 判決ニ掲グヘキ事項

舊第二百三十七條 判決原本ノ署名捺印及其交付

第九十二條 【判決原本ノ交付】

判決ノ言渡後遲滞ナク之ヲ裁判所書記ニ交付シ書記ハ言渡及交付ノ日ヲ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

舊第二百三十七條 判決原本ノ署名捺印及其交付

第九十三條 【判決正本ノ職權送達】

判決ハ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

2 判決ノ送達ハ正本ヲ以テ之ヲ爲ス

舊第二百三十八條 判決送達ノ申立

第九十四條 【判決ノ更正ト其ノ手續】

判決ニ違算、書損其ノ他之ニ類スル明白ナル誤謬アルトキハ裁判所ハ何時ニテモ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ更正決定ヲ爲スコトヲ得

2 更正決定ハ判決ノ原本及正本ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス但シ正本ニ附記スルコト能ハサルトキハ決定ノ正本ヲ作リ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

3 更正決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得但シ判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

舊第二百四十一條 判決ノ更正

舊第二百四十三條 判決ノ更正又ハ追加ノ方法

第九十五條 【裁判ヲ脱漏シタル場合】

裁判所カ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脱漏シタルトキハ訴訟ハ其ノ請求ノ部分ニ付仍裁判所ニ繫屬ス

2 訴訟費用ノ裁判ヲ脱漏シタル場合ニ於テハ裁判所ハ申

立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ訴訟費用ニ付裁判ヲ爲ス

此ノ場合ニ於テハ第四百四條ノ規定ヲ準用ス

3 前項ノ規定ニ依ル訴訟費用ノ裁判ハ本案判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ控訴裁判所ハ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲ス

舊第二百四十二條 追加裁判

第九十六條 【假執行ニ關スル宣言】

財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ付テハ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シ又ハ供セスシテ假執行ヲ爲スコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

2 裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ擔保ヲ供シテ假執行ヲ免ルルコトヲ得ヘキコトヲ宣言スルコトヲ得

3 前二項ノ宣言ハ判決主文ニ之ヲ掲グルコトヲ要ス

舊第五百一條 職權ヲ以テスル假執行ノ宣言

舊第五百二條 債權者ノ單純申立ニ因ル假執行ノ宣言

ノ宣言

舊第五百三條 債權者ノ申立ニ因ル假執行ノ宣言

舊第五百四條 債務者ノ申立ニ因ル假執行ノ免除

舊第五百五條 債務者ノ申立ニ因ル假執行ノ制限

舊第五百六條 假執行ニ關スル申立ノ時期

第九十七條 【假執行ノ擔保ト準用規定】

第九十二條、第九十三條、第九十五條及第九十六條ノ規定ハ前條ノ擔保ニ之ヲ準用ス

舊第五百七條 假執行ニ付テノ裁判ノ形式

舊第五百十條 假執行宣言ノ效力ト本案判決トノ關係

第九十八條 【假執行ノ宣言ト本案判決トノ關係】

假執行ノ宣言ハ其メ宣言又ハ本案判決ヲ變更スル判決ノ言渡ニ因リ變更ノ限度ニ於テ其ノ效力ヲ失フ

2 本案判決ヲ變更スル場合ニ於テハ裁判所ハ被告ノ申立ニ因リ其ノ判決ニ於テ假執行ノ宣言ニ基キ被告カ給付シタルモノノ返還及假執行ニ因リ又ハ之ヲ免ルル爲被告ノ受ケタル損害ノ賠償ヲ原告ニ命スルコトヲ要ス

3 假執行ノ宣言ノミチ變更シタルトキハ後ニ本案判決ヲ變更スル判決ニ付前項ノ規定ヲ適用ス

舊第五百十條 假執行宣言ノ效力ト本案判決トノ關係

舊第五百十四條 判決ノ實質的確定力

第九十九條 【確定判決ノ既判力】

確定判決ハ主文ニ包含スルモノニ限り既判力ヲ有ス

2 相殺ノ爲主張シタル請求ノ成立又ハ不成立ノ判斷ハ相殺ヲ以テ對抗シタル額ニ付既判力ヲ有ス

舊第二百四十四條 判決ノ實質的確定力

一九六條——一九九條 三三

第二百條 【外國裁判所ノ確定判決ノ效力】

外國裁判所ノ確定判決ハ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限リ其ノ效力ヲ有ス

一 法令又ハ條約ニ於テ外國裁判所ノ裁判權ヲ否認セサルコト

二 敗訴ノ被告カ日本人ナル場合ニ於テ公示送達ニ依ラシテ訴訟ノ開始ニ必要ナル呼出若ハ命令ノ送達ヲ受ケタルコト又ハ之ヲ受ケサルモ應訴シタルコト

三 外國裁判所ノ判決カ日本ニ於ケル公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反セサルコト

四 相互ノ保證アルコト

舊第五百十四條 外國裁判所ノ判決ニ附スル執行判決

舊第五百十五條 執行判決ニ於ケル審理ノ内容

第二百一條 【確定判決ノ效力範圍】

確定判決ハ當事者、口頭辯論終結後ノ承繼人又ハ其ノ者ノ爲請求ノ目的物ヲ所持スル者ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

2 他人ノ爲原告又ハ被告ト爲リタル者ニ對スル確定判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ有ス

3 前二項ノ規定ハ假執行ノ宣言ニ之ヲ準用ス

舊第五百十九條 承繼人ニ執行力アル正本ヲ付與スル場合

第二百二條 【補正不能ナル訴ノ却下】

不適法ナル訴ニシテ其ノ欠缺カ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

舊第九十二條 要件欠缺ノ訴狀ト其ノ補正

第二百三條 【和解、請求ノ拋棄若ハ認諾ノ效力】

和解又ハ請求ノ拋棄若ハ認諾ヲ調書ニ記載シタルトキハ其ノ記載ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

舊第二百二十九條 請求ノ拋棄及認諾ト其ノ判決

第二百四條 【決定命令ノ效力ト其ノ告知】

決定及命令ハ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

2 裁判所書記ハ告知ノ方法、場所及年月日ヲ裁判ノ原本ニ附記シ之ニ捺印スルコトヲ要ス

舊第二百四十五條 決定及命令ニ關スル規定

第二百五條 【訴訟指揮ノ決定及命令ノ取消】

訴訟ノ指揮ニ關スル決定及命令ハ何時ニテモ之ヲ取消

スコトヲ得

舊第四百五十九條 抗告ノ提起ト原裁判所ノ爲スヘキ手續

第二百六條 【書記ノ處分ニ對スル異議ノ裁判】

裁判所書記ノ處分ニ對スル異議ニ對テハ其ノ書記所屬ノ裁判所決定ヲ以テ裁判ヲ爲ス

舊第四百六十五條 受命判事等ノ處分ニ對スル不服ノ救済

第二百七條 【決定命令ニ準用スヘキ規定】

決定及命令ニハ其ノ性質ニ反セサル限り判決ニ關スル規定ヲ準用ス

舊第二百四十五條 決定及命令ニ關スル規定

第五節 訴訟手續ノ中斷及中止

第二百八條 【當事者ノ死亡ト中斷】

當事者カ死亡シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ相續人、相續財産管理人其ノ他法令ニ依リ訴訟ヲ續行スヘキ者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

2 相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ル間ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得ス

舊第七十八條 當事者ノ死亡ト訴訟ノ中斷

舊第八十一條 受繼ニ關スル遺產管理人ノ選任

第二百九條 【法人ノ合併ト中斷】

當事者タル法人カ合併ニ因リテ消滅シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ合併ニ因リテ設立シタル法人又ハ合併後存續スル法人ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

2 前項ノ規定ハ合併ヲ以テ相手方ニ對抗スルコトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用セス

第二百十條 【能力又ハ代理權ノ喪失ト中斷】

當事者カ訴訟能力ヲ失ヒタルトキ又ハ其ノ法定代理人カ死亡シ若ハ代理權ヲ失ヒタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ法定代理人又ハ訴訟能力ヲ有スルニ至リタル當事者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

舊第八十條 法定代理權ノ欠缺ト中斷

第二百十一條 【信託ノ任務終了ト中斷】

受託者ノ信託ノ任務終了シタルトキハ訴訟手續ハ中斷ス此ノ場合ニ於テハ新受託者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百十二條 【一定ノ資格喪失ト中斷】

一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲訴訟

ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ
訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テハ同一ノ資格ヲ有ス
ル者訴訟手續ヲ受繼クコトヲ要ス當事者ノ死亡ニ因リ
訴訟手續カ中断シタル場合亦同シ

2 第四十七條ノ規定ニ依リテ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者
ヲ選定シタル訴訟ニ於テ其ノ選定セラレタル當事者ノ
全員カ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ訴訟手續ハ中断ス
此ノ場合ニ於テハ選定ヲ爲シタル者ノ總員又ハ新ニ原
告若ハ被告トシテ選定セラレタル者ハ訴訟手續ヲ受繼
クコトヲ要ス

第二百十三條 【中断規定ノ不適用】

第二百八條第一項、第二百九條第一項及第二百十條乃
至前條ノ規定ハ訴訟代理人アル間ハ之ヲ適用セス
舊第八十三條 訴訟代理人アル場合ト中断

第二百十四條 【破産ノ宣告ト中断】

當事者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破産財團ニ關ス
ル訴訟手續ハ中断ス此ノ場合ニ於テ破産法ニ依リ受繼
アル迄ニ破産手續ノ解止アリタルトキハ破産者ハ當然
訴訟手續ヲ受繼ス
舊第七十九條 破産ノ開始ト訴訟ノ中断

舊第七十八條 當事者ノ死亡ト訴訟手續ノ中断

第二百十九條 【受繼ヲ爲ササル場合ノ職權】

裁判所ハ當事者カ訴訟手續ノ受繼ヲ爲ササル場合ニ於
テモ職權ヲ以テ其ノ續行ヲ命スルコトヲ得
舊第七十八條 當事者ノ死亡ト訴訟手續ノ中断

第二百二十條 【訴訟手續ノ中止(一)】

天災其ノ他ノ事故ニ因リテ裁判所カ職務ヲ行フコト能
ハサルトキハ訴訟手續ハ其ノ事故ノ止ム迄中止ス
舊第八十二條 戰爭其ノ他ノ事故ニ因ル中断

第二百二十一條 【訴訟手續ノ中止(二)】

當事者カ不定期間ノ故障ニ因リ訴訟手續ヲ續行スルコ
ト能ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ其ノ中止ヲ命ス
ルコトヲ得
2 裁判所ハ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得
舊第八十四條 訴訟手續ヲ中止スヘキ場合
舊第八十五條 訴訟手續ヲ中止ノ申請及其ノ裁判

第二百二十二條 【訴訟手續ノ中断中止ノ效力】

判決ノ言渡ハ訴訟手續ノ中断ト雖之ヲ爲スコトヲ得
2 訴訟手續ノ中断又ハ中止ハ期間ノ進行ヲ止メ訴訟手續
ノ受繼ノ通知又ハ續行ノ時ヨリ更ニ全期間ノ進行ヲ始

第二百十五條 【破産手續ノ解止ト中断】

破産法ニ依リテ破産財團ニ關スル訴訟手續ノ受繼アリ
タル後破産手續ノ解止アリタルトキハ訴訟手續ハ中断
ス此ノ場合ニ於テハ破産者ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ
要ス
舊第七十九條 破産ノ開始ト訴訟手續ノ中断

第二百十六條 【相手方ニ於ケル受繼】

訴訟手續ノ受繼ハ相手方ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得
2 第二百十七條 【受繼ノ申立ト其ノ通知】
訴訟手續受繼ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ相手
方ニ通知スルコトヲ要ス
舊第八十七條 中断又ハ中止シタル訴訟手續
繼ノ受

第二百十八條 【受繼ノ申立ト其ノ裁判】

訴訟手續受繼ノ申立ハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ調査シ理
由ナシト認メタルトキハ決定ヲ以テ之ヲ却下スルコト
ヲ要ス
2 裁判ノ途途後中断シタル訴訟手續ノ受繼ニ付テハ其ノ
裁判ヲ爲シタル裁判所裁判ヲ爲スコトヲ要ス
舊第八十三條 訴訟代理人アル場合ト中断

舊第八十六條 訴訟手續ノ中断及中止ノ效力

第二編 第一審ノ訴訟手續

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續

第一節 訴

第二百二十三條 【訴提起ノ方式】

訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要
ス
舊第九十條 訴提起ノ方式

第二百二十四條 【訴狀ノ要件】

訴狀ニハ當事者、法定代理人並請求ノ趣旨及原因ヲ記
載スルコトヲ要ス
2 準備書面ニ關スル規定ハ訴狀ニ之ヲ準用ス
舊第二十二條 判決事項ノ申立ノ方式
舊第二十三條 調書若ハ其ノ附録ニ明確ニ
スヘキ事項

第二百二十五條 【確認ノ訴ノ範圍】

確認ノ訴ハ法律關係ヲ證スル書面ノ眞否ヲ確定スル爲
ニモ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十六條 【將來ノ給付ヲ求ムル訴】

將來ノ給付ヲ求ムル訴ハ豫メ其ノ請求ヲ爲ス必要アル場合ニ限リ之ヲ提起スルコトヲ得

第二百二十七條 【數個ノ請求ト一箇ノ訴】

數箇ノ請求ハ同種ノ訴訟手續ニ依ル場合ニ限リ一ノ訴ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

舊第九十一條 客觀的訴ノ併合

第二百二十八條 【要件欠缺ノ訴狀ト其ノ補正】

訴狀カ第二百二十四條第一項ノ規定ニ違背スル場合ニ於テハ裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス法律ノ規定ニ從ヒ訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合亦同シ

2 原告カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ命令ヲ以テ訴狀ヲ却下スルコトヲ要ス

3 前項ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

4 抗告狀ニハ却下セラレタル訴狀ヲ添付スルコトヲ要ス

舊第九十二條 要件欠缺ノ訴狀ト其ノ補正

第二百二十九條 【訴狀ノ送達】

訴狀ハ之ヲ被告ニ送達スルコトヲ要ス

2 前條ノ規定ハ訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス

舊第九十三條 訴提起ノ效力

第二百三十條 【辯論期日ノ指定及呼出】

訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出スコトヲ要ス

舊第九十四條 口頭辯論準備ノ時間

第二百三十一條 【訴訟罷起ノ禁止】

裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ當事者ハ更ニ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

舊第九十五條 權利拘束發生ノ時期及效力

第二百三十二條 【請求又ハ請求原因ノ變更】

原告ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限リ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄請求又ハ請求ノ原因ヲ變更スルコトヲ得但シ之ニ因リ著ク訴訟手續ヲ遲滞セシムヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

2 請求ノ變更ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

3 前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

舊第九十五條 權利拘束發生ノ時期及效力

舊第九十六條 訴ノ原因ノ變更トナラサル場合

第二百三十三條 【請求又ハ請求原因變更ノ不許】

裁判所カ請求又ハ請求ノ原因ノ變更ヲ不當ナリト認ム

ルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ變更ヲ許ササル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

舊第九十七條 原因ニ變更ナシトスル裁判ト不服申立

第二百三十四條 【中間確認ノ訴ノ要件】

裁判カ訴訟ノ進行中ニ爭ト爲リタル法律關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ當事者ハ請求ヲ擴張シテ其ノ法律關係ノ確認ノ判決ヲ求ムル事ヲ得但シ其ノ確認ノ請求カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキニ限ル

2 前項ノ規定ニ依ル請求ノ擴張ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

3 前項ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

舊第二十一條 附隨的確定ノ訴ト條件

第二百三十五條 【訴提起ノ效力】

時効ノ中断又ハ法律上ノ期間遵守ノ爲必要ナル裁判上ノ請求ハ訴ヲ提起シタル時又ハ第二百三十二條第二項若ハ前條第二項ノ規定ニ依リ書面ヲ裁判所ニ提出シタル時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

舊第十二條 口頭辯論ヲ以テスル請求ノ權利拘束

第二百三十六條 【訴ノ取下ト其ノ方式】

訴ハ判決ノ確定ニ至ル迄其ノ全部又ハ一部ヲ取下クルコトヲ得但シ相手方カ本案ニ付準備書面ヲ提出シ、準備手續ニ於テ申述ヲ爲シ又ハ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ訴ノ取下ニ付其ノ同意アルコトヲ要ス

2 訴ノ取下ハ書面ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス但シ口頭辯論ニ於テ又ハ準備手續中受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

3 訴狀送達ノ後ニ在リテハ取下ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

舊第九十八條 訴ノ取下ニ關スル規定

第二百三十七條 【訴取下ノ效力】

訴訟ハ訴ノ取下アリタル部分ニ付テハ初ヨリ繫屬ナカリシモノト看做ス

2 本案ニ付終局判決アリタル後訴ヲ取下ケタル者ハ同一ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

舊第九十八條 訴ノ取下ニ關スル規定

第二百三十八條 【休止ニ因ル訴ノ取下】

當事者雙方カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲サスシテ退廷シタル場合ニ於テ三月内ニ期日指定ノ申

立チ爲ササルトキハ訴ノ取下アリタルモノト看做ス

舊第百八十八條 訴訟手續ノ休止

第二百三十九條 【反訴ノ提起及其ノ要件】

被告ハ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄本訴ノ繫屬スル裁判所ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得但シ其ノ目的タル請求力他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬セサルトキ及本訴ノ目的タル請求又ハ防禦ノ方法ト牽連スルトキニ限ル

舊第百九十九條 反訴提起ノ要件

舊第百九十九條 反訴提起ノ方式

第二百四十條 【反訴ノ手續】

反訴ニ付テハ本訴ニ關スル規定ニ依ル

舊第百九十九條 反訴ニ本訴ノ規定ヲ適用

第二百四十一條 【反訴ノ取下】

本訴ノ取下アリタルトキハ被告ハ原告ノ同意ヲ得スシテ反訴ヲ取下クルコトヲ得

第二節 辯論ノ準備

第二百四十二條 【口頭辯論ノ準備】

口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス

舊第百四十四條 口頭辯論ノ準備

第二百四十三條 【準備書面ノ提出】

準備書面ハ之ニ記載シタル事項ニ付相手方カ準備ヲ爲スニ必要ナル期間ヲ存シ之ヲ裁判所ニ提出シ裁判所ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

2 裁判長ハ準備書面ヲ提出スヘキ期間ヲ定ムルコトヲ得

舊第百九十九條 答辯書ニ關スル規定

舊第百九十九條 準備書面ノ差出

第二百四十四條 【準備書面ノ記載事項】

準備書面ニハ左ノ事項ヲ記載シ當事者又ハ代理人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、名稱又ハ商號、職業及住所

二 代理人ノ氏名、職業及住所

三 事件ノ表示

四 攻撃又ハ防禦ノ方法

五 相手方ノ請求及攻撃又ハ防禦ノ方法ニ對スル陳述

六 附屬書類ノ表示

七 年月日

八 裁判所ノ表示

舊第百五十五條 準備書面ノ記載事項

舊第百六十六條 準備書面ノ記載程度

第二百四十五條 【引用文書ノ謄本抄本】

當事者ノ所持スル文書ニシテ準備書面ニ引用シタルモノハ準備書面ノ各通ニ其ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス
2 文書ノ一部ノミヲ必要トスルトキハ其ノ抄本ヲ添附シ文書カ大部ナルトキハ其ノ文書ヲ表示スルヲ以テ足ル

舊第百七十七條 準備書面ニ添附スヘキ書面

舊第百八十八條 準備書面ト其ノ謄本

第二百四十六條 【引用文書ト原本ノ提示】

前條ノ文書ハ相手方ノ求ニ因リ其ノ原本ヲ閱覽セシムルコトヲ要ス

舊第百七十七條 準備書面ニ添附スヘキ書面

第二百四十七條 【準備書面外ノ事實主張ノ制限】

準備書面ニ記載セサル事實ハ相手方カ在廷セサルトキハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得ス

舊第百五十二條 闕席判決ノ申立ヲ却下スヘキ場合

キ場合

第二百四十八條 【外國語ノ文書ト其ノ譯文】

外國語ヲ以テ作リタル文書ニハ其ノ譯文ヲ添附スルコトヲ要ス

舊第百五十五條 採用證書提出ノ命令

第二百四十九條 【準備手續】

訴訟ニ付テハ受命判事ニ依リ口頭辯論ノ準備手續ヲ爲スコトヲ要ス但シ裁判所相當ト認ムルトキハ直ニ辯論ヲ命シ又ハ訴訟ノ一部若ハ或爭點ノミニ付準備手續ヲ命スルコトヲ得

舊第百八十八條 準備手續ヲ爲スヘキ場合

舊第百六十六條 準備手續ヲ命スヘキ場合

第二百五十條 【準備手續ニ於ケル調書】

準備手續ニ於テハ調書ヲ作り當事者ノ陳述ニ基キ第二百四十四條第四號及第五號ニ掲クル事項ヲ記載シ殊ニ證據ニ付テハ其ノ申出ヲ明確ニスルコトヲ要ス
2 受命判事相當ト認ムルトキハ準備書面ヲ以テ前項ノ陳述及調書ニ代フルコトヲ得

舊第百六十八條 準備手續ニ於テ明確ニスヘキ事項

キ事項

第二百五十一條 【準備手續ト一方不出頭ノ場合】

當事者ノ一方カ期日ニ出頭セサルトキハ前條ノ調書ノ謄本ヲ之ニ送達シ新期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スコトヲ得

舊第百六十九條 準備手續ニ於ケル當事者ノ不出頭

第二百五十二條 【準備手續ト準備書面ノ提出】

受命判事ハ當事者ヲシテ準備書面ヲ提出セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二百四十三條ノ規定ヲ準用ス

第二百五十三條 【當事者ノ懈怠ト準備手續ノ終結】

當事者カ期日ニ出頭セス又ハ前條ノ規定ニ依リ受命判事ノ定メタル期間内ニ準備書面ヲ提出セサルトキハ受命判事ハ準備手續ヲ終結スルコトヲ得

不出頭

第二百五十四條 【準備手續ノ結果ノ陳述】

當事者ハ口頭辯論ニ於テ準備手續ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

舊第二百五十一條 準備手續完結後ノ手續(二)

第二百五十五條 【準備手續ト口頭辯論トノ關係】

調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサル事項ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得但シ其ノ事項カ裁判所職權ヲ以テ調査スヘキモノナルトキ、著ク訴訟ヲ遲滯セシメサルトキ又ハ重大ナル過失ナクシテ準備手續ニ於テ之ヲ提出スルコト能ハサリシコトヲ疏明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 前項但書ノ規定ハ第二百四十七條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

3 訴狀又ハ準備手續前ニ提出シタル準備書面ニ記載シタル事項ハ調書又ハ之ニ代ルヘキ準備書面ニ記載セサルモノト雖口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ妨ケス

舊第二百四十四條 證據方法及證據抗辯ノ主張時期
舊第二百七十二條 準備手續ノ追完ノ許否

第二百五十六條 【準備手續ト準用規定】

第二百二十六條乃至第二百二十九條、第三百三十一條、第三百三十三條乃至第四百一十一條及第四百三十八條ノ規定ハ準備手續ニ之ヲ準用ス

第三節 證據

第一款 總則

第二百五十七條 【證據ヲ要セサル事實】

裁判所ニ於テ當事者カ自白シタル事實及顯著ナル事實ハ之ヲ證據スルコトヲ要セス

舊第二百十八條 顯著ナル事實ト舉證責任

舊第二百十九條 慣習規約外國法等ノ證明及取調

第二百五十八條 【證據ノ申出ト其ノ方式】

證據ノ申出ハ證スヘキ事實ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

2 證據ノ申出ハ期日前ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

舊第二百七十七條 辯論期日前ノ證據調ノ申立

舊第二百二十三條 鑑定申出ノ方式

舊第三百五十七條 檢證申出ノ要件

第二百五十九條 【證據調ノ限度】

當事者ノ申出テタル證據ニシテ裁判所ニ於テ不必要ト認ムルモノハ之ヲ取調フルコトヲ要セス

舊第二百七十四條 證據調ノ限度及證據決定

第二百六十條 【證據調ト不定期間ノ障礙】

證據調ニ付不定期間ノ障礙アルトキハ裁判所ハ證據調ヲ爲ササルコトヲ得

舊第二百七十五條 證據調ト豫測シ難キ時間ノ障礙

第二百六十一條 【職權ヲ以テスル證據調】

裁判所ハ當事者ノ申出テタル證據ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

舊第二百八十五條 證據調補充ノ決定

舊第三百十七條 證人ノ再訊問ヲ爲スヘキ場合

第二百六十二條 【必要事項ノ調査ト其ノ囑託】

裁判所ハ必要ナル調査ヲ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ學校、商業會議所、取引所其ノ他ノ團體ニ囑託スルコトヲ得

第二百六十三條 【證據調ノ施行ト當事者ノ在否】

證據調ハ當事者カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得

舊第二百八十四條 當事者ノ不出頭ト證據調ノ施行

第二百六十四條 【外國ニ於ケル證據調】

外國ニ於テ爲スヘキ證據調ハ其ノ國ノ管轄官廳又ハ其ノ國ニ駐在スル日本ノ大使、公使若ハ領事ニ之ヲ囑託シテ爲スコトヲ要ス

2 外國ニ於テ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモ本法ニ違背セサルトキハ其ノ效力ヲ有ス

舊第二百八十一條 外國ニ於テ爲ス證據調

第二百六十五條 【囑託又ハ裁判所外ノ證據調】

裁判所ハ相當ト認ムルトキハ裁判所外ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ部員ニ命シ又ハ區裁判所ニ囑託シテ證據調ヲ爲サシムルコトヲ得

2 受託判事カ他ノ區裁判所ニ於テ證據調ヲ爲スコトヲ相

當ト認ムルトキハ更ニ證據調ノ囑託ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ受訴裁判所及當事者ニ通知スルコトヲ要ス

舊第六十二條 期日ヲ開始スヘキ場所

舊第七十三條 證據調ノ施行

舊第二百八十二條 證據調ノ轉囑

舊第三百四十八條 受命判事受託判事ノ書證ノ取調

第二百六十六條 【受託判事ト證據調記録ノ送付】

受託判事ハ證據調ニ關スル記録ヲ受訴裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

舊第二百七十九條 囑託ニ依ル證據調

第二百六十七條 【疏明及疏明ニ代フル保證又ハ宣誓】

疏明ハ即時ニ取調フルコトヲ得ヘキ證據ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

2 裁判所ハ當事者若ハ法定代理人ヲシテ保證金ヲ供託セシメ又ハ其ノ主張ノ眞實ナルコトヲ宣誓セシメ之ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得

3 第二百八十六條乃至第二百八十九條ノ規定ハ前項ノ宣誓ニ之ヲ準用ス

舊第二百二十條 疏明ノ方法

第二百六十八條 【疏明代用ノ保證金ノ沒收】

前條第二項ノ規定ニ依リテ保證金ノ供託ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ保證金ヲ沒收ス

第二百六十九條 【疏明代用ノ宣誓違背ノ制裁】

第二百六十七條第二項ノ規定ニ依リテ宣誓ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタルトキハ宣誓ヲ爲サシメタル裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス

第二百七十條 【前二條ノ裁判ニ對スル不服申立】

第二百六十八條及前條ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二款 證人訊問

第二百七十一條 【裁判所ノ證人訊問權】

裁判所ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外何人ト雖證人トシテ之ヲ訊問スルコトヲ得

舊第二百八十九條 證言義務ニ關スル總則的規定

第二百七十二條 【監督廳ノ承認ヲ要スル證人】

官吏又ハ官吏タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ祕密ニ付

訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ當該監督官廳ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

2 前項ノ規定ハ他ノ公務員ニ之ヲ準用ス

舊第二百九十條 官吏公吏ト證言義務

第二百七十三條 【勅許ヲ要スル證人】

國務大臣、宮内大臣、内大臣、樞密院議長、樞密院副議長、樞密顧問官、會計検査院長、元帥、參謀總長、海軍軍令部長、教育總監若ハ軍事參議官又ハ此等ノ職ニ在リタル者ヲ證人トシテ職務上ノ祕密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ勅許ヲ得ルコトヲ要ス

舊第二百九十條 官吏公吏ト證言義務

第二百七十四條 【議院ノ承認ヲ要スル證人】

貴族院若ハ衆議院ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ證人トシテ職務上ノ祕密ニ付訊問スル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ院ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

舊第二百九十六條 證人ノ出頭義務ノ例外

第二百七十五條 【證人訊問ノ申出】

證人訊問ノ申出ハ證人ヲ指定シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

舊第二百九十一條 人證申出ノ方式

第二百七十六條 【證人呼出狀ノ記載事項】

改正法 第一審ノ訴訟手續 地方裁判所ノ訴訟手續 證據 證人訊問 二七三條——二七九條 四五

證人ノ呼出狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ表示

二 訊問事項ノ要領

三 出頭セサル場合ニ於ケル法律上ノ制裁

舊第二百九十二條 證人呼出狀ニ記載スヘキ要件

第二百七十七條 【證人不出頭ノ制裁】

證人カ正當ノ事由ヲクシテ出頭セサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ之ニ因リテ生シタル訴訟費用ノ負擔ヲ命シ且五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第二百九十四條 證人ノ出頭義務違背ニ對スル制裁

ル制裁

第二百七十八條 【證人ノ勾引】

裁判所ハ正當ノ事由ヲクシテ出頭セサル證人ノ拘引ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ拘引ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス

舊第二百九十四條 證人ノ出頭義務違背ニ對スル制裁

第二百七十九條 【受命判事受託判事ノ證人訊問】

左ノ場合ニ於テハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ證人ノ訊問ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一 證人カ受訴裁判所ニ出頭スル義務ナキトキ又ハ正當ノ事由ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキ
- 二 證人カ受訴裁判所ニ出頭スルニ付不相當ノ費用又ハ時間ヲ要スルトキ

舊第三百十八條 受命判事受託判事ノ證人訊問

第二百八十條 【證言ヲ拒絕シ得ル場合(一)】

證言カ證人又ハ左ニ掲グル者ノ刑事上ノ訴追又ハ處罰ヲ招ク虞アル事項ニ關スルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得證言カ此等ノ者ノ恥辱ニ歸スヘキ事項ニ關スルトキ亦同シ

- 一 證人ノ配偶者、四親等内ノ血族若ハ三親等内ノ姻族又ハ證人ノ家ノ戸主但シ親族ニ付テハ親族關係カ止ミタル後亦同シ
- 二 證人ノ後見人又ハ證人ノ後見ヲ受クル者
- 三 證人カ主人トシテ仕フル者

舊第二百九十七條 身分關係ニ因ル證言義務ノ除外

第二百八十一條 【證言ヲ拒絕シ得ル場合(二)】

左ノ場合ニ於テハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得
一 第二百七十二條乃至第二百七十四條ノ場合

- 三 技術又ハ職業ノ秘密ニ關スル事項ニ付訊問ヲ受クルトキ

2前項ノ規定ハ證人カ默秘ノ義務ヲ免セラレタル場合ニハ之ヲ適用セス

舊第二百九十條 官吏公吏ト證言義務

舊第二百九十七條 證人ノ身分關係ニ因ル證言義務ノ例外

證言ノ拒絕

舊第二百九十九條 證言拒絕權ニ對スル例外

第二百八十二條 【證言拒絕ト理由ノ疏明】

證言拒絕ノ理由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

舊第三百條 證言拒絕ノ方式

第二百八十三條 【證言拒絕ノ當否ノ裁判】

第二百八十一條第一項第一號ノ場合ヲ除クノ外證言拒絕ノ當否ニ付テハ受訴裁判所當事者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲ス

爲ス

2 證言拒絕ニ關スル裁判ニ對シテハ當事者及證人ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第三百一條 證言拒絕ノ當否ニ付テノ裁判

第二百八十四條 【證言拒絕ノ制裁】

證言拒絕ヲ理由ナシトスル裁判確定シタル後證人カ故ナク證言ヲ拒ムトキハ第二百七十七條ノ規定ヲ準用ス

舊第三百二條 證人ノ陳述義務違背ニ對スル制裁

第二百八十五條 【證人宣誓ノ時期】

裁判長ハ證人ヲシテ訊問前宣誓ヲ爲サシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アルトキハ訊問後之ヲ爲サシムルコトヲ得

舊第三百六條 證人ノ人違ナキ訊問及宣誓

第二百八十六條 【宣誓ノ執行】

宣誓ハ起立シテ嚴肅ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第二百八十七條 【宣誓ト諭示及警告】

裁判長ハ宣誓前宣誓ノ趣旨ヲ諭示シ且偽證罰ヲ警告スルコトヲ要ス

舊第三百八條 宣誓ニ先タツ偽證罰ノ諭告

第二百八十八條 【宣誓ノ形式】

宣誓ハ證人ヲシテ宣誓書ヲ朗讀セシメ且之ニ署名捺印セシメテ之ヲ爲ス證人宣誓書ヲ朗讀スルコト能ハサルトキハ裁判長代リテ之ヲ朗讀ス

2 宣誓書ニハ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又何事ヲモ附加セサルコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

舊第三百七條 宣誓ノ方式

第二百八十九條 【宣誓ヲ爲サシメサル證人(一)】

左ニ掲グル者ヲ證人トシテ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ス

- 一 十六年未滿ノ者
- 二 宣誓ノ趣旨ヲ理解スルコト能ハサル者

舊第三百十條 事實參考ノ爲メ訊問スヘキ者

第二百九十條 【宣誓ヲ爲サシメサル證人(二)】

第二百八十條ノ規定ニ該當スル證人ニシテ證言拒絕ノ權利ヲ行ハサル者ヲ訊問スルニハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得

舊第三百十條 事實參考ノ爲メ訊問スヘキ者

第二百九十一條 【宣誓ヲ拒ミ得ル場合】

證人カ自己又ハ第二百八十條ニ掲クル者ニ著キ利害關係アル事項ニ付訊問ヲ受クルトキハ宣誓ヲ拒ムコトヲ得

舊第二百九十八條 身分關係及證言事項ニ由ル證言ノ拒絕

第二百九十二條 【無宣誓ノ事由ト調査ノ記載】
宣誓ヲ爲サシメスシテ證人ヲ訊問シタルトキハ其ノ旨及事由ヲ調査ニ記載スルコトヲ要ス

舊第三百十六條 證人訊問調査ノ方式

第二百九十三條 【宣誓拒絕ニ準用スヘキ規定】
第二百七十七條、第二百八十二條及第二百八十三條ノ規定ハ證人カ宣誓ヲ拒ム場合ニ之ヲ準用ス

舊第三百九條 宣誓ノ拒絕ニ關スル規定

第二百九十四條 【證人相互ノ對質】
裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人相互ノ對質ヲ命スルコトヲ得

舊第三百十一條 證人訊問ノ方式(一)

第二百九十五條 【證人ノ手記其ノ他ノ行爲】
裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他必要ナル行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百九十六條 【證人在廷ノ許否】

裁判長ハ必要アリト認ムルトキハ後ニ訊問スヘキ證人ニ在廷ヲ許スコトヲ得

舊第三百十一條 證人訊問ノ方式(一)

第二百九十七條 【書類ニ依リテ陳述スル證言】

證人ハ書類ニ依リテ陳述ヲ爲スコトヲ得ス但シ裁判長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

舊第三百十四條 證人ノ供述方法

第二百九十八條 【陪席判事ノ證人訊問權】

陪席判事ハ裁判長ニ告ケ證人ニ對シテ問ヲ發スルコトヲ得

舊第三百十五條 陪席判事ノ發問權ト當事者ノ發問請求權

第二百九十九條 【當事者ノ證人訊問權】

當事者ハ裁判長ニ對シ必要ナル發問ヲ求メ又ハ其ノ許可ヲ得テ問ヲ發スルコトヲ得

舊第三百十一條 證人訊問ノ方式(一)

第三百條 【證人訊問ト受命判事等ノ權限】

受命判事又ハ受託判事カ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ

裁判所及裁判長ノ職務ハ其ノ判事之ヲ行フ但シ前條第二項ノ規定ニ依ル異議ノ裁判ハ受託裁判所之ヲ爲ス

舊第三百十九條 證人訊問ト受命判事受託判事ノ權限

第三款 鑑定

第三百一條 【鑑定ニ準用スヘキ規定】

鑑定ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前款ノ規定ヲ準用ス

舊第三百二十二條 鑑定ニ準用スヘキ規定

第三百二條 【鑑定義務ト其ノ例外】

鑑定ニ必要ナル學識經驗アル者ハ鑑定ヲ爲ス義務ヲ負フ

2 第二百八十條又ハ第二百九十一條ノ規定ニ依リテ證言

又ハ宣誓ヲ拒ミ得ル者ト同一ノ地位ニ在ル者及第二百八十九條ニ掲クル者ハ鑑定人タルコトヲ得ス

舊第三百二十五條 外國ノ書類又ハ產物ノ鑑定

舊第三百二十六條 鑑定ヲ爲ス義務アル者

舊第三百二十七條 鑑定ヲ拒ム權利アル者

第三百三條 【鑑定人ト勾引】

鑑定人ハ之ヲ勾引スルコトヲ得ス

舊第三百二十八條 鑑定義務違背ノ制裁

第三百四條 【鑑定人ノ指定】

鑑定人ハ受託裁判所、受命判事又ハ受託判事之ヲ指定ス

舊第三百二十四條 鑑定人選定ノ手續

舊第三百三十一條 鑑定人ノ任命權

第三百五條 【鑑定人ノ忌避】

鑑定人ニ付誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ妨クヘキ事情アルトキハ當事者ハ其ノ鑑定人カ鑑定事項ニ付陳述ヲ爲ス前之ヲ忌避スルコトヲ得陳述ヲ爲シタルトキト雖其ノ後ニ忌避ノ原因ヲ生シ又ハ當事者カ其ノ原因アルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第三百六條 【忌避ノ申立及其ノ裁判並不服申立】

忌避ノ申立ハ受託裁判所、受命判事又ハ受託判事ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

2 忌避ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

3 忌避ノ理由アリトスル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス之ヲ理由ナシトスル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百七條 【宣誓ノ形式】

宣誓書ニハ良心ニ從ヒ誠實ニ鑑定ヲ爲スコトヲ誓フ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

舊第三百二十九條 鑑定人ノ宣誓ノ方式

第三百八條 【鑑定人ノ意見ト陳述方法】

裁判長ハ鑑定人チシテ書面又ハ口頭ヲ以テ共同ニテ又ハ各別ニ意見ヲ述ヘシムルコトヲ得

舊第三百三十條 鑑定方法ニ付テ定ムヘキ諸件

第三百九條 【鑑定證人】

特別ノ學識經驗ニ依リテ知り得タル事項ニ關スル訊問ニ付テハ證人訊問ニ關スル規定ニ依ル

舊第三百三十三條 鑑定證人ニ關スル規定

第三百十條 【官公署等ニ對スル鑑定ノ囑託】

裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳若ハ公署、外國ノ官廳若ハ公署又ハ相當ノ設備アル法人ニ鑑定ヲ囑託スルコトヲ得

2 此ノ場合ニ於テハ宣誓ニ關スル規定ヲ除クノ外本款ノ規定ヲ準用ス

3 前項ノ場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキハ官廳、公署又ハ法人ノ指定シタル者チシテ鑑定書ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

舊第三百四十三條 第三者ノ證書提出義務

第三百十三條 【文書提出ノ申立ノ要件】

文書提出ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

- 一 文書ノ表示
 - 二 文書ノ趣旨
 - 三 文書ノ所持者
 - 四 證スヘキ事實
 - 五 文書提出ノ義務ノ原因
- 舊第三百三十八條 證書提出ノ申立ニ具備スヘキ要件

第三百十四條 【文書提出ノ命令】

裁判所カ文書提出ノ申立ヲ理由アリト認メタルトキハ決定ヲ以テ文書ノ所持者ニ對シ其ノ提出ヲ命ス

2 第三者ニ對シ文書ノ提出ヲ命スル場合ニ於テハ其ノ第三者ヲ審訊スルコトヲ要ス

舊第三百三十九條 證書ノ提出ヲ命スル決定ノ要件

第三百十五條 【文書提出ノ申立ノ裁判ト不服】

文書提出ノ申立ニ關スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第四款 書 證

第三百十一條 【書證申出ノ方式】

書證ノ申出ハ文書ヲ提出シ又ハ之ヲ所持スル者ニ其ノ提出ヲ命セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ要ス

舊第三百三十四條 書證申出ノ方式(一)

舊第三百三十五條 書證申出ノ方式(二)

舊第三百四十二條 第三者ノ手中ニ在ル證書取寄ノ申立

第三百十二條 【文書所持者ノ提出義務】

左ノ場合ニ於テハ文書ノ所持者ハ其ノ提出ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 當事者カ訴訟ニ於テ引用シタル文書ヲ自ラ所持スルトキ
 - 二 舉證者カ文書ノ所持者ニ對シ其ノ引渡又ハ閱覽ヲ求ムルコトヲ得ルトキ
 - 三 文書カ舉證者ノ利益ノ爲ニ作成セラレ又ハ舉證者ト文書ノ所持者トノ間ノ法律關係ニ付作成セラレタルトキ
- 舊第三百三十六條 相手方ノ證書提出義務(一)
舊第三百三十七條 相手方ノ證書提出義務(二)

第三百十六條 【文書提出ノ命ニ從ハサル效果】

當事者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

舊第三百四十一條 證書提出ノ命ニ從ハサル效果

第三百十七條 【文書ノ使用ヲ不能ナラシメタル效果】

當事者カ相手方ノ使用ヲ妨クル目的ヲ以テ提出ノ義務アル文書ヲ毀滅シ其ノ他之ヲ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ裁判所ハ其ノ文書ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

舊第三百四十一條 證書提出ノ命ニ從ハサル效果

第三百十八條 【文書提出ノ命ニ從ハサル第三者ノ制裁】

第三者カ文書提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百十九條 【文書ノ送付ヲ囑託スヘキ申出】

書證ノ申出ハ第三百十一條ノ規定ニ拘ラス文書ノ所持者ニ其ノ文書ノ送付ヲ囑託セムコトヲ申立テ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者カ法令ニ依リテ文書ノ正本又ハ謄

本ノ交付ヲ求ムルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

舊第三百四十六條 官公署所在ノ證書申出ノ方式

第三百二十條 【提出又ハ送付文書ノ留置】

裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ提出又ハ送付ニ係ル文書ヲ留置クコトヲ得

舊第三百五十四條 證書ノ還付ニ付テノ規定

第三百二十一條 【受託判事等ノ證據調ト調査ノ記載】

第二百六十五條ノ規定ニ依リテ受命判事又ハ受託判事ヲシテ文書ニ付證據調ヲ爲サシムル場合ニ於テハ裁判所受命判事又ハ受託判事ノ調査ニ記載スヘキ事項ヲ定ムルコトヲ得

2 前項ノ調査ニハ文書ノ謄本又ハ抄本ヲ添付スルコトヲ要ス

舊第三百四十八條 受命判事受託判事ノ書證ノ取調

第三百二十二條 【文書ノ提出又ハ送付ト其ノ種類】

文書ノ提出又ハ送付ハ原本、正本又ハ認證アル謄本ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

2 裁判所ハ前項ノ規定ニ拘ラス原本ノ提出ヲ命シ又ハ送付ヲ爲サシムルコトヲ得

3 裁判所ハ當事者ヲシテ其ノ引用シタル文書ノ謄本又ハ抄本ヲ提出セシムルコトヲ得

舊第三百四十九條 舉證ノ爲メニ提出スヘキ證書ノ種類

第三百二十三條 【公文書タルノ推定】

文書ハ其ノ方式及趣旨ニ依リ官吏其ノ他ノ公務員職務上作成シタルモノト認ムヘキトキハ之ヲ真正ナル公文書ト推定ス

2 公文書ノ眞否ニ付疑アルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ當該官廳又ハ公署ニ問合ヲ爲スコトヲ得

第三百二十四條 【外國公文書タル推定】

前條ノ規定ハ外國ノ官廳又ハ公署ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキ文書ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條 【私文書眞正ノ證明】

私文書ハ其ノ眞正ナルコトヲ證スルコトヲ要ス

第三百二十六條 【私文書眞正ノ推定】

私文書ハ本人又ハ其ノ代理人ノ署名又ハ捺印アルトキハ之ヲ眞正ナルモノト推定ス

第三百二十七條 【文書眞否ノ證明方法】

文書ノ眞否ハ筆跡又ハ印影ノ對照ニ依リテモ之ヲ證ス

ルコトヲ得

舊第三百五十三條 檢眞ノ手續

第三百二十八條 【文書ノ提出及送付ト準用規定】

第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ對照ノ用ニ供スヘキ筆蹟又ハ印影ヲ具フル文書其ノ他ノ物件ノ提出又ハ送付ニ之ヲ準用ス

2 第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル提出ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三百二十九條 【對照供用ノ文字ノ手記】

對照ニ適當ナル筆跡ナキトキハ裁判所ハ對照ノ用ニ供スヘキ文字ノ手記ヲ相手方ニ命スルコトヲ得

2 相手方カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル裁判所ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ文書ノ眞否ニ關スル舉證者ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得書樣ヲ變シテ手記シタルトキ亦同シ

舊第三百五十三條 檢眞ノ手續

第三百三十條 【對照書類ノ原本、謄本等ノ添附】

對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄本ハ之ヲ

調書ニ添付スルコトヲ要ス

第三百三十一條 【故意ニ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル制裁】

當事者又ハ其ノ代理人カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ眞實ニ反シテ文書ノ眞正ヲ爭ヒタルトキハ裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

2 前項ノ場合ニ於テ文書ノ眞正ヲ爭ヒタル當事者又ハ代理人カ訴訟ノ繫屬中其ノ眞正ナルコトヲ認メタルトキハ裁判所ハ事情ニ依リ前項ノ決定ヲ取消スコトヲ得

舊第三百五十五條 故意ニ證書ノ眞正ヲ爭ヒタル制裁

第三百三十二條 【權利ノ證據ト書證ノ規定】

本款ノ規定ハ證據ノ爲作リタル物件ニシテ文書ニ非サルモノニ之ヲ準用ス

舊第三百五十六條 紀念碑、位牌及ヒ界標等ト書證ノ規定

第五款 檢 證

第三百三十三條 【檢證申出ノ方式】

檢證ノ申出ハ檢證ノ目的ヲ表示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

舊第三百五十七條 檢證申出ノ要件

第三百三十四條 【檢證現場ニ於ケル鑑定命令】

受命判事又ハ受託判事ハ檢證ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ鑑定ヲ命スルコトヲ得

舊第三百五十八條 檢證ニ於ケル鑑定人ノ立會

第三百三十五條 【檢證物ノ提示及送付ト準用規定】

第三百十一條、第三百十四條乃至第三百十七條及第三百十九條乃至第三百二十一條ノ規定ハ檢證ノ目的ノ提示又ハ送付ニ之ヲ準用ス

2 第三者カ正當ノ事由ナクシテ前項ノ規定ニ依ル提示ノ命ニ從ハサルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六款 當事者訊問

第三百三十六條 【當事者本人ノ訊問】

裁判所カ證據調ニ依リテ心證ヲ得ルコト能ハサルトキハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當事者ヲシテ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

舊第三百六十條 本人訊問ヲ爲スヘキ場合

舊第三百六十一條 在延スル本人ノ訊問

第三百三十七條 【當事者本人ト對質】

裁判長必要アリト認ムルトキハ當事者相互又ハ當事者ト證人トノ對質ヲ命スルコトヲ得

第三百三十八條 【本人訊問ニ應セサル效果】

當事者カ正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ宣誓若ハ陳述ヲ拒ミタルトキハ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得

舊第三百六十三條 怠慢ナル本人ニ對スル處置

第三百三十九條 【虚偽ノ陳述ヲ爲シタル制裁】

宣誓シタル當事者カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ裁判所決定ヲ以テ五百圓以下ノ過料ニ處ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

2 第三百三十一條第二項ノ規定ハ前項ノ決定ニ之ヲ準用ス

第三百四十條 【本人訊問ト其ノ調書】

當事者ヲ訊問シタルトキハ其ノ陳述及宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

第三百四十一條 【法定代理人ノ訊問ト準用規定】

第三百三十六條乃至前條ノ規定ハ訴訟ニ於テ當事者ヲ

代表スル法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ妨ケス

舊第三百六十四條 法律上代理人ニ依ル訴訟ノ本人訊問

第三百四十二條 【本人訊問ニ準用スヘキ規定】

第二百七十六條、第二百七十九條、第二百八十五條乃至第二百八十九條、第二百九十五條及第二百九十七條乃至第三百條ノ規定ハ本款ノ訊問ニ之ヲ準用ス

舊第三百六十二條 本人供述ノ方式

第七款 證據保全

第三百四十三條 【證據保全ヲ許スヘキ場合】

裁判所ハ豫メ證據調ヲ爲スニ非サレハ其ノ證據ヲ使用スルニ困難ナル事情アリト認ムルトキハ申立ニ因リ本節ノ規定ニ從ヒ證據調ヲ爲スコトヲ得

舊第三百六十五條 證據保全ヲ許スヘキ場合

第三百四十四條 【證據保全ノ申立ト管轄】

證據保全ノ申立ハ訴訟ノ繫屬中ニ在リテハ其證據ヲ使用スヘキ審級ノ裁判所ニ、其ノ提起前ニ在リテハ訊問ヲ受クヘキ者若ハ文書ヲ所持スル者ノ居所又ハ檢證物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

改正法 第一審ノ訴訟手續 地方裁判所ノ訴訟手續 證據 證據保全 三四二條—三四七條 五五

2 急迫ナル場合ニ於テハ訴ノ提起後ト雖前項ノ區裁判所

ニ證據保全ノ申立ヲ爲スコトヲ得

舊第三百六十六條 證據保全ノ管轄裁判所及ヒ申請ノ方式

第三百四十五條 【證據保全ノ申立ノ要件】

證據保全ノ申立ニハ左ノ事項ヲ明ニスルコトヲ要ス

一 相手方ノ表示

二 證スヘキ事項

三 證據

四 證據保全ノ事由

證據保全ノ事由ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス

舊第三百六十七條 證據保全ノ申請ニ掲クヘキ要件

第三百四十六條 【相手方ナキ證據保全ノ申立】

證據保全ノ申立ハ相手方ヲ指定スルコト能ハサル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ相手方ト爲ルヘキ者ノ爲ニ特別代理人ヲ選任スルコトヲ得

舊第三百七十二條 相手方ヲ指定セサル證據保全ノ許否

第三百四十七條 【訴訟繫屬中職權ニヨル證據保全】

裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ訴訟ノ繫屬中職權ヲ以テ證據保全ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第三百四十八條 【證據保全ノ裁判ト不服申立】

證據保全ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

舊第三百六十八條 證據保全ノ申請ニ對スル許否ノ決定

第三百四十九條 【證據調期日ノ呼出】

證據調ノ期日ニハ申立人及相手方ヲ呼出スコトヲ要ス但シ急速ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

舊第三百六十九條 證據保全ノ證據調手續

第三百五十條 【證據保全ニ關スル記録】

證據保全ニ關スル記録ハ本訴訟ノ記録ノ存スル裁判所ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

舊第三百七十條 證據保全調書ノ保存

第三百五十一條 【證據保全ニ關スル費用】

證據保全ニ關スル費用ハ訴訟費用ノ一部トス

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

第三百五十二條 【區裁判所ノ訴訟手續ト準用規定】

民事上ノ争ニ付テハ當事者ハ請求ノ趣旨及原因並ニ争ノ實情ヲ表示シテ相手方ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所ニ和解ノ申立ヲ爲スコトヲ得

2 和解調ヒタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス

3 和解調ハサル場合ニ於テ裁判所ハ和解ノ期日ニ出頭シタル當事者雙方ノ申立アルトキハ直ニ訴訟ノ辯論ヲ命ス此ノ場合ニ於テハ和解ノ申立ヲ爲シタル者ハ其ノ申立ヲ爲シタル時ニ於テ訴ヲ提起シタルモノト看做シ和解ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

4 申立人又ハ相手方カ和解ノ期日ニ出頭セサルトキハ裁判所ハ和解調ハサルモノト看做スコトヲ得

舊第三百八十一條 和解ノ爲メ相手方呼出ノ申請

第三百五十七條 【口頭辯論ノ準備】

口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要セス

2 相手方カ準備ヲ爲スニ非サレハ陳述ヲ爲スコト能ハスト認ムヘキ事項ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ書面ヲ以テ之ヲ準備スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ準備書面ノ提出ニ代ヘ口頭辯論前直接ニ相手方ニ其ノ事項ヲ通知スルコトヲ得

3 第二百四十七條ノ規定ハ前項ノ通知ヲ爲ササル場合ニ

改正法 上訴 控訴

區裁判所ノ訴訟手續ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外前章ノ規定ヲ準用ス

舊第三百七十三條 區裁判所ノ手續ト準用規定

舊第三百七十七條 口頭辯論ノ準備時間

第三百五十三條 【訴提起ノ方式】

訴ハ口頭ヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得

舊第三百七十四條 訴提起ノ方式

第三百五十四條 【訴提起ノ特別方式】

當事者雙方ハ任意ニ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付キ口頭辯論ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴ノ提起ハ口頭ノ陳述ニ依リテ之ヲ爲ス

舊第三百七十八條 訴提起ノ特別方式

第三百五十五條 【反訴ニ基ク事件ノ移送】

被告カ反訴ヲ以テ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル請求ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方ノ申立アルトキハ區裁判所ハ決定ヲ以テ本訴及反訴ヲ地方裁判所ニ移送スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三十二條及第三十四條ノ規定ヲ準用ス

2 移送ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百五十六條 【和解ノ申立ト其ノ效果】

之ヲ準用ス

舊第三百七十五條 準備書面ノ交換ヲ要セス

舊第三百七十六條 準備事項ノ直接通知

第三百五十八條 【準備手續ノ不適用】

準備手續ニ關スル規定ハ區裁判所ノ訴訟手續ニ之ヲ適用セス

舊第三百八十條 判決事項ノ書面及準備手續ノ不適用

第三百五十九條 【判決ノ事實理由ノ記載方】

判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ請求ノ趣旨及原因ノ要旨、其ノ原因ノ有無並請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ要旨ヲ表示スルヲ以テ足ル

第三編 上 訴

第一章 控 訴

第三百六十條 【控訴ノ目的タル裁判】 【控訴ヲ爲ササル合意】

控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但シ當事者雙方共ニ控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三五七條——三六〇條

五七

2 前項ノ合意ハ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ之ヲ爲スコトヲ得

3 第二十五條第二項ノ規定ハ第一項ノ合意ニ之ヲ準用ス
舊第三百九十六條 控訴ノ目的タル裁判

第三百六十一條 【費用ノ裁判ニ對スル控訴】
訴訟費用ノ裁判ニ對シテハ獨立シテ控訴ヲ爲スコトヲ得ス
舊第八十二條 費用ノ點ニ限リタル裁判ト上訴

第三百六十二條 【控訴審ノ判斷ヲ受クヘキ裁判】

終局判決前ノ裁判ハ控訴裁判所ノ判斷ヲ受ク但シ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル裁判及抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ハ此ノ限ニ在ラス
舊第三百九十七條 終局判決前ノ裁判ニ對スル

控訴

第三百六十三條 【控訴ノ取下】

控訴ハ控訴審ノ終局判決アル迄之ヲ取下クルコトヲ得
2 第二百三十六條第二項第三項、第二百三十七條第一項及第二百三十八條ノ規定ハ控訴ノ取下ニ之ヲ準用ス
舊第三百九十九條 控訴取下ノ要件及效果

第三百六十四條 【控訴權ノ拋棄】

控訴ヲ爲ス權利ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得

舊第四百五條 控訴ノ拋棄及附帶控訴ノ提起

第三百六十五條 【控訴權拋棄ノ方式】

控訴權ノ拋棄ハ控訴提起前ニ在リテハ第一審裁判所、控訴提起後ニ在リテハ控訴裁判所ニ對スル申述ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス
2 控訴提起後ノ控訴權ノ拋棄ハ控訴ノ取下ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
3 控訴權拋棄ノ書面ハ之ヲ相手方ニ送達スルコトヲ要ス

第三百六十六條 【控訴提起ノ期間】

控訴ハ判決ノ送達アリタル日ヨリ二週間内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス但シ其ノ期間前提起シタル控訴ノ效力ヲ妨ケス
2 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
舊第四百條 控訴提起ノ期間

第三百六十七條 【控訴提起ノ方式】

控訴ノ提起ハ控訴狀ヲ第一審裁判所又ハ控訴裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス
控訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 當事者及法定代理人

二 第一審判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨

舊第四百一條 控訴提起ノ方式

第三百六十八條 【控訴狀ト準備書面ノ規定】

準備書面ニ關スル規定ハ控訴狀ニ之ヲ準用ス
舊第四百一條 控訴ノ變更ヲ許サス

第三百六十九條 【控訴狀ノ提出ト記録送付ノ請求】

第一審裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ訴訟記録ニ控訴狀ヲ添附シテ遲滞ナク之ヲ控訴裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス
2 控訴裁判所ニ控訴狀ノ提出アリタルトキハ裁判所書記ハ遲滞ナク第一審裁判所ノ書記ニ訴訟記録ノ送付ヲ求ムルコトヲ要ス
舊第四百三十一條 控訴記録ノ送還

第三百七十條 【控訴狀ノ補正ト準用規定】

第二百二十八條ノ規定ハ控訴狀カ第三百六十七條第二項ノ規定ニ違背スル場合、法律ノ規定ニ從ヒ控訴狀ニ印紙ヲ貼用セサル場合及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ之ヲ準用ス
舊第四百二條 不適式ナル控訴ノ却下

第三百七十一條 【控訴狀ノ送達】

控訴狀ハ之ヲ被控訴人ニ送達スルコトヲ要ス
舊第四百三條 控訴辯論ノ準備ニ關スル規定

第三百七十二條 【附帶控訴ト其ノ時期】

被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得
舊第四百五條 控訴ノ拋棄及附帶控訴ノ提起

第三百七十三條 【附帶控訴ノ失効】

附帶控訴ハ控訴ノ取下アリタルトキ又ハ不適法トシテ控訴ノ棄却アリタルトキハ其ノ效力ヲ失フ但シ控訴ノ要件ヲ具備スルモノハ之ヲ獨立ノ控訴ト看做ス
舊第四百六條 附帶控訴ノ消滅

第三百七十四條 【附帶控訴ト控訴ノ規定】

附帶控訴ニ付テハ控訴ニ關スル規定ニ依ル

第三百七十五條 【一審判決ニ對スル假執行ノ宣言】

控訴裁判所ハ第一審ノ判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限り申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得
舊第五百九條 上訴審ニ於ケル假執行ノ宣言

第三百七十六條 【假執行ノ裁判ト不服申立】
 假執行ニ關スル控訴審ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
 2 前條ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第四百八條 第一審ノ訴訟手續ヲ準用
 舊第四百十三條 訴ノ變更ヲ許サス
 舊第四百十五條 新事實及新證據方法ノ提出
 舊第四百十六條 新ナル請求ノ提出條件
 舊第四百十七條 第一審ニ爲ササリシ新ナル陳述

第三百七十七條 【控訴ノ辯論範圍】

口頭辯論ハ當事者カ第一審ノ判決ノ變更ヲ求ムル限度ニ於テノミ之ヲ爲ス
 2 當事者ハ第一審ニ於ケル口頭辯論ノ結果ヲ陳述スルコトヲ要ス

舊第四百十一條 控訴審ニ於ケル辯論ノ範圍
 舊第四百十二條 控訴審ニ於ケル辯論ノ内容

第三百七十八條 【控訴審ト地方手續ノ準用】

前編第一章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外控訴審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

舊第四百三條 控訴辯論ノ準備ニ關スル規定
 舊第四百四條 控訴審ニ於ケル答辯書
 舊第四百七條 答辯書ノ送達

第三百八十二條 【控訴審ト反訴ノ提起】

反訴ハ相手方ノ同意アル場合ニ限り之ヲ提起スルコトヲ得

2 相手方カ異議ヲ述ヘスシテ反訴ノ本案ニ付辯論ヲ爲シタルトキハ反訴ノ提起ニ同意シタルモノト看做ス

第三百八十三條 【補正不能ノ控訴ノ却下】

不適法ナル控訴ニシテ其ノ欠缺ヲ補正スルコト能ハサルモノナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得

舊第四百二條 不適法ナル控訴ノ却下
 舊第四百九條 控訴適否ノ形式的審判

第三百八十四條 【控訴ヲ棄却スル場合】

控訴裁判所ハ第一審判決ヲ相當トスルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス

2 判決カ其ノ理由ニ依レハ不當ナル場合ニ於テモ他ノ理由ニ依リテ正當ナルトキハ控訴ヲ棄却スルコトヲ要ス
 舊第四百二十四條 控訴棄却ノ判決

第三百八十五條 【第一審判決變更ノ限度】

第一審判決ノ變更ハ不服申立ノ限度ニ依テノミ之ヲ爲スコトヲ得

舊第四百八條 第一審ノ訴訟手續ヲ準用
 舊第四百十三條 訴ノ變更ヲ許サス
 舊第四百十五條 新事實及新證據方法ノ提出
 舊第四百十六條 新ナル請求ノ提出條件
 舊第四百十七條 第一審ニ爲ササリシ新ナル陳述
 舊第四百二十一條 控訴審ニ於ケル審判ノ範圍
 (一)

第三百七十九條 【一審ニ於ケル訴訟行為ノ效力】

第一審ニ於テ爲シタル訴訟行為ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

舊第四百十八條 第一審ニ於ケル自白ノ效力

第三百八十條 【一審ニ於ケル準備手續ノ效力】

第一審ニ於テ爲シタル準備手續ハ控訴審ニ於テモ其ノ效力ヲ有ス

第三百八十一條 【管轄權ニ關スル主張ノ制限】

控訴審ニ於テハ當事者ハ第一審裁判所カ管轄權ヲ有セサルコトヲ主張スルコトヲ得ス但シ專屬管轄ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

舊第七條 事物管轄ノ效力ノ例外

舊第四百二十條 控訴審ニ於ケル審判ノ範圍

(一)

舊第四百二十五條 不利益變更ノ制限

第三百八十六條 【一審判決ノ取消(一)】

控訴裁判所ハ第一審判決ヲ不當トスルトキハ之ヲ取消スコトヲ要ス

舊第四百二十條 控訴審ニ於ケル審判ノ範圍

(一)

第三百八十七條 【一審判決ノ取消(二)】

第一審ノ判決ノ手續カ法律ニ違背シタルトキハ控訴裁判所ハ判決ヲ取消スコトヲ要ス

舊第四百二十三條 權能的差戻ノ判決

第三百八十八條 【必要的差戻ノ判決】

訴ヲ不適法トシテ却下シタル第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テハ控訴裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ要ス

舊第四百二十二條 必要的差戻ノ判決

第三百八十九條 【權能的差戻ノ判決】

前條ノ場合ノ外控訴裁判所カ第一審判決ヲ取消ス場合ニ於テ事件ニ付尙辯論ヲ爲ス必要アルトキハ之ヲ第一

審裁判所ニ差戻スコトヲ得

2 第一審裁判所ニ於ケル訴訟手續法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ事件ヲ差戻ストキハ其ノ訴訟手續ハ之ニ因リテ取消サレタルモノト看做ス

舊第四百二十二條 必要の差戻ノ判決

舊第四百二十三條 權能的の差戻ノ判決

第三百九十條 【事件移送ノ判決】

事件力管轄違ナルコトヲ理由トシテ第一審判決ヲ取消ストキハ控訴裁判所ハ判決ヲ以テ事件ヲ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

第三百九十一條 【控訴判決ト一審判決ノ引用】

判決ニ事實及理由ヲ記載スルニハ第一審判決ヲ引用スルコトヲ得

舊第四百三十條 判決ノ事實摘示ノ方法

第三百九十二條 【控訴完結後ノ記録ノ處置】

訴訟完結シタル後上訴ノ提起ナクシテ上訴期間満了シタルトキハ裁判所書記ハ判決又ハ第三百七十條ノ規定ニ依ル命令ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ之ヲ第一審裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

舊第四百三十一條 控訴記録ノ送還

第二章 上告

第三百九十三條 【上告ノ目的タル判決】

上告ハ控訴審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得
2 第三百六十條第二項ノ場合ニ於テハ第一審判決ニ對シ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得

舊第四百三十二條 上告ノ目的タル裁判

舊第四百三十三條 終局判決前ノ裁判ニ對スル上告

第三百九十四條 【上告提起ノ要件】

上告ハ判決方法令ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

舊第四百三十四條 上告提起ノ要件ト法律違背

舊第四百三十五條 法律違背ト認ムヘキ場合

第三百九十五條 【法令ニ違背シタル判決】

判決ハ左ノ場合ニ於テハ常ニ法令ニ違背シタルモノトス

一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

二 法律ニ依リ判決ニ關與スルコトヲ得サル判事カ判決ニ關與シタルトキ

三 專屬管轄ニ關スル規定ニ違背シタルトキ

四 法定代理權、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行爲

ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ

五 口頭辯論公開ノ規定ニ違背シタルトキ

六 判決ニ理由ヲ附セス又ハ理由ニ齟齬アルトキ

2 前項第四號ノ規定ハ第五十四條又ハ第八十七條ノ規定ニ依ル追認アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

舊第四百三十六條 常ニ法律違背ト認ムヘキ場合

第三百九十六條 【上告及上告審ノ手續ト準用規定】

前章ノ規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外上告及上告審ノ訴訟手續ニ之ヲ準用ス

舊第四百三十七條 上告提起ノ期間

舊第四百三十八條 上告提起ノ方式

舊第四百三十九條 上告ノ形式條件ノ審査

舊第四百四十條 上告辯論ノ準備時間

舊第四百四十一條 上告審ニ於ケル答辯書

舊第四百四十二條 附帶上告審

舊第四百四十三條 附帶上告ヲ掲ケタル答辯書ノ送達

舊第四百四十四條 上告手續ニ準用スヘキ規定

舊第四百五十二條 上告理由ナキ場合ノ判決

舊第四百五十三條 上告理由アルモ棄却スヘキ

改正法 上訴 上告

場合

舊第四百五十四條 上告ニ準用スヘキ控訴ノ規定

第三百九十七條 【記録ノ送付ヲ受ケタル通知】

上告裁判所ノ書記ハ原裁判所ノ書記ヨリ訴訟記録ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ當事者ニ通知スルコトヲ要ス

第三百九十八條 【上告理由書ノ提出期間】

上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セサルトキハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ上告理由書ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百九十九條 【上告理由書不提出ノ效果】

上告人カ前條ノ規定ニ違背シ上告理由書ヲ提出セザルトキハ上告裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ却下スルコトヲ得

舊第四百三十九條 上告ノ形式條件ノ審査

第四百條 【答辯書提出ノ命令】

裁判長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ提出スヘキコトヲ被告上告人ニ命スルコトヲ得

舊第四百四十一條 上告審ニ於ケル答辯書

第四百一條 【上告棄却ノ判決】

三九六條—四〇一條

六三

上告裁判所カ上告狀、上告理由書、答辯書其ノ他ノ書類ニ依リ上告ヲ理由ナシト認ムルトキハ口頭辯論ヲ經スシテ判決ヲ以テ上告ヲ棄却スルコトヲ得

舊第四百三十九條 上告ノ形式條件ノ審査

舊第四百五十二條 上告理由ナキ場合ノ判決

第四百二條 【上告審査ノ範圍】

上告裁判所ハ上告理由ニ基キ不服ノ申立アリタル限度ニ於テノミ調査ヲ爲ス

舊第四百四十五條 上告審ニ於ケル審理ノ範圍

第四百三條 【原審確定ノ事實ノ羈束力(一)】

原判決ニ於テ適法ニ確定シタル事實ハ上告裁判所ヲ羈束ス

舊第四百四十六條 上告裁判所ト事實ノ審査權

第四百四條 【原審確定ノ事實ノ羈束力(二)】

第三百九十三條第二項ノ規定ニ依リ上告アリタル場合ニ於テハ上告裁判所ハ原判決ニ於ケル事實ノ確定方法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ其ノ判決ヲ破毀スルコトヲ得ス

第四百五條 【原審確定ノ事實ノ羈束力(三)】

第四百二條乃至前條ノ規定ハ裁判所ノ職權ヲ以テ調査

スヘキ事項ニ之ヲ適用セス

第四百六條 【原判決ニ對スル假執行ノ宣言】

上告裁判所ハ原判決ニ付不服ノ申立ナキ部分ニ限り申立ニ因リ決定ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

舊第五百九條 上訴審ニ於ケル假執行ノ宣言

第四百七條 【差戻又ハ移送ノ判決ト其ノ效力】

上告ヲ理由アリトスルトキハ上告裁判所ハ原判決ヲ破毀シ事件ヲ原裁判所ニ差戻シ又ハ同等ナル他ノ裁判所ニ移送スルコトヲ要ス

2 差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ新口頭辯論ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ要ス但シ上告裁判所カ破毀ノ理由ト爲シタル事實上及法律上ノ判斷ニ羈束セラル

3 原判決ニ關與シタル判事ハ前項ノ裁判ニ關與スルコトヲ得ス

舊第四百四十七條 上告理由アル場合ノ判決手續

舊第四百四十八條 差戻又ハ移送判決ト其ノ效力

舊第四百四十九條 破毀後ノ新辯論ト當事者ノ提出權

舊第四百五十條 差戻又ハ移送判決ノ羈束力

第四百八條 【上告裁判所ノ自列スヘキ場合】

左ノ場合ニ於テハ上告裁判所ハ事件ニ付裁判ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 確定シタル事實ニ付法令ノ適用ヲ誤リタルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スル場合ニ於テ事件力其ノ事實ニ基キ裁判ヲ爲スニ熟スルトキ
- 二 事件力通常裁判所ノ權限ニ屬セサルコトヲ理由トシテ判決ヲ破毀スルトキ

舊第四百五十一條 上告裁判所ノ自列スヘキ場合

第四百九條 【差戻又ハ移送ト記録ノ送付】

差戻又ハ移送ノ判決アリタルトキハ裁判所書記ハ其ノ判決ノ正本ヲ訴訟記録ニ添附シ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ノ書記ニ之ヲ送付スルコトヲ要ス

舊第四百五十四條 上告ニ準用スヘキ控訴ノ規定

第三章 抗 告

第四百十條 【抗告ノ目的タル裁判(一)】

口頭辯論ヲ經スシテ訴訟手續ニ關スル申立ヲ却下シタル決定又ハ命令ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第四百八十九條 訴訟手續中止ノ裁判ト不服申立

舊第四百五十五條 抗告ヲ爲シ得ヘキ場合

第四百十一條 【抗告ノ目的タル裁判(二)】

決定又ハ命令ヲ以テ裁判ヲ爲スコトヲ得サル事項ニ付決定又ハ命令ヲ爲シタルトキハ當事者ハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四百十二條 【抗告ノ目的タル裁判(三)】

受命判事又ハ受託判事ノ裁判ニ對シ不服アル當事者ハ受託裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ裁判力受託裁判所ノ裁判ナル場合ニ於テ之ニ對シ抗告ヲ爲シ得ルモノナルトキニ限ル

2 抗告ハ異議ニ付テノ裁判ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得

3 第一項ノ規定ハ大審院ニ繫屬スル事件ニ付受命判事又ハ受託判事ノ爲シタル裁判ニ之ヲ準用ス

舊第四百六十五條 受命判事等ノ處分ニ對スル不服ノ救濟

第四百十三條 【再抗告ト其ノ理由】

抗告裁判所ノ決定ニ對シテハ其ノ決定カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限り更ニ抗告ヲ爲スコト

ヲ得

舊第四百五十六條 抗告ニ付テノ管轄裁判所

第四百十四條 【抗告及抗告審ニ準用スヘキ規定】

抗告及抗告裁判所ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル
限リ第一章ノ規定ヲ準用ス

但シ前條ノ抗告及之ニ關スル訴訟手續ニハ前章ノ規定
ヲ準用ス

舊第四百五十六條 抗告ニ付テノ管轄裁判所

舊第四百五十八條 抗告ニ於ケル證據ノ材料

舊第四百六十三條 抗告ノ形式の審査

舊第四百六十四條 抗告適法ナル場合ノ裁判手
續

第四百十五條 【即時抗告ノ期間】

即時抗告ハ裁判ノ告知アリタル日ヨリ一週間内ニ之ヲ
爲スコトヲ要ス

2 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

舊第四百六十六條 即時抗告ニ關スル特別規定

第四百十六條 【抗告ノ方式】

抗告ハ原裁判所又ハ抗告裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ
之ヲ爲スコトヲ要ス

2 抗告裁判所カ抗告ヲ受ケタル場合ニ於テ適當ト認ムル

トキハ事件ヲ原裁判所ニ送付スルコトヲ得

舊第四百五十七條 抗告提起ノ方式

舊第四百六十一條 急迫ナル場合ノ抗告提起ノ
方式

舊第四百六十四條 抗告適法ナル場合ノ裁判手
續

第四百十七條 【抗告ヲ受ケタル原裁判所ノ職責】

原裁判所カ抗告ヲ受ケ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ事
件ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テ抗告ヲ理由アリト認ム
ルトキハ其ノ裁判ヲ更正スルコトヲ要ス

2 抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ事件ヲ抗告
裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

舊第四百五十九條 抗告ノ提起ト原裁判所ノ爲
スヘキ手續

第四百十八條 【抗告ト執行停止ノ效力】

抗告ハ即時抗告ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス

2 抗告裁判所又ハ原裁判所ヲ爲シタル裁判所若ハ判事ハ抗
告ニ付決定アル迄原裁判ノ執行ヲ停止シ其ノ他必要ナ
ル處分ヲ命スルコトヲ得

舊第四百六十條 抗告ノ提起ト執行停止ノ效力

第四百十九條 【抗告ト審理ノ方法】

抗告裁判所ハ抗告ニ付口頭辯論ヲ命セサル場合ニ於テ

ハ抗告人其ノ他ノ利害關係人ヲ審訊スルコトヲ得

舊第四百六十二條 抗告審ニ於ケル裁判ノ手續

第四編 再 審

第四百二十條 【再審ノ訴ヲ提起シ得ル場合(一)】

左ノ場合ニ於テハ確定ノ終局判決ニ對シ再審ノ訴ヲ以
テ不服ヲ申立ツルコトヲ得但シ當事者カ上訴ニ依リ其
ノ事由ヲ主張シタルトキ又ハ之ヲ知リテ主張セザリシ
トキハ此ノ限ニ在ラス

一 法律ニ從ヒテ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ

二 法律ニ依リ裁判ニ關與スルコトヲ得サル判事カ
裁判ニ關與シタルトキ

三 法定代理權、訴訟代理權又ハ代理人カ訴訟行為
ヲ爲スニ必要ナル授權ノ欠缺アリタルトキ

四 裁判ニ關與シタル判事カ事件ニ付職務ニ關スル
罪ヲ犯シタルトキ

五 刑事上罰スヘキ他人ノ行為ニ因リ自白ヲ爲スニ
至リタルトキ又ハ判決ニ影響ヲ及ボスヘキ攻撃若

ハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ妨ケラレタルトキ

六 判決ノ證據ト爲リタル文書其ノ他ノ物件カ偽造

改正法 再審

又ハ變造セラレタルモノナリシトキ

七 證人、鑑定人、通事又ハ宣誓シタル當事者若ハ
法定代理人ノ虛偽ノ陳述カ判決ノ證據ト爲リタル
トキ

八 判決ノ基礎ト爲リタル民事若ハ刑事ノ判決其ノ
他ノ裁判又ハ行政處分カ後ノ裁判又ハ行政處分ニ
依リテ變更セラレタルトキ

九 判決ニ影響ヲ及ボスヘキ重要ナル事項ニ付判斷
ヲ遺脱シタルトキ

十 不服ノ申立アル判決カ前ニ言渡サレタル確定判
決ト抵觸スルトキ

2 前項第四號乃至第七號ノ場合ニ於テハ罰スヘキ行為ニ
付有罪ノ判決若ハ過料ノ裁判確定シタルトキ又ハ證據
欠缺外ノ理由ニ因リ有罪ノ確定判決若ハ過料ノ確定裁
判ヲ得ルコト能ハサルトキニ限リ再審ノ訴ヲ提起スル
コトヲ得

2 控訴審ニ於テ事件ニ付本案判決ヲ爲シタルトキハ第一
審ノ判決ニ對シ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

舊第四百六十七條 再審ノ訴ヲ提起シ得ル場合

舊第四百六十八條 取消ノ訴ニ依ル再審ノ原因

舊第四百六十九條 原狀回復ノ訴ニ依ル再審ノ
原因

改正法 再審

舊第四百七十條 原狀回復ノ訴提起ノ制限
舊第四百七十一條 再審ノ訴ニ附随スル不服ノ申立

第四百二十一條 【再審ノ訴ヲ提起シ得ル場合(一)】
判決ノ基本タル裁判ニ付前條ニ定メタル事由アルトキハ其ノ裁判ニ對シ獨立ノ不服ノ方法ヲ定メタル場合ニ於テモ其ノ事由ヲ以テ判決ニ對スル再審ノ理由ト爲スコトヲ得

第四百二十二條 【再審ノ管轄】
再審ハ不服ノ申立アル判決ヲ爲シタル裁判所ノ專屬管轄トス

2 審級ヲ異ニスル裁判所カ同一事件ニ付爲シタル判決ニ對スル再審ノ訴ハ上級裁判所併セテ之ヲ管轄ス
舊第四百七十二條 再審ノ訴ノ管轄

第四百二十三條 【再審手續ト準用規定】
再審ノ訴訟手續ニハ其ノ性質ニ反セサル限り各審級ニ於ケル訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用ス

舊第四百七十三條 再審ノ訴ニ關スル訴訟手續
舊第四百七十六條 再審ノ訴ノ適否ト裁判長ノ職權

ス
舊第四百七十四條 再審ノ訴提起ノ期間

第四百二十六條 【再審ノ訴狀ノ要件】
訴狀ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 當事者及法定代理人
- 二 不服ノ申立アル判決ノ表示及其ノ判決ニ對シ再審ヲ求ムル旨
- 三 不服ノ理由

舊第四百七十五條 再審ノ訴狀ニ掲クヘキ要件

第四百二十七條 【再審本案ノ審判ノ範圍】
本案ノ辯論及裁判ハ不服ノ範圍内ニ於テノミ之ヲ爲スコトヲ得

2 不服ノ理由ハ之ヲ變更スルコトヲ得
舊第四百七十九條 再審ノ訴ト審判ノ範圍

第四百二十八條 【再審ノ訴ヲ却下スヘキ場合】
再審ノ理由アル場合ニ於テモ判決ヲ正當トスルトキハ裁判所ハ再審ノ訴ヲ却下スルコトヲ要ス

第四百二十九條 【決定命令ニ對スル再審】
即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定又ハ命令カ確定シタル場合ニ於テ第四百二十條第一項ニ掲ク

改正法 督促手續

四二一條—四二五條 六八

舊第四百七十七條 再審ノ訴ニ於ケル口頭辯論
舊第四百七十八條 再審ノ訴ニ對スル形式的審査

舊第四百八十條 原告ノ不利益ト爲ル判決ノ變更
舊第四百八十一條 上告裁判所ノ管轄ニ屬スル再審
舊第四百八十二條 再審ノ訴ノ判決ニ對スル上訴

第四百二十四條 【再審ノ訴提起ノ期間(一)】
再審ノ訴ハ當事者カ判決確定後再審ノ事由ヲ知リタル日ヨリ三十日内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

2 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス
3 判決確定後五年ヲ經過シタルトキハ再審ノ訴ハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

4 再審ノ事由カ判決確定後ニ生シタルトキハ前項ノ期間ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス
舊第四百七十四條 再審ノ訴提起ノ期間

第四百二十五條 【再審ノ訴提起ノ期間(二)】
前條ノ規定ハ代理權ノ欠缺及第四百二十條第一項第十號ニ掲クル事項ヲ理由トスル再審ノ訴ニハ之ヲ適用セ

ル事由アルトキハ確定判決ニ對スル第四百二十條乃至前條ノ規定ニ準シ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ得
舊第四百六十六條 即時抗告ニ關スル特別規定

第五編 督促手續

第四百三十條 【督促手續ノ要件】

金錢其ノ他ノ代替物又ハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付テハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ヲ發スルコトヲ得但シ日本ニ於テ公示送達ニ依ラスシテ其ノ命令ノ送達ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ限ル
舊第三百八十二條 督促手續ノ要件

第四百三十一條 【督促手續ノ管轄】

督促手續ハ債務者ノ普通裁判籍所在地ノ區裁判所又ハ第九條ノ規定ニ依ル管轄區裁判所ノ專屬管轄トス
舊第三百八十三條 支拂命令ノ管轄裁判所

第四百三十二條 【支拂命令ノ申立ト訴ノ規定】
支拂命令ノ申立ニハ其ノ性質ニ反セサル限り訴ニ關スル規定ヲ準用ス
舊第三百八十四條 支拂命令ノ申請ノ方式

四二六條—四三二條

第四百三十三條 【支拂命令ノ申立ノ却下】

支拂命令ノ申立カ第四百三十條若ハ管轄ニ關スル規定ニ違背スルトキ又ハ申立ノ趣旨ニ依リ請求ノ理由ナキコト明ナルトキハ其ノ申立ハ之ヲ却下スルコトヲ要ス請求ノ一部ニ付支拂命令ヲ發スルコトヲ得サルトキ其ノ一部ニ付亦同シ

2 申立却下ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス
舊第三百八十五條 支拂命令ノ申請ニ對スル調査

第四百三十四條 【支拂命令ノ裁判及異議申立】

支拂命令ハ債務者ヲ審訊セスシテ之ヲ爲ス

2 債務者ハ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

舊第三百八十六條 支拂命令ニ掲クヘキ要件

舊第三百八十八條 支拂命令ニ對スル異議ノ申立

第四百三十五條 【支拂命令ニ掲クヘキ要件】

支拂命令ニハ當事者、法定代理人並請求ノ趣旨及原因ヲ記載シ且債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ債權者ノ申立ニ依リ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス

舊第三百八十六條 支拂命令ニ掲クヘキ要件

第四百三十六條 【支拂命令ノ送達】

支拂命令ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

舊第三百八十七條 督促手続ニ於ケル權利拘束

第四百三十七條 【異議ノ申立ト其ノ效力】

債務者カ假執行ノ宣言前異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其ノ異議ノ範圍内ニ於テ效力ヲ失フ

舊第三百八十九條 異議申立ノ效力

第四百三十八條 【支拂命令ト假執行ノ宣言】

債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ニ手續ノ費用額ヲ附記シ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ宣言前異議ノ申立アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 假執行ノ宣言ハ支拂命令ノ原本及正本ニ之ヲ記載シ其ノ正本ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

3 假執行ノ申立却下ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第三百九十三條 支拂命令ノ效力ト執行命令

舊第三百九十四條 支拂命令ニ附シタル執行命令ノ效力

第四百三十九條 【支拂命令ノ失効】

債權者カ假執行ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ三十日內ニ其ノ申立ヲ爲ササルトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失フ

第四百四十條 【異議申立權ノ喪失】

假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令送達ノ日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ債務者ハ其ノ支拂命令ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

2 前項ノ期間ハ之ヲ不變期間トス

第四百四十一條 【不適法ナル異議ノ却下】

區裁判所カ異議ヲ不適法ト認ムルトキハ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ決定ヲ以テ其ノ異議ヲ却下スルコトヲ要ス此ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第三百九十五條 時期ニ後レシ異議ノ申立

第四百四十二條 【適法ナル異議申立ノ效力】

支拂命令ニ對シ適法ナル異議ノ申立アリタルトキハ異議アル請求ニ付テハ其ノ目的ノ價格ニ從ヒ支拂命令ノ申立ノ時ニ於テ其ノ命令ヲ發シタル區裁判所又ハ其ノ區裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ訴ノ提起ア

第四百三十六條 【支拂命令ノ送達】

支拂命令ハ之ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

舊第三百八十七條 督促手続ニ於ケル權利拘束

第四百三十七條 【異議ノ申立ト其ノ效力】

債務者カ假執行ノ宣言前異議ヲ申立テタルトキハ支拂命令ハ其ノ異議ノ範圍内ニ於テ效力ヲ失フ

舊第三百八十九條 異議申立ノ效力

第四百三十八條 【支拂命令ト假執行ノ宣言】

債務者カ支拂命令送達ノ日ヨリ二週間内ニ異議ヲ申立テサルトキハ裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ支拂命令ニ手續ノ費用額ヲ附記シ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ要ス但シ其ノ宣言前異議ノ申立アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 假執行ノ宣言ハ支拂命令ノ原本及正本ニ之ヲ記載シ其ノ正本ヲ當事者ニ送達スルコトヲ要ス

3 假執行ノ申立却下ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

舊第三百九十三條 支拂命令ノ效力ト執行命令

舊第三百九十四條 支拂命令ニ附シタル執行命令ノ效力

リタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ督促手続ノ費用ハ之ヲ訴訟費用ノ一部トス

2 前項ノ規定ニ依リテ地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做サレタル場合ニ於テハ裁判所書記ハ遲滞ナク訴訟記録ヲ地方裁判所ノ書記ニ送付スルコトヲ要ス

舊第三百九十條 區裁判所ノ管轄事件ト異議申立ノ效力

舊第三百九十一條 地方裁判所ノ管轄事件ト異議申立ノ效力

舊第三百九十二條 督促手続費用ノ負擔者

舊第三百九十二條 督促手続費用ノ負擔者

第四百四十三條 【異議申立ナキ支拂命令ノ效力】

假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令ニ對シ異議ノ申立ナキトキ又ハ異議却下ノ決定確定シタルトキハ支拂命令ハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第四百四十四條乃至第四百九十六條—削除

第六編 強制執行

第一章 總 則

第四百九十七條 【強制執行ノ基本タル裁判】

強制執行ハ確定ノ終局判決又ハ假執行ノ宣言ヲ附シタ

ル終局判決ニ因リテ之ヲ爲ス

第四百九十七條ノ二【當事者以外ニ對スル執行力】

判決力其判決ニ表示シタル當事者以外ノ者ニ對シ效力ヲ有ス可キトキハ其者ニ對シ又ハ其者ノ爲メニモ之ヲ執行スルコトヲ得但第六十四條ノ規定ニ依ル參加人ニ付テハ此限ニ在ラス

2 前項ノ場合ニ於テ執行力アル正本ノ付與ニ付テハ第五百十九條乃至第五百二十一條ノ規定ヲ準用ス

第四百九十八條【判決ノ確定時期】

判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルモノトス

2 判決ノ確定ハ故障若クハ上訴ヲ其期間内ニ申立若クハ提起スルニ因リ之ヲ遮斷ス

第四百九十九條【判決確定ノ證明書】

原告若クハ被告カ判決ノ確定ニ付キ證明書ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ書記ハ記録ニ基キ之ヲ付與ス

2 訴訟カ猶ホ上級審ニ於テ繫屬中ナルトキハ上級裁判所ノ書記ハ判決ノ確定ト爲リタル部分ノミニ付キ證明書ヲ付與ス

3 判決ニ對シ上訴ノ提起ナキ場合ニ非サレハ證明書ヲ付

與スルコトヲ得サルトキニ限リ上訴ヲ管轄スル裁判所ノ書記カ不變期間内ニ上訴ノ提起ナキコトヲ認メタル證明書ヲ以テ足ル

第五百條【強制執行ノ停止又ハ制限(一)】

再審ヲ求ムル申立アルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ保證ヲ立テシメ又ハ保證ヲ立テシメシテ強制執行ヲ一時停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ爲ス可キコトヲ命シ及ヒ保證ヲ立テシメテ其爲シタル強制處分ヲ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

2 保證ヲ立テシメシテ爲ス強制執行ノ停止ハ其執行ニ因リ償フコト能ハサル損害ヲ生ス可キコトヲ疏明スルトキニ限リ之ヲ許ス

3 右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百一條乃至第五百十一條—削除

第五百十二條【強制執行ノ停止又ハ制限(二)】

假執行ノ宣言ヲ付シタル判決ニ對シ上訴ヲ提起シタルトキ又ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ニ對シ異議ヲ申立テタルトキハ第五百條ノ規定ヲ準用ス

第五百十三條【強制執行ノ保證又ハ供託】

第一 外國裁判所ノ判決ノ確定ト爲リタルコトヲ證明セサルトキ

第二 外國判決力第二百條ノ條件ヲ具備セサルトキ

第五百十六條【強制執行ノ要件ト執行正本】

強制執行ハ執行文ヲ付シタル判決ノ正本ニ基キ之ヲ爲ス

2 執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記之ヲ付與ス

3 執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百十七條【執行文ノ形式】

執行文ハ判決ノ正本ノ末尾ニ之ヲ附記ス

2 其文式左ノ如シ

前記ノ正本ハ被告某若クハ原告某ニ對シ強制執行ノ爲メ原告某若クハ被告某ニ之ヲ付與ス

3 執行文ニハ裁判所書記署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押ス可シ

第五百十八條【執行正本ヲ付與スル場合】

執行力アル正本ハ判決ノ確定シタルトキ又ハ假執行ノ宣言アリタルトキニ限リ之ヲ付與ス

第五百十五條【執行判決ノ審理ノ内容】

執行判決ハ裁判ノ當否ヲ調査セスシテ之ヲ爲ス可シ

2 執行判決ヲ求ムル訴ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ却下ス可シ

本編ノ規定ニ從ヒ原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ許シタル場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ執行裁判所ニ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲スコトヲ得

2 保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタルコトニ付テハ求ニ因リ證明書ヲ付與ス可シ

3 第一百十二條、第一百十三條、第一百十五條及ヒ第一百十六條ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル保證ニ付キ之ヲ準用ス

第五百十四條【外國裁判ト執行判決】

外國裁判所ノ判決ニ因レル強制執行ハ本邦ノ裁判所ニ於テ執行判決ヲ以テ其適法ナルコトヲ言渡シタルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

2 執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス

2 判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトニ繫ル場合ノ外他ノ條件ニ繫ル場合ニ於テハ債權者カ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコトヲ證スルトキニ限り執行力アル正本ヲ付與スルコトヲ得

第五百十九條 【承繼人ト執行正本】

執行力アル正本ハ判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ之ヲ付與シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ一般ノ承繼人ニ對シ之ヲ付與スルコトヲ得但其承繼力裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

2 此承繼力裁判所ニ於テ明白ナルトキハ之ヲ執行文ニ記載ス可シ

第五百二十條 【裁判長ノ命令ニ依ル執行正本】

第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テハ執行力アル正本ハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

2 裁判長ハ其命令前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

3 右命令ハ執行文ニ之ヲ記載ス可シ

第五百二十一條 【執行文付與ニ付テノ訴】

第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ニ依リ必要ナル

其旨ヲ明記ス可シ

第五百二十四條 【執行正本ノ付與ト原本ノ記載】

執行力アル正本ノ付與前ニ判決ノ原本ニ原告ノ爲メ若クハ被告ノ爲ニ之ヲ付與スル旨且之ヲ付與スル日時ヲ記載ス可シ

第五百二十五條 【執行正本ノ地域的效力】

執行力アル正本ノ效力ハ之ヲ付與シタル裁判所ノ管轄内ニ止マラス總テ本邦ノ裁判區域内ニ及フモノトス

第五百二十六條 【同時ニ數箇ノ強制執行】

債權者ハ一箇ノ地又ハ一箇ノ方法ニテ強制執行ヲ爲スモ完全ナル辨濟ヲ得ル能ハサルトキハ數通ノ執行力アル正本ニ基キ數箇ノ地又ハ數箇ノ方法ニテ同時ニ強制執行ヲ爲ス權利ヲ有ス

第五百二十七條 【執行債權者ノ假住所】

債權者ハ執行ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區域裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

第五百二十八條 【執行著手ノ要件ト債務名義ノ送達】

強制執行ハ之ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ノ氏名ヲ判決又ハ之ニ附記スル執行文ニ表示シ且判決ヲ既ニ送達

證明ヲ爲ス能ハサルトキハ債權者ハ判決ニ基キ執行文ノ付與ニ付キ第一審ノ受訴裁判所ニ訴ヲ起スコトヲ得

第五百二十二條 【執行文付與ニ付テノ異議】

執行文ノ付與ニ對シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキハ其執行文ヲ付與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ裁判ス

2 裁判長ハ其裁判前ニ假處分ヲ爲スコトヲ得殊ニ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ一時停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キヲ命スルコトヲ得

第五百二十三條 【數通ノ執行正本】

債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ付與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一判決ノ正本ヲ求ムルトキハ裁判長ノ命令アルトキニ限り之ヲ付與スルコトヲ得

2 裁判長ハ其命令ノ前ニ書面又ハ口頭ヲ以テ債務者ヲ審訊スルコトヲ得

3 相手方ヲ審訊セスシテ執行力アル正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ其旨ヲ相手方ニ通知ス可シ

4 正本ノ數通ヲ付與シ又ハ更ニ正本ヲ付與シタルトキハ

シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り之ヲ始ムルコトヲ得

2 判決ノ執行力其旨趣ニ從ヒ債權者ノ證明ス可キ事實ノ到來ニ繫ルトキ又ハ判決ノ執行力判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲ニ爲シ又ハ判決ニ表示シタル債務者ノ承繼人ニ對シ爲ス可キトキハ執行ス可キ判決ノ外尙ホ之ニ附記スル執行文ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達スルコトヲ要ス

3 若シ證明書ニ依リ執行文ヲ付與シタルトキハ亦其證書ノ謄本ヲ強制執行ヲ始ムル前ニ送達シ又ハ同時ニ送達スルコトヲ要ス

第五百二十九條 【執行著手ノ要件ト期限又ハ保證】

請求ノ主張カ或ル日時ノ到來ニ繫ルトキハ其日時ノ滿了後ニ限り強制執行ヲ始ムルコトヲ得

2 若シ執行力債權者ヨリ保證ヲ立ツルコトニ繫ルトキハ債權者カ保證ヲ立テタルコトニ付テノ公正ノ證明書ヲ提出シ且其謄本ヲ既ニ送達シ又ハ同時ニ送達シタルトキニ限り其執行ヲ始ムルコトヲ得

第五百三十條 【執行著手ノ要件ト現役軍人ノ場合】

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シテ爲ス強制執行ハ其上班司令官廳ニ通知ヲ爲シタル後ニ限り

之ヲ始ムルコトヲ得

2 此官廳ハ債權者ノ求ニ因リ通知ノ受取證ヲ付與スヘシ

第五百三十一條 【執行實施ノ機關】

強制執行ハ此法律ニ於テ別段ノ規定ナキトキニ限リ執達吏之ヲ實施ス

2 債權者ハ強制執行ヲ委任スル爲ニ區裁判所書記ノ補助ヲ求ムルコトヲ得

3 裁判所書記ノ委任シタル執達吏ハ債權者ノ委任シタルモノト看做ス

第五百三十二條 【執達吏ノ職責違背ノ責任】

執達吏ハ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス行爲及ヒ職務上ノ義務ノ違背ヨリシテ債權者其他ノ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ第一ニ其責ニ任ス

第五百三十三條 【執達吏ト委任ノ權限】

債權者執行力アル正本ヲ交付シテ強制執行ヲ委任シタルトキハ執達吏ハ特別ノ委任ヲ受ケサルトキト雖モ支拂其他ノ給付ヲ受取リ其受取リタルモノニ付キ有效ニ受取ノ證書ヲ作り之ヲ交付シ且債務者ニ於テ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付スルコトヲ得

第五百三十四條 【執達吏ノ執行權ト其ノ證明】

執達吏ハ執行力アル正本ヲ所持スルヲ以テ債務者及ヒ第三者ニ對シ強制執行及ヒ前條ニ掲ケタル行爲ヲ實施スル權利ヲ有ス債權者ハ此等ノ者ニ對シ委任ノ欠缺又ハ制限ヲ主張スルコトヲ得ス

2 執達吏ハ其正本ヲ携帶シ關係人ノ求アルトキハ其資格ヲ證スル爲ニ之ヲ示ス可シ

第五百三十五條 【債務完済ト正本及受取證ノ交付】

執達吏ハ債務者カ其義務ヲ完全ニ盡シタルトキハ執行力アル正本及ヒ受取ノ證ヲ之ニ交付シ又其義務ノ一分ヲ盡シタルトキハ執行力アル正本ニ其旨ヲ附記シ且受取ノ證ヲ債務者ニ交付ス可シ

2 債務者カ後ニ債權者ニ對シ受取ノ證ヲ求ムル權利ハ前項ノ規定ニ因リテ妨ケラレルコト無シ

第五百三十六條 【執達吏ト強制力ノ施用】

執達吏ハ執行ノ爲メ必要ナル場合ニ於テハ債務者ノ住居、倉庫及ヒ賃屋ヲ搜索シ又ハ閉鎖シタル戸扉及ヒ錠匣ヲ開カシムル權利ヲ有ス

2 抵抗ヲ受クル場合ニ於テハ執達吏ハ威力ヲ用キ且警察上ノ援助ヲ求ムルコトヲ得若シ兵力ヲ要スルトキハ之

ヲ執行裁判所ニ申立ツ可シ

第五百三十七條 【抵抗又ハ不在ト立會證人】

執達吏ハ執行行爲ヲ爲スニ際シ抵抗ヲ受クルトキ又ハ債務者ノ住居ニ於テ執行行爲ヲ爲スニ際シ債務者又ハ成長シタル其家族若クハ雇人ニ出會ハサルトキハ成丁者二人又ハ市長村若クハ警察ノ吏員一人ヲ證人トシテ立會ハシム可シ

第五百三十八條 【利害關係人ノ權利】

強制執行ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル各人ニハ其求ニ因リ執達吏ノ記録ノ閱覽ヲ許シ及ヒ記録中ニ存スル書類ノ謄本ヲ付與スルコトヲ要ス

第五百三十九條 【執行行爲ト日時ノ制限】

夜間及ヒ日曜日並ニ一般ノ祝祭日ニハ執行裁判所ノ許可アルトキニ限リ執行行爲ヲ爲スコトヲ得

第五百四十條 【執行調書ト掲載要件】

執達吏ハ各執行行爲ニ付調書ヲ作ル可シ

2 此調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 調書ヲ作りタル場所、年月日

第二 執行行爲ノ目的物及ヒ其重要ナル事情ノ略記

第三 執行ニ與カリタル各人ノ表示

第四 右各人ノ署名捺印

第五 調書ヲ其各人ニ讀聞セ又ハ閱覽セシメ其承諾ノ後署名捺印ヲ爲シタルコトノ開示

第六 執達吏ノ署名捺印

3 第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ具備スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ記載ス可シ

第五百四十一條 【執行行爲ノ催告、通知】

執行行爲ニ屬スル催告其他ノ通知ハ執達吏口頭ヲ以テ之ヲ爲シ且調書ニ之ヲ記載ス可シ

2 若シ口頭ヲ以テ催告又ハ通知ヲ爲ス能ハサルトキハ第六十七條、第六十八條、第七十一條及ヒ第七十二條ノ規定ヲ準用シテ其調書ノ謄本ヲ送達シ又別ニ送達證ヲ作ラサルトキハ調書ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ記載ス可シ

3 若シ強制執行ノ地ニ於テモ執行裁判所ノ管轄内ニ於テモ送達ヲ爲ス能ハサルトキハ催告又ハ通知ヲ受ク可キ者ニ郵便ヲ以テ調書ノ謄本ヲ送達シ且之ヲ郵便ニ付シタルコトヲ調書ニ記載ス可シ

第五百四十二條 【送達及ヒ通知ノ除外】

執行行爲ノ際債務者ニ爲スコキ送達及ヒ通知ハ債務者

ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス

第五百四十三條 【執行行為ノ管轄】

此法律ニ於テ裁判所ニ任カセタル執行行為ノ處分又ハ其行為ノ共力ハ執行裁判所トシテ區裁判所ノ管轄ニ屬ス

2 法律ニ於テ別段ニ裁判所ヲ指定セサル各箇ノ場合ニ於テハ執行手續ヲ爲ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ヲ管轄スル區裁判所ヲ以テ執行裁判所ト看做ス

3 執行裁判所ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條 【執行行為ニ關スル異議】

強制執行ノ方法又ハ執行ニ際シ執達吏ノ遵守ス可キ手續ニ關スル申立及ヒ異議ニ付テハ執行裁判所之ヲ裁判ス又執行裁判所ハ第五百二十二條第二項ニ定メタル命ヲ發スル權ヲ有ス

2 執達吏カ執行委任ヲ受クルヲ拒ミ若クハ委任ニ從ヒ執行行為ヲ實施スルコトヲ拒ミタルトキ又ハ執達吏ノ計算セシ手數料ニ付キ異議アルトキハ執行裁判所ハ之ヲ裁判スル權ヲ有ス

第五百四十五條 【請求ニ關スル異議】

判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スル債務者ノ異議ハ訴ヲ以テ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ主張ス可シ

2 右ノ異議ハ此法律ノ規定ニ從ヒ遅クモ異議ヲ主張スルコトヲ要スル口頭辯論ノ終結後ニ其原因ヲ生シタルトキニ限り之ヲ許ス

3 債務者カ數箇ノ異議ヲ有スルトキハ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス

第五百四十六條 【執行文付與ニ關スル異議】

前條ノ規定ハ第五百十八條第二項及ヒ第五百十九條ノ場合ニ於テ債務者カ執行文付與ノ際證明シタリト認めラレタル事實ノ到來ニシテ此ニ因リ判決ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ争ヒ又ハ認メラレタル承繼ヲ争フトキハ亦之ヲ準用ス但此場合ニ於テ第五百二十二條ノ規定ニ從ヒ執行文ノ付與ニ對シ異議ヲ申立ツル債務者ノ權ハ此方爲ニ妨ケラレルコト無シ

第五百四十七條 【異議ノ訴ト執行ノ停止又ハ續行】

強制執行ノ續行ハ前二條ノ場合ニ於ケル異議ノ訴ノ提起ニ因リテ妨ケラレルコト無シ

2 然レトモ異議ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリ

ト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ判決ヲ爲スニ至ルマテ保證ヲ立テシメ若クハ之ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止ス可キコトヲ命シ又ハ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行ス可キコトヲ命シ又ハ其爲シタル執行處分ヲ保證ヲ立テシメテ取消ス可キヲ命スルコトヲ得

3 右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲シ又急迫ナル場合ニ於テハ裁判長之ヲ爲スコトヲ得

4 急迫ナル場合ニ於テハ執行裁判所モ亦此權利ヲ行使スルコトヲ得此場合ニ於テハ執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲ニ相當ノ期間ヲ定ム可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行ス

第五百四十八條 【異議ノ訴ト判決ノ内容】

受訴裁判所ハ異議ノ訴ニ付キ裁判スル判決ニ於テ前條ニ掲ケタル命ヲ發シ又ハ既ニ發シタル命ヲ取消シ之ヲ變更シ若クハ之ヲ認可スルコトヲ得

2 判決中前項ニ掲ケル事項ニ限り職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲ス可シ

3 右裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五百四十九條 【第三者ノ異議ノ訴】

第三者カ強制執行ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張シ其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨ケル權利ヲ主張スルトキハ訴ヲ以テ債權者ニ對シ其強制執行ニ對スル異議ヲ主張シ又債務者ニ於テ其異議ヲ正當ナリトセサルトキハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ之ヲ主張ス可シ

2 右訴ハ債權者及ヒ債務者ニ對シテ起ストキハ之ヲ共同被告ト爲ス

3 右訴ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス

4 強制執行ノ停止及ヒ既ニ爲シタル執行處分ノ取消ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス但執行處分ノ取消ハ保證ヲ立テシメスシテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百五十條 【執行ノ停止又ハ制限】
強制執行ハ左ノ書類ヲ提出シタル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ之ヲ制限ス可シ
第一 執行ス可キ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本
第二 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨

ヲ記載シタル裁判ノ正本

第三 執行ヲ免カレル爲メ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第四 執行ス可キ判決ノ後ニ債權者カ辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書

第五百五十一條 【執行ノ停止又ハ制限ノ效果】

前條第一號及ヒ第三號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲモ取消ス可ク第四號ノ場合ニ於テハ既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可ク第二號ノ場合ニ於テハ其裁判ヲ以テ從前ノ執行行爲ノ取消ヲ命セザルトキニ限り既ニ爲シタル執行處分ヲ一時保持セシム可シ

第五百五十二條 【執行開始後債務者ノ死亡】

強制執行ノ開始後ニ債務者カ死亡スルトキハ強制執行ハ遺產ニ對シ之ヲ續行ス可シ

2 債務者ノ知ルコトヲ要スル執行行爲ヲ實施スル場合ニ於テ相續人アラサルトキ又ハ相續人ノ所在明カナラサルトキハ執行裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ遺產又ハ相續人ノ爲メ特別代理人ヲ任ス可シ

第五百五十三條 【執行開始後戸主權ノ喪失】

強制執行ノ開始後ニ戸主タリシ債務者カ其地位ヲ辭シ

カ本邦裁判所ニ法律上ノ共助ヲ爲ス可キトキハ債權者ノ申立ニ因リ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ外國官廳ニ囑託ス可シ

2 外國駐在ノ本邦領事ニ依リ強制執行ヲ爲シ得ヘキトキハ第一審ノ受訴裁判所ハ之ヲ其領事ニ囑託ス可シ

第五百五十八條 【執行手續ノ裁判ト即時抗告】

強制執行ノ手續ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第五百五十九條 【判決以外ノ債務名義】

強制執行ハ左ノ諸件ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得

- 第一 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判
- 第二 假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令
- 第三 公證人カ其權限内ニ於テ成規ノ方式ニ依リ作リタル證書但一定ノ金額ノ支拂又ハ他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ以テ目的トスル請求ニ付キ作リタル證書ニシテ直チニ強制執行ヲ受ク可キ旨ヲ記載シタルモノニ限ル

第五百六十條 【判決以外ノ債務名義ト準用規定】

前條ニ掲ケタル債務名義及ヒ訴訟上ノ和解並ニ請求ノ拋棄又ハ認諾ニ因レル強制執行ニハ第五百十六條乃至

又ハ之ヲ失ヒタルトキハ此變更ノ生セシ當時債務者ノ所持シタル財産ニ付キ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百五十四條 【執行費用ノ負擔】

強制執行ノ費用ハ必要ナリシ部分ニ限り債務者ノ負擔ニ歸ス此費用ハ強制執行ヲ受クル請求ト同時ニ之ヲ取立ツ可シ

2 強制執行ノ基本タル判決ヲ廢棄若クハ破毀シタルトキハ其費用ハ之ヲ債務者ニ辨濟ス可シ

第五百五十五條 【執行ノ實施ト官廳ノ援助】

執行ノ爲メ官廳ノ援助ヲ必要トスルトキハ裁判所ハ其援助ヲ官廳ニ求ム可シ

第五百五十六條 【兵營及ヒ軍艦内ノ執行】

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對シ兵營及ヒ軍用廳舎又ハ軍艦ニ於テ強制執行ヲ爲スコキトキハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ管轄ノ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス

2 囑託ニ因リ差押ヘタル物ハ債權者ノ委任シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ

第五百五十七條 【外國ニ於ケル執行】

外國ニ於テ強制執行ヲ爲スコキ場合ニ於テ其外國官廳

第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス但第五百六十一條、第五百六十二條ノ規定ニ依リ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第五百六十一條 【執行命令ト執行文】

假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ要ス

2 請求ニ關スル異議ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル支拂命令ノ送達後ニ生シタル原因ニ基クトキニ限り之ヲ許ス

3 執行文付與ニ付テノ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際到來シタリト認メタル承繼ヲ爭フ訴ハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄ス但其請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬セザルモノナルトキハ管轄地方裁判所ニ其訴ヲ起ス可シ

第五百六十一條ノ二 【過料ノ裁判ノ執行】

過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

第五百六十二條 【公正證書ノ債務名義ト特別】

公證人ノ作リタル證書ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ付與ス

2 執行文付與ニ關スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行文

改正法 強制執行

金錢ノ債權ニ付テハ強制執行ノ動産ニ對スル強制執行
付與ニ付テハ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ之ヲ爲ス
3 請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ第五百四十五條第二項ニ規定シタル制限ニ從ハス
4 執行文付與ニ付テハ訴又ハ請求ニ關シ異議ヲ主張スル訴又ハ執行文付與ノ際證明シタリト認メタル事實ノ到來ニ係リ此ニ因リテ證書ノ執行ヲ爲シ得ヘキモノヲ爭フ訴ハ債務者カ本邦ニ於テ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ此裁判所ナキトキハ第八條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對シ訴ヲ起シ得ヘキ裁判所之ヲ管轄ス

第五百六十三條 【執行ノ管轄ト專屬】

本編ニ定メタル裁判籍ハ專屬ナリトス

第二章 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行

第一節 動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第五百六十四條 【動産ノ執行ト差押】

動産ニ對スル強制執行ハ差押ヲ以テ之ヲ爲ス
2 差押ハ執行力アル正本ニ掲ケタル請求ヲ債權者ニ辨濟スル爲メ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フ爲ニ必要ナルモノ

有體動産ニ對スル強制執行 五六三條—五六六條 八二

ノ外ニ及ホスコトヲ得ス
3 差押フ可キ物ヲ換價スルモ強制執行ノ費用ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス
第五百六十五條 【差押ト物上擔保權トノ關係】
第三者カ差押ヲ受ク可キ物ニ付キ物上ノ擔保權ヲ有スルモ差押ヲ妨クルコトヲ得ス然レトモ第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ訴ヲ以テ賣得金ニ付キ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利ハ此カ爲ニ妨ケラレルコト無シ
2 此場合ニ於テ請求ノ爲メ主張シタル事情カ法律上理由アリト見エ且事實上ノ點ニ付キ疏明アリタルトキハ裁判所ハ賣得金ノ供託ヲ命ス可シ但此事項ニ付テハ第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二款 有體動産ニ對スル強制執行

行

第五百六十六條 【債務者ノ占有物ノ差押】

債務者ノ占有中ニ在ル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス
2 其物ハ債權者ノ承諾アルトキ又ハ其運搬ヲ爲スニ付キ重大ナル困難アルトキハ之ヲ債務者ノ保管ニ任ス可シ此場合ニ於テハ封印其他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニス

ルトキニ限リ其效力ヲ生ス

3 執達吏ハ債務者ニ其差押ヲ爲シタルコトヲ通知スヘシ

第五百六十七條 【第三者ノ占有物ノ差押】

前條ノ規定ハ債權者又ハ物ノ提出ヲ拒マサル第三者ノ占有中ニ在ル物ノ差押ニ付テモ亦之ヲ準用ス

第五百六十八條 【果實及蠶ノ差押】

果實ハ未タ土地ヨリ離レサル前ト雖モ之ヲ差押フルコトヲ得然レトモ其差押ハ通常ノ成熟時期ノ前一ヶ月内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
2 蠶ハ其多分カ繭ヲ成造スル爲メ掲リ蠶ト爲リタル後ニ非サレハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第五百六十九條 【差押ノ效力範圍】

差押ノ效力ハ差押物ヨリ生スル天然ノ產出物ニモ當然及フモノトス

第五百七十條 【差押ヲ禁シタル物件】

左ニ掲グル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス
第一 衣服、寢具、家具及ヒ厨具但此物カ債務者及ヒ其家族ノ爲メ缺ク可カラサルトキニ限ル
第二 債務者及ヒ其家族ニ必要ナル一ヶ月間ノ食料及ヒ薪炭

改正法 強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 有體動産ニ對スル強制執行 五六七條—五七〇條 八三

第三 技術者、職工、勞役者及ヒ穩婆ニ在テハ其營業上缺ク可カラサル物

第四 農業者ニ在テハ其農業上缺ク可カラサル農具、家畜、肥料及ヒ次ノ收穫マテ農業ヲ續行スル爲メ缺ク可カラサル農産物

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶、公立私立ノ教育場教師、辯護士、公證人及ヒ醫師ニ在テハ其職業ヲ執行スル爲メ缺ク可カラサル物並ニ身分相當ノ衣服

第六 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育場教師ニ在テハ第六百十八條ニ規定スル職務上ノ收入又ハ恩給ノ差押ヲ受ケサル金額但差押ヨリ次期ノ俸給又ハ恩給ノ支拂マテノ日數ニ應シテ之ヲ計算ス

第七 藥舖ニ在テハ調藥ヲ爲ス爲メ缺ク可カラサル器具及ヒ藥品

第八 勳章及ヒ名譽ノ證標

第九 實印其他職業ニ必要ナル印

第十 神體、佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

第十一 系譜

第十二 債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル發明ニ關スル物及ヒ債務者又ハ其家族ノ未タ公ニセサル

改正法 強制執行 金銭ノ債權ニ付 動産ニ對スル強制執行

有體動産ニ對 五七一條—五七七條 八四

普通ノ稿本

第十三 債務者及ヒ其家族カ學校ニ於テ使用ニ供スル書籍

2 然レトモ債務者ノ承諾アルトキハ第三號乃至第八號ニ掲ケタル物ヲ除ク外之ヲ差押フルコトヲ得

第五百七十一條 【差押物ノ保存費用】

差押物保存ノ爲メ特別ノ處分ヲ必要トスルトキハ執達吏ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スコシ若シ此力爲ニ費用ヲ要スルトキハ債權者ヲシテ之ヲ豫納セシメ又債權者數名關係スルトキハ其要求額ノ割合ニ從ヒテ其各債權者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第五百七十二條 【差押物ノ公賣】

執達吏ハ差押ヲ實施シタル後債權者又ハ裁判所ノ特別委任ヲ要セスシテ以下數條ノ規定ニ從ヒテ公ノ競賣方法ヲ以テ其差押物ヲ賣却ス可シ

第五百七十三條 【高價物ノ競賣ト評價】

競賣ス可キ物ノ中ニ高價ノモノアルトキハ執達吏ハ適當ナル鑑定人ヲシテ其評價ヲ爲サシム可シ

第五百七十四條 【金銭ヲ差押ヘタル場合】

差押金銭ハ之ヲ債權者ニ引渡スコシ

2 執達吏カ金銭ヲ取立テタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十五條 【差押ト競賣期日トノ時間】

差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニハ少ナクトモ七日ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス但差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者及ヒ債務者カ競賣ヲ更ニ早ク爲サンコトヲ合意シタルトキ又ハ差押物ヲ永ク貯藏スルニ付キ不相應ノ費用若クハ其物ノ價格ノ著シク減少スル危害ヲ避ケン爲メ競賣ヲ早ク爲スコトノ必要ナルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條 【競賣ノ場所及公告】

競賣ハ差押ヲ爲シタル市町村ニ於テ之ヲ爲ス但差押債權者及ヒ債務者カ他ノ地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

2 競賣ノ日時及ヒ場所ハ之ヲ公告ス但其公告ニハ競賣ス可キ物ヲ表示ス可シ

第五百七十七條 【競賣ノ方法、競落物ノ引渡並再競賣】

最高價競買ノ爲メノ競落ハ其價額ヲ三回呼上ケタル後

之ヲ爲ス

2 競落物ノ引渡ハ代金ト引換ヘ之ヲ爲ス

3 最高價競買人競賣條件ニ定メタル支拂期日又ハ其定ナキトキハ競賣期日ノ終ル前ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物ノ引渡ヲ求メサルトキハ更ニ其物ヲ競賣ス可シ此場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キトキハ不足ヲ擔任ス可シ其高キトキハ剩餘ヲ請求スルコトヲ得ス

第五百七十八條 【競賣ノ必要程度】

競賣ハ賣得金ヲ以テ債權者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ費用ヲ償フニ足ルニ至ルトキハ直チニ之ヲ止ム可シ

第五百七十九條 【賣得金領收ノ效力】

執達吏賣得金ヲ領收シタルトキハ債務者ヨリ支拂ヲ爲シタルモノト看做ス但保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シテ執行ヲ免カルルコトヲ債務者ニ許シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十條 【金銀物ヲ差押ヘタル場合】

金銀物ハ其金銀ノ實價ヨリ以下ニ競落スルコトヲ許サス其實價マテニ競買ヲ爲ス者ナキトキハ執達吏ハ金銀ノ實價ニ達スル價額ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却スルコトヲ得

改正法 強制執行

金銭ノ債權ニ付 動産ニ對スル強制執行

有體動産ニ對

五七八條—五八五條

八五

第五百八十一條 【有價證券ヲ差押ヘタル場合】

執達吏有價證券ヲ差押ヘタルトキハ相場アルモノハ賣却日ノ相場ヲ以テ適宜ニ之ヲ賣却シ其相場ナキモノハ一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ競賣ス可シ

第五百八十二條 【記名有價證券ノ場合】

有價證券ノ記名ナルトキハ執行裁判所ハ買主ノ氏名ニ書換ヲ爲サシメ及ヒ此力爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十三條 【無記名有價證券ノ場合】

無記名ノ證券ニシテ記名ニ換ヘ又ハ他ノ方法ニ依リ流通止メタルモノナルトキハ執行裁判所ハ其流通回復ヲ爲サシメ及ヒ此力爲メ必要ナル陳述ヲ債務者ニ代リ爲ス權ヲ執達吏ニ與フルコトヲ得

第五百八十四條 【果實又ハ蠶ノ競賣】

土地ヨリ離レサル前ニ差押ヘタル果實ノ競賣ハ其成熟ノ後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス執達吏ハ競賣ノ爲メ其收穫ヲ爲サシムル權利アリ

2 差押ヘタル蠶ノ競賣ハ全ク繭ト爲リタル後始メテ之ヲ爲スコトヲ許ス

第五百八十五條 【前數條ノ賣却條件ノ變更】

差押債權者、執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者又ハ債務者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ前數條ノ規定ニ依ラス他ノ方法又ハ他ノ場所ニ於テ差押物ノ賣却ヲ爲ス可キ旨又ハ執達吏ニ依ラス他ノ者ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キ旨ヲ命スルコトヲ得

第五百八十六條 【差押ノ競合ト照査手續】

- 1 執達吏ハ既ニ差押ヘタル物ニ付キ他ノ債權者ノ爲メ更ニ差押ノ手續ヲ爲スコトヲ得ス
- 2 執達吏ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ノ閱覽ヲ求メテ物ノ照査ヲ爲シ未タ差押ニ係ラサル物アルトキハ之ヲ差押ヘ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ差押調書ヲ交付シ且總テノ差押物ヲ競賣ニ付ス可キコトヲ求ム可シ若シ差押フ可キ物アラサルトキハ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付ス可シ
- 3 前項ノ求ニ因リ執行ニ關スル債權者ノ委任ハ既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ法律上移轉ス
- 4 假差押ニ係ル物ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第五百八十七條 【照査手續ノ效力】

前條ニ掲ケタル物ノ照査手續ハ配當要求ノ效力ヲ生シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リタルトキハ差押ノ效力ヲ生ス

第五百八十八條 【執達吏ノ懈怠ト債權者ノ權利】

適當ナル期間經過スルモ執達吏競賣ヲ爲ササルトキハ差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者ハ一定ノ期間内ニ競賣ヲ爲ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ相當ノ命令アラントコトヲ執行裁判所ニ申請スルコトヲ得

第五百八十九條 【民法ノ規定ニ依ル配當要求】

民法ニ從ヒ配當ヲ要求シ得ヘキ債權者ハ執行力アル正本ニ因ラスシテ賣得金ノ配當ヲ要求スルコトヲ得

第五百九十條 【前條配當要求ノ手續】

前條ノ配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居チモ事務所チモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シ執達吏ニ之ヲ爲ス可シ

第五百九十一條 【配當要求ノ通知及債權ノ諾否】

第五百八十六條第二項及ヒ第五百九十條ノ場合ニ於テ執達吏ハ配當要求ノ有リタルコトヲ配當ニ與カル各債權者及ヒ債務者ニ通知ス可シ

2 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ執達吏ノ通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤチ執達吏ニ申立ツ可シ

3 債權者カ認諾セサルコトヲ執達吏ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第五百九十二條 【配當要求ノ時期】

配當ノ要求ハ競賣期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十三條 【賣得金ノ供託】

- 1 賣得金ヲ以テ配當ニ與カル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テ債權者間ニ配當ノ協議調ハサルトキハ其賣得金ヲ供託ス可シ
- 2 數多ノ債權者ノ爲メ同時ニ金錢ヲ差押ヘタルトキ之ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テモ亦同シ
- 3 右ノ場合ニ於テ執達吏ハ其事情ヲ執行裁判所ニ届出ツ可ク其届出書ニハ執行手續ニ關スル書類ヲ添附ス可シ

第三款 債權及ヒ他ノ財産權ニ對スル強制執行

第五百九十四條 【債權ニ對スル執行方法】

第三者(第三債務者)ニ對スル債權者ノ債權ニシテ金錢ノ支拂又ハ他ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ

改正法 強制執行 金錢ノ債權ニ付 不動産ニ對スル強制執行

給付ヲ目的トスルモノノ強制執行ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ之ヲ爲ス

第五百九十五條 【執行裁判所ノ管轄】

執行裁判所トシテハ債務者ノ普通裁判籍チ有スル地ノ區裁判所、此區裁判所ナキトキハ差押フヘキ債權ノ所在地チ管轄スル區裁判所管轄權チ有ス

2 差押フヘキ債權ハ第三債務者ノ普通裁判籍ノ所在地ニ在ルモノトス但物ノ引渡ヲ目的トスル債權及ヒ物上ノ擔保權チ有スル債權ハ其物ノ所在地ニ在ルモノトス

第五百九十六條 【債權差押命令ノ申請】

債權者ハ差押命令ノ申請ニ差押フ可キ債權ノ種類及ヒ數額ヲ開示ス可シ

2 右申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五百九十七條 【差押命令ノ發付】

差押命令ハ豫メ第三債務者及ヒ債務者ノ審訊ヲ經スルテ之ヲ發ス

第五百九十八條 【金錢債權ノ差押】

金錢ノ債權チ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂チ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シ債權ノ處分殊ニ其取立チ爲ス可カラサルコトヲ命ス可シ

債權及ヒ他ノ財産權 五九二條—五九八條 八七

改正法

強制執行

金銭ノ債權ニ付
テノ強制執行
ル強制執行

債權及ヒ他ノ財産權
ニ對スル強制執行

五九九條—六〇五條 八八

2 差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ
3 差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第五百九十九條 【抵當附債權ノ差押】

抵當アル債權ノ差押ノ場合ニ於テハ債權者ハ債務者ノ承諾ヲ要セスシテ其債權ノ差押ヲ登記簿ニ記入スル權利アリ

2 此記入ノ申請ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ其申請ハ差押命令ノ申請ト之ヲ併合スルコトヲ得

3 裁判所ハ義務ヲ負フタル不動産ノ所有者（第三債務者）ニ差押命令ヲ送達シタル後記入ノ手續ヲ爲ス可シ

第六百條 【債權ノ取立命令及轉付命令】

差押ヘタル金銭ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラントトテ申請スルコトヲ得
2 右命令ノ送達ニ付テハ第五百九十八條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百一條 【轉付命令ノ效力】

支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限りハ第五百九十八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ排濟ヲ爲シタルモノト看做ス
第六百二條 【取立命令ノ效力】
取立ノ爲メノ命令ハ其債權ノ全額ニ及フモノトス但執行裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ差押債權者ヲ審訊シテ差押額ヲ其債權者ノ要求額マテニ制限シ其超過スル額ノ處分殊ニ取立ヲ爲スヲ許スコトヲ得其制限シタル部分ニ限リ他ノ債權者ハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス
2 右許可ハ第三債務者及ヒ債權者ニ通知ス可シ
第六百三條 【手形類ノ差押】
手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因レル債權ノ差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲ス
第六百四條 【繼續收入ノ差押ノ效力】
俸給又ハ此ニ類スル繼續收入ノ債權ノ差押ハ債權額ヲ限トシ差押後ニ收入ス可キ金額ニ及フモノトス
第六百五條 【職務上收入ノ差押ノ效力】
職務上收入ノ差押ハ債務者ノ轉官兼任又ハ増俸ニ因ル收入ニモ亦及フモノトス

第六百六條 【債權證書ノ引渡】

債務者ハ債權ニ關スル所持ノ證書ヲ差押債權者ニ引渡ス義務アリ債權者ハ差押命令ニ基キ強制執行ノ方法ヲ以テ其證書ヲ債務者ヨリ取上ケシムルコトヲ得

第六百七條 【取立命令ノミテ許ス場合】

第九十六條第二項ニ從ヒテ債務者ニ擔保ヲ供セシメテ執行ヲ免カレルコトヲ許ス可キトキハ差押ヘタル金銭債權ニ付テハ取立ノ命令ノミテ爲ス可シ但此命令ハ第三債務者ヲシテ債務額ヲ供託セシムル效力ノミテ存ス

第六百八條 【債權取立ノ届出】

債權者取立ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツ可シ

第六百九條 【第三債務者ニ對スル陳述ノ催告】

差押債權者ハ第三債務者ヲシテ差押命令ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ書面ヲ以テ左ノ陳述ヲ爲サシメントコトヲ裁判所ニ申立ツルコトヲ得
第一 債權ノ認諾ノ有無及ヒ其限度並ニ支拂ヲ爲ス意思ノ有無及ヒ其限度
第二 債權ニ付キ他ノ者ヨリノ請求ノ有無及ヒ其種類

改正法

強制執行

金銭ノ債權ニ付
テノ強制執行
ル強制執行

債權及ヒ他ノ財産權
ニ對スル強制執行

六〇六條—六一三條 八九

第六百十條 【第三債務者ニ對スル訴ト管轄】

債權者カ命令ノ旨趣ニ基キ第三債務者ニ對シ訴ヲ起スニ至リタルトキハ一般ノ規定ニ從ヒテ管轄ヲ有スル裁判所ニ其訴ヲ起シ且債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其訴訟ヲ之ニ告知ス可シ

第六百十一條 【取立ヲ怠リタル責任】

債權者カ取立ヲ爲ス可キ債權ノ行用ヲ怠リタルトキハ此カ爲メ債務者ニ生シタル損害ノ責ニ任ス

第六百十二條 【取立命令ノ權利ノ拋棄】

債權者ハ命令ニ因リ取立ノ爲メ取得シタル權利ヲ拋棄スルコトヲ得但此カ爲メ其請求ヲ害セラルルコト無シ
2 此拋棄ハ裁判所ニ届書ヲ差出シテ之ヲ爲ス但其原本ハ第三債務者及ヒ債權者ニ之ヲ送達ス可シ

第六百十三條 【差押債權ノ換價處分】

債權及ヒ他ノ財産權
ニ對スル強制執行

改正法 強制執行 金銭ノ債權ニ付 動産ニ對ス

債權及ヒ他ノ財産權 六一四條—六一九條 九〇

差押ヘタル債權カ條件附若クハ有期ナルトキ又ハ反對
給付ニ繫リ若クハ他ノ理由アリテ其取立ノ困難ナルト
キハ裁判所ハ申立ニ因リ取立ニ換ヘ他ノ換價方法ヲ命
スルコトヲ得

2 債務者内國ニ在リテ住所ノ知レタルトキハ其申立ヲ許
ス決定前ニ之ヲ審訊ス可シ

第六百十四條 【有體物ノ引渡又ハ給付請求ノ差押】
有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル強制執行ハ以下
數條ノ規定ヲ斟酌シテ第五百九十八條乃至第六百十二
條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十五條 【有體動産請求ノ差押】

有體動産ノ請求ノ差押ニ付テハ其動産ヲ債權者ノ委任
シタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可シ
2 右動産ノ換價ニ付テハ差押物ノ換價ニ關スル規定ヲ適
用ス

第六百十六條 【不動産請求ノ差押】

不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ因リ其不
動産ヲ不動産所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ
引渡ス可キコトヲ命ス可シ
2 引渡シタル不動産ニ付テハ強制執行ハ不動産ニ對スル
強制執行ニ付テノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第六百十七條 【轉付命令ヲ許ササル場合】
有體物ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ付テハ支拂ニ換ヘ轉付
スル命令ヲ爲スコトヲ得ス

第六百十八條 【差押ヲ禁シタル債權】

左ニ掲ケル債權ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第一 法律上ノ養料

第二 債務者カ義捐建設所ヨリ又ハ第三者ノ慈善ニ

因リ受ケル繼續ノ收入但債務者及ヒ其家族ノ生活

ノ爲メ必要ナルモノニ限ル

第三 下士、兵卒ノ給料並ニ恩給及ヒ其遺族ノ扶助

料

第四 出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乗組員

ニ屬スル軍人、軍屬ノ職務上ノ收入

第五 文武ノ官吏、神職、僧侶及ヒ公立私立ノ教育

場教師ノ職務上ノ收入、恩給及ヒ其遺族ノ扶助料

第六 職工、勞役者又ハ雇人カ其勞力又ハ役務ノ爲

ニ受ケル報酬

2 第一號、第五號、第六號ノ場合ニ於テ職務上ノ收入、

恩給其他ノ收入カ一介年間ニ三百圓ヲ超過スルトキハ

其超過額ノ半額ヲ差押フルコトヲ得

第六百十九條 【共同差押ノ手續】

數名ノ差押債權者ノ爲メ同時ニ爲スコキ債權ノ差押ニ
付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第六百二十條 【配當要求ノ時期及效力】

執行力アル正本ヲ有スル債權者及ヒ民法ニ從ヒ配當ノ
要求ヲ爲シ得ヘキ債權者ハ差押債權者カ取立ヲ爲シ其
旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルマテ又ハ執達吏カ賣得金ヲ
領收スルマテ配當ヲ要求スルコトヲ得但執行力アル正
本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者ニ付テハ第五百
九十條及ヒ第五百九十一條第二項第三項ノ規定ヲ適用
ス

2 支拂ニ換ヘテノ轉付ノ命令アリタル後ハ配當ノ要求ヲ
爲スコトヲ得ス

3 右配當要求ハ職權ヲ以テ之ヲ第三債務者、債務者及ヒ
差押債權者ニ送達シ又既ニ爲シタル差押力取消ト爲リ
タルトキハ執行力アル正本ニ因リ要求シタル債權者ノ
爲メ要求ノ順序ニ因リ差押ノ效力ヲ生ス

第六百二十一條 【第三債務者ノ權利義務（一）】

金銭ノ債權ニ付キ配當要求ノ送達ヲ受ケタル第三債務
者ハ債務額ヲ供託スル權利アリ
2 第三債務者ハ配當ニ與カル或ル債權者ノ求ニ因リ債務
額ヲ供託スル義務アリ

3 第三債務者債務額ヲ供託シタルトキハ其事情ヲ裁判所
ニ届出ツ可シ

第六百二十二條 【第三債務者ノ權利義務（二）】

請求力不動産ニ關スルトキハ第三債務者ハ其不動産所
在地ノ區裁判所カ差押債權者又ハ第三債務者ノ申立ニ
因リ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且送達セラレタル
命令ヲ添ヘ其不動産ヲ引渡ス權利ヲ有シ又ハ差押債權
者ノ求ニ因リ之ヲ引渡ス義務アリ

第六百二十三條 【第三債務者ニ對スル取立ノ訴】

第三債務者カ取立手續ニ對シテ義務ヲ履行セザルトキ
ハ差押債權者ハ訴ヲ以テ之ヲ履行セシムルコトヲ得
2 執行力アル正本ヲ有スル各債權者ハ共同訴訟人トシテ
原告ニ加ハル權利アリ
3 訴ヲ受ケタル第三債務者ハ原告ニ加ハラサル債權者ヲ
共同訴訟人トシテ呼出アラントコトヲ口頭辯論ノ第一期
日マテニ申立ツルコトヲ得
4 右ノ場合ニ於ケル裁判ハ呼出ヲ受ケタル債權者ニ利害
ヲ及ボス效力アリ

第六百二十四條 【取立手續ノ懈怠ト其ノ救済】

差押債權者取立手續ヲ怠リタルトキハ執行力アル正本
ニ因リ要求シタル各債權者ハ一定ノ期間内ニ取立ヲ爲

改正法 強制執行

金銭ノ債權ニ付 動産ニ對ス

債權及ヒ他ノ財産權

六二〇條—六二四條 九一

ス可キコトヲ催告シ其催告ノ效アラサルトキハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自ら取立ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條 【前數條以外ノ財産權ノ執行】

不動産ヲ目的トセス又前數條ニ掲ケタル以外ノ財産權ニ對スル強制執行ニ付テハ本款ノ規定ヲ準用ス
2 若シ第三債務者ナキトキハ差押ハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタル日時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
3 右ノ場合ニ於テハ裁判所ハ特別ノ處分殊ニ其權利ノ管理若クハ讓渡ヲ命スルコトヲ得

第四款 配當手續

第六百二十六條 【配當手續ヲ爲スヘキ場合】

配當手續ハ動産ニ對スル強制執行ニ際シ競賣期日又ハ金銭差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ債權者間ノ協議調ハサル爲メ金額ヲ供託シタルトキ之ヲ爲ス

第六百二十七條 【債權計算書ノ催告】

裁判所ハ事情届書ニ基キ七日ノ期間内ニ元金、利息、費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ各債權者ニ催告ス可シ

前條ノ期間満了後裁判所ハ配當表ヲ作ル可シ

2 右期間ヲ遵守セサル債權者ノ債權ハ配當表ヲ作ルニ際シ配當要求並ニ届書ノ旨趣及ヒ其憑據書類ニ依リ之ヲ計算ス但後ニ債權額ヲ補充スルコトヲ許サス

第六百二十九條 【配當期日ノ呼出及配當表ノ備置】

裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ指定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出ス可シ但債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スコトヲ要セス
2 配當表ハ各債權者及債務者ニ閱覽セシムル爲メ遅クモ期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ之ヲ備置ク可シ

第六百三十條 【異議申立ナキ場合ノ配當】

期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキハ配當表ニ從ヒテ其配當ヲ實施ス可シ
2 停止條件附ノ債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託シ民法ニ從ヒテ條件ノ成否ニ依リ後ニ之ヲ支拂ヒ又ハ更ニ配當ス可シ
3 第五百九十一條第三項ノ場合又ハ假差押ノ場合ニ於テ未ダ確定セサル債權其他異議アル債權ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可シ

4 配當實施ニ付テハ調査ヲ作ル可シ

第六百三十一條 【異議申立アル場合ノ配當】

異議ノ申立アルトキハ他ノ債權者ハ直チニ陳述ヲ爲ス可シ若シ關係人異議ヲ正當ナリト認ムルトキ又ハ他ノ方法ニ於テ合意スルトキハ之ニ從ヒ配當表ヲ更正シテ配當ヲ實施スヘシ
2 異議ノ完結セサルトキハ異議ナキ部分ニ限り配當ヲ實施ス可シ

第六百三十二條 【不出頭債權者ニ對スル效果】

期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ノ實施ニ同意シタルモノト看做ス
2 若シ期日ニ出頭セサル債權者カ他ノ債權者ヨリ申立タル異議ニ關係ヲ有スルトキハ其債權者ハ異議ヲ正當ナリト認メサルモノト看做ス

第六百三十三條 【配當異議ノ訴】

期日ニ於テ異議ノ完結セサルトキハ異議ヲ申立テタル債權ハ他ノ債權者ニ對シ訴ヲ起シタルコトヲ期日ヨリ七日ノ期間内ニ裁判所ニ證明ス可シ若シ其期間ヲ徒過シタル後ハ裁判所ハ異議ニ拘ハラズ配當ノ實施ヲ命ス可シ

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 動産ニ對スル強制執行

第六百三十四條 【前條期間ヲ怠リタル效果】

異議ヲ申出テタル債權者前條ノ期間ヲ怠リタルトキト雖モ配當表ニ從ヒテ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シ訴ヲ以テ優先權ヲ主張スル權利ハ配當實施ノ爲メ妨ケラレルコト無し

第六百三十五條 【配當異議ノ訴ト管轄】

異議ヲ申立テタル債權者ノ訴ニ付テハ配當裁判所之ヲ管轄ス然レトモ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ其配當裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所之ヲ管轄ス若シ數箇ノ訴ノ提起アリタル場合ニ於テ一ノ訴ヲ地方裁判所カ管轄スルトキハ其他ノ訴ヲモ亦之ヲ管轄ス但各債權者總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 【配當異議ノ訴ト判決ノ内容】

異議ニ付キ裁判ヲ爲ス判決ニハ配當額ノ係争部分ヲ如何ナル債權者ニ如何ナル數額ヲ以テ支拂フ可キヤヲ定ム可シ若シ之ヲ定ムルコトヲ適當トセサルトキハ判決ニ於テ新ナル配當表ノ調製及ヒ他ノ配當手續ヲ命ス可シ

第六百三十七條 【異議債權者ノ闕席ト其ノ判決】

配當手續 六三一條—六三七條 九三

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 不動産ニ對ス
ル強制執行

異議ヲ申立テタル債権者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサ
ルトキハ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス

第六百三十八條【異議ノ判決確定ト其ノ後ノ手續】

第六百三十六條ノ判決ノ確定シタルコト又ハ前條ノ規
定ニ從ヒ異議ヲ取下ケタルモノト看做サレタルコトノ
證明アルトキハ配當裁判所ハ之ニ基キ支拂又ハ他ノ配
當手續ヲ命ス

第六百三十九條【配當實施ノ手續】

裁判所ハ配當表ニ依リテ左ノ手續ヲ爲シ配當ヲ實施ス
可シ

- 2 債權全部ノ配當ヲ受ク可キ債権者ニハ配當額支拂證ヲ
交付スルト同時ニ其所持スル執行力アル正本又ハ債權
ノ證書ヲ差出サシメ之ヲ債務者ニ交付ス可シ
- 3 債權一分ノミノ配當ヲ受ク可キ債権者ニハ執行力アル
正本又ハ債權ノ證書ヲ差出サシメ之ニ配當額ヲ記入シ
テ返還シ且配當額支拂證ヲ交付スルト同時ニ右債権者
ヨリ金額ヲ登記シタル受取書ヲ差出サシメ之ヲ債務者
ニ交付ス可シ
- 4 期日ニ出頭セサル債権者ノ配當額ハ仍ホ之ヲ供託ス可
シ
- 5 右ノ手續ヲ爲シタルトキハ調書ニ記載シテ之ヲ明確ニ

通則 六三八條—六四一條 九五

第二節 不動産ニ對スル強制執行

第一款 通則

第六百四十條【不動産ニ對スル執行方法】

不動産ニ對スル強制執行ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス

- 第一 強制競賣
- 第二 強制管理

2 債権者ハ自己ノ選擇ニ依リ一箇ノ方法ヲ以テ又ハ二箇
ノ方法ヲ併セテ執行セシムルコトヲ得

3 強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲メニモ亦之ヲ爲ス

第六百四十一條【不動産ニ對スル執行機關】

不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ該不動産所在地ノ區
裁判所執行裁判所トシテ之ヲ管轄ス若シ其不動産數箇
ノ區裁判所ノ管轄區内ニ散在スルトキハ各區裁判所管
轄權ヲ有ス此場合ニ於テ裁判所必要アリト認ムルトキ
ハ事件ヲ他ノ管轄區裁判所ニ移送スルコトヲ得

2 強制執行ハ申立ニ因リテ裁判所所ニ爲ス

第二款 強制競賣

第六百四十二條【強制競賣ノ申立ノ要件】

強制競賣ノ申立ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 債権者、債務者及ヒ裁判所ノ表示
- 第二 不動産ノ表示
- 第三 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘ
キ一定ノ債務名義

第六百四十三條【強制競賣ノ申立ト添附書面】

申立ニハ執行力アル正本ノ外左ノ證書ヲ添附ス可シ

- 第一 登記簿ニ債務者ノ所有トシテ登記シタル不動
產ニ付テハ登記列事ノ認證書
- 第二 登記簿ニ登記アラサル不動産ニ付テハ債務者
ノ所有タルコトヲ證ス可キ證書
- 第三 地所ニ付テハ國都市町村、字、番地、地目、
反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ
其地所ニ付キ納ム可キ一年ノ租稅其他ノ公課ヲ
證ス可キ證書
- 第四 建物ニ付テハ國都市町村、字、番地、構造ノ
種類、建坪及ヒ其建物ニ付キ納ム可キ一年ノ公
課ヲ證ス可キ證書
- 第五 地所、建物ニ付キ貸借アル場合ニ於テハ其
期限並ニ借賃ヲ證ス可キ證書

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 不動産ニ對ス
ル強制執行

2 第二號、第三號及ヒ第四號ノ要件ニ付テハ債権者公簿
ヲ主管スル官廳ニ其證明ヲ求ムルコトヲ得

3 第四號及ヒ第五號ノ要件ヲ證明スル能ハサルトキハ債
権者ハ競賣申立ノ際其取調ヲ執行裁判所ニ申請スルコ
トヲ得但此場合ニ於テハ裁判所執達吏ヲシテ其取調ヲ
爲サシム可シ

4 強制管理ノ爲メ既ニ不動産ヲ差押ヘタル場合ニ於テ其
執行記録ニ第一號乃至第五號ノ要件ヲ記載シタルモノ
有ルトキハ其證書ヲ添附スルコトヲ要セス

第六百四十四條【競賣開始決定ト其ノ效力】

競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債権者ノ爲メ不動産ヲ
差押フルコトヲ宣言ス可シ

2 差押ハ債務者カ不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨
ケス

3 差押ハ其決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス
此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第六百四十五條【強制競賣ノ申立ノ競合】

裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ
強制競賣ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス
2 右申立ハ執行記録ニ添附スルニ因リ配當要求ノ效力ヲ
生シ又既ニ開始シタル競賣手續取消ト爲リタルトキハ

強制競賣 六四二條—六四五條 九五

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 不動産ニ對ス
ル強制執行

第六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス
3 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第六百四十六條 【配當要求ト其ノ時期】
配當要求ハ其原因ヲ開示シ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲スヘシ
2 右要求ハ競落期日ノ終ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百四十七條 【前二條ノ申立及要要求ノ通知及債權ノ諾否】
執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ利害關係人ニ通知スヘシ
2 執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤテ裁判所ニ申出ツ可シ
3 債務者カ認諾セサルコトヲ裁判所ヨリ通知アリタルトキハ債權者ハ其通知アリタルヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シ訴ヲ起シ其債權ヲ確定ス可シ

第六百四十八條 【競賣手續ノ利害關係人】
權利ヲ取得スル第三者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキハ差押ノ效力ニ對シ其善意ナリシコトヲ主張スルコトヲ得ス
2 若シ不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキハ差押後所有ノ移轉シタル場合ニ限リ新所有者其取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知ラサルトキト雖モ競賣手續ヲ續行ス可シ
3 競賣申立ノ取下ニ因リテ差押ハ消滅ス

【競賣申立ノ取下】

第六百五十一條 【競賣申立ノ登記】
裁判所ハ競賣手續開始ノ決定ヲ爲ス際職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記列事ニ囑託ス可シ
2 登記列事ハ前項ノ囑託ニ從ヒテ記入ヲ爲ス可シ

第六百五十二條 【登記列事ノ職責】
登記列事ハ前條ニ掲ケタル記入ヲ爲シタル後登記簿ノ謄本ヲ裁判所ニ送付シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲ送付ス可シ

第六百五十三條 【競賣手續ノ取消】
豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ事實カ登記列事ノ通知ニ依リ顯ハルルトキハ裁判所ハ其事情ニ因リ

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 不動産ニ對ス
ル強制執行

強制競賣 六四六條—六五〇條 九六

左ニ掲クル者ヲ競賣手續ニ於テノ利害關係人ト爲ス
第一 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ因リ配當ヲ要求スル債權者
第二 債務者
第三 登記簿ニ記入アル不動産上權利者
第四 不動産上權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出ヲ爲シタル者

第六百四十九條 【差押不動産ノ賣却ノ條件及賣却ノ效力】
差押債權者ノ債權ニ先ダツ債權ニ關スル不動産ノ負擔ヲ競落人ニ引受ケシムルカ又ハ賣却代金ヲ以テ其負擔ヲ辨濟スルニ足ル見込アルトキニ非サレハ賣却ヲ爲スコトヲ得ス
2 不動産ノ上ニ存スル一切ノ先取特權及ヒ抵當權ハ賣却ニ因リテ消滅ス
3 留置權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其留置權ヲ以テ擔保スル債權ヲ辨濟スル責ニ任ス
4 質權カ不動産ノ上ニ存スル場合ニ於テハ競落人ハ其質權ヲ以テ擔保スル債權及ヒ債權者ニ對シテ優先權ヲ有スル者ノ債權ヲ辨濟スル責ニ任ス

第六百五十條 【第三者ニ對スル差押ノ效力】
直チニ手續ヲ取消シ又ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル期間内ニ其障礙ノ消滅シタルコトヲ證明ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ其期間内ニ此證明ヲ爲ササルトキハ期間ノ滿了後職權ヲ以テ手續ヲ取消ス可シ
第六百五十四條 【公課申出ノ催告】
裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動産ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ヲ申出ツ可キコトヲ期間ヲ定メテ催告ス可シ
第六百五十五條 【不動産ノ評價及最低競賣價額】
裁判所ハ登記列事及ヒ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ通知ヲ受ケタル後鑑定人ヲシテ不動産ノ評價ヲ爲サシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ト爲ス
第六百五十六條 【剩餘ヲ得ル見込ナキ場合】
裁判所ハ最低競賣價額ヲ以テ差押債權者ノ債權ニ先ダツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込ナシトスルトキハ差押債權者ニ其旨ヲ通知ス可シ
2 右通知ヨリ七日ノ期間内ニ差押債權者カ前項ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル可キ價額ヲ定メ且其價額ニ應スル競買人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受

強制競賣 六五一條—六五六條 九七

改法正 強制執行 金銭ノ債權ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 ル強制執行

テ可キ旨ヲ申立テ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ競賣
手續ヲ取消ス可シ

第六百五十七條 【競賣手續ヲ進スヘキ場合續】

裁判所ハ前條第一項ノ債權及ヒ費用ヲ辨濟シ剩餘ヲ得
ル見込アルトキ又ハ差押債權者前條第二項ノ申立ヲ爲
シ十分ナル保證ヲ立テサルトキハ職權ヲ以テ競賣期日
及ヒ競落期日ヲ定メテ之ヲ公告ス

第六百五十八條 【競賣期日ノ公告ノ要件】

競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 租稅其他ノ公課
- 第三 貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借賃
- 第四 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
- 第五 競賣期日ノ場所、日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執
達吏ノ氏名並ニ住所
- 第六 最低競賣價額
- 第七 競落期日ノ場所及ヒ日時
- 第八 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
- 第九 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上權利ヲ有ス
ル者其債權ヲ申出ツ可キ旨
- 第十 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨

強制競賣 六五七條——六六三條 九八

第六百五十九條 【競賣ノ期日及開始ノ場所】

競賣期日ハ公告ノ日ヨリ少ナクトモ十四日ノ後タル可
シ
2 此期日ハ裁判所ノ意見ヲ以テ裁判所内又ハ其他ノ場所
ニ於テ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム

第六百六十條 【競落ノ期日及開始ノ場所】

競落期日ハ競賣期日ヨリ七日ヲ過クルコトヲ得ス
2 此期日ハ裁判所ニ於テ之ヲ開ク

第六百六十一條 【競賣期日ノ公告方法】

- 第一 裁判所ノ揭示板
- 第二 不動産所在地ノ市町村ノ揭示板
- 2 此他公告ハ裁判所ノ意見ニ從ヒ一箇又ハ數箇ノ新聞紙
ニ掲載スルコトヲ得

第六百六十二條 【賣却條件ノ變更】

最低競賣價額ヲ除ク外本款ニ掲ケタル賣却條件ノ變更
ハ利害關係人ノ合意アルトキニ限リ之ヲ許ス但此合意
ハ期日ニ至ルマテ之ヲ爲スコトヲ得

第六百六十三條 【期日ニ於ケル競賣實施ノ手續】

競賣期日ヲ開キタル後執達吏ハ執行記録ヲ各人ノ閱覽

ニ供シ又特別ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ且競買
價額申出ヲ催告ス可シ

第六百六十四條 【競買申出ニ對スル保證】

利害關係人カ或ル競買人ヨリ保證ヲ立テシメントトテ
申立ツルトキハ其競買人カ保證トシテ競買價額十分ノ
一ニ當ル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ直チニ執達吏
ニ預クルトキニ非サレハ其競買ヲ許サス
2 右申立ハ競買價額ノ申出アリタル後直チニ之ヲ述フル
コトヲ要ス其申立ハ同一ナル競買人ノ其後ノ競買ニ付
テモ亦效力アリ

第六百六十五條 【競買申出ノ效力】

競買ヲ許サレタル各競買人ハ更ニ高價ノ競買ノ許アル
マテ其申出テタル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス
2 競賣ハ競買價額ヲ申出ツ可キ催告後滿一時間ヲ過クル
ニ非サレハ之ヲ終局スルコトヲ得ス

第六百六十六條 【競賣終局ノ方式】

執達吏ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル
後競賣ノ終局ヲ告知ス可シ
2 他ノ各競買人ハ右ノ告知ニ因リ其競買ノ責務ヲ免カレ
且預ケタル保證アルトキハ即時ニ其返還ヲ求ムル權利
アリ

改正法 強制執行 金銭ノ債權ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 ル強制執行

強制競賣 六六四條——六六七條 九九

第六百六十七條 【競賣調書ノ要件】

競賣ニ付キ作ル可キ調書ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコト
ヲ要ス

- 第一 不動産ノ表示
- 第二 差押債權者ノ表示
- 第三 執行記録ヲ各人ノ閱覽ニ供シタルコト又特別
賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト
- 第四 競買價額ノ申出ヲ催告シタル日時
- 第五 總テノ競買價額並ニ其申出人ノ氏名、住所又
ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト
- 第六 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時
- 第七 申立ニ因リ競買ノ爲メ保證ヲ立テタルコト又
ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許ササ
ルコト
- 第八 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタル
コト
- 2 最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ハ調書ニ署名
捺印ス可シ若シ此等ノ者調書ノ作成前ニ退席シタルト
キハ其旨ヲ附記ス可シ
- 3 競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭又ハ有價證券ヲ返還シ
タルトキハ執達吏ハ受取證ヲ取り之ヲ證書ニ添附ス可
シ

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 不動産ニ對ス

第六百六十八條 【競賣調書及保證物ノ引渡】
執達吏ハ調書及ヒ總テ競買ノ保證ノ爲メ預リタル金銭
又ハ有價證券ニシテ返還セサルモノハ三日内ニ裁判所
書記ニ之ヲ渡スコシ

第六百六十九條 【最高價競買人ト假住所】
最高價競買人執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲ
モ有セサルトキハ其所在地ニ假住所ヲ選定シ其旨ヲ裁
判所ニ届出ツ可シ若シ之ヲ怠リタルトキハ第七十條
第二項及ヒ第七十三條ノ規定ヲ準用ス
2 住所ノ選定ハ執達吏ニ口述シ其調書ヲ作ラシメテ之
爲スコトヲ得

第六百七十條 【競買申出ナキ場合ト新競賣】
競賣期日ニ於テ許ス可キ競買價額ノ申出ナキトキハ第
六百四十九條第一項ノ規定ヲ害セサル限リハ裁判所ハ
其意見ヲ以テ最低競買價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日
ヲ定ム可シ若シ其期日ニ於テ仍ホ許ス可キ競買價額ノ
申出ナキトキモ亦同シ
2 新競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十一條 【競落許可ノ陳述及異議】
裁判所ハ競落期日ニ出頭シタル利害關係人ニ競落ノ許

第八 第六百六十四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人
ナリト呼上ケタルコト

第六百七十三條 【異議ト利害關係】
異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之
ヲ許サス

第六百七十四條 【競落ヲ許ササル場合(一)】
裁判所ハ異議ノ申立テ正當トスルトキハ競落ヲ許サス
2 第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ一
アルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サス但第一號ノ場合
ニ於テハ競賣シタル不動産ヲ讓渡スコトヲ得サルモノ
ナルトキ又ハ競賣手續ノ停止ヲ爲シタルトキニ限リ第
二號ノ場合ニ於テハ能力若クハ資格ノ欠缺ヲ除去セラ
レサルトキニ限リ第三號ノ場合ニ於テハ利害關係人手
續ノ續行ニ付キ承認セサルトキニ限リ

第六百七十五條 【競落ヲ許ササル場合(二)】
數箇ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ或ル不動産
ノ賣得金ヲ以テ各債権者ニ辨濟ヲ爲シ及ヒ強制執行ノ
費用ヲ償フニ足ル可キトキハ他ノ不動産ニ付テハ競落
ヲ許サス
2 此場合ニ於テ債務者ハ其不動産中賣却ス可キモノヲ指
定スルコトヲ得

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 不動産ニ對ス

強制競賣 六六八條——六七二條 一〇〇

可ニ付キ陳述ヲ爲サシム可シ
2 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ期日ノ終ニ至ルマテニ之ヲ
申立ツ可シ既ニ申立テタル異議ニ對スル陳述ニ付テモ
亦同シ

第六百七十二條 【競落許可ノ異議ノ理由】
競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス
第一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續
行ス可カラサルコト
第二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動
產ヲ取得スル能力ナキコト
第三 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競買ヲ爲シタル
コト又ハ總テノ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律
上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト
第四 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル
要件ノ記載ナキコト
第五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依
リテ之ヲ爲ササルコト
第六 第六百五十九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリ
シコト

第七 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第
一項ノ規定ニ違背シタルコト

第六百七十六條 【競落不許可ト新競賣】
第六百七十二條及ヒ第六百七十四條ノ規定ニ從ヒ全ク
競落ヲ許ササル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ
職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可シ
2 新競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ

第六百七十七條 【競落許可ノ言渡】
前條ノ規定ニ從ヒテ新競賣期日ヲ定ムル場合ノ外競落
ヲ許シ又ハ許ササル決定ノ言渡ヲ爲スコシ
2 競落期日ノ調書ニ付テハ第四百四十二條乃至第四百七
七條ノ規定ヲ準用ス

第六百七十八條 【天災地變ニ基ク競買ノ取消】
競賣期日ト競落期日トノ間ニ天災其他ノ事變ニ因リ不
動產カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人タル呼上
テ受ケタル者ハ其競買ヲ取消ス權利アリ其毀損ノ著シ
キヤ否ヤハ裁判所事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

第六百七十九條 【競落許可ノ決定ノ要件】
競落ヲ許ス決定ニハ競賣ヲ爲シタル不動産、競落人及
ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケ又特別ノ賣却條件ヲ
以テ競落ヲ爲シタルトキハ其條件ヲモ掲ケ可シ
2 右決定ハ之ヲ言渡ス外尙ホ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ

強制競賣 六七三條——六七九條 一〇一

改正法 強制執行 金銭ノ債權ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 強制執行
公告ス可シ

第六百八十條 【競落許可ノ決定ト即時抗告】

利害關係人ハ競落ノ許可ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被
ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコ
トヲ得

2 競落ヲ許ス可キ理由ナキコト又ハ決定ニ掲ケタル以外
ノ條件ヲ以テ許ス可キコトヲ主張スル競落人又ハ競落
ヲ求メ之ヲ許ス可キコトヲ主張スル競買人モ亦即時抗
告ヲ爲スコトヲ得

3 右抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

4 第二項ノ場合ニ於テ競落ヲ求メタル競買人ハ其申出テ
タル價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノトス

第六百八十一條 【競落許可ノ抗告理由】

競落ヲ許ササル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル總
テノ不許ノ原因ナキコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ
爲スコトヲ得

2 競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲ケル競
落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又
ハ競落決定力競落期日ノ調査ノ旨趣ニ低觸シタルコト
ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

3 再審ノ訴ノ要件ヲ理由トスル抗告ハ前二項ノ規定ニ依

強制競賣 六八〇條——六八六條 一〇二

リ妨ケラレルコト無シ

第六百八十二條 【競落許可ノ抗告ノ審判】

抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシ
ムル爲メ抗告人ノ相手方ヲ定ム可シ

2 一ノ決定ニ關スル數箇ノ抗告ハ互ニ之ヲ併合ス可シ

3 第六百七十三條及ヒ第六百七十四條ノ規定ハ抗告審ニ
モ亦之ヲ準用ス

第六百八十三條 【抗告裁判ノ公告】

執行裁判所ノ決定ヲ變更シ又ハ廢棄シタル抗告裁判所
ノ裁判ハ執行裁判所之ヲ裁判所ノ掲示板ニ揭示シテ公
告ス可シ

第六百八十四條 【競落不許可ノ確定ノ效力】

競落ヲ許ササル決定確定シタルトキハ競落人及ヒ競落
ヲ求メタル競買人ハ其競買ノ義務ヲ免カル

第六百八十五條 【競買ノ取消ト其ノ後ノ手續】

第六百七十八條ノ場合ニ於テ競買取消ノ爲メ競落ヲ許
ササルトキハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規
定ヲ準用ス

第六百八十六條 【競落人ト所有權ノ取得】

競落人ハ競落ヲ許ス決定ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取

得スルモノトス

第六百八十七條 【競落不動産ノ管理及引渡】

競落人ハ代金ノ全額ヲ支拂ヒタル後ニ非サレハ不動産
ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得ス

2 競落人若クハ債權者競落ヲ許ス決定アリタル後引渡ア
ルマテ管理人ヲシテ不動産ヲ管理セシメシメコトヲ申立
テタルトキハ裁判所ハ之ヲ命ス可シ

3 債務者カ引渡ヲ拒ミタルトキハ競落人若クハ債權者ノ
申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ債務者ノ占有ヲ解キ
其不動産ヲ管理人ニ引渡サシム可シ

第六百八十八條 【競落代金ノ不拂ト再競賣】

競落人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ完全ニ履行セザルト
キハ裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可シ

2 最初ノ競賣ノ爲ニ定メタル最低競賣價額其他賣却條件
ハ再競賣ノ手續ニモ亦之ヲ適用ス

3 再競賣期日ハ少ナクモ十四日ノ後タル可シ

4 競落人カ再競賣期日ノ三日前マテニ買入代金及ヒ手續
ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣手續ヲ取消ス可シ

5 再競賣ヲ爲ストキハ前ノ競落人ハ競買ニ加ハルコトヲ
許サス且再度ノ競落代價カ最初ノ競落代價ヨリ低キト
キハ不足ノ額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔シ其高キトキハ剩

改正法 強制執行 金銭ノ債權ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 強制執行

餘ノ額ヲ請求スルコトヲ得ス

第六百八十九條 【共有不動産ノ持分ノ競賣】

共有物持分ノ強制競賣ニ付テハ債權者ノ爲メ債務者ノ
持分ニ付キ強制競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記
入ス但他ノ共有者ニハ其強制競賣ノ申立ヲ通知ス可シ

第六百九十條 【競落ニ依ラサル競賣手續ノ完結】

競賣申立カ競落ヲ許スコト無クシテ完結シタルトキハ
裁判所ハ第六百五十一條ノ規定ニ從ヒテ爲シタル記入
ノ抹消ヲ登記判事ニ囑託ス可シ

第六百九十一條 【競落ノ代金ノ配當】

競落ヲ許ス決定確定スルトキハ賣却代金カ配當ニ與カ
ル各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ民
法、商法及ヒ特別法ニ從ヒテ之ヲ配當ス可シ

第六百九十二條 【債權計算書ノ差出】

各債權者ハ競落期日マテニ其債權ノ元金、利息、費用
其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ差出ス可シ前項ノ規定ニ從
ハサル債權者ニ付テハ第六百二十八條第二項ノ規定ヲ
準用ス

強制競賣 六八七條——六九二條 一〇三

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 不動産ニ對スル強制執行

第六百九十三條 【代金ノ支拂及配當實施ノ呼出】

代金ノ支拂及ヒ配當ハ競落ヲ許ス決定ノ確定後ニ裁判所カ職權ヲ以テ定ムル期日ニ於テ之ヲ爲ス

2 此期日ニハ利害關係人、執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債権者及ヒ競落人ヲ呼出ス可シ

第六百九十四條 【賣却代金ノ範圍】

期日ニ於テハ先ツ配當ス可キ不動産ノ賣却代金ノ幾許ナルヤヲ定ム可シ

2 左ノモノヲ賣却代金トス

第一 代金

第二 不動産カ果實其他金銭ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テハ競落決定言渡ヨリ代金支拂マテノ利息

3 代金支拂ハ裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

4 最高競買價額ノ保證ノ爲メ預リタル金額ハ代金ニ之ヲ算入ス

第六百九十五條 【配當表ノ確定方法】

裁判所ハ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債権者ヲ訊問シテ配當表ヲ確定ス可シ

第七百九十六條 【配當表ノ掲載事項】

強制競賣 六九三條——六九九條 一〇四

配當表ニハ賣却代金各債権者ノ債権ノ元金、利息、費用及ヒ配當ノ順位並ニ配當ノ割合ヲ記載ス可シ
2 若シ出頭シタル總テノ利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ因ラスシテ配當ヲ要求スル債権者一致シタルトキハ其一致ニ基キ配當表ヲ作ル可シ

第六百九十七條 【配當異議ノ完結及配當實施】

配當表ニ對スル異議ノ完結及ヒ配當表ノ實施ニ付テハ第六百三十條以下ノ規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルモノハ此限ニ在ラス

第六百九十八條 【配當異議ノ申立債権者】

期日ニ出頭シタル債務者ハ各債権者ノ債権ニ對シ又ハ其債権ノ爲メ主張スル順位ニ對シ異議ヲ申立ツル權利アリ
2 出頭シタル各債権者ハ自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債権者ニ對シ前項ト同一ノ權利アリ

3 執行スルヲ得ヘキ債権ニ對スル債務者ノ異議ハ第五百四十五條、第五百四十七條及ヒ第五百四十八條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ完結ス

第六百九十九條 【競落代金ノ支拂方法】

競落人ハ賣却條件ニ因リ不動産ノ負擔ヲ引受クル外配當表ノ實施ニ際シ買入代金ノ額ニ滿ツルヲ限リ關係

債権者ノ承諾ヲ得テ買入代金ノ支拂ニ換ヘ債務ヲ引受クルコトヲ得若シ債権者競落人ナルトキハ其債権ノ配當額カ買入代金ノ額ニ滿ツル限リハ買入代金トシテ之ヲ計算スルニ因リテ消滅ス然レトモ引受ク可キ債務又ハ計算ス可キ競落人ノ債権ニ對シ適當ナル異議アルトキハ之ニ相當スル代金ヲ支拂ヒ又ハ保證ヲ立ツ可シ

第七百條 【配當實施後ノ登記手續】

配當表ヲ實施シタル後裁判所ハ配當證書及ヒ競落決定ノ正本ヲ登記判事ニ送付シテ左ノ諸件ヲ囑託ス可シ

第一 競落人ノ所有權ノ登記

第二 競落人ノ引受ケサル不動産上負擔記入ノ抹消

抹消

第三 第六百五十一條ノ規定ニ從ヒ爲シタル記入ノ抹消

第七百一條 【共同競賣ト其ノ手續】

數多ノ差押債権者ノ爲メ同時ニ爲ス可キ不動産ノ競賣手續ニ付テハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百二條 【入札拂ト其ノ手續】

裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ換ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得但

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 不動産ニ對スル強制執行

入札拂ニ付テハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ナキモノハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七百三條 【入札ノ方式】

入札ハ入札期日ニ於テ執達吏ニ之ヲ差出ス可シ

2 入札ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 入札人ノ氏名及ヒ住所

第二 不動産ノ表示

第三 入札價額

第七百四條 【入札ノ開封】

執達吏ハ入札人ノ面前ニ於テ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀ス可シ

2 二人以上同價額ノ入札アルトキハ執達吏ハ其者ヲシテ追加ノ入札ヲ爲サシメ最高價入札人ヲ定ム

3 一定ノ金額ヲ以テ入札價額ヲ表セスシテ他ノ入札價額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表シタル入札ハ之ヲ許サス

第七百五條 【最高價入札人ノ決定】

最高價入札人タル呼上ヲ受ケタル者第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キ求テ受クルモ之ヲ立テサルトキハ其次位ノ入札人ヲ以テ最高價入札人ト定ム但此場合ニ於テハ最初呼上ヲ受ケタル者ハ其入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔スル義務アリ

強制競賣 七〇〇條——七〇五條 二〇五

改正法 強制執行 金錢ノ債權ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 不動産ニ對ス

強制競賣 七〇六條—七一一條 一〇六

第三款 強制管理

第七百六條 【強制管理ノ準用規定】

強制管理ニ付テハ第六百四十二條、第六百四十三條、第六百四十四條第一項第三項及ヒ第六百五十一條乃至第六百五十四條ノ規定ヲ準用ス

2 不動産力債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フタル場合ニ於テハ第六百四十三條第一號第二號ニ依リ提出ス可キ證書ハ不動産債權者力占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ以テ足ル

第七百七條 【管理開始ノ決定ト其ノ效力】

裁判所ハ強制管理開始ノ決定ニ於テ債務者力管理人ノ事務ニ干渉スルコト及ヒ不動産ノ收益ニ付キ處分スルコトヲ禁シ又不動産ノ收益ノ給付ヲ爲ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キコトヲ命ス可シ

2 既に收穫シ若クハ收穫ス可ク又ハ期限ノ到來シ若クハ到來ス可キ果實ハ收益ニ屬ス

3 開始決定ハ第三者ニ對シテハ之ヲ送達スルニ因リ其效力ヲ生ス此送達ハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

第七百八條 【管理申立ノ競合ト其ノ效力】

テ取立ツル權ヲ授與スルモノトス

第七百十二條 【管理人ニ對スル指揮及監督】

裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後又適當トスル場合ニ於テハ鑑定人ヲ立會ハシメタル上管理人ニ管理ニ關シ必要ナル指揮ヲ爲シ又管理人ニ與フ可キ報酬ヲ定メ且管理人ノ義務履行ヲ監督ス可シ

2 裁判所ハ管理人ニ保證ヲ立テシメ又ハ貳拾圓以下ノ過料ヲ言渡シ又ハ其職ヲ免スルコトヲ得

第七百十三條 【強制管理ト第三者ノ異議】

第三者不動産ニ付キ強制管理ヲ許スコトヲ妨クル權利ヲ主張スルトキハ第五百四十九條ノ規定ヲ準用ス

第七百十四條 【強制管理ニ因ル收益ノ處分】

管理人ハ直チニ不動産ニ付キ得タル收益ヨリ其不動産ノ負擔ニ係ル租稅其他ノ公課ヲ控除シタル後別段ノ手續ヲ要セスシテ管理ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ノ配當ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキハ其旨ヲ裁判所ニ届出ツ可シ

2 前項ノ届出アリタルトキハ裁判所ハ第六百九十一條、第六百九十六條乃至第六百九十八條ノ規定ヲ準用シテ配當表ヲ作リ其配當表ニ基キ管理人チシテ債權者ニ支拂ヲ爲サシム可シ

改正法 強制執行 金錢ノ債權ニ付 不動産ニ對ス
テノ強制執行 不動産ニ對ス

強制管理 七一二條—七二六條 一〇七

裁判所ハ強制管理開始ノ決定ヲ爲シタル不動産ニ付キ強制管理ノ申立アルモ更ニ開始決定ヲ爲スコトヲ得ス

2 右申立ハ執行記録ニ添附スルニ依リ配當要求ノ效力ヲ生シ又既に開始シタル強制管理ノ取消ト爲リタルトキハ開始決定ヲ受ケタル效力ヲ生ス

3 假差押ノ命令アリタル不動産ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第七百九條 【配當要求ノ手續】

配當要求ハ執行力アル正本ニ因リ且裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル者ハ假住所ヲ選定シテ執行裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

第七百十條 【前二條ノ申立及要求ノ通知】

執行裁判所ハ前二條ノ申立及ヒ要求アリタルコトヲ債權者、債務者及ヒ管理人ニ通知ス可シ

第七百十一條 【管理人ノ任命及管理人ノ權限】

管理人ハ裁判所之ヲ任命ス但債權者ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得

2 管理人ハ管理及ヒ收益ノ爲メ自ラ不動産ヲ占有スル權ヲ有ス此場合ニ於テ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得

3 管理人ノ任命ハ債務者ニ代リ第三者ノ給付ス可キ收益

第七百十五條 【管理ノ計算ト其ノ異議及卸任】

管理人ハ毎年及ヒ其業務履行ノ終了後各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ計算書ヲ差出ス可シ

2 各債權者及ヒ債務者ハ計算書ノ送達アリタルヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

3 右期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ計算ニ付キ全ク異議ナク且管理人ノ卸任ヲ承諾シタルモノト看做ス

4 異議ノ申立アルトキハ裁判所ハ管理人ヲ審訊シタル後之ヲ裁判ス可シ若シ異議ノ申立ナク又ハ申立テタル異議ヲ完結シタルトキハ裁判所ハ管理人チシテ卸任セシム可シ

第七百十六條 【強制管理ノ取消】

強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

2 此取消ハ各債權者不動産ノ收益ヲ以テ辨濟ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲ス

3 若シ管理履行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ債權者力必要ナル金額ヲ豫納セサルニ於テハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

4 裁判所ハ右ノ取消ヲ決定スル際登記記事ニ強制管理ニ關スル記入ノ抹消ヲ囑託ス可シ

改正法 強制執行 金銭ノ債権ニ付 船舶ニ對ス
テノ強制執行 船舶ニ對ス
ル強制執行

第三節 船舶ニ對スル強制執行

第七百十七條 【本節ノ適用アル船舶】

商船其他ノ海船ニ對スル強制執行ハ不動産ノ強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但事物ノ性質ニ因リテ差異ノ顯ハルルトキ又ハ以下數條ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキハ此限ニ在ラス

2 端舟其他權ノミチ以テ運轉シ又ハ主トシテ權ヲ以テ運轉スル舟ニハ本節ノ規定ヲ適用セス

第七百十八條 【船舶ノ競賣ト管轄】

船舶ノ強制競賣ニ付テハ船舶カ差押ノ當時碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トス

第七百十九條 【船舶ト差押ノ方法】

船舶ハ執行手續中差押ノ港ニ之ヲ碇泊セシム可シ然レトモ商業上利益ノ爲メ適當トスル場合ニ於テハ裁判所ハ總テノ利害關係人ノ申立ニ因リ航行ヲ許スコトヲ得

第七百二十條 【船舶ノ競賣申立ト添附書類】

強制競賣ニ付テノ申立ニハ左ノ證書ヲ添附ス可シ
第一 債務者カ所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又船長ナル場合ニ於テハ

3 差押後新ニ船長ト爲リタル者ハ之ヲ利害關係人トス此場合ニ於テハ前船長ハ其關係人タル義務ヲ免カル

第七百二十三條 【管轄違ノ執行手續ノ取消】

船舶カ差押ノ當時其裁判所管轄内ニ存セサルコトノ顯ハルルトキハ其手續ヲ取消ス可シ

第七百二十四條 【船舶競賣ノ公告事項】

競賣期日ノ公告ニハ第六百五十八條第一號ニ掲ケタル旨趣ニ換ヘテ船舶ノ表示及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ケ可シ

第七百二十五條 【船舶競賣ノ公告方法】

定繫港ノ區裁判所管轄外ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ競賣期日ノ公告ヲ定繫港ノ區裁判所ニ送付シ其裁判所ノ掲示板ニ揭示ス可キコトヲ囑託ス可シ

第七百二十六條 【船舶股分ノ執行手續(一)】

船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス其執行ニ付テハ定繫港ノ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百二十七條 【船舶股分ノ執行手續(二)】

債権者ハ差押命令ノ申請ニ債務者カ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ信用ス可キ證明書ヲ添附ス可シ

改正法 強制執行 金銭ノ支拂ヲ目的トセザル債権ニ付テノ強制執行

七二七條—七三二條 一〇八

船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ疎明スルニ足ル可キ證書

第二 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本

2 債権者ハ公簿ヲ主管スル官廳カ遠隔ノ地ニ在ルトキハ第二號ノ抄本ノ求アラントテ執行裁判所ニ申立ツルコトヲ得

第七百二十一條 【船舶ノ必要處分ト其ノ效力】

裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可シ

2 此處分ヲ爲シタルトキハ開始決定ノ送達前ト雖モ差押ノ效力ヲ生ス

3 若シ此處分ヲ續行スル爲メ債権者カ必要ナル金額ヲ豫納セサルトキハ裁判所ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七百二十二條 【船舶差押ノ利害關係人】

船長ニ對シ爲シタル判決ニ基キ船舶債権者ノ爲メ船舶ノ差押ヲ爲ストキハ其差押ハ所有者ニ對シテモ效力アリ此場合ニ於テハ所有者モ亦利害關係人トス

2 差押後所有者若クハ船長ノ變更アルモ手續ノ續行ヲ妨ケス

2 差押命令ハ債務者ノ外船舶管理人ニモ之ヲ送達ス可シ
3 差押ハ此命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ債務者ニ送達スルト同一ノ效力ヲ生ス

第七百二十八條 【船舶股分ノ競賣代金ノ配當(三)】

船舶股分ノ競賣代金ノ配當ニ付テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス

第七百二十九條 【外國船舶又ハ無登記船舶ノ執行】

外國ノ船舶ヲ差押ヘタルトキ又ハ登記簿ニ登記セサル船舶ヲ差押ヘタルトキハ登記簿ニ記入ス可キ手續ニ關スル規定ヲ適用セス

第三章 金銭ノ支拂ヲ目的トセザル債權ニ付テノ強制執行

第七百三十條 【特定動産引渡ノ執行】

債権者カ特定ノ動産又ハ代替物ノ一定ノ數量ヲ引渡ス可キトキハ執達吏ハ之ヲ債務者ヨリ取上ケテ債権者ニ引渡ス可シ

第七百三十一條 【不動産又ハ船舶引渡ノ執行】

債権者カ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ又ハ明渡ス可キトキハ執達吏ハ債務者ノ占有ヲ解キ債権者ニ

七三三條—七三一條 一〇九

改正法 強制執行 金銭ノ支拂ヲ目的トセザル債權ニ付テハ強制執行

- 其占有ヲ得セシム可シ
- 2 此強制執行ハ債權者又ハ其代理人カ受取ノ爲メ出頭シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得
- 3 強制執行ノ目的物ニ非サル動産ハ執達吏之ヲ取除キテ債權者ニ引渡ス可シ若シ債權者不在ナルトキハ其代理人又ハ債權者ノ成長シタル家族若クハ雇人ニ之ヲ引渡ス可シ
- 4 債權者及ヒ前項ニ掲ケタル者不在ナルトキハ執達吏ハ右ノ動産ヲ債權者ノ費用ニテ保管ニ付ス可シ
- 5 債權者カ其動産ノ受取ヲ怠ルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ賣却シ其費用ヲ控除シタル後其代金ヲ供託ス可シ
- 第七百三十二條 【第三者手中ノ物件引渡ノ執行】
引渡ス可キ者カ第三者ノ手中ニ存スルトキハ債權者ノ引渡ノ請求ハ申立ニ因リ金銭債權ノ差押ニ關スル規定ニ從ヒテ之ヲ債權者ニ轉付ス可シ
- 第七百三十三條 【代換的行爲ヲ目的トスル執行】
民法第四百十四條第二項及ヒ第三項ノ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ民法ノ規定ニ從ヒテ決定ヲ爲ス
- 2 債權者ハ同時ニ其行爲ヲ爲スニ因リ生ス可キ費用ヲ豫

第四章 假差押及ヒ假處分

- 第七百三十七條 【假差押ヲ許スヘキ請求】
假差押ハ金銭ノ債權又ハ金銭ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ請求ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ之ヲ爲スコトヲ得
- 2 假差押ハ未タ期限ニ至ラサル請求ニ付テモ亦之ヲ爲スコトヲ得
- 第七百三十八條 【假差押ヲ許スヘキ場合】
假差押ハ之ヲ爲ササレハ判決ノ執行ヲ爲スコト能ハス又ハ判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スル恐アルトキ殊ニ外國ニ於テ判決ノ執行ヲ爲スニ至ル可キトキハ之ヲ爲スコトヲ得
- 第七百三十九條 【假差押命令ノ管轄】
假差押ノ命令ハ假ニ差押ヲ可キ物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス
- 第七百四十條 【假差押申請ノ方式】
假差押ノ申請ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ
第一 請求ノ表示若シ其請求カ一定ノ金額ニ係ラサルトキハ其價額

改正法 強制執行 假差押及ヒ假處分

七三二條—七三六條 一一〇

- メ債權者ニ支拂ヲ爲サシムル決定ノ宣言アラシムコトヲ申立ツルコトヲ得但其行爲ヲ爲スニ因リ此ヨリ多額ノ費用ヲ生スルトキ後日其請求ヲ爲ス權利ヲ妨ケス
- 第七百三十四條 【強制履行ヲ許ス場合ノ執行】
債權ノ性質カ強制履行ヲ許ス場合ニ於テ第一審ノ受訴裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ債務者カ其期間内ニ履行ヲ爲ササルトキハ其遲延ノ期間ニ應シ一定ノ賠償ヲ爲スヘキコト又ハ直チニ損害ノ賠償ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ要ス
- 第七百三十五條 【前二條ノ決定ヲ爲ス手續】
前二條ノ決定ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得但決定前債務者ヲ審訊ス可シ
- 第七百三十六條 【意思表示ヲ目的トスル執行】
債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾ス可キコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス反對給付ノ有リタル後認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ第五百十八條及ヒ第五百二十條ノ規定ニ從ヒ執行力アル正本ヲ付與シタルトキ其效力ヲ生ス

- 第二 假差押ノ理由タル事實ノ表示
- 2 請求及ヒ假差押ノ理由ハ之ヲ説明ス可シ
- 3 申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

- 第七百四十一條 【假差押ノ審理及裁判】
假差押ノ申請ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ經シテ之ヲ爲スコトヲ得
- 2 請求又ハ假差押ノ理由ヲ説明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テタルトキハ裁判所ハ假差押ヲ命スルコトヲ得
- 3 又請求及ヒ假差押ノ理由ヲ説明シタルトキト雖モ裁判所ハ保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得
- 4 保證ヲ立テタルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ立テタルコトヲ假差押ノ命令ニ記載ス可シ
- 第七百四十二條 【假差押裁判ノ形式】
假差押ノ申請ニ付テハ裁判ハ口頭辯論ヲ爲ス場合ニ於テハ終局判決ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス
- 2 假差押ノ申請ヲ却下シ又ハ保證ヲ立テシムル裁判ハ債務者ニ之ヲ通知スルコトヲ要セス

七三七條—七四二條 一一一

第七百四十三條 【執行ノ停止又ハ取消ノ金額】
假差押ノ命令ニハ假差押ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ル
爲メ又ハ執行シタル假差押ヲ取消スコトヲ得ル爲ニ債
務者ヨリ供託ス可キ金額ヲ記載ス可シ

第七百四十四條 【假差押決定ニ對スル異議】
債務者ハ假差押決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得

2 此異議ニ付テハ假差押ノ取消又ハ變更ヲ申立ツル理由
ヲ開示ス可シ

3 異議ノ申立ハ假差押ノ執行ヲ停止セス

第七百四十五條 【異議ノ裁判ノ手續】

異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ口頭辯論ノ爲メ當
事者ヲ呼出ス可シ裁判所ハ終局判決ヲ以テ假差押ノ全
部若クハ一分ノ認可、變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナ
ル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キコトノ條件ヲ附シ
テ之ヲ言渡スコトヲ得

第七百四十六條 【起訴命令ノ申請及其ノ效果】

本案ノ未タ繫屬セザルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ
申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間内ニ
訴ヲ起ス可キコトヲ債權者ニ命ス可シ

2 此期間ヲ徒過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決
ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ

第七百四十七條 【假差押ノ取消】

債務者ハ假差押ノ理由消滅シ其他事情ノ變更シタルト
キ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立
テントノ提供ヲ爲シタルトキハ假差押ノ認可後ト雖モ
假差押ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得

2 此申立ニ付テハ終局判決ヲ以テ之ヲ裁判ス其裁判ハ假
差押ヲ命シタル裁判所又本案力既ニ繫屬シタルトキハ
本案ノ裁判所之ヲ爲ス

第七百四十八條 【假差押ノ執行】

假差押ノ執行ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス
但以下數條ニ於テ差異ノ生スルトキハ此限ニ在ラス

第七百四十九條 【假差押命令ト執行文】

假差押ノ命令ニハ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務
者ニ於テ承繼アル場合ニ限り執行文ヲ附記スルコトヲ
要ス

2 假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ申立人ニ命令ヲ
送達シタルヨリ十四日ノ期間ヲ徒過スルトキハ之ヲ爲
スコトヲ許サス

3 右執行ハ債務者ニ差押命令ヲ送達スル前ト雖モ之ヲ爲
スコトヲ得

第七百五十條 【動産及ヒ債權假差押ノ執行】

動産ニ對スル假差押ノ執行ハ各差押ト同一ノ原則ニ從
ヒテ之ヲ爲ス

2 債權ノ假差押ニ付テハ其命令ヲ發シタル裁判所ヲ以テ
管轄執行裁判所トス

3 債權ノ假差押ニ付テハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂
ヲ爲スコトヲ禁スル命令ノミヲ爲ス可シ

4 假差押ノ金額ハ之ヲ供託ス可シ其他假差押物ノ競賣及
ヒ假差押有價證券ノ換價ハ一時之ヲ爲サス然レトモ假
差押物ニ著シキ價額ノ減少ヲ生スル恐アルトキ又ハ其
貯藏ニ付キ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキハ執行裁判
所ハ申立ニ因リ其物ヲ競賣シ賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ
執達吏ニ命スルコトヲ得

第七百五十一條 【不動産假差押ノ執行】

不動産ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ命令ヲ登記簿
ニ記入スルニ因リテ之ヲ爲ス

第七百五十二條 【假差押ノ執行ト強制管理】

假差押執行ノ爲メ強制管理ヲ爲ス場合ニ於テハ保全ス
可キ債權ニ相當スル金額ヲ取立テ之ヲ供託ス可シ

第七百五十三條 【船舶假差押ノ執行】

船舶ニ對スル假差押ノ執行ハ假差押ノ當時碇泊スル港

ニ碇泊セシムルコトニ因リテ之ヲ爲ス裁判所ハ債權者
ノ申立ニ因リ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分
ヲ爲ス

第七百五十四條 【假差押執行ノ取消】

假差押命令ニ於テ定メタル金額ヲ供託シタルトキハ執
行裁判所ハ執行シタル假差押ヲ取消ス可シ

2 假差押ノ執行ニ付テハ特別ノ費用ヲ要シ且之カ爲メ必要
ナル金額ヲ債權者方豫納セザルトキモ亦執行裁判所ハ
假差押ノ取消ヲ命スルコトヲ得

3 右裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

4 假差押ヲ取消ス決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ
得

第七百五十五條 【假處分ヲ許ス場合】

係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者一方
ノ權利ノ實行ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スニ著シキ
困難ヲ生スル恐アルトキ之ヲ許ス

第七百五十六條 【假處分ノ命令其他ノ手續】

假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手
續ニ關スル規定ヲ準用ス但以下數條ニ於テ差異ノ生ス
ルトキハ此限ニ在ラス

第七百五十六條ノ二【假處分取消ノ判決ト假執行】
假處分ヲ取消ス判決ハ財産權上ノ請求ニ關セサルモノニ付テモ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得

第七百五十七條【假處分命令ノ管轄】
假處分ノ命令ハ本案ノ管轄裁判所之ヲ管轄ス
2 右裁判ハ急迫ナル場合ニ於テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百五十八條【假處分命令ノ内容】
裁判所ハ其意見ヲ以テ申立ノ目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ定ム
2 假處分ハ保管人ヲ置キ又ハ相手方ニ行爲ヲ命シ若クハ之ヲ禁シ又ハ給付ヲ命スルコトヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

3 假處分ヲ以テ不動産ヲ讓渡シ又ハ抵當ト爲スコトヲ禁シタルトキハ裁判所ハ第七百五十一條ノ規定ヲ準用シテ登記簿ニ其禁止ヲ記入セシム可シ

第七百五十九條【假處分ノ取消】
特別ノ事情アルトキニ限り保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スコトヲ得

第七百六十條【假ノ地位ヲ定ムル假處分】

假處分ハ爭アル權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムル爲ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得但其處分ハ殊ニ繼續スル權利關係ニ付キ著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防グ爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ之ヲ必要トスルトキニ限ル

第七百六十一條【急迫ナル場合ノ假處分】
急迫ナル場合ニ於テハ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出ス可キ申立ノ期間ヲ定メ假處分ヲ命スルコトヲ得
2 此期間ヲ徒過シタル後區裁判所ハ申立ニ因リ其命シタル假處分ヲ取消ス可シ
3 右裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

第七百六十二條【本案ノ管轄裁判所】
本章ノ規定ニ於ケル本案ノ管轄裁判所ハ第一審裁判所トス但本案力控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所トス

第七百六十三條【裁判長ト假差押及假處分ノ裁判】
急迫ナル場合ニ於テ口頭辯論ヲ要セサルモノニ限り裁判長ハ本章ノ申立ニ付キ裁判ヲ爲スコトヲ得

第七編 公示催告手續

命スルコトヲ得

第七百六十七條【公告ト催告期日トノ時間】
公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ法律ニ別段ノ規定ヲ設ケサルトキハ少ナクトモ二个月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百六十八條【催告期日後ノ權利届出ノ效力】
公示催告期日ノ終リタル後ト雖モ除權判決前ニ届出ヲ爲ストキハ適當ナル時間ニ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第七百六十九條【除權判決ノ手續】
除權判決ハ申立ニ因リテ之ヲ爲ス

2 右判決前ニ詳細ナル探知ヲ爲ス可キ旨ヲ命スルコトヲ得
3 除權判決ノ申立ヲ却下スル決定及ヒ除權判決ニ付シタル制限又ハ留保ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十條【催告期日内ノ權利届出ノ效力】
申立人ノ申立ノ理由トシテ主張シタル權利ヲ争フコトノ届出アリタルトキハ其事情ニ從ヒ届出テタル權利ニ付テノ裁判確定スルマテ公示催告手續ヲ中止シ又ハ除權判決ニ於テ届出テタル權利ヲ留保ス可シ

第七百六十四條【公示催告ト其ノ管轄】

請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムル爲メノ裁判上ノ公示催告ハ其届出ヲ爲ササルトキハ失權ヲ生スル效力ヲ以テ法律ニ定メタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

2 公示催告手續ハ區裁判所之ヲ管轄ス

第七百六十五條【公示催告ノ申立ト其ノ裁判】

公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
2 此申立ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
3 申立ヲ許ス可キトキハ裁判所ハ公示催告ヲ爲ス可ク其公示催告ニハ殊ニ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一 申立人ノ表示

第二 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

第三 届出ヲ爲ササルニ因リ生ス可キ失權ノ表示

第四 公示催告期日ノ指定

第七百六十六條【公示催告ノ公告方法】

公示催告ニ付テノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ揭示シ及ヒ官報又ハ公報ニ掲載シテ之ヲ爲ス
2 裁判所相當ト認ムルトキハ新聞紙ニ公告ス可キコトヲ

第七百七十一條 【申立人ノ不出頭ト新期日ノ指定】
申立人方公示催告期日ニ出頭セザルトキハ其申立ニ因リ新期日ヲ定ム可シ此申立ハ公示催告期日ヨリ六ヶ月ノ期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ許ス

第七百七十二條 【新期日ノ指定ト公告ノ要否】
公示催告手續ヲ完結スル爲メ新期日ヲ定メタルトキハ其期日ノ公告ヲ爲スコトヲ要セス

第七百七十三條 【除權判決ノ公告方法】
裁判所ハ除權判決ノ重要ナル旨趣ヲ官報又ハ公報ニ掲載シテ公告ヲ爲スコトヲ得

第七百七十四條 【除權判決ト不服申立】

除權判決ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

2 除權判決ニ對シテハ左ノ場合ニ於テ申立人ニ對スル訴ヲ以テ催告裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得

第一 法律ニ於テ公示催告手續ヲ許ス場合ニ非サルトキ

第二 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲ササルトキ

第三 公示催告ノ期間ヲ遵守セザルトキ

第四 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ

第五 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決ニ於テ其届出ヲ法律ニ從ヒ顧ミザルトキ

第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

第七百七十五條 【除權判決ノ不服申立期間】
不服申立ノ訴ハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起ス可シ此期間ハ原告カ除權判決ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ前條第四號及ヒ第六號ニ掲ケタル不服申立ノ理由ノ一ニ基キ訴ヲ起シ且原告カ右ノ日ニ其理由ヲ知ラザリシ場合ニ於テハ其期間ハ不服ノ理由ノ原告ニ知レタル日ヲ以テ始マル

2 除權判決ノ言渡ノ日ヨリ起算シテ五ヶ年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ得ス

第七百七十六條 【數箇ノ公示催告ノ併合】
裁判所ハ數箇ノ公示催告ノ併合ヲ命スルコトヲ得

第七百七十七條 【證書ノ無効宣言ノ公示催告】
盜取セラレ又ハ紛失若クハ滅失シタル手形其他商法ニ無効ト爲シ得ヘキコトヲ定メタル證書ノ無効宣言ノ爲

ニ爲ス公示催告手續ニ付テハ以下數條ノ特別規定ヲ適用ス

2 此規定ハ法律上公示催告手續ヲ許ス他ノ證書ニ付キ其法律中ニ特別規定ヲ設ケサル限りハ之ヲ適用ス

第七百七十八條 【催告申立ノ權利者】

無記名證券又ハ裏書ヲ以テ移轉シ得ヘク且略式裏書ヲ付シタル證書ニ付テハ最終ノ所持人公示催告手續ヲ申立ツル權アリ

2 此他ノ證書ニ付テハ證書ニ因リ權利ヲ主張シ得ヘキ者此申立ヲ爲ス權アリ

第七百七十九條 【催告ノ管轄裁判所】

公示催告手續ハ證書ニ表示シタル履行地ノ裁判所之ヲ管轄ス若シ證書ニ其履行地ヲ表示セザルトキハ發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所之ヲ管轄シ其裁判所ナキトキハ發行人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所之ヲ管轄ス

2 證書ヲ發行スル原因タル請求ヲ登記簿ニ記入シタルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第七百八十條 【申立憑據ノ開示若クハ説明】

申立人ハ申立ノ憑據トシテ左ノ手續ヲ爲ス可シ

第一 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ重要ナル旨趣

改正法 公示催告手續

七七八條——七八四條

一一七

及ヒ證書ヲ十分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト

第二 證書ノ盜難、紛失、滅失及ヒ公示催告手續ヲ申立ツルコトヲ得ルノ理由タル事實ヲ説明スルコト

第七百八十一條 【催告ニ掲ケヘキ要件】

公示催告中ニ公示催告期日マテニ權利ヲ裁判所ニ届出テ且其證書ヲ提出ス可キ旨ヲ證書ノ所持人ニ催告ス可ク又失權トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲ス可キ旨ヲ戒示ス可シ

第七百八十二條 【催告ノ公告方法】

公示催告ノ公告ハ裁判所ノ掲示板ニ掲示シ且官報又ハ公報ニ掲載シ及ヒ新聞紙ニ三回掲載シテ之ヲ爲ス

2 公示催告裁判所ノ所在地ニ取引所アルトキハ取引所ニモ亦此公告ヲ掲示ス可シ

第七百八十三條 【公告ト催告期日トノ時間】

公示催告ヲ官報又ハ公報ニ掲載シタル日ト公示催告期日トノ間ニハ少ナクトモ六ヶ月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス

第七百八十四條 【除權判決ノ宣言ト其ノ公告】

七七八條——七八四條

一一七

除權判決ニ於テハ證書ヲ無効ナリト宣言ス可シ
 2 除權判決ノ重要ナル旨趣ハ官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ
 3 不服申立ノ訴ニ因リ判決ヲ以テ無効宣言ヲ取消シタルトキハ其判決ノ確定後官報又ハ公報ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第七百八十五條 【除權判決ノ效果】

除權判決アリタルトキハ其申立人ハ證書ニ因リテ義務ヲ負擔スル者ニ對シテ證書ニ因レル權利ヲ主張スルコトヲ得

第八編 仲裁手續

第七百八十六條 【仲裁契約成立ノ要件】

一名又ハ數名ノ仲裁人ヲシテ爭ノ判斷ヲ爲サシムル合意ハ當事者カ係争物ニ付キ和解ヲ爲ス權利アル場合ニ限リ其效力ヲ有ス

第七百八十七條 【將來ノ爭ト仲裁契約ノ效力】

將來ノ爭ニ關スル仲裁契約ハ一定ノ權利關係及ヒ其關係ヨリ生スル爭ニ關セサルトキハ其效力ヲ有セス

第七百八十八條 【仲裁人ノ選定(一)】

仲裁契約ニ仲裁人ノ選定ニ關スル定ナキトキハ當事者ハ各一名ノ仲裁人ヲ選定ス

第七百八十九條 【仲裁人ノ選定(二)】

當事者ノ雙方カ仲裁人ヲ選定スル權利ヲ有スルトキハ先ニ手續ヲ爲ス一方ハ書面ヲ以テ相手方ニ其選定シタル仲裁人ヲ指示シ且七日ノ期間内ニ同一ノ手續ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可シ

2 右期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ先ニ手續ヲ爲ス一方ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス

第七百九十條 【仲裁人ノ選定ト拘束力】

當事者ノ一方ハ相手方ニ仲裁人選定ノ通知ヲ爲シタル後ハ相手方ニ對シテ其選定ニ羈束セラル

第七百九十一條 【仲裁人ノ補缺選定】

仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受若クハ施行ヲ拒ミタルトキハ其仲裁人ヲ選定シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ因リ七日ノ期間内ニ他ノ仲裁人ヲ選定ス可シ此期間ヲ徒過シタルトキハ管轄裁判所ハ其催告ヲ爲シタル者ノ申立ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可シ

第七百九十二條 【仲裁人ノ忌避】

當事者ハ列事ヲ忌避スル權利アルト同一ノ理由及ヒ條件ヲ以テ仲裁人ヲ忌避スルコトヲ得

2 此他仲裁契約ヲ以テ選定シタルニ非サル仲裁人カ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延スルトキハ亦之ヲ忌避スルコトヲ得

3 無能力者、聾者、啞者及ヒ公權ノ剝奪又ハ停止中ノ者ハ之ヲ忌避スルコトヲ得

第七百九十三條 【仲裁契約ノ消滅原因】

仲裁契約ハ當事者ノ合意ヲ以テ左ノ場合ノ爲メ豫定ナ爲ササリシトキハ其效力ヲ失フ

第一 契約ニ於テ一定ノ人ヲ仲裁人ニ選定シ其仲裁人中ノ或ル人カ死亡シ又ハ其他ノ理由ニ因リ欠缺シ又ハ其職務ノ引受ヲ拒ミ又ハ仲裁人ノ取結ヒタル契約ヲ解キ又ハ其義務ノ履行ヲ不當ニ遲延シタルトキ

第二 仲裁人カ其意見ノ可否同數ナル旨ヲ當事者ニ通知シタルトキ

第七百九十四條 【仲裁判斷ニ先ツ當事者ノ審訊】

仲裁人ハ仲裁判斷前ニ當事者ヲ審訊シ且必要トスル限リハ爭ノ原因タル事件關係ヲ探知ス可シ

2 仲裁手續ニ付キ當事者ノ合意アラサル場合ニ於テハ其

手續ハ仲裁人ノ意見ヲ以テ之ヲ定ム

第七百九十五條 【仲裁人ト證人鑑定人ノ訊問權】

仲裁人ハ其面前ニ任意ニ出頭スル證人及ヒ鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得

2 仲裁人ハ證人又ハ鑑定人ヲシテ宣誓ヲ爲サシムル權ナシ

第七百九十六條 【仲裁判斷ト裁判所ノ共力】

仲裁人ノ必要ト認ムル判斷上ノ行爲ニシテ仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノハ當事者ノ申立ニ因リ管轄裁判所之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ相當ト認メタルトキニ限ル

第七百九十七條 【仲裁手續ノ進行權】

仲裁人ハ當事者カ仲裁手續ヲ許スカラサルコトヲ主張スルトキ殊ニ法律上有效ナル仲裁契約ノ成立セサルコト、仲裁規約カ判斷ス可キ爭ニ關係セサルコト又ハ仲裁人カ其職務ヲ施行スル權ナキコトヲ主張スルトキト雖モ仲裁手續ヲ進行シ且仲裁判斷ヲ爲スコトヲ得

第七百九十八條 【仲裁判斷ト評議方法】

改正法 仲裁手續

數名ノ仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スコキトキハ過半数ヲ以テ其判斷ヲ爲スコシ但仲裁契約ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

第七百九十九條 【仲裁判斷ノ原本及正本】

仲裁判斷ニハ其作リタル年月日ヲ記載シテ仲裁人之ニ署名捺印ス可シ

2 仲裁人ノ署名捺印シタル判斷ノ正本ハ之ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可シ

第八百條 【仲裁判斷ノ效力】

仲裁判斷ハ當事者間ニ於テ確定シタル裁判所ノ判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第八百一條 【仲裁判斷ノ取消】

仲裁判斷ノ取消ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ申立ツルコトヲ得

第一 仲裁手續ヲ許スコカラサリシトキ

第二 仲裁判斷カ法律上禁止ノ行爲ヲ爲スコキ旨ヲ當事者ニ言渡シタルトキ

第三 當事者カ仲裁手續ニ於テ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

第四 仲裁手續ニ於テ當事者ヲ審訊セサリシトキ

七九九條——八〇四條 一二〇

第五 仲裁判斷ニ理由ヲ付セサリシトキ

第六 第四百二十條第四號乃至第八號ノ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ許ス條件ノ存スルトキ

2 仲裁判斷ノ取消ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲シタルトキハ本條第四號及ヒ第五號ニ掲ケタル理由ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百二條 【仲裁判斷ニ對スル執行判決】

仲裁判斷ニ因リ爲ス強制執行ハ執行判決ヲ以テ其許スコキコトヲ言渡シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

2 右執行判決ハ仲裁判斷ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ理由ノ存スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八百三條 【執行判決後ノ仲裁判斷ノ取消】

執行判決ヲ爲シタル後ハ仲裁判斷ノ取消ハ第八百一條第六號ニ掲ケタル理由ニ因リテノミ之ヲ申立ツルコトヲ得但當事者カ自己ノ過失ニ非スシテ前手續ニ於テ取消ノ理由ヲ主張スル能ハサリシコトヲ疎明シタルトキニ限ル

第八百四條 【仲裁判斷取消ノ訴ト其ノ期間】

仲裁判斷取消ノ訴ハ前條ノ場合ニ於テハ一个月ノ不變期間内ニ之ヲ起スコシ

2 右期間ハ當事者カ取消ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル然レトモ執行判決ノ確定前ニハ始マラサルモノトス但執行判決ノ確定ト爲リタル日ヨリ起算シテ五午年ノ滿了後ハ此訴ヲ起スコトヲ許サス

3 仲裁判斷ヲ取消ストキハ執行判決ノ取消ヲモ亦言渡スコシ

第八百五條 【仲裁手續ニ關スル訴ト管轄】

仲裁人ヲ選定シ若クハ忌避スルコト、仲裁契約ノ消滅スルコト、仲裁手續ヲ許スコカラサルコト、仲裁判斷ヲ取消スコト又ハ執行判決ヲ爲スコトヲ目的トスル訴ニ付テハ仲裁契約ニ指定シタル區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ其指定ナキトキハ請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管轄ヲ有スコキ區裁判所又ハ地方裁判所之ヲ管轄ス

2 前項ニ依リ管轄ヲ有スル裁判所數箇アルトキハ當事者又ハ仲裁人カ最初ニ關係セシメタル裁判所之ヲ管轄ス

民事訴訟法中改正法律施行法

大正十五年法律第六十二號

- 第一條 本法ニ於テ新法ト稱スルハ大正十五年民事訴訟法中改正法律ニ依ル改正規定ヲ謂ヒ舊法ト稱スルハ從前ノ規定ヲ謂フ
- 第二條 新法ハ新法施行前ニ生シタル事項ニモ之ヲ適用ス但シ舊法ニ依リテ生シタル效力ヲ妨ケス
- 第三條 新法施行前ヨリ繫屬スル事件ニ付新法ニ依リ管轄アル裁判所ハ舊法ニ依レハ管轄權ナキ場合ニ於テモ管轄權ヲ有ス
- 2 前項ノ事件ニ付舊法ニ依リ管轄權アル裁判所ハ新法ニ依レハ管轄權ナキ場合ニ於テモ管轄權ヲ有ス
- 第四條 新法ニ依リ新ニ期間ヲ定メタル訴訟行爲ニシテ新法施行ノ際爲スヘキモノニ付テハ其ノ期間ハ新法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
- 第五條 新法第八十五條ノ規定ハ新法施行前同條ニ掲グル事由ヲ生シタル訴訟代理ニシテ新法施行前委任消滅ノ通知ヲ爲サザリシモノニモ之ヲ適用ス
- 第六條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ舊法ニ依リ訴訟費用ノ保證ヲ立ツル義務ナキ者ハ新法ニ依リ擔保ヲ供スルコトヲ要セス

- ハ上告裁判所ハ事件ヲ控訴裁判所ニ差戻スコトヲ得
- 第十二條 新法施行前抗告裁判所ノ爲シタル決定ニ對シテハ仍舊法ニ依リ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得
- 第十三條 兩席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ故障ヲ申立ツルコトヲ得
- 2 執行命令ニ對シテハ舊法ニ依ル故障期間内ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得
- 第十四條 新法施行前妨訴抗辯ヲ棄却シ又ハ請求ノ原因ヲ正當ナリトシタル中間判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得
- 第十五條 新法施行前ヨリ繫屬スル證書訴訟及爲替訴訟ハ仍舊法ニ依リ之ヲ完結ス但シ訴訟カ新法施行ノ際第一審ニ繫屬スルトキハ新法施行ノ日ヨリ通常ノ手續ニ於テ繫屬スルモノト看做ス
- 第十六條 故障ヲ許ササル兩席判決ニ對シテハ仍舊法ニ依リ上訴ヲ爲スコトヲ得
- 第十七條 新法施行前請求ノ拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ求ムル申立アリタルトキハ仍舊法ニ依リ裁判ス新法施行前兩席判決ノ申立アリタルトキ亦同シ
- 第十八條 新法施行前言渡シタル判決一シテ舊法第四百二十二條ニ掲クルモノニ對シ控訴ノ提起アリタル場合ニ於テハ仍舊法ノ規定ニ依ル

- 第七條 新法施行前ヨリ進行ヲ始メタル法定期間及其ノ計算ハ舊法ニ依ル
- 2 新法施行前言渡シタル判決ニ對スル上訴ノ期間カ新法施行後進行ヲ始メタル場合亦前項ニ同シ
- 第八條 新法施行前裁判所書記カ判決原本ノ交付ヲ受ケタルトキハ其ノ判決ノ送達ハ申立アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ要セス
- 第九條 新法施行前ヨリ繫屬スル訴訟ニ付テハ特ニ裁判所ノ命シタル場合ニ限り新法ニ依リ準備手續ヲ爲ス
- 第十條 新法施行前舊法ニ依リテ罰金又ハ過料ニ處スヘキ行爲ヲ爲シタル者ニシテ新法施行ノ際未タ其ノ裁判ヲ受ケサルモノハ新法ニ於テ過料ニ處スヘキ場合ニ限り新法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ舊法ノ罰金又ハ過料ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第十一條 新法施行前第一審裁判所又ハ控訴裁判所カ管轄違トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テ上訴裁判所カ第一審裁判所ニ其ノ管轄權ヲシトスルトキハ判決ヲ以テ事件ヲ第一審ノ管轄裁判所ニ移送スルコトヲ要ス
- 2 前項ノ場合ニ於テ上訴裁判所カ第一審裁判所ニ管轄權アリトスルトキハ事件ヲ其ノ裁判所ニ差戻スコトヲ要ス但シ第一審裁判所カ管轄權アリト爲シタル事件ニ付控訴裁判所カ管轄違トシテ訴ヲ却下シタル場合ニ於テ

附 則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

民事
訴訟
法
案
改
正

理

由

書

民事訴訟法中
改正法律案

理由書

民事訴訟法中 改正法律案 理由書

本案ノ要旨

現行民事訴訟法ハ明治二十三年制定セラレ翌二十四年
實施セラレタルモノナルカ手續煩瑣ニ亘リ實際ノ運用
上不備ノ點尠カラサルヲ以テ夙ニ改正ノ議アリ明治二
十八年中司法省ニ民事訴訟法調査委員會設置セラレ其
ノ改正ニ著手シタル處明治三十二年ニ至リ其ノ事業ハ
法典調査會ニ引繼カレ法典調査會ハ明治三十六年改正
草案ヲ脱稿シ其ノ成案ヲ公表シ其ノ年該調査會ハ廢止
セラレタリ其ノ後明治四十年法律取調委員會設置セラ
レ明治四十四年五月同委員會ニ於テ本法ノ改正ニ著手
シ裁判所辯護士會等各方面ノ意見ヲ徵シ法典調査會ノ
起草ニ係ル草案ヲ基礎トシ其ノ審議ヲ進メタルカ大正
八年七月法律取調委員會廢止セラレ之ト同時ニ司法省

改正案理由書

ニ於テ民事訴訟法改正調査委員會ヲ設ケ法律取調委員
會ニ於ケル起案ノ方針ヲ踏襲シ起草ヲ繼續シ慎重審議
ヲ重ネ本案ヲ得タルモノナリ

本案ハ總則、第一審ノ訴訟手續、上訴、再審及督促手
續ノ五編ヨリ成ル而シテ其ノ主眼トスル所ハ現行法中
訴訟遲延ノ原因ト認ムヘキ諸規定ヲ改メ專ラ其ノ圓滑
ナル進捗ト審理ノ適正トヲ圖リタル點ニ存ス今其ノ改
正ノ要點ヲ摘示スレハ左ノ如シ

一 準備手續ノ制度ヲ擴張シ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス
ル訴訟ニ付テハ準備手續ヲ經ルコトヲ原則トセリ而
シテ準備手續ニ於テハ受命判事ハ當事者ヲシテ一切
ノ攻撃防禦ノ方法ヲ提出セシメテ爭點ヲ整理シ之レ
カ解決ニ必要ナル總テノ證據ノ申出ヲ爲サシメ當事
者カ準備手續ニ於テ申出テサル事項ハ訴訟ノ遲延ヲ
來ササル場合又ハ重大ナル過失ナクシテ準備手續中
ニ申出テサリシ場合ノ外之ヲ口頭辯論ニ於テ主張ス

- ルコトヲ得サルモノト爲シ以テ口頭辯論ニ於ケル審理ノ迅速ト適正トヲ期シタルコト
- 二 兩席判決ノ制ヲ廢止シ當事者ノ一方カ口頭辯論期日ニ出頭セサル場合ト雖裁判所ハ其ノ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載シアル事項ヲ斟酌シ出頭シタル當事者ニ辯論ヲ爲サシメ通常ノ判決ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタルコト
- 三 當事者カ合意ニ因リ自由ニ期日ノ變更ヲ爲シ得ルモノトスル現行法ノ規定ヲ改メ濫リニ期日ヲ變更スルノ弊ヲ除キタルコト
- 四 訴力管轄權ヲ有セサル裁判所ニ提起セラレタル場合ト雖之ヲ却下セシテ管轄權アル裁判所ニ移送スルコトトシ又管轄權アル裁判所ニ提起セラレタル場合ト雖當事者ニ著キ損害ヲ生シ又ハ訴訟手續ノ遲滞ヲ來ス虞アル場合ニ於テハ之ヲ他ノ適當ナル管轄裁判所ニ移送スルコトヲ得ルモノト爲シタルコト

- 五 當事者カ故意又ハ重大ナル過失ニ因リ時機ニ後レテ攻撃防禦ノ方法ヲ提出シ之カ爲訴訟ノ完結ヲ遲延セシムヘキ場合ニ於テハ當事者ノ申立ヲ俟タス職權ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得ルモノト爲シタルコト
- 六 法人ニ非サル社團又ハ財團ト雖代表者又ハ管理人ノ定アルモノハ訴訟當事者タルノ能力ヲ有スルモノト爲シ又共同ノ利益ヲ有スル多數ノ者カ當事者ナルトキハ總員ノ爲ニ原告又ハ被告ト爲リ訴訟ノ衝ニ當ル者ヲ選定スルコトヲ得ルモノト爲シタルコト
- 七 訴訟參加ノ制度ヲ擴張シ(一)他人間ノ訴訟ノ目的ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ權利ナリト主張スル者(二)他人間ノ訴訟ノ結果ニ因リ權利ヲ害セラルヘキコトヲ主張スル者(三)訴訟ノ目的カ當事者ノ一方ト合一ニ確定スヘキ地位ニ在ル者ハ何レモ他人間ノ訴訟ニ參加シ得ルモノト爲シ以テ複雑ナル紛争ヲ一度ニ解決シ訴訟ノ多端ニ亘ルノ弊ヲ救ヒタルコト

以上ハ改正ノ主要ナル事項ナルモ其ノ他注意スヘキ改正事項ヲ擧クレハ次ノ如シ

- 一 證書訴訟手續及爲替訴訟手續ハ多年ノ經驗ニ照シ其ノ實益甚タ少ク却テ訴訟關係ヲ複雑ナラシムルノ弊アルヲ以テ之ヲ廢止シタルコト
- 一 不適法ナル訴又ハ上訴ニシテ其ノ欠缺ヲ補正スルコト不可能ナルモノ及上告狀、上告理由書又ハ答辯書等ニ依リ上告ノ理由ナキコト明ナルモノノ却下ノ手續ヲ簡易ニシタルコト
- 一 證據調ハ事情ニ因リ職權ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタルコト
- 一 中斷シタル訴訟手續ノ受繼手續ヲ簡易ニシタルコト
- 一 輕微ナル訴訟ニ付上訴ヲ制限シタルコト
- 一 訴訟ノ繫屬中訴訟ノ目的タル債務ヲ承繼シタル者ノ爲ニ訴訟引受ノ制ヲ設ケタルコト

改正案理由書

- 一 不變期間ヲ懈怠シタル場合ニ於ケル原狀回復ノ手續ヲ簡易ニシタルコト
- 一 判決ハ職權ヲ以テ之ヲ送達スルコトト爲シタルコト
- 一 請求ノ拋棄又ハ認諾ニ付テハ和解ト同シク之ヲ調書ニ記載シタルトキハ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルモノトシ拋棄又ハ認諾ニ基キ特ニ判決ヲ爲スノ必要ナキモノト爲シタルコト
- 一 疏明ノ方法ヲ擴張シ保證金ノ供託又ハ當事者ノ宣誓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルモノト爲シタルコト
- 一 證人忌避ノ制度ヲ廢シ證據採集ノ途ヲ擴張シタルコト
- 一 宣誓ノ式ヲ嚴肅ナラシムヘキ規定ヲ設ケタルコト
- 一 官廳公署法人等ニ鑑定ノ囑託ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲シタルコト
- 一 當事者以外ノ第三者ニ對シテモ證書ノ提出又ハ檢

改正案理由書

- 一 證物ノ提示ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲シタルコト
- 一 當事者宣誓ノ制度ヲ認メタルコト
- 一 當事者雙方控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ認メタルコト
- 一 上訴期間ヲ短縮シタルコト
- 一 再審ニ付現行法ノ取消ノ訴ニ依ルヘキ場合ト原狀回復ノ訴ニ依ルヘキ場合トノ區別ヲ廢シタルコト
- 一 督促手續ニ關スル規定ヲ改メ支拂命令ニ對シ異議ノ申立アリタルトキハ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ之ニ因リ訴訟ハ地方裁判所ニ繫屬シ別ニ訴ノ提起ヲ要セサルモノト爲シ又支拂命令ニ對シ一定ノ期間内ニ異議ノ申立ナク且假執行宣言ノ申立モナキトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失フモノト爲シタルコト

第一編 總 則

第一章 裁判所

第一節 管 轄

本節ノ規定ハ現行法第一編第一章第一節ノ規定ニ相當ス本節ニ於テ現行法ヲ改正シタル要點ハ諸種ノ特別裁判籍ヲ新設シ土地ノ管轄ニ關スル規定ノ緩和ヲ圖リ又管轄違ノ理由ニ因リ訴ヲ却下スルノ主義ヲ改メ管轄違ノ訴ハ之ヲ管轄裁判所ニ移送スルモノト爲シ尙管轄權アル裁判所ニ提起セラレタル訴ト雖他ノ管轄裁判所ニ於テ審理スルコトヲ便宜トスル場合ニ於テハ當事者ノ申立ニ因リ他ノ裁判所ヘ移送スルコトヲ得ルモノト爲シタル等ノ點ナリ

第一條 一 訴ノ管轄

〔理 由〕本條ハ土地ノ管轄ニ關スル原則ヲ定メ訴ハ總テ被告ノ普通裁判籍所在地ヲ管轄スル裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノトスルノ義ヲ明ニセリ(但第二十七條參照)

第二條 一人ノ普通裁判籍

改正案理由書 總則 裁判所 管轄

〔理 由〕本條ハ普通裁判籍ノ所在ヲ定メタル規定ニシテ人ノ普通裁判籍ハ日本ニ住所ヲ有スルトキハ其ノ住所ニ依リ住所ナキトキ又ハ住所ノ知レサルトキハ其ノ居所ニ依リ居所ナキトキ又ハ居所ノ知レサルトキハ日本ニ於ケル最後ノ住所地ニ依リ之ヲ定ムヘキモノトシタリ

第三條 一 大使公使等ノ普通裁判籍

〔理 由〕本條ハ外國ニ在リテ其ノ國ノ裁判權ニ服セサル日本人カ前條ノ原則ニ依リ日本ニ普通裁判籍ヲ有セサル場合ニ付特ニ其ノ者ノ日本ニ於ケル普通裁判籍ヲ定メタル規定ナリ

第四條 一 法人社團財團及國ノ普通裁判籍

〔理 由〕本條第一項ハ法人其ノ他ノ社團又ハ財團ノ普通裁判籍ハ其ノ主タル事務所又ハ營業所ニ依リテ之ヲ定メ事務所、營業所ナキトキハ主タル事務擔當者ノ住所ニ依リテ之ヲ定ムルモノトシ第二項ハ國ノ普通裁判籍ハ夫々當該訴訟ニ付國ヲ代表スル官廳ノ所在ニ依リテ之ヲ定ムルモノトシ第三項ハ外國ノ社團又ハ財團ニ付テハ日本ニ在ル事務所、營業所又ハ事務擔當者ニ依リ第一項ノ原則ニ準據シテ其ノ普通裁判籍ヲ定ムルモ

ノトセリ

第五條 | 履行地ノ特別管轄 |

〔理 由〕本條乃至第二十條ノ規定ハ所謂特別裁判籍ヲ定メタル規定ニシテ本條ニ於テハ財産權上ノ訴ハ總テ義務履行地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルヲ得ルモノトセリ

第六條 | 寄留者ノ特別管轄 |

〔理 由〕本條ニ於テハ寄留者ニ對スル財産權上ノ訴ハ寄留地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ル旨ヲ定ム但シ住所ニ寄留スル者ニ在リテハ寄留地ハ即チ其ノ者ノ普通裁判籍ナルヲ以テ本條ハ專ラ住所外ニ寄留スル者ニ適用セラルルモノトス例ヘハ生徒、雇人等ハ通常本條ノ適用ヲ受クヘシ

第七條 | 軍人軍屬船員等ノ特別管轄 |

〔理 由〕本條ニ於テハ軍人軍屬ニ對スル財産權上ノ訴ハ兵營其ノ他ノ軍事用應舎ノ所在地又ハ軍艦ノ本籍ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノトシ尙船員ニ對スル財産權上ノ訴ハ其ノ乗込船ノ船籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第八條 | 無住所者ノ特別管轄 |

〔理 由〕本條ハ日本ニ住所ヲ有セサル者又ハ住所ノ知レサル者ニ對スル財産權上ノ訴ニ付財産所在地ニ特別裁判籍ヲ認ムルノ規定ニシテ現行法第十七條ト同趣旨ナリ

第九條 | 事務所又ハ營業所ノ特別管轄 |

〔理 由〕本條ハ事務所又ハ營業所ニ於ケル業務ニ關スル訴ニ付テノ特別裁判籍ヲ定ム現行法第十六條ト其ノ趣旨同シ

第十條 | 船舶ノ特別管轄 (一) |

〔理 由〕船舶又ハ航港ニ關シ本條所掲ノ者ニ對スル訴ハ船籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起シ得ルモノトスルヲ便トス依テ新ニ本條ヲ設ケタリ

第十一條 | 船舶ノ特別管轄 (二) |

〔理 由〕本條所掲ノ債權ニ基ク訴ハ強制執行其ノ他ノ關係ニ於テ船舶ノ所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起シ得ルモノト爲スチ便トス依テ本條ヲ新設シタリ

第十二條 | 社員又ハ役員等ノ特別管轄 (一) |

〔理 由〕本條第一項ハ會社其ノ他ノ社團ヨリ社員ニ對スル訴又ハ社員ヨリ社員ニ對スル訴ニシテ社員タル資格ニ基クモノノ特別裁判籍ヲ定メタル規定ニシテ現行法第十九條ト同趣旨ナリ本條第二項ハ社團又ハ財團ヨリ其ノ役員ニ對スル訴又ハ會社ヨリ其ノ發起人又ハ検査役ニ對スル訴ニ關スル規定ニシテ斯ル訴ハ本條第一項ノ訴ト同視スヘキモノナルヲ以テ社團又ハ財團ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ提起シ得ルモノト爲シ現行法ノ不備ヲ補ヒタリ

第十三條 | 社員又ハ役員等ノ特別管轄 (二) |

〔理 由〕會社其ノ他ノ社團ノ債權者ヨリ社員ニ對スル訴ニシテ社員タル資格ニ基クモノハ亦前條ノ訴ニ準スヘキモノナルヲ以テ會社其ノ他ノ社團ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルモノト爲シ現行法ノ不備ヲ補ヒタリ

第十四條 | 社員又ハ役員等ノ特別管轄 (三) |

〔理 由〕會社其ノ他前二條ニ掲ケタル原告ヨリ社員、役員、發起人又ハ検査役ノ資格ヲ有シタル者ニ對スル

訴及社員タリシ者ヨリ社員ニ對スル訴モ亦前二條ノ訴ニ準スヘキモノナルヲ以テ會社其ノ他ノ法人ノ普通裁判籍所在地ノ裁判所ニ之ヲ提起シ得ル旨ヲ明ニセリ

第十五條 | 不法行為又ハ海上事故ト特別管轄 |

〔理 由〕本條第一項ハ不法行為ニ基ク訴ノ特別裁判籍ヲ定メタル規定ニシテ現行法第二十條ト同趣旨ナリ本條第二項ハ船舶ノ衝突ニ基ク損害賠償ノ訴ノ特別裁判籍ヲ定ム此ノ訴ハ不法行為ニ基ク訴ニ外ナラサレハ前項ノ規定ノ適用ヲ受クヘキコトハ勿論ナリト雖船舶カ公海ニ於テ衝突シタル場合ニハ第一項ノ規定ニ依リテハ管轄ヲ定メ難キヲ以テ被害船舶カ最初ニ到達シタル地ノ裁判所ニ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第十六條 | 海難救助ト特別管轄 |

〔理 由〕本條ハ海難救助ニ關スル訴ノ特別裁判籍ヲ定メタルモノニシテ前條ノ規定ト同趣旨ナリ

第十七條 | 不動産ノ特別管轄舊第三十二條 |

〔理 由〕本條ハ不動産ニ關スル訴ノ特別裁判籍ヲ定メタルモノニシテ此ノ訴ノ管轄ヲ專屬的ノモノト爲ササル點ニ於テ現行法第二十二條ト其ノ趣旨ヲ異ニス

第十八條 | 登記又ハ登録ノ訴ト特別管轄 |

〔理 由〕登記又ハ登録ニ關スル訴ハ登記又ハ登録ヲ爲スヘキ地ノ裁判所ニ提起スルコトヲ得ルモノト爲スチ便宜ナリト認メ本條ヲ新設シタリ

第十九條 | 相續ニ關スル訴ト特別管轄(一) |

〔理 由〕本條ハ相續債權、遺留分、遺贈等ニ關スル訴ノ特別裁判籍ヲ定メタル規定ニシテ現行法第二十四條第一項ト其ノ義チ同ク

第二十條 | 相續ニ關スル訴ト特別管轄(二) |

〔理 由〕本條ハ相續債權其ノ他相續財産ノ負擔ニ關スル訴ニシテ前條ニ規定スル以外ノモノノ特別裁判籍ヲ定ム現行法第二十四條第二項ト同趣旨ナリ

第二十一條 | 併合請求ノ訴ト特別管轄 |

〔理 由〕本條ハ併合訴訟ノ管轄ニ關スル規定ニシテ數箇ノ請求ヲ併合シテ一ノ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ其ノ請求ノ一ニ付管轄權ヲ有スル裁判所ハ其ノ訴ニ付管轄權ヲ有スルモノト爲セリ(第二十七條參照)

第二十二條 | 訴訟價額ノ算定方(一) |

〔理 由〕本條及第二十三條ハ裁判所ノ事物ノ管轄ニ關スル規定ナリ本來裁判所ノ事物ノ管轄ハ裁判所構成法第十四條及第二十六條ノ規定スル所ニシテ主トシテ訴訟ノ目的ノ價額ニ依リテ定ル從テ裁判所ノ事物ノ管轄ヲ定ムルニハ訴訟ノ目的ノ價額ニ付其ノ算定方法ヲ規定スルノ必要アリ現行法第二條乃至第五條ハ此ノ點ニ付詳細ナル規定ヲ設クト雖或ハ當然ニシテ規定ヲ俟タサルモノアリ又ハ實際上適切ナラサルモノアルチ以テ本條ハ概括的ニ訴訟ノ目的ノ價額ハ訴ヲ以テ主張スル利益ニ依リテ之ヲ算定スルモノト爲シ又之ヲ算定スルコト能ハサル場合ニ於テハ其ノ價額ヲ千圓ヲ超過スルモノト看做シ地方裁判所ノ管轄ニ屬セシム

第二十三條 | 訴訟價額ノ算定方(二) |

〔理 由〕本條ハ併合訴訟ノ目的ノ價額ノ算定方法ヲ規定シタルモノニシテ現行法第三條第二項及第四條第一項ト同趣旨ナリ

第二十四條 | 管轄裁判所ノ指定 |

〔理 由〕本條ハ管轄裁判所カ裁判權ヲ行フコト能ハサ

ル場合及裁判所ノ管轄區域明白ナラサル爲何レノ裁判所カ裁判權ヲ有スルヤ明ナラサル場合ニ於テ管轄裁判所ノ指定ヲ求ムル手續ヲ定メタル規定ニシテ現行法第二十六條乃至第二十八條ノ規定ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ以上ノ場合ノ外向管轄裁判所ヲ指定シ得ル場合ヲ定ムト雖本案ニ於テハ管轄ニ關スル現行法ノ規定ヲ改メ不動産ノ專屬管轄ヲ止メ且管轄違ノ訴ニ付テモ移送ノ途ヲ設ケタル結果本條列舉ノ場合ノ外向管轄裁判所指定ノ要ナキニ至レリ但シ指定ニ關スル手續ニ付テハ現行法ト其ノ趣旨ヲ異ニセス

第二十五條 | 管轄ノ合意 |

〔理 由〕本條乃至第二十七條ハ所謂管轄ノ合意ニ關スル規定ニシテ本條第一項ハ第一審ニ限り管轄ノ合意ヲ爲シ得ル趣旨ヲ明ニシ第二項ハ其ノ合意ノ要件ヲ定ム現行法第二十九條ノ辭句ヲ修正シタルモノニ止マリ其趣旨ヲ異ニセス

第二十六條 | 管轄ノ暗黙ノ合意 |

〔理 由〕本條ハ現行法第三十條ト同趣旨ナリ

第二十七條 | 管轄ニ關スル制限 |

〔理 由〕本條ハ專屬管轄ノ定アル訴ニ付テハ普通裁判籍、特別裁判籍及合意管轄ニ關スル規定ノ適用ナキ旨ヲ明ニス蓋シ當然ノコトナリ

第二十八條 | 管轄ニ關スル職權調査 |

〔理 由〕管轄ノ適否ハ裁判所ノ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ係ル依テ本條ニ於テハ事物ノ管轄ト土地ノ管轄トチ間ハス苟モ管轄ニ關スル事項ニ付テハ廣ク職權ヲ以テ一切ノ證據調査ヲ爲スコトヲ得ルモノトシタリ

第二十九條 | 管轄ヲ定ムル標準時期 |

〔理 由〕本條ハ裁判所ノ管轄ヲ定ムル時ヲ示シ其ノ事物ノ管轄タルト土地ノ管轄タルトチ間ハス起訴ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ムルモノト爲シタリ

第三十條 | 管轄ニ屬セサル事件ノ移送 |

〔理 由〕本條乃至第三十四條ハ訴ノ移送ニ關スル規定ナリ本條ハ管轄違ノ訴ノ移送手續ヲ定ム抑モ管轄違ノ訴ト雖他ニ管轄權アル裁判所アル以上ハ直ニ却下ヲ爲サスシテ之ニ事件ヲ移送スルチ相當トス依テ本條ニ於テハ現行法第三十條ノ如ク事物ノ管轄違ノ場合ニ限ルコトナク土地ノ管轄ヲ誤リタル訴ト雖總テ之ヲ管轄權

改正案理由書

總則

裁判所 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

三一條—三五條

一三四

アル裁判所ニ移送スヘキモノト爲シタリ

第三十一條 — 管轄ニ屬スル事件ノ移送—

〔理 由〕本條ハ管轄ニ非サル訴ノ移送ニ關スル規定ナリ凡ソ管轄權アル裁判所ニ訴力提起セラレタルトキト雖其ノ裁判所ニ於テ事件ヲ處理セムニハ著キ損害ヲ生シ又ハ訴訟ノ遅延ヲ來ス虞アル場合ナシトセス斯ル場合ニ於テ他ニ適當ナル管轄裁判所アルトキハ之ニ其ノ事件ヲ移送スルノ途ヲ開クハ極メテ適切ノコトナリ是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第三十二條 — 移送ノ裁判ト羈束力—

〔理 由〕本條ハ移送ノ裁判ノ效力ヲ定メ其ノ移送ノ制限ヲ規定ス

第三十三條 — 移送ノ裁判ト不服申立—

〔理 由〕本條ハ移送ノ裁判ニ對スル不服申立ニ關スル規定ニシテ説明ヲ要セス

第三十四條 — 移送ノ裁判ノ效力—

〔理 由〕本條第一項ニ於テ訴訟力移送ヲ受ケタル裁判所ニ初ヨリ繫屬シタルモノト看做シタルハ移送前ニ爲

シタル訴ノ提起其ノ他一切ノ訴訟手續ノ效力ヲ完全ニ保存セムトスルニ在リ第二項ハ記録送付ノ手續ヲ定メタルニ過キス

第二節 裁判所職員ノ除斥、忌

避及回避

本節ハ現行法第一編第一章第五節ニ相當シ大體ニ於テ現行法ト其ノ趣旨ヲ異ニセサルモ除斥ノ原因アル場合ニ於テモ忌避ノ裁判ヲ爲スヘキモノトスル現行法ヲ改メテ除斥ノ裁判ト忌避ノ裁判トヲ截然區別シ尙回避ニ關スル規定ヲ新設シテ除斥又ハ忌避ノ原因アル場合ニ於テハ裁判所ノ職員ハ自ラ其ノ職務ノ執行ヲ避クルコトヲ得ルノ途ヲ開キタルハ改正ノ要點ナリ

第三十五條 — 判事除斥ノ原因—

〔理 由〕本條ハ除斥ノ原因ヲ規定ス大體ニ於テ現行法第三十二條ト其ノ趣旨ヲ同シクス唯第一號ニ於テ妻タリシ者ヲ加ヘ第二號ニ於テ親族ノ範圍ヲ制限シ且親族關係ノ止ミタル場合ヲ加ヘ第三號ニ於テ判事カ當事者ノ同居ノ戸主又ハ家族ナル場合ヲ新ニ除斥ノ原因ト定メ第五號ニ於テ判事カ事件ニ付輔佐人トシテ關係シタ

ル場合ヲ加ヘタルハ現行法ヲ補足シタル點ナリ

第三十六條 — 除斥ノ裁判—

〔理 由〕現行法ノ如ク除斥ノ原因アル場合ニ於テモ忌避ノ裁判ヲ爲スヘキモノト爲スハ適當ニアラサルヲ以テ本案ニ於テハ除斥ノ裁判ト忌避ノ裁判トヲ區別シ前條ニ掲ケタル除斥ノ原因アルトキハ當事者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ除斥ノ裁判ヲ爲スヘキモノト爲シタ

第三十七條 — 判事忌避ノ原因及時期—

〔理 由〕本條ハ忌避ノ原因ヲ規定ス現行法第三十三條ニ所謂偏頗ノ忌避ニ該當ス唯其ノ異ナルハ除斥ト忌避トヲ截然區別シタルノ點ニ在リ

第三十八條 — 除斥又ハ忌避ノ申立ノ要件—

〔理 由〕本條ハ除斥又ハ忌避ノ申立ノ手續ヲ規定ス現行法第三十五條ト其ノ趣旨同シ唯第二項ニ於テ除斥又ハ忌避ノ原因ハ申立ノ日ヨリ三日内ニ之ヲ説明スヘキコトヲ規定シタルハ除斥、忌避ノ裁判ヲ敏速ニシ以テ本訴訟ノ遅延ヲ防止セントスル趣旨ニ出テタルモノナ

第三十九條 — 除斥忌避ノ裁判ト其ノ管轄—

〔理 由〕本條ハ除斥又ハ忌避ノ申立ノ管轄裁判所ヲ規定シ併セテ其ノ裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヘキコトヲ明ニス

第四十條 — 除斥又ハ忌避ノ裁判ト當該判事ノ意見—

〔理 由〕本條ハ判事カ自己ニ對スル除斥又ハ忌避ノ裁判ニ付之ニ關與スルコトヲ得サル旨ヲ規定ス蓋シ當然ノ事理ナリ

第四十一條 — 除斥又ハ忌避ノ裁判ト不服申立—

〔理 由〕本條ハ除斥、忌避ニ付テノ裁判ニ對シテ不服ヲ許スヘキ範圍ヲ定ム

第四十二條 — 除斥又ハ忌避ノ申立ト訴訟ノ停止—

〔理 由〕本條ハ除斥又ハ忌避ノ申立アリタルトキハ之ニ付テノ裁判確定スルニ至ル迄事件ヲ停止スヘキモノタルヲ明ニス尤モ急速ヲ要スル措置ハ例外トシテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ

第四十三條 — 判事ノ回避—

改正案理由書

總則

裁判所 裁判所職員ノ除斥、忌避及回避

三六條—四三條

一三五

〔理 由〕本條ハ回避ニ關スル規定ニシテ判事ニ除斥又ハ忌避ノ原因アル場合ニ於テハ當事者ノ申立ヲ俟ツコトナク判事自ラ職務ノ執行ヨリ避クルコトヲ得ルノ途ヲ開キタリ

第四十四條 —書記ノ除斥忌避及回避—

〔理 由〕本條ハ裁判所書記ニ對スル除斥、忌避及回避ニ關スル規定ニシテ以上判事ニ對スル除斥、忌避及回避ニ關スル規定ニ準スルモノトセリ

第二章 當事者

第一節 當事者能力及訴訟能力

本節ハ現行法第二章第一節ニ相當ス當事者能力及訴訟能力ニ關スル規定ヲ補足シ法人ニ非サル社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管理人ノ定アルモノニ付當事者能力及訴訟能力又共同ノ利益ヲ有スル多數當事者ヲシテ總員ノ爲ニ原告又ハ被告ト爲リ訴訟ノ衝ニ當ル者ヲ選定スルコトヲ得セシメタルハ本節ニ於テ現行法ヲ改正シタル主要ナル點ナリトス

チ新設シタル所以ナリ

第四十八條 —總代人ノ資格喪失ノ場合—

〔理 由〕前條ノ規定ニ依リテ選定セラレタル當事者數名アル場合ニ死亡、解任等ノ事由ニ因リ一部ノ缺員ヲ生スルコトナシトセス斯ル場合ニ必スシモ一々補缺ヲ爲ササルヘカラサルモノトスルノ要ナキヲ以テ現ニ其ノ資格ヲ有スル者ノミニ依リテ訴訟ヲ遂行スルコトヲ得ルモノトセリ但シ補缺ヲ爲スコトヲ妨ケサルハ勿論ナリ

第四十九條 —無能力者ノ訴訟能力(一)—

〔理 由〕本條ハ未成年者及禁治産者ノ訴訟能力ニ關シ民法ノ特例ヲ定メタル規定ニシテ訴訟行爲ニ付テハ自ラ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ認メス一切法定代理人ヲシテ之ヲ代表セシムルヲ要スルモノト爲シタリ但シ未成年者カ民法第六條ノ規定ニ依リテ營業ノ許可ヲ受ケタル如キ場合ニハ獨立シテ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ

第五十條 —無能力者ノ訴訟能力(二)—

〔理 由〕本條ハ準禁治産者、妻又ハ法定代理人ノ訴訟

改正案理由書 總則 當事者 當事者能力及訴訟能力

第四十五條 —當事者ノ資格ト準據法—

〔理 由〕當事者能力及訴訟能力、訴訟無能力者ノ法定代理及訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル特別授權ニ關スル一切ノ事項ハ民法其ノ他ノ實體法規ニ遵據シテ之ヲ定ムヘキモノトシ本案ニ於テハ必要ナル特例ヲ定ムルニ止メタリ

第四十六條 —非法人ノ訴訟資格—

〔理 由〕本條ハ社團又ハ財團ニシテ代表者又ハ管理人ノ定アルモノハ法人ニ非サルモノト雖其ノ名ニ於テ訴訟ノ主體タルコトヲ得ルモノトシ以テ訴訟ノ進行ヲ圓滑ナラシムルコトヲ期ス

第四十七條 —共同訴訟ト總代人—

〔理 由〕訴訟當事者カ多數ナル場合ニハ其ノ手續モ亦繁雜ナラサルヲ得ス然ルニ斯ル場合ニ於テモ例ヘハ入會權ノ訴訟等ニ於ケルカ如ク各當事者カ共同ノ利益ヲ有スルモノナルトキハ其ノ爲スヘキ訴訟行爲ハ大體齊一ニ歸スヘキヲ以テ總員ノ爲ニ原告又ハ被告ト爲ルヘキ者ヲ選定シテ訴訟ヲ遂行スルノ途ヲ開クハ訴訟手續ノ簡捷ヲ圖ル上ニ於テ極メテ適切ノコトナリ是レ本條

行爲ニ關スル規定ナリ民法ニ依レハ準禁治産者又ハ妻カ訴訟行爲ヲ爲スニハ保佐人ノ同意又ハ夫ノ許可ヲ要シ又後見人カ被後見人ヲ代表シテ訴訟行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ要ス然ルニ之等ノ者カ訴訟ヲ受ケタル場合ニ於テハ應訴ヲ爲シテ防禦ノ方法ヲ講スルハ其ノ必然爲ササルヲ得サル所ナルヲ以テ本條第一項ハ斯ル場合ニ於テハ特別ノ授權ヲ必要トセサルモノトセリ、相手方ノ提起シタル上訴ニ付訴訟行爲ヲ爲ス場合モ亦同様トス
第二項ニ列舉スル行爲ハ本人ニ對シ利害ノ關係大ナルヲ以テ準禁治産者、妻又ハ法定代理人カ之等ノ行爲ヲ爲スニハ特別ノ授權ヲ要スルモノト爲シタリ

第五十一條 —外國人ノ訴訟能力—

〔理 由〕本條ハ外國人ノ訴訟能力ニ關スル規定ニシテ現行法第四十四條ト同趣旨ナリ

第五十二條 —授權ヲ證スル書面—

〔理 由〕本條ハ法定代理權又ハ訴訟行爲ヲ爲スニ必要ナル特別授權ノ證明及第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ選定及變更ノ證明ニハ何レモ書面ヲ必要トスル旨ヲ定ム蓋シ證明ノ確實ヲ期セムトスルニ在リ

第五十三條 | 授權ノ欠缺ト其ノ補正 |

〔理 由〕本條ハ訴訟能力、法定代理權又ハ訴訟行為ヲ爲スニ必要ナル特別ノ授權欠缺ノ場合ニ於ケル補正ノ手續ヲ定ム

第五十四條 | 訴訟行為ノ追認 |

〔理 由〕本條ハ訴訟能力ナキ者又ハ代理ノ權限ヲ有セサル者ノ爲シタル訴訟行為ト雖追認ニ因リ初ニ遡リテ其ノ效力ヲ生スルモノタルノ義ヲ明ニセリ

第五十五條 | 總代人ノ訴訟補正及追認 |

〔理 由〕本條ハ第五十三條及前條ノ規定ヲ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ訴訟行為ニ準用セラレヘキ旨ヲ規定ス固ヨリ當然ノコトナリ

第五十六條 | 特別代理人ノ選任及改任 |

〔理 由〕未成年者又ハ禁治産者ニ法定代理人ヲ缺キ其ノ任設後ルルトキ又ハ故障繼續スルトキハ之ニ對シテ訴ヲ起シ其ノ他訴訟行為ヲ爲サムトスルモ能ハス事態停頓ニ陥ルチ免レズ依テ本條ニ於テハ斯ル場合ヲ救済スル爲法定代理人ニ代ルヘキ特別代理人選任ノ途ヲ開

キタリ其ノ趣旨現行法第四十六條ト同シ

第五十七條 | 代理權消滅ノ通知 |

〔理 由〕本條第一項ハ法定代理權ノ消滅シタル場合ニ關スル規定ニシテ權限ノ消滅ハ相手方カ之ヲ知リタル場合ノ外本人又ハ代理人ヨリ之ヲ通知スルニ非サレハ效力ナキモノトセリ

本條第二項ハ第四十七條ノ規定ニ依ル當事者ノ變更ハ法定代理權ノ消滅ト同視スヘキモノナルヲ明ニス

第五十八條 | 法定代理ニ關スル規定ノ準用 |

〔理 由〕本條ハ法人其ノ他法人ニ非スシテ當事者能力ヲ有スル社團又ハ財團ノ代表ニ關スル規定ニシテ之等ノ社團又ハ財團ノ代表ニ付テハ總テ法定代理ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノト爲シタリ

第二節 共同訴訟

本節ハ現行法第二章第二節ニ相當ス大體ニ於テ現行法ト其趣旨ヲ同シクスルモ現行法第五十一條ノ所謂主參加訴訟ハ其性質共同訴訟ニ外ナラサルカ故ニ之ニ關スル規定ヲ本節ニ移シタルコトハ現行法改正ノ要點ナリ

第五十九條 | 共同訴訟ノ要件(一) |

〔理 由〕本條ハ權利義務カ數人ニ共通ナルコト、權利義務ニ因テ發生シタル原因カ同一ナルコト又ハ權利義務及其ノ發生原因カ同種類ナルコトヲ以テ共同訴訟ノ標準トスルモノニシテ現行法第四十八條ト其ノ趣旨同一ナリ

第六十條 | 共同訴訟ノ要件(二) |

〔理 由〕本條ハ現行法第五十一條第一項主參加ノ規定ニ相當ス然ルニ本來此ノ訴ハ性質上共同訴訟ニ外ナラサルカ故ニ規定ヲ本節ニ移シ且其ノ趣旨ヲ明白ニシタ

第六十一條 | 共同訴訟ノ效力 |

〔理 由〕本條ハ共同訴訟ノ當事者ハ訴訟上各自獨立ノ地位ヲ有スルモノタルコトヲ明ニシタルモノニシテ現行法第四十九條ト同趣旨ナリ

第六十二條 | 合一ニ確定スヘキ場合ノ效力(一) |

〔理 由〕訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合一ニ確定スヘキ共同訴訟ニ於テハ判決ハ全員ニ對シ同一

轍ニ出ツルノ要アルヲ以テ前條ノ原則ニ依ルコトヲ得ス是レ本條ノ特別ヲ設ケタル所以ニシテ現行法第五十條ト其ノ趣旨同一ナリ

第六十三條 | 合一ニ確定スヘキ場合ノ效力(二) |

〔理 由〕前條第一項ノ共同訴訟ニ於テハ一人提起シタル上訴ハ他ノ共同訴訟人ニ亦其ノ效力ヲ及ボスモノトス然ルニ共同訴訟中ニ準禁治産者、妻又ハ法定代理人等ノ如キ上訴ニ付特別ノ授權ヲ要スル者存スルトキハ此等ノ者ハ此ノ場合特別授權ヲ要セスシテ上訴ヲ遂行スルコトヲ得ルモノトスルノ要アリ依テ本條ニ於テハ第五十條第一項ノ規定ヲ準用シテ此ノ義ヲ明ニセリ

第三節 訴訟參加

本節ハ現行法第二章第三節ニ相當ス本節ニ於テ現行法ヲ改正シタル要點ハ訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラレヘキコトヲ主張スル第三者又ハ訴訟ノ目的カ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル第三者ハ當事者トシテ直ニ其ノ訴訟ニ參加シ得ルモノト爲シタルコト、訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ訴訟ノ目的タル債務ヲ承繼シタルトキハ當事者ノ申立ニ因リ裁判所ハ其ノ第三者ヲシテ訴訟

チ引受ケシムルコトヲ得ルモノト爲シタルコト並訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ付合ニノミ確定スヘキ共同訴訟ノ場合ニ於テ共同訴訟人タルヘキ者カ訴訟外ニ在ルトキハ其ノ者ハ共同訴訟人トシテ其ノ訴訟ニ參加シ得ルモノト爲シタルコト等ノ點ナリ

第六十四條 — 從參加ノ要件 —

〔理由〕本條乃至第七十條ハ當事者ノ一方ヲ補助スル爲ニ爲ス訴訟參加即チ現行法ノ所謂從參加ニ關スル規定ニシテ本條ハ訴訟ノ結果ニ利害ノ關係アルコトヲ以テ參加ノ要件トス其ノ趣旨現行法第五十三條ニ同シ

第六十五條 — 從參加ノ申出 —

〔理由〕本條ハ參加申出ノ手續ヲ規定ス現行法第五十六條ノ規定ト略其ノ趣旨ヲ同シクシ參加ノ趣旨及理由ヲ具シ參加ニ依リテ訴訟行爲ヲ爲スヘキ裁判所ニ其ノ申出ヲ爲スヘキモノトス現行法ハ從參加ノ申請ハ書面ニ依ルコトヲ必要トスレトモ本案ニ於テハ參加ノ申出ハ口頭ヲ以テモ亦之ヲ爲スコトヲ得(第五百五條第一項)書面ニ依ル申出アリタルトキハ其ノ書面ヲ當事者雙方ニ送達シ(本條第二項)口頭申出ノ場合ハ裁判所書記調書ヲ作り(第五百五條第二項)其ノ調書ノ謄本

又ハ抄本ヲ當事者雙方ニ送達スヘキモノトス(第六百六十四條第二項)

第六十六條 — 從參加ノ異議及裁判 —

〔理由〕本條ハ參加ニ付異議ノ存スル場合ニ於ケル參加ノ許否ニ關スル裁判ノ手續並其ノ裁判ニ對スル不服申立ノ方法ヲ規定シタルモノニシテ現行法第五十七條第一項乃至第三項ト同趣旨ナリ

第六十七條 — 異議申立權ノ喪失 —

〔理由〕當事者カ參加ニ付異議ヲ述ヘスシテ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ陳述ヲ爲シタルトキハ異議ヲ述フル權利ヲ拋棄シタルモノト認メ後日參加ニ付異議ヲ述フルコトヲ得サルモノト爲スヲ相當トス依テ新二本條ヲ設ケテ此ノ義ヲ明ニセリ

第六十八條 — 從參加ノ效力(一) —

〔理由〕參加ニ付異議アル場合ニ於テ參加ヲ許ササル裁判確定シタルトキハ參加人ハ爾後訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論ナリト雖其ノ確定前ニ於テハ異議ニ拘ラス訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトスルハ訴訟進行上最モ便宜トスル所ナリ而シテ結局參加ヲ許ササル

裁判確定シタル場合ト雖其ノ間ニ於ケル參加人ノ行爲ハ畢竟被參加人ノ利益ノ爲ニ爲サレタルモノナルヲ以テ被參加人カ之ヲ援用スルニ於テハ強テ之ヲ無効ニスルノ要ナキノミナラス却テ之ヲ利用セシムルヲ以テ訴訟ノ進行上極メテ有益ナリトス是レ本條ノ要旨ニシテ

第一項ハ現行法第五十七條第四項ニ相當シ第二項ハ現行法上疑義ヲ存シタル點ナリトス

第六十九條 — 從參加ノ效力(二) —

〔理由〕本條ハ參加人ノ爲シ得ヘキ訴訟ノ範圍並其ノ行爲ノ效力ヲ規定ス現行法第五十四條ト同趣旨ナリ

第七十條 — 從參加ノ效力(三) —

〔理由〕從參加人ハ主たる當事者ヲ補助シ一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノナルヲ以テ當事者間ノ判決ハ從參加人ニ對シテモ其ノ效力ヲ及ボスヘキモノトスルチ至當トス然シ本條掲載ノ場合ハ或ハ主たる當事者ノ故意又ハ過失ニ因リ或ハ少クモ從參加人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ十分ニ攻撃防禦ノ方法ヲ講スルコト能ハサリシモノナルヲ以テ爲ニ不利益ナル判決ヲ受ケタル場合ニ於テモ之ニ判決ノ效力ヲ及ボスヘキモノトスルハ相當ナラス是レ本條ノ趣旨ニシテ現行法第

五十五條ト略相同シ

第七十一條 — 主參加ト其ノ要件 —

〔理由〕本條ハ一ノ訴訟ノ繫屬中其ノ當事者雙方ヲ相手方トシテ獨立セル當事者トシテ訴訟ニ參加スルコトヲ認メタル規定ニシテ本條ノ參加ハ他人間ノ訴訟ノ結果ニ因リテ權利ヲ害セラルヘキコトヲ主張スル者(例ハ債權者カ債權者ヲ詐害スル他人ト共謀シテ訴訟ヲ提起セシメタルカ如キ場合)又ハ他人間ノ訴訟目的タル權利カ自己ノ權利ナルコトヲ主張スル者(例ハ自己ノ所有物ニ付他人間ニ其ノ所有權ニ關スル訴訟カ繫屬セルカ如キ場合)之ヲ爲スコトヲ得、而シテ本條ノ參加アリタル場合ニ於テハ裁判所ハ一個ノ判決ヲ以テ三個ノ當事者間ノ關係ヲ確定スヘキモノナルニ依リ第六十二條ノ規定ヲ準用シタリ、現行法第五十一條ニ依レハ第三者ハ所謂主參加訴訟ヲ提起シ得ルニ止マルト雖斯ル場合ニ當事者トシテ直ニ他ノ訴訟ニ參加スルコトヲ認ムルハ訴訟經濟上最モ必要ナル所ナルヲ以テ本條ヲ新設シタリ

第七十二條 — 當事者ノ脱退及其ノ效力 —

〔理由〕前條ノ規定ニ依リ自己ノ權利ヲ主張スル爲訴

訟ニ參加シタル者アル場合ニ於テハ被參加人ハ其ノ訴訟ヲ遂行スルノ實益ナキ場合アリ例ヘハ所有物返還ヲ求ムル訴訟ノ繫屬中第三者カ所有權ヲ主張シタルトキ原訴訟ノ被告カ參加人ノ主張ヲ正當ナリト爲ス場合ノ如シ斯ル場合ニ於テハ被參加人カ相手方ノ承諾ヲ得ルニ於テハ其ノ訴訟ヨリ脱退スルコトヲ得ルモノト爲スヲ適當トス但シ該訴訟ノ判決ハ脱退シタル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ及ホスヘキモノタルハ勿論ナリ是レ本條ノ規定ヲ新設シタル所以ナリ

第七十三條 | 訴訟中ノ權利讓受ト主參加 |

〔理由〕 第三者カ第七十一條ノ規定ニ依リ當事者トシテ他人間ノ訴訟ニ參加シタル場合ニ於テハ時効ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守ハ參加ヲ爲シタル時ヨリ其ノ效力ヲ生スルチ本則トス然レトモ訴訟ノ繫屬中其ノ目的タル權利ヲ承繼シタルコトナ理由トシテ參加ヲ爲シタル場合ニ於テハ該訴訟ノ繫屬ノ初ニ週リテ時効ノ中斷又ハ法律上ノ期間遵守アリタルモノト爲スニ非サレハ承繼人ノ權利ヲ保護スルニ十分ナラサルチ以テ特ニ本條ノ規定ヲ新設シタリ

第七十四條 | 訴訟中ノ債務承繼ト訴訟ノ引受 |

別ニ説明ヲ要セス

第七十八條 | 訴訟告知ノ效力 |

〔理由〕 訴訟ノ告知ハ第三者ニ對シ參加ノ機會ヲ與フルニ止マリ告知ヲ受ケタル者ハ必スシモ參加ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非ス然シ第六十四條ノ規定ニ依リテ參加ヲ爲シ得ル者カ告知ヲ受ケ而モ事實上參加ヲ爲シ得タルニ拘ラス參加セザリシ場合ニ於テハ現ニ參加ヲ爲シタル者ト同視シ第七十條ヲ適用シテ之ニ判決ノ效力ヲ及ホスヘキモノトスルチ相當トス本條ハ此ノ趣旨ヲ明ニシタリ

第四節 訴訟代理人及輔佐人

本節ハ現行法第二章第四節ニ相當ス本節ニ於テ現行法ヲ改正シタル要點ハ辯護士ニ非サル者ノ訴訟代理ヲ制限シ數人ノ訴訟代理人アル場合ニ於ケル各自代表ノ制ヲ定メ竝訴訟代理權ハ本人ノ死亡等ニ因リテハ消滅セサルモノト爲シタルノ點ニ在リ

第七十九條 | 訴訟代理人タリ得ル者 |

〔理由〕 本條ハ訴訟代理人ノ資格ヲ定メ支配人又ハ船

改正案理由書 總則 當事者 訴訟代理人及輔佐人

〔理由〕 訴訟ノ繫屬中第三者カ其ノ目的タル債務ヲ承繼シタル場合ニ於テハ承繼人ヲシテ其ノ訴訟ヲ引受ケシメ前主タル當事者ヲ訴訟ヨリ脱退セシムルチ適當トスル場合アリ本條ハ其ノ手續竝脱退シタル當事者ニ對スル判決ノ效力ヲ定ム

第七十五條 | 權利關係ノ合一ニ基キ參加 |

〔理由〕 訴訟ノ目的カ共同訴訟人ノ全員ニ合一ニノミ確定スルコトヲ必要トスル共同訴訟タルヘキ訴訟ニ於テ共同訴訟人ト爲ルヘキ者カ訴訟ニ關與シ居ラサル場合アリ斯ル場合ニ於テハ其ノ者ヲ共同訴訟人トシテ該訴訟ニ參加セシムルコトヲ得ルモノト爲スチ便宜トスルチ以テ本條ヲ新設シタリ

第七十六條 | 訴訟ノ告知 |

〔理由〕 本條ハ訴訟告知ノ要件ヲ定メタル規定ニシテ現行法第五十九條ノ規定ハ狭キニ失スルチ以テ之ヲ修正シ訴訟參加ヲ爲シ得ル者ニ對シテハ總テ訴訟告知ヲ爲シ得ルモノト爲シタリ

第七十七條 | 訴訟告知ノ書面 |

〔理由〕 本條ハ訴訟告知ノ手續ヲ定メタル規定ニシテ

長ノ如ク法令ニ依リテ訴訟代理ヲ爲スコトヲ認メラレタル者ヲ除キテハ辯護士ニ非サレハ訴訟代理人タルコトヲ得サルモノト爲シ唯例外トシテ辯護士ニ非サル者ハ區裁判所ニ於テ特ニ許可ヲ得タル場合ニ限り訴訟代理人トナルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第八十條 | 訴訟代理權ノ證明 |

〔理由〕 本條ハ訴訟代理權ノ證明ニ關スル規定ニシテ別ニ説明ヲ要セス

第八十一條 | 訴訟代理人ノ權限 |

〔理由〕 本條ハ訴訟代理權ノ範圍ノ規定ニシテ第一項ハ訴訟代理權ノ當然ノ範圍ヲ定メ第二項ハ特別委任ヲ要スル事項ヲ規定ス現行法第六十五條ト略其ノ趣旨ヲ同シク本條第三項ハ現行法第六十六條ト同趣旨ナリ

第八十二條 | 法令ニ依ル代理人ノ權限 |

〔理由〕 現行法第六十七條ハ數人ノ訴訟代理人カ共同シテ代理權ヲ行フコトヲ定ムルモ如此ハ強テ其ノ必要ナキノミナラス却テ訴訟手續ノ敏捷ナル進行ヲ阻礙スル弊アルチ以テ本條ハ之ヲ改メ各自當事者ヲ代表スルモノトセリ

第八十三條 — 訴訟代理人數人ノ場合—

〔理 由〕支配人又ハ船長ノ如ク法令ニ依リ訴訟代理ヲ爲シ得ヘキ者ハ其ノ權限ノ範圍及權限行使ノ方法モ亦法令ニ依リ定ルモノナルヲ以テ此等ノ訴訟代理人ノ代理權ニ付テハ前二條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス本條ハ其ノ趣旨ヲ明白ニシタリ

第八十四條 — 訴訟代理人陳述ノ效力—

〔理 由〕本條ハ現行法第六十八條第二項ト同趣旨ナリ同條第一項ニ規定スル所ハ代理ノ性質上當然ノコトナリ

第八十五條 — 訴訟代理權ノ消滅(一)—

〔理 由〕現行法第六十九條第一項ノ規定ニ依レハ訴訟代理權ハ當事者ノ死亡、訴訟能力若ハ法律上代理ノ變更ニ因リテ消滅スルモノトシ而モ相手方ニ對シテハ之ヲ通知スル迄ハ消滅ノ效果ヲ生セサルモノトセリ然レトモ如此ハ徒ニ錯雜ヲ生スルノミナラス本來訴訟代理權ハ此等ノ事由ニ因リテハ消滅セサルモノト爲ステ訴訟ノ進捗上當テ得タルモノトス仍テ本條ニ於テハ當事者ノ死亡其ノ他本條列舉ノ事由ハ訴訟代理權ノ消滅ヲ

來タササルモノタルコトヲ明ニセリ

第八十六條 — 訴訟代理權ノ消滅(二)—

〔理 由〕本條ハ一定ノ資格ヲ有スル者其ノ資格ヲ有スル故ヲ以テ自己ノ名ニ於テ他人ノ爲訴訟ノ當事者ト爲リタルモノノ訴訟代理人ノ代理權ハ本人タル當事者カ資格ヲ喪失スルモ之カ爲消滅セサルコトヲ明ニシ第四十七條ノ規定ニ依リテ選定セラレ原告又ハ被告ト爲リタル者ノ訴訟代理人ノ代理權亦之ニ準スヘキモノト定ム蓋シ前條ト同趣旨ニ出ツ

第八十七條 — 訴訟代理ト準用條文—

〔理 由〕本條ハ法定代理ニ關スル第五十三條第二項(代理權ヲ證スル書面ニ關スル規定)第五十四條(代理權ノ欠缺補正ニ關スル規定)第五十五條(無權代理行爲ノ追認ニ關スル規定)及第五十七條(代理權消滅ノ場合ノ通知ニ關スル規定)ハ訴訟代理ニ之ヲ準用スヘキモノト爲ス蓋シ以上ノ事項ニ付テハ訴訟代理ハ法定代理ト同一ニ取扱フヘキモノナルヲ以テナリ

第八十八條 — 輔佐人ニ關スル規定—

〔理 由〕本條ニ於テハ現行法第七十一條ヲ擴張シ訴訟

代理人モ亦輔佐人ヲ伴フコトヲ認ム蓋シ專門的事項ノ陳述等ニ於テ屢其ノ必要ヲ感スル所ナリ

第三章 訴訟費用

第一節 訴訟費用ノ負擔

本節ハ現行法第二章第五節ニ相當ス本節ニ於テ現行法ヲ改正シタル主要ナル點ハ現行法ハ當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ノ額ハ常ニ訴訟費用確定決定ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノト爲シタレトモ訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ於テ之カ額ヲ決定シ得ル場合アルヲ以テ本案ニ於テハ斯ル場合ニ於テハ直ニ其ノ額ヲ定メ得ルモノト爲シ手續ヲ簡略ニシタルコト及和解ノ場合其ノ他訴訟カ裁判ニ因ラスシテ完結シタル場合ニ於テ適當ナル標準ニ依リ訴訟費用ノ額ヲ定メ其ノ負擔ヲ命スル裁判ヲ爲スノ手續ヲ規定シタルコト等ノ點ナリ

第八十九條 — 訴訟費用ノ負擔者—

〔理 由〕本條ハ訴訟費用ノ負擔ニ關スル原則ニシテ敗訴者カ訴訟費用ヲ負擔スヘキモノタルコトヲ定ム現行法第七十二條第一項ト同趣旨ナリ

第九十條 — 勝訴者ト訴訟費用—

〔理 由〕抑モ勝訴者ノ主張シタル攻撃防禦ノ方法ハ勝訴ノ結果ヨリ見テ總テ必要ナリシモノト云フヘキカ如シト雖具體的ニ觀察スルトキハ必ラスシモ無益ナルモノナシトモ又敗訴者ノ攻撃防禦ノ方法ハ敗訴ノ結果ヨリ見レハ結局無益ニ歸シタルモノト云フヘキカ如シト雖其ノ方法ヲ主張シタル當時ノ訴訟ノ程度ニ於テハ必要已ムテ得サリシモノナキニ非ス例ヘハ債權ノ訴ニ於テ債權ヲ否認シタル被告カ原告ノ立證後ニ債權ノ存在ヲ認メ同時ニ相殺ノ抗辯ヲ提出シテ勝訴トナリタル場合ニ於テハ債權立證ノ方法ハ被告カ債權ヲ否認シタル訴訟ノ程度ニ於ケル處置トシテハ必要ナル方法ト云ハサルヘカラス以上二ノ場合ニ於ケル攻撃防禦ノ方法ニ因リテ生シタル費用ハ前條ノ原則ニ依リ敗訴ノ一事ヲ以テ悉ク之ヲ敗訴者ノ負擔トスルハ相當ニ非サルヲ以テ本條ニ於テハ裁判所ハ事情ヲ考量シテ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ勝訴者ニ負擔セシムルコトヲ得ルモノトセリ

第九十一條 — 勝訴者ト訴訟費用ノ負擔(二)—

〔理 由〕本條ハ勝訴者ト雖過失ニ因リテ訴訟ヲ遲延セシメタルトキハ之ニ因リテ生シタル費用ヲ負擔スヘキ

モノタルコトヲ明ニシタルモノニシテ現行法第七十五條ニ相當ス

第九十二條 一部敗訴ト訴訟費用

〔理 由〕本條ハ一部勝訴ノ場合ニ於ケル訴訟費用ノ負擔方法ヲ規定シタルモノニシテ現行法第七十三條ノ辭句ヲ修正シタルニ止マル

第九十三條 共同訴訟ト訴訟費用

〔理 由〕本條ハ共同訴訟ノ場合ニ於ケル訴訟費用ノ負擔方法ヲ規定シタルモノニシテ現行法第八十條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第九十四條 參加ニ因ル訴訟費用

〔理 由〕本條ハ訴訟參加ノ場合ニ於ケル訴訟費用ノ負擔方法ヲ定メタル規定ニシテ前段ハ參加人ト異議ヲ述ヘタル當事者トノ間ニ於ケル異議ニ付テノ費用ニ關シ後段ハ參加人ト被參加人ト相手方トノ間ニ於ケル本訴訟ノ費用ニ關ス現行法第八十一條ト同趣旨ナリ

第九十五條 訴訟費用ノ裁判

〔理 由〕本條ハ訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ニ關スル

規定ニシテ現行法第二百三十一條第二項ノ規定ヲ修正シタルモノナリ現行法ハ終局判決ヲ爲ス場合ニ於テ此ノ裁判ヲ爲スヘキモノト規定スレトモ訴訟費用ノ負擔ハ判決以外ノ裁判ヲ以テ事件ヲ完結スル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ要シ又中間判決ヲ爲ス場合ニ於テモ其ノ裁判ヲ爲スニ適當トスル場合アルヲ以テ本條ハ其ノ趣旨ヲ明ニス

第九十六條 上訴費用ノ裁判

〔理 由〕本條ハ上級裁判所カ本案ノ裁判ヲ變更スル場合及事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所カ事件ヲ完結スル場合ニ於テ其ノ事件ノ總費用ニ付裁判ヲ爲スヘキコトヲ定メタルモノニシテ現行法第七十八條第一項ト同趣旨ナリ同條第二項ハ本案第九十條ニ當然包含セラル

第九十七條 和解ノ場合ト訴訟費用

〔理 由〕本條ハ和解ノ場合ニ於ケル費用ノ負擔方法ヲ定メタル規定ニシテ其ノ趣旨現行法第七十九條ト同シ

第九十八條 當事者以外ノ者ト費用ノ負擔

〔理 由〕法定代理人其ノ他本條第一項掲記ノ者カ故意

又ハ過失ニ因リテ無用ノ費用ヲ生セシメタルトキハ其ノ費用ヲ負擔シタル當事者ハ之ニ對シテ其ノ償還ヲ請求シ得ルハ勿論ナリ本條第一項ハ其ノ請求權ノ實行ヲ簡易ニスルヲ相當ト認メ決定ヲ以テ費用額ノ償還ヲ命スルコトヲ得ルモノトセリ其ノ趣旨現行法第八十三條第一項ト同シ又第二項ノ場合ニ於テハ權限ナキ代理人ノ訴訟行為ハ結局無効ニ歸スルヲ以テ之ニ因リテ生シタル費用ノ償還ニ付テハ第一項ノ場合ニ準スヘキモノトス依テ新ニ第二項ノ規定ヲ設ケタリ

第九十九條 當事者以外ノ者ト費用ノ負擔

〔理 由〕前條第二項ノ場合ニ於テ訴ヲ却下シタルトキハ其ノ費用ハ之ヲ當事者ニ負擔セシムヘキ筋合ニ非サルヲ以テ直ニ代理人トシテ訴訟行為ヲ爲シタル者ニ負擔セシムルヲ適當トス仍テ本條ハ此ノ趣旨ヲ明ニシタリ

第一百條 訴訟費用額確定ノ裁判手續

〔理 由〕本條乃至第二百二條ハ事件カ裁判ニ因リテ完結シタル場合ニ於ケル訴訟費用額確定ノ手續ヲ規定シタルモノナリ
現行法第八十四條ハ當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ノ額

ヲ確定スルハ常ニ第一審ノ受訴裁判所ノ決定ニ依ルヘキモノト爲セトモ本條ハ事件ヲ終局スル裁判ニ於テ訴訟費用ノ負擔ヲ命スルニ當リ其ノ額ノ明白ナルモノニ付テハ同時ニ其ノ額ヲ定メ之カ負擔ヲ命スルコトヲ得ルモノナルコトヲ明ニスルト同時ニ其ノ額ヲ定メザリシ場合ニ於テハ第一審ノ受訴裁判所申立ニ因リ費用額確定ノ決定ヲ爲スヘキモノナルコトヲ明ニス但シ其ノ申立手續並確定決定ニ對スル不服ノ申立方法ニ付テハ現行法第八十四條及第八十五條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第一百一條 訴訟費用額確定ノ裁判手續

〔理 由〕本條及第二百二條ハ當事者雙方カ訴訟費用ヲ分擔スヘキ場合ニ於ケル費用額確定ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ本條ハ現行法第八十六條ト同趣旨ナリ

第一百二條 各當事者ノ負擔額ノ相殺

〔理 由〕當事者雙方カ訴訟費用ヲ分擔スヘキ場合ニ於テハ各當事者ノ負擔スヘキ費用ハ互ニ相殺シタルモノト看做シ其ノ差額ニ付テノミ決定ヲ爲スヘキモノトスルヲ便宜トス但シ前條第二項ノ場合即チ相手方カ費用計算書及疏明書類ヲ提出セザルトキハ本條ヲ適用スヘ

キモノニ非サルハ勿論ナリ其ノ結果書面ノ提出ヲ意リタル相手方ハ本條ニ依リ相殺ノ取扱ヲ受クルノ利益ヲ失フコトトナルヘシ

第三百三條 — 和解ノ場合ト費用額ノ裁判 —

〔理 由〕 和解ノ當事者カ訴訟費用ノ負擔ヲ定メ未タ其ノ數額ヲ定メサル場合アリ斯ル場合ニ於テハ其ノ數額ハ裁判所ニ於テ之ヲ確定スル必要アリ是レ本條ノ規定ヲ新設シタル所以ナリ

第三百四條 — 取下其他ノ場合ト費用額ノ裁判 —

〔理 由〕 訴ノ取下、請求ノ拋棄、認諾等ノ事由ニ依リ訴訟方終了シタル場合ニ於テモ當事者ノ負擔スヘキ訴訟費用ノ額ハ第八十九條乃至第九十四條、第一百條第二項第三項及第一百二條ノ趣旨ニ準據シテ之ヲ定ムルヲ相當トス本條ハ其ノ趣旨ヲ規定ス

第三百五條 — 訴訟費用額ノ計算 —

〔理 由〕 本條ハ訴訟費用額ノ計算ハ裁判所書記ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ル旨ヲ定ム現行法第八十五條第二項ノ規定ト趣旨ナリ

第三百六條 — 訴訟費用ノ豫納 —

〔理 由〕 本條ハ訴訟費用ノ豫納ニ關スル規定ニシテ現行法ハ證據調ノ法則中ニ其ノ規定ヲ設クト雖(第二百八十八條)當事者カ訴訟費用ヲ豫納スヘキ場合ハ證據調ノ費用ニ限ラサルヲ以テ其ノ規定ハ本節中ニ移スト相當ト認メ本條ノ規定ヲ設ク

第二節 訴訟費用ノ擔保

本節ハ現行法第六節ニ相當ス現行法ハ訴訟費用ノ保證ハ外國人ニ限リ之ヲ命スト雖外國人ニシテ日本ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ニ付テハ保證ヲ立テシムルノ必要ナク又日本人ニテモ日本ニ住所、營業所等ヲ有セサル場合ニ於テハ之ヲ立テシムルヲ相當トスルヲ以テ本案ハ原告ノ國籍ノ如何ヲ問ハス日本ニ住所、事務所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ訴訟費用ニ付擔保ヲ供スルノ義務アルモノトシ又現行法ハ保證ノ取消等ニ付規定ヲ缺クテ以テ之ヲ補足シタルコト等ハ主要ナル點ナリトス

第三百七條 — 外國人ノ訴ト訴訟費用ノ擔保 —

〔理 由〕 本條ハ訴訟費用ニ付原告カ擔保ヲ供スヘキ場

合ナ規定ス其ノ趣旨ハ本節ノ冒頭ニ於テ説明シタル所ナリ

第三百八條 — 擔保提供申立權ノ喪失 —

〔理 由〕 本條ノ場合擔保ノ申立ヲ爲サシテ進テ本案ノ辯論ヲ爲シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタル被告ハ爾後擔保ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトスルヲ相當トス本條ハ其ノ趣旨ヲ規定ス現行法第二百六條(第五)ト略相同シ

第三百九條 — 擔保提供申立ノ效力 —

〔理 由〕 本條ハ擔保ノ申立ヲ爲シタル被告ハ原告カ擔保ヲ供スル迄應訴ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス是レ其ノ被告ヲ保護スル爲當然ノコトナリ

第四百十條 — 擔保提供ニ付テノ裁判 —

〔理 由〕 本條ハ擔保ヲ命スル手續ニ關スル規定ニシテ第二項ハ各審級ノ費用ヲ併セタル總額ヲ標準トスヘキコトヲ明ニス現行法第八十九條第一項第二項及第九十條第一項ノ規定ト趣旨ナリ

第四百十一條 — 擔保提供ノ裁判ト不服申立 —

〔理 由〕 本條ニ於テ即時抗告ヲ定メタルハ擔保ノ申立ニ關スル爭ヲ敏速ニ解決シ以テ本案訴訟ノ進行ヲ促進セムカ爲ナリ

第四百十二條 — 擔保物ノ種類 —

〔理 由〕 本條ハ擔保提供ノ方法ヲ規定ス其ノ趣旨現行法第八十七條ト異ナラス

第四百十三條 — 擔保物ニ對スル優先權 —

〔理 由〕 前條ノ規定ニ依リテ供託セラレタル擔保物ニ付被告カ如何ナル權利ヲ有スルヤハ現行法上疑義ヲ免レサル所ナリ仍テ本條ヲ以テ之ヲ明確ニシタリ

第四百十四條 — 擔保不提供ノ效果 —

〔理 由〕 本條ハ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者カ其ノ命ニ從ハサリシ場合ニハ裁判所ハ訴却下ノ判決ヲ爲スヘキコトヲ規定ス蓋シ當然ノ事項ナリ

第四百十五條 — 擔保ノ取消ト其ノ裁判 —

〔理 由〕 本條ハ擔保ヲ供スヘキ事由ノ消滅シタル場合ニ於ケル擔保取消ノ手續ヲ規定ス現行法ノ不備ヲ補足シタル規定ナリ

第一百十六條 | 擔保物ノ變換 |

〔理 由〕本條ハ擔保ノ變換ノ手續ヲ規定ス亦現行法ノ不備ヲ補足シタルモノナリ

第一百十七條 | 本邦人ノ訴ト法令ニ依ル擔保 |

〔理 由〕他ノ法令(例ヘハ商法第六十三條ノ三)ニ依リ原告カ訴ノ提起ニ付擔保ヲ供スヘキ義務アル場合アリ現行法ニ於テハ此ノ場合ノ擔保ニ付何等ノ規定ナキヲ以テ疑義ヲ免レス仍テ本條ニ於テハ前八條ノ規定ニ準シテ之ヲ處理スヘキモノタルコトヲ明ニシタリ

第三節 訴訟上ノ救助

本節ハ現行法第七節ニ相當ス現行法ニ於テハ外國人ニ對スル訴訟上ノ救助ハ相互ノ條件アルコトヲ必要ト爲セトモ本案ハ斯ル制限ヲ撤廢スルヲ相當ト爲シ其ノ規定ヲ削除シタルコトハ本節ニ於テ現行法ノ規定ヲ改正シタル要點ナリ

第一百十八條 | 訴訟上ノ救助ト其ノ要件(一) |

〔理 由〕本條ハ訴訟上ノ救助ヲ付與スヘキ場合ヲ規定

ス其ノ趣旨現行法第九十一條ト同シ

第一百十九條 | 訴訟上ノ救助ト其ノ要件(二) |

〔理 由〕本條第一項ハ訴訟上ノ救助ハ審級毎ニ各別ニ之ヲ與フヘキモノナルコトヲ規定ス現行法第九十四條第一項ト略其ノ趣旨ヲ同シク本條第二項ハ救助ノ事由ハ之ヲ疏明スヘキモノトシ事由ノ證明ニ關スル現行法ノ煩雜ナル手續ヲ改メタリ

第一百二十條 | 訴訟上ノ救助ノ效力(一) |

〔理 由〕本條ハ訴訟上ノ救助ノ效力ヲ規定ス現行法第九十七條第一項ト同趣旨ナリ

第一百二十一條 | 訴訟上ノ救助ノ效力(二) |

〔理 由〕本條モ亦訴訟上ノ救助ノ效力ニ關スル規定ニシテ救助ハ之ヲ受ケタル者ニ限り承繼人ノ爲ニ其ノ效力ナキコトヲ明ニス現行法第九十六條ト其ノ趣旨ヲ異ニセス

第一百二十二條 | 訴訟上ノ救助ノ取消 |

〔理 由〕本條ハ訴訟上ノ救助取消ニ關スル規定ニシテ現行法第九十五條及第百條ト其ノ趣旨ヲ異ニセス

第一百二十三條 | 救助費用徵收ノ方法 |

〔理 由〕救助ヲ受ケタル者ノ相手方カ訴訟費用ノ負擔ヲ命セラレタル場合ニ於テハ救助ヲ受ケタル者ニ一時猶豫シタル費用ハ相手方ヨリ直接ニ取立ツルコトヲ得ルモノト爲スノ必要アリ辯護士又ハ執達吏ハ此ノ場合ニ於テハ其ノ報酬又ハ立替金ニ付救助ヲ受ケタル者ノ得タル債務名義ニ依リ費用額ノ確定決定ヲ得之ニ基キテ相手方ヨリ之ヲ取立ツルヲ得ルモノト爲スチ便宜トス是レ本條ノ規定スル所ニシテ現行法第九十九條ト同趣旨ナリ

第一百二十四條 | 救助ニ關スル裁判ト不服申立 |

〔理 由〕本條ハ救助ノ申立ニ關スル裁判、救助取消ノ裁判又ハ猶豫シタル費用ノ支拂ヲ命スル裁判等本節ニ規定スル裁判ニ對スル不服ノ申立ハ總テ即時抗告ニ依ルヘキモノトシ以テ救助ニ關スル争ノ敏速ナル解決ヲ期ス

第四章 訴訟手續

第一節 口頭辯論

第一百二十五條 | 訴訟審理ノ方式 |

本節ハ現行法第三章第一節ニ相當ス當事者ノ一方カ期日ニ出頭セサル場合ニ於テモ開席判決ヲ爲サスシテ訴訟ノ進行ヲ圓滑ナラシムル爲規定ヲ設ケタルコト、訴訟手續ノ遲延ヲ防止スル爲口頭辯論期日前ニ於テモ裁判長ハ釋明權ヲ行使スルコトヲ得ルモノト爲シタルコト、時機ニ後レテ提出セラレタル攻撃防禦ノ方法又ハ其ノ意義不明ナル攻撃防禦ノ方法ハ職權ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得ルモノト爲シタルコト並責問權拋棄ニ關スル規定ヲ新設シテ現行法ノ不備ヲ補ヒタルコト等ハ本節ニ於テ現行法ヲ改正シタル主要ナル點ナリトス

〔理 由〕本條ハ訴訟手續ノ原則ヲ定メタル規定ニシテ訴訟ニ於テハ當事者ハ口頭辯論ヲ爲スヘキモノタルコトヲ本則トシ唯決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テハ口頭辯論ヲ爲スヘキヤ否ヤハ裁判所ノ裁量ニ依ラシム又口頭辯論ヲ爲サスシテ決定ヲ爲ス場合ニ於テハ當事者ヲ審訊シ得ヘキモノトセリ第三項ハ以上ノ原則ニ對シ各本條ニ於テ特例ヲ設ケタル場合ニハ其ノ特例ニ依ラシムヘキコトヲ明ニス例ヘハ第二百二條、第三百八十四條、第四百一條、第七十四條第二項及第四百三十四條第一項等ノ如シ

第二百二十六條 — 辯論ノ指揮 —

〔理 由〕本條ハ口頭辯論ノ指揮ニ關スル規定ニシテ現行法第九條第一項及第二項ト同趣旨ナリ

第二百二十七條 — 訴訟關係ノ釋明 —

〔理 由〕本條ハ裁判長、陪席判事及當事者ノ釋明權ヲ規定シタルモノニシテ現行法第一百十二條第二項乃至第四項ノ規定ト同趣旨ナリ

第二百二十八條 — 訴訟關係ノ釋明(二) —

〔理 由〕現行法ニ於テハ口頭辯論期日前ニ豫メ釋明權ヲ行使シ當事者ヲシテ準備ヲ爲サシムル途ナカリシヲ以テ本條ヲ新設シ豫メ釋明スヘキ事項ヲ指示シテ當事者ヲシテ其ノ準備ヲ爲サシメ以テ訴訟手續ノ促進ヲ圖レリ

第二百二十九條 — 辯論指揮ニ關スル裁判 —

〔理 由〕本條ハ訴訟指揮ノ命令、釋明權ノ行使等ニ對スル異議ニ付テノ裁判ニ關スル規定ニシテ現行法第一百三條ノ規定ト同趣旨ナリ

第三十條 — 受命判事ノ指定並ニ裁判所ノ囑託 —

〔理 由〕現行法ハ準備手續ニ關スル第二百六十七條、證據調ニ關スル第二百七十八條ニ受命判事ニ關スル規定ヲ置キタレトモ本案ハ通則トシテ之ヲ規定スル適當トシ第一項ヲ新設シタリ、又本案ニ於テハ第三百三十一條第一項第五號、第三百十條、第三百十九條、第三百二十八條及第三百三十五條等ニ於テ裁判所カ各種ノ囑託ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルカ故ニ此等囑託ノ手續ニ付通則ヲ設クル必要アリ仍テ第二項ヲ新設シタリ

第三十一條 — 裁判所ノ處分權 —

〔理 由〕本條ハ訴訟關係ヲ明瞭ナラシムル爲裁判所ノ爲シ得ヘキ處分ヲ定ム現行法第一百四條乃至第一百七條ノ規定ヲ整理シ且之ヲ補足シタルモノナリ(本條第一項第三號及第五號)

第三十二條 — 辯論ノ制限、分離及併合 —

〔理 由〕本條ハ訴訟指揮ニ關スル裁判所ノ權限ヲ規定シタルモノニシテ現行法第一百八條乃至第二十條及第二百二十三條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第三十三條 — 辯論ノ再開 —

〔理 由〕本條ハ口頭辯論ノ再開ニ關スル規定ニシテ現行法第二百二十四條ノ規定ト同趣旨ナリ

第三十四條 — 通事ノ立會 —

〔理 由〕本條ハ通事ニ關スル規定ニシテ現行法第一百五條及第二百二十六條ト同趣旨ナリ

第三十五條 — 裁判所ノ秩序維持權 —

〔理 由〕本條ハ當事者、代理人又ハ輔佐人ニ對スル陳述ノ禁止ニ關スル規定ニシテ現行法第二百二十七條第一項ト其ノ趣旨ヲ同シクス現行法第二百二十七條第二項ハ代理及輔佐ノ許可ノ取消(第七十九條、第八十八條)ニ依リテ目的ヲ達スルコトヲ得ルヲ以テ其ノ必要ナク又第四項ハ當然ニシテ規定ヲ要セサル所ナリ

第三十六條 — 裁判上ノ和解 —

〔理 由〕本條ハ和解ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ現行法第二百二十一條ト同趣旨ナリ

第三十七條 — 攻撃防禦ノ提出時期 —

第三十八條 — 出頭シタル一方ノ辯論 —

〔理 由〕陪席判決ノ制度ハ經驗上種々ノ弊害アルヲ以テ本案ニ於テハ此ノ制度ヲ廢止シタリ仍テ本條ニ於テ陪席ノ場合ニ於ケル審理遂行ノ手續ヲ定ム即チ當事者ノ一方カ最初ニ爲スヘキ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ出頭スルモ辯論ヲ爲ササル場合ニ於テハ其ノ當事者カ既ニ提出シタル訴狀、答辯書其ノ他ノ準備書面ニ記載アル事項ハ法律上口頭辯論ニ於テ陳述アリタルモノト看做シ之ニ對シテ出頭シタル當事者ニ辯論ヲ命シ審

理ヲ進メ得ルモノト爲シタリ

第三百三十九條 — 時機ニ後レシ攻撃防禦ノ效力 —

〔理 由〕本條第一項ハ時機ニ後レテ提出セラレタル攻撃防禦ノ方法ハ職權ヲ以テ之ヲ却下シ得ヘキコトヲ規定ス現行法第二百十條ノ趣旨ヲ擴張シテ一層有效ニ訴訟遲滯ノ弊ヲ除カムトスルニ在リ、第二項ハ攻撃防禦ノ方法ニシテ其ノ趣旨明白ナラサルモノニ付當事者カ釋明ヲ爲スコトヲ怠リタルトキモ亦之ヲ却下シ得ヘキコトヲ定ム蓋シ第一項ト同趣旨ニ出ツ

第四百十條 — 暗黙ノ自白及不知ノ陳述 —

〔理 由〕本條ハ現行法第一百一條第二項第三項ト大體ニ於テ其ノ趣旨ヲ異ニセス唯同條第二項ニ依レハ相手方ノ主張事實ニ對シ不知ヲ以テ答ヘタルトキハ其ノ事實ヲ爭ヒタルモノト看做ス旨ヲ規定ス然シ不知ノ陳述ヲ以テ法律上爭フノ意思ヲ斷定スルハ妥當ニ非サルヲ以テ本條第二項ニ於テハ單ニ爭ヒタルモノトノ推定ヲ爲スニ止ム

第四百十一條 — 責問權ノ拋棄 —

〔理 由〕本條ハ所謂責問權ノ拋棄ニ關スル規定ニシテ

現行法ハ此ノ規定ヲ缺クヲ以テ從來解釋ニ依リテ之ヲ補充シ來リシモノトス

第四百十二條 — 口頭辯論調書ノ作成 —

〔理 由〕本條乃至第四百十八條ハ口頭辯論調書ニ關スル規定ニシテ本條ハ口頭辯論ノ調書ハ裁判所書記日期毎ニ之ヲ作ルヘキコトヲ規定ス現行法第二百二十九條第一項ヲ修正シタルモノナリ

第四百十三條 — 調書ノ形式ノ事項 —

〔理 由〕本條ハ口頭辯論調書ノ形式ヲ定ム現行法第二百二十九條第二項及第三百十二條ト同趣旨ナリ

第四百十四條 — 調書ノ實質的條件 —

〔理 由〕本條ハ口頭辯論調書ノ内容ニ關スル規定ニシテ現行法第三百十條第二項ト同趣旨ナリ

第四百十五條 — 調書ト書面其ノ他ノ引用 —

〔理 由〕本條ハ現行法第三百十條第三項ヲ修正シタルモノニシテ口頭辯論調書ニハ寫眞其ノ他ノ書面ヲ引用シ之ヲ記録ニ添附シテ調書ノ一部ト爲スヲ以テ極メテ必要ト爲シ其ノ趣旨ヲ明ニス

第四百十六條 — 調書ノ請開及閱覽 —

〔理 由〕現行法ニ於テハ調書ハ必ラス之ヲ關係人ニ請開カセ又ハ閱覽セシムヘキモノト爲シタルモ本條ニ於テハ申立ヲ俟テ其ノ手續ヲ爲スヘキモノトシタリ

第四百十七條 — 辯論ノ方式ニ關スル證明 —

〔理 由〕本條ハ口頭辯論調書ノ效力ヲ規定ス現行法第三百三十四條ト略其ノ趣旨ヲ同シクスル本條ニ於テハ調書カ滅失シタル場合ニハ他ノ方法ニ依リテモ口頭辯論ニ關スル規定ノ遵守ヲ立證スルコトヲ得ルモノトシ現行法ヲ補足シタリ

第四百十八條 — 速記者ヲ用ユヘキ場合 —

〔理 由〕口頭辯論ニ於ケル陳述ハ速記者ニ之ヲ筆記セシムルヲ適當トスル場合アルヲ以テ本條ハ其ノ趣旨ヲ明ニス

第四百十九條 — 審訊、審問等ノ準用規定 —

〔理 由〕受命判事又ハ受託判事ノ審問調書及證據調書ハ口頭辯論調書ニ準スヘキモノナルヲ以テ第四百十二條乃至第四百十八條ノ規定ヲ準用スヘキモノトス現

行法第三百三十三條ノ規定ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百十條 — 申立、申述等ノ形式 —

〔理 由〕本條ハ訴訟上當事者ノ爲ス申立其ノ他ノ申述ノ方式ニ關スル通則ヲ定メタル規定ニシテ現行法第三百十五條ヲ補足シタルモノナリ

第四百十一條 — 記録ノ閱覽謄寫又ハ正本謄本等 —

〔理 由〕本條ハ訴訟記録ノ閱覽、謄寫、其ノ正本謄本抄本並訴訟ニ關スル證明書ノ交付ニ關スル規定ニシテ現行法第二百二十四條及第四百九十九條ト其ノ趣旨相同シ

第二節 期日及期間

本節ハ現行法第三節及第四節ニ相當ス
現行法第六十九條ノ規定ニ依レハ期日ノ變更、辯論ノ延期、辯論續行期日ノ指定ハ當事者ノ合意アルトキハ必ス之ヲ許可スヘキモノニシテ又期間ニ付テモ不變期間以外ノモノニ付テハ合意ニ依リテ之ヲ伸長スルコトヲ得ルモノト爲シタルトモ(第七十條)是レ訴訟遲延ノ原因ヲ爲スモノナルヲ以テ本案ハ之等ノ規定ヲ

廢止シ以上ノ事項ハ一切ノ事情ヲ斟酌シテ裁判所適當ニ之ヲ裁定スヘキモノト爲シタリ又現行法第六十七條ハ法定期間ニ付テハ里程猶豫ノ制度ヲ採リタルモ現今ノ實情ニ適ハサルヲ以テ本案ハ不變期間ニ付遠隔ノ地ニ住居スル者ノ爲ニ附加期間ヲ定ムルコトトシ又現行法ニ依レハ天災其ノ他ノ事變ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サル者ハ原狀回復ノ申立ヲ爲シ特ニ之カ許否ノ裁判ヲ求ムヘキモノト爲シタレトモ是レ徒ニ訴訟手續ノ煩雜ヲ來スモノナルヲ以テ本案ニ於テハ事由ノ止ミタル後一定ノ期間内ニ限リ懈怠シタル行爲ノ追完ヲ許スモノト爲シタリ以上ノ諸點ハ本節ニ於テ現行法ヲ改メタル要點ナリトス

第二百五十二條 | 期日ノ指定 |

〔理 由〕本條ハ期日指定ノ原則ヲ定ム第一項ハ現行法第二百五十九條ト同趣旨ニシテ第二項ハ現行法第六十七條ト同趣旨ナリ第三項ハ現行法第六十九條及第七十一條ニ代ルモノニシテ其ノ理由ハ本節ノ冒頭ニ說明シタル所ナリ

第二百五十三條 | 期日ニ關スル制限 |

〔理 由〕本條ハ期日ノ指定方法ニ關スル規定ニシテ現

行法第六十條ト同趣旨ナリ

第二百五十四條 | 期日ニ付テノ呼出又ハ告知 |

〔理 由〕本條ハ期日ニ於ケル呼出ノ方法ヲ定メタル規定ニシテ現行法第六十一條ニ相當ス尤モ本條ニ於テハ現行法ニ比シ呼出ニ關スル便宜方法ヲ擴張シ在廷者ニ限ラス總テ當該事件ニ付キ出頭シタル者ニ對シテハ期日ノ告知ヲ以テ足ルモノトセリ

第二百五十五條 | 期日開始ノ時期 |

〔理 由〕本條ハ期日開始ノ時期ヲ定メタル規定ニシテ現行法第六十三條第一項ト同趣旨ナリ同條第二項ハ當然ニシテ規定ヲ要セサル所ナリ

第二百五十六條 | 期間ノ計算方(一) |

〔理 由〕本條ハ期間ノ計算方法ヲ定ム期間ノ計算ハ原則トシテ民法ノ規定ニ從フヲ適當ト認メ現行法第六十五條第六十六條ノ規定ヲ改メタリ

第二百五十七條 | 期間ノ計算方(二) |

〔理 由〕本條ハ期間ノ始期ヲ定メタル規定ニシテ現行法第六十四條ト趣旨ヲ異ニセス

第五十八條 | 期間ノ伸縮並ニ附加期間 |

〔理 由〕本條ハ法定期間又ハ裁判所ノ定メタル期間ノ伸長、短縮及不變期間ニ關スル事項ヲ定ム現行法第六十七條及第七十條等ノ煩雜ナル規定ヲ改メ此等ノ事項ヲ裁判所ノ適當ナル裁定ニ委セタルモノニシテ其ノ理由ハ本節ノ冒頭ニ於テ說明シタル所ナリ

第五十九條 | 不變期間ノ懈怠ト其ノ追完 |

〔理 由〕本條ハ當事者カ自己ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ不變期間ヲ遵守スルコト能ハサルシ場合ニ於ケル行爲追完ノ手續ヲ定ム現行法第七十三條乃至第七十七條ノ規定ニ相當ス現行法ニ依レハ原狀回復ノ申立ニ因リ裁判所ハ其ノ許否ニ付裁判ヲ爲スモノト定ムレトモ所謂原狀回復ヲ許可スヘキ場合ニ於テハ追完シタル行爲ヲ適法トシテ本案ニ付裁判ヲ爲シ、之ヲ許スヘカラサルモノト爲ストキハ其ノ行爲ヲ不適法トシテ却下スレハ足ル特ニ原狀回復ノ許否ニ付裁判ヲ爲スノ要ナキモノナレハ本條ハ右ノ趣旨ニ於テ現行法ノ主義ヲ改メタリ

第三節 送 達

改正案理由書 總則 訴訟手續 送達

行法第六十條ト同趣旨ナリ

第二百五十四條 | 期日ニ付テノ呼出又ハ告知 |

〔理 由〕本條ハ期日ニ於ケル呼出ノ方法ヲ定メタル規定ニシテ現行法第六十一條ニ相當ス尤モ本條ニ於テハ現行法ニ比シ呼出ニ關スル便宜方法ヲ擴張シ在廷者ニ限ラス總テ當該事件ニ付キ出頭シタル者ニ對シテハ期日ノ告知ヲ以テ足ルモノトセリ

第二百五十五條 | 期日開始ノ時期 |

〔理 由〕本條ハ期日開始ノ時期ヲ定メタル規定ニシテ現行法第六十三條第一項ト同趣旨ナリ同條第二項ハ當然ニシテ規定ヲ要セサル所ナリ

第二百五十六條 | 期間ノ計算方(一) |

〔理 由〕本條ハ期間ノ計算方法ヲ定ム期間ノ計算ハ原則トシテ民法ノ規定ニ從フヲ適當ト認メ現行法第六十五條第六十六條ノ規定ヲ改メタリ

第二百五十七條 | 期間ノ計算方(二) |

〔理 由〕本條ハ期間ノ始期ヲ定メタル規定ニシテ現行法第六十四條ト趣旨ヲ異ニセス

本節ハ現行法第二節ニ相當ス、本節ニ於テ現行法ヲ改正シタル主要ナル點ハ送達ハ公示送達ノ如ク特ニ申立ニ依ルヘキコトヲ定メタル場合ノ外總テ職權ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノタルヲ明定シタルコト、裁判所ノ所在地ニ在ル者ト雖送達受取人ヲ定ムルコトヲ得ルモノト爲シタルコト並外國ニ在ル者ニ對シ公示送達ヲ爲シタル場合ニ於テハ公示送達アリタルコトヲ了知セシムル爲其ノ旨ヲ郵便ニ付シテ通知スヘキモノト爲シタルコト等ナリ

第六十條 | 職權送達主義 |

〔理 由〕本條ハ送達ハ公示送達ノ如ク特ニ申立ニ依ルヘキコトヲ定メタル場合ノ外ハ原則トシテ職權ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノタルコトヲ明ニス

第六十一條 | 送達ノ機關 |

〔理 由〕本條ハ送達事務ノ取扱者ヲ定メタル規定ニシテ現行法第三十六條第一項及第二項ト同趣旨ナリ

第六十二條 | 送達吏(一) |

〔理 由〕本條及第六十三條ハ送達ヲ實施スル者ヲ定メタル規定ニシテ本條ハ現行法第三十六條第二項乃

至第四項ノ規定ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第六十三條 — 送達吏(二) —

〔理 由〕 當該事件ニ付出現シタル者ニ對シテハ執達吏ニ委任スル迄モナク裁判所書記自ラ送達ヲ爲スヲ得シムルコトヲ便宜トシ本條ノ規定ヲ新設シタリ

第六十四條 — 送達スヘキ書面 —

〔理 由〕 本條ハ送達ノ方法ヲ規定ス第一項ハ現行法第三百三十七條第一項ト同趣旨ナリ本條第二項ハ現行法ヲ補足スルノ趣旨ニ出ツ

第六十五條 — 無能力者ニ對スル送達 —

〔理 由〕 本條乃至第六十八條ハ送達ハ手續上何人ニ對シテ爲スヘキカヲ定ム而シテ本條ハ無能力者ニ對スル送達ニ關スル規定ニシテ現行法第三百三十八條第一項ト同趣旨ナリ

第六十六條 — 共同代理人ニ對スル送達 —

〔理 由〕 本條ハ數人ノ代理人カ共同シテ代理權ヲ行フ場合ノ送達ニ關スル規定ニシテ現行法第三百三十七條第二項ニ相當ス現行法ハ一人ノ代理人カ數人ノ當事者ヲ

代理スル場合ヲモ併セ規定スト雖是レ當然ニシテ規定ヲ要セサル所ナリ

第六十七條 — 軍人ニ對スル送達 —

〔理 由〕 本條ハ軍用ノ廳舎又ハ艦船所屬ノ者ニ對スル送達ハ其ノ首長ニ爲スヘキモノタルヲ明ニス

第六十八條 — 在監者ニ對スル送達 —

〔理 由〕 本條ハ在監者ニ對スル送達ヲ規定ス

第六十九條 — 送達ノ場所 —

〔理 由〕 本條ハ送達ヲ爲スヘキ場所ヲ規定ス送達ハ之ヲ受取ルヘキ者ノ住所、居所、營業所又ハ事務所ニ於テ之ヲ爲スヘキハ當然ナリ尤モ法定代理人ニ對スル送達ハ當事者本人カ營業所、事務所ヲ有スル者ナルトキハ此ノ場所ニ於テモ亦送達ヲ爲シ得ヘキモノトスルヲ可トス

住所等ノ判明セサル者ニ對シテハ其ノ者ニ出會ヒタル場所ニ於テ送達ヲ爲スヲ得シムヘク又送達ヲ受クヘキ者カ之ヲ受クルコトヲ拒マサル場合ノ如キハ何レノ地ニ於テモ之ヲ爲シ得ヘキモノトスルヲ適當トス

本條ハ右ノ趣旨ヲ以テ現行法第四百十四條ヲ改メタリ

第七十條 — 送達場所及送達受取人ノ届出 —

〔理 由〕 本條ハ現行法ノ所謂假住所ニ關スル規定ニシテ現行法第四百三十三條ハ受裁判所ノ所在地ニ住所又ハ事務所ヲ有セサル者ハ裁判所ノ所在地ニ假住所ヲ選定シテ届出ツヘキモノトシ届出ヲ爲ササル者ニ對シテハ交付スヘキ書類ハ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ然ルニ斯ル場合ノミナラス裁判所ノ所在地ニ住所事務所等ヲ有スル者ト雖特ニ送達ヲ受クヘキ場所及送達受取人ヲ定メテ之ヲ届出ツルノ途ヲ開クハ最も便宜トスル所ナルカ故ニ本條第一項ヲ設ケテ其ノ趣旨ヲ明ニシ現行法第四百三十三條ト同趣旨ノ規定ヲ其ノ第二項ニ收メ以テ送達ノ實施ニ支障ナキコトヲ期シタリ

第七十一條 — 受送達者ニ出會ノ場合(一) —

〔理 由〕 本條ハ送達スヘキ書類ハ何人ニ之ヲ交付スヘキカヲ規定ス、本條第一項ハ現行法第四百十五條ト同趣旨ナリ

第一項掲記ノ者ハ勿論其ノ他本法ニ依リ送達書類ノ交付ヲ受クヘキ者カ理由ナク受取ヲ拒ミタルトキハ送達スヘキ場所ニ書類ヲ差置クコトニ依リ送達ヲ了スルモ

ノトスルノ外ナシ第二項ハ此ノ義ヲ明ニスルモノニシテ現行法第四百十九條ニ該當ス

第七十二條 — 受送達者ニ出會ノ場合(二) —

〔理 由〕 本條ハ送達ヲ爲スヘキ場所ニ於テ送達ヲ受クヘキ者ニ出會セス又前條第一項ニ依リ代リテ送達書類ノ交付ヲ受クヘキ者モ在ラサル場合ニ於ケル送達ノ方法ヲ定ム而シテ現行法第四百十五條第二項ノ送達方法ハ實際ニ適セサルヲ以テ本條ニ於テハ書類ヲ郵便ニ付シテ送達スルヲ得ルモノトセリ

第七十三條 — 郵便ニ付シタル送達ト完了時期 —

〔理 由〕 本條ハ書類ヲ郵便ニ付シテ送達ヲ爲シタル場合ノ效力ヲ定メタル規定ニシテ現行法第四百三十三條第三項後段ト同趣旨ナリ

第七十四條 — 日曜、休日又ハ夜間ノ送達 —

〔理 由〕 本條ハ休日又ハ夜間ノ送達ニ關スル規定ニシテ大體現行法第五百十條ト同趣旨ナリ

第七十五條 — 外國ニ於テ爲スヘキ送達 —

〔理 由〕 本條ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ關スル規定

ニシテ現行法第五十三條ト同趣旨ナリ

第七十六條 | 出陣ノ軍人ニ對スル送達 |

〔理由〕本條ハ出陣ノ軍隊ニ屬スル者ノ如キ通常ノ方法ニ依リテハ送達ノ目的ヲ達シ難キ者ニ對スル送達ノ方法ヲ定メタル規定ニシテ現行法第五十四條ト同趣旨ナリ

第七十七條 | 送達ニ關スル證書 |

〔理由〕本條ハ送達ノ證明書ニ關スル規定ニシテ現行法第五十一條ノ規定ヲ修正シタルモノナリ

第七十八條 | 公示送達ヲ爲スヘキ場合 |

〔理由〕本條乃至第八十一條ハ公示送達ニ關スル規定ニシテ本條ハ公示送達ヲ爲スヘキ場合ヲ規定ス現行法第五十六條ト同趣旨ナリ

第七十九條 | 公示送達ノ方法 |

〔理由〕本條ハ公示送達ノ方法ヲ規定ス大體現行法第五十七條ト同趣旨ナリ尙外國ニ在ル者ニ對スル公示送達ニ付テハ郵便ニ付シテ之ヲ通知スヘキ趣旨ノ規定ヲ新設シタルコトハ冒頭ニ於テ説明シタル所ナリ

第八十條 | 公示送達ノ完了時期 |

〔理由〕本條ハ公示送達ノ效力發生ノ時期ヲ規定ス現行法第五十八條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第八十一條 | 送達ニ關スル受命判事等ノ權限 |

〔理由〕本條ハ送達ニ付裁判長ノ有スル權限ハ受命判事、受託判事及送達地ノ區裁判所判事モ亦均シク之ヲ有スルモノト規定ス現行法第五十條第三項ノ趣旨ヲ擴張シタル

第四節 裁判

本節ハ現行法第二編第一章第二節ニ相當ス現行法ノ判決ニ關スル規定ハ訴訟手續ノ通則ニ屬スヘキモノナルヲ以テ本案ハ決定命令ニ關スル規定ヲ併セテ之ヲ裁判ト題シ總則編中ニ置キ又假執行ノ宣言ニ關スル規定、外國判決ノ效力ニ關スル規定モ亦裁判ニ關スルモノナルヲ以テ本節ニ收メタリ而シテ本節ニ於テ現行法ノ規定ヲ改正シタル主要ナル點ハ判決ノ送達ハ總テ職權ニ依ルモノト爲シタルコト、假執行ノ宣言ヲ裁判所ノ自由裁量ニ依ルモノト爲シタルコト、請求ノ拋棄又ハ認諾ニ付テハ別ニ判決ヲ爲サス之ヲ調査ニ記載シテ確定

判決ト同一ノ效力ヲ有スルモノト爲シタル等ノ點ニ在リ

第八十二條 | 終局判決ヲ爲ス場合 |

〔理由〕本條ハ終局判決ヲ爲スヘキ場合ヲ規定ス現行法第二十二條第一項ト同趣旨ナリ

第八十三條 | 一部終局判決ノ場合 |

〔理由〕本條ハ一部判決ヲ爲スヘキ場合ヲ規定ス現行法第二十二條第二項及第二二十六條ト同趣旨ナリ

第八十四條 | 中間判決ヲ爲ス場合 |

〔理由〕本條ハ中間判決ヲ爲スヘキ場合ヲ規定ス現行法第二十七條及第二十八條第一項ト同趣旨ナリ但シ請求ノ原因ヲ正當トスル判決ニ對シ獨立シテ上訴ヲ許スハ其ノ必要ナキノミナラス往々訴訟遲滯ノ弊ヲ生スルヲ以テ本案ニ於テハ現行法第二十八條第二項ノ趣旨ハ之ヲ認メサルコトト爲セリ

第八十五條 | 自由心證主義ノ表明 |

〔理由〕本條ハ事實ノ眞否ヲ判斷スルニハ所謂自由心

證主義ニ據ルヘキコトヲ規定ス現行法第二百十七條ノ規定ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第八十六條 | 判決ノ基礎ト當事者ノ申立 |

〔理由〕本條ハ判決ハ當事者ノ申立テサル事項ニ付テ之ヲ爲スコトヲ得サルモノナルコトヲ規定ス現行法第二百三十一條第一項ト同趣旨ナリ
本案ニ於テハ現行法第二百三十一條第二項ニ該當スヘキ規定ハ之ヲ第一編第三章中ニ收メタリ (第九十五條)

第八十七條 | 判決ヲ爲スヘキ判事 |

〔理由〕本條第一項ハ判決ハ其ノ基本タル口頭辯論ニ關與シタル判事ニ付スヘキモノト爲ス現行法第二十三條ト同趣旨ナリ、故ニ判事ノ更迭アリタル場合ニ於テハ當事者ハ從前ノ口頭辯論ノ結果ヲ演述セサルヘカラサルハ勿論ナリ第二項ハ此ノ義ヲ明ニス

第八十八條 | 判決ノ效力發生時期 |

〔理由〕本條ハ判決ノ效力ノ發生時期ヲ定メタル規定ニシテ判決ハ其ノ言渡ニ因リテ效力ヲ生スルモノナルノ趣旨ヲ明ニス

第八十九條 | 判決言渡ノ方式 |

〔理 由〕本條ハ判決言渡ノ方法ヲ規定ス現行法第二百三十四條ト同趣旨ナリ

第九十條 | 判決言渡ノ時期 |

〔理 由〕本條第一項ハ判決言渡期日ニ關シ第二項ハ言渡ノ手續ニ關ス現行法第二百三十三條及第二百三十五條第一項ト同趣旨ナリ

第九十一條 | 判決ニ掲グヘキ事項 |

〔理 由〕本條ハ判決ノ形式並記載事項ヲ規定ス現行法第二百三十六條及第二百三十七條第一項ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第九十二條 | 判決原本ノ交付 |

〔理 由〕本條ハ判決ノ交付ニ關スル規定ニシテ現行法第二百三十七條第二項第三項ト同趣旨ナリ

第九十三條 | 判決正本ノ職權送達 |

〔理 由〕本條ハ判決ノ送達ニ關スル規定ニシテ現行法ノ申立ニ因ル主義ヲ改メ判決ハ職權ヲ以テ之ヲ送達ス

ヘキモノトス
第二項ハ判決ノ送達ハ正本ヲ以テ爲スヘキコトヲ明ニス此ノ點現行法第二百三十八條ト同シ

第九十四條 | 判決ノ更正ト其ノ手續 |

〔理 由〕本條ハ判決ニ違算書損等ノ誤謬アル場合ノ更正ノ手續ヲ定メタルモノニシテ現行法第二百四十一條及第二百四十三條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第九十五條 | 裁判ヲ脱漏シタル場合 |

〔理 由〕本條ハ裁判所カ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脱漏シタル場合及訴訟費用ノ裁判ヲ脱漏シタル場合ニ關スル規定ニシテ請求ノ一部ニ付裁判ヲ脱漏シタル場合ニ於テハ其ノ部分ハ仍裁判所ニ繫屬スルモノトシテ審判ヲ完了スヘキモノトスルヲ相當トス第一項ハ其ノ趣旨ヲ明ニス、從テ裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ期日ヲ定メ此ノ部分ニ付更ニ審理ヲ爲スヘク當事者モ亦期日ノ指定ヲ求ムルコトヲ得ヘシ
又訴訟費用ノミノ裁判ヲ脱漏シタル場合ニ於テハ手續ヲ簡略ニシ裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ第四百四條ノ規定ニ準シ之カ裁判ヲ爲スヘキモノトスルヲ適當トス第二項ハ其ノ趣旨ヲ明ニス

第九十六條 | 假執行ニ關スル宣言 |

然ルニ此ノ費用ノミニ付テノ追加裁判ハ本案判決ニ對シ適法ノ控訴アリタルトキハ其ノ效力ヲ失ハシメ寧ロ控訴裁判所ニシテ訴訟ノ總費用ニ付裁判ヲ爲サシムルヲ適當トス第三項ハ其ノ趣旨ヲ明ニス

第九十七條 | 假執行ノ擔保ト準用規定 |

〔理 由〕本條乃至第九十八條ハ假執行ノ宣言ニ關スル規定ニシテ現行法ハ第五百一條以下數條ニ涉リテ複雑ナル規定ヲ爲セトモ抑モ判決確定前之カ執行ヲ許スヘキヤ否ヤ又其ノ執行ニ付擔保ヲ供セシムヘキヤ否ヤハ事案ノ性質ニ因リ裁判所ノ適當ナル裁量ニ委スルヲ可トス又假執行ノ宣言ヲ爲ス場合ニ於テ債務者ニ保證ヲ立テシメテ假執行ヲ免ルルヲ得ル旨ノ宣言ヲ爲スヘキヤ否ヤニ付テモ均シク裁判所ノ裁量ニ委スルヲ相當トス仍テ本條ハ右ノ趣旨ニ於テ現行法ノ煩瑣ナル區別ヲ改メタリ

第九十七條 | 假執行ノ擔保ト準用規定 |

〔理 由〕假執行ニ關スル擔保モ亦其ノ提供ノ方法、債權者カ擔保ニ付有スル權利、擔保ノ取消又ハ其ノ變換ノ手續等ニ付テハ訴訟費用ノ擔保ニ關スル準則ニ據ルヘキモノトスルヲ可トス仍テ本條ノ規定ヲ新設ス

第九十八條 | 假執行ノ宣言ト本案判決トノ關係 |

〔理 由〕本條ハ假執行ノ宣言カ其ノ效力ヲ失フ場合ニ關スル規定ニシテ現行法第五百十條ノ規定ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第九十九條 | 確定判決ノ既判力 |

〔理 由〕本條ハ判決ノ既判力ヲ定メタル規定ニシテ本條第一項ハ現行法第二百四十四條ト同趣旨ナリ
被告カ原告ニ對スル債權ヲ以テ相殺ヲ對抗シタル場合於テハ判決ハ債權ノ成立又ハ不成立ニ付相殺ヲ以テ對抗シタル額ノ限度ニ於テ既判力ヲ有スルモノト爲スヲ可トス是レ本條第二項ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第二百條 | 外國裁判所ノ確定判決ノ效力 |

〔理 由〕本條ハ外國裁判所ノ判決ノ效力ヲ認ムル條件ヲ定ム現行法ハ第五十五條ニ於テ執行判決ニ付本條ト同趣旨ノ條件ヲ定ムト雖外國裁判所ノ判決ノ效力ヲ認ムルノ必要ハ執行判決ヲ爲ス場合ニ限ラサルヲ以テ本條ノ規定ヲ新設シタリ

第二百一條 | 確定判決ノ效力範圍 |

〔理 由〕本條ハ判決ノ效力ヲ及ホスヘキ者ノ範圍ヲ定ム即チ所謂既判力ノ主觀的限界ヲ規定ス此ノ點ニ關シ現行法ハ強制執行ノ手續ヲ定ムル第五百十九條ニ於テ僅力ニ其ノ趣旨ヲ窺フコトヲ得ルニ止マリ規定頗ル不備ナルヲ以テ本條ノ原則ヲ定メ同時ニ現行法ノ趣旨ヲ補足シタリ

又第二項ハ他人ノ爲メニ訴訟ノ當事者ト爲リタル者(第四十七條、第八十六條參照)ニ對スル判決ハ其ノ他人ニ對シテモ效力ヲ及ホスヘキコトヲ規定シタルモノニシテ斯ル訴訟ノ性質上蓋シ當然ノコトナリ

第二百二條 | 補正不能ナル訴ノ却下 |

〔理 由〕不適法ノ訴ニシテ其ノ欠缺ヲ補正スルコト能ハサルカ如キモノニ付テハ現行法ノ如ク必ス口頭辯論ヲ經ヘキモノトスルノ必要ナキヲ以テ本條ニ於テハ直ニ訴却下ノ判決ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトセリ

第二百三條 | 和解、請求ノ拋棄若ハ認諾ノ效力 |

〔理 由〕現行法第二百二十九條ニ依レハ拋棄又ハ認諾ニ基キ判決ヲ爲スヘキモノトスレトモ斯ル場合ニ於テハ特ニ判決ヲ爲スノ要ナキヲ以テ裁判上ノ和解ト同シク之ヲ調書ニ記載シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スルモノト爲シタリ

ノト爲シタリ

第二百四條 | 決定命令ノ效力ト其ノ告知 |

〔理 由〕現行法第二百四十五條ニ依レハ口頭辯論ニ基キテ爲ス判決ハ言渡ヲ必要トシ其ノ他ノ決定又ハ命令ハ送達ヲ必要トスレトモ決定、命令ニ付法律ニ斯ル形式ヲ限定スルノ要ナキヲ以テ本條ニ於テハ相當ト認ムル方法ヲ以テ當事者ニ告知スルニ因リテ其ノ效力ヲ生スルモノト爲シタリ

第二百五條 | 訴訟指揮ノ決定及命令ノ取消 |

〔理 由〕訴訟指揮ニ關スル決定及命令ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ヘキハ當然ナリ本條ハ其ノ趣旨ヲ明ニス

第二百六條 | 書記ノ處分ニ對スル異議ノ裁判 |

〔理 由〕本條ハ裁判所書記ノ處分ニ對スル異議ノ裁判ヲ規定ス現行法第四百六十五條第一項ト同趣旨ナリ

第二百七條 | 決定命令ニ準用スヘキ規定 |

〔理 由〕決定及命令ニ付テハ其ノ性質ニ反セサル限り判決ニ關スル規定ニ準スヘキモノトスルヲ相當トス仍

テ本條ニ於テハ現行法第二百四十五條第二項ノ趣旨ヲ擴充シテ概括的ノ規定ヲ定ム

第五節 訴訟手續ノ中斷及中止

本節ハ現行法第一編第三章第五節ニ相當ス合併ニ因ル法人ノ消滅其ノ他中斷ノ原因ト爲スヘキ場合ニ關スル現行法ノ規定ヲ補充シ、受繼ノ手續ヲ簡易ニシ相手方ヨリ爲ス受繼ヲ認メ更ニ進テ裁判所亦必要ニ依リ職權ヲ以テ中斷シタル訴訟ノ續行ヲ命シ得ルモノト爲シタルコト等ハ本節ニ於テ現行法ノ規定ヲ改正シタル主要ナル點ナリトス

第二百八條 | 當事者ノ死亡ト中斷 |

〔理 由〕本條ハ當事者ノ死亡ニ因ル訴訟手續ノ中斷ヲ規定ス第一項ハ現行法第七十八條第一項ト其ノ趣旨ヲ同シクス唯受繼ヲ爲スヘキ者ニ付現行法ヲ補足シタルニ過キス、第二項ハ相續人ノ受繼ニ關スル特則ニシテ相續人ハ相續ノ拋棄ヲ爲シ得ル間ハ訴訟手續ヲ受繼クコトヲ得サルモノト規定ス蓋シ相續ノ拋棄ハ相續開始ノ時ニ過リテ其ノ效力ヲ生スルヲ以テナリ

第二百九條 | 法人ノ合併ト中斷 |

〔理 由〕本條ハ合併ニ因ル法人ノ消滅ヲ原因トスル訴訟手續ノ中斷ヲ規定ス現行法ハ此ノ點ニ付規定ヲ缺クヲ以テ本條ハ之ヲ補足シタリ

第二百十條 | 能力又ハ代理權ノ喪失ト中斷 |

〔理 由〕本條ハ當事者ノ訴訟能力ノ喪失、法定代理人ノ死亡又ハ其ノ代理權ノ喪失ニ因ル訴訟手續ノ中斷ヲ規定ス現行法第八十條ト同趣旨ニ出ツ

第二百十一條 | 信託ノ任務終了ト中斷 |

〔理 由〕信託ノ受託者カ訴訟ノ當事者タル場合ニ其ノ任務力終了シタルトキハ訴訟手續ハ中斷スルモノトシ新受託者ヲシテ之ヲ受繼カシムルノ要アリ是レ本條ヲ新設シタル所以ナリ

第二百十二條 | 一定ノ資格喪失ト中斷 |

〔理 由〕第一項ハ一定ノ資格ヲ有スル者カ自己ノ名ヲ以テ他人ノ爲ニ訴訟ノ當事者タル場合ニ於テ其ノ當事者ノ死亡又ハ資格ノ喪失ヲ原因トスル訴訟手續ノ中斷並其ノ受繼ヲ規定ス、第二項ハ第四十七條ノ規定ニ依

リテ選定セラレタル當事者ノ全員カ資格ヲ喪失シタル場合ノ中斷並其ノ受繼ヲ規定ス但シ此ノ場合ニ於ケル訴訟ノ受繼ハ同條ニ依リ總員ノ爲ニ當事者タルヘキ者ヲ新ニ選定シタルトキハ其ノ當事者、若シ之ヲ選定セサルトキハ總員ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要スルモノトセ

第二百十三條 — 中斷規定ノ不適用 —

〔理 由〕本條ハ現行法第八十三條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ本案ニ於テハ訴訟代理人アル場合ニ於テハ叙上ノ中斷原因ヲ生シタルトキト雖代理權ハ消滅セサルモノト爲シタルヲ以テ(第八十五條、第八十六條)斯ル場合訴訟手續ヲ中斷セシムルノ必要ナシ是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第二百十四條 — 破産ノ宣告ト中斷 —

〔理 由〕本條ハ當事者破産ノ場合ニ於ケル破産財團ニ關スル訴訟手續ノ中斷ヲ規定シタルモノニシテ現行法第七十九條ト略同意旨ナリ

第二百十五條 — 破産手續ノ解止ト中斷 —

〔理 由〕破産手續力解止セラレタルトキハ破産者ハ其

ニ受繼ノ申立ヲ爲スヘキヤハ現行法上疑義ヲ免レサル所ナリ、依テ第二項ヲ設ケ此ノ場合其ノ裁判ヲ爲シタル裁判所受繼ノ申立ニ付裁判ヲ爲スヘキモノタルコトヲ明定セリ

第二百十九條 — 受繼ヲ爲ササル場合ノ職權 —

〔理 由〕現行法ニ依レハ中斷シタル訴訟ニ付テハ當事者ニ於テ受繼ヲ爲ササル限リ裁判所ハ之カ續行ヲ爲スコトヲ得サリシカ故ニ訴訟ノ停滯ヲ免レサリシヲ以テ本條ノ規定ヲ新設シ裁判所ハ職權ヲ以テ訴訟手續ヲ受繼リヘキ者ヲ呼出シ訴訟ヲ續行スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第二百二十條 — 訴訟手續ノ中止(一) —

〔理 由〕現行法第八十二條ノ規定ニ依レハ天災其ノ他ノ事故ニ因リ裁判所カ職務ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テハ訴訟手續ハ中斷スルモノト爲シタレトモ斯ル場合ハ之ヲ訴訟手續ノ中斷ノ原因ト爲スヘキモノニ非サルヲ以テ本條ハ斯ル事故ノ發生シタル場合ハ訴訟手續ハ當然中止スヘキモノト爲シタリ

第二百二十一條 — 訴訟手續ノ中止(二) —

改正案理由書 第一番 地方裁判所 訴訟

ノ財産ヲ管理スル能力ヲ回復スルモノナルヲ以テ管財人カ受繼キタル訴訟ハ更ニ破産者ヲシテ之ヲ受繼カシムル必要アリ是レ本條ノ規定ヲ新設シタル所以ナリ

第二百十六條 — 相手方ニ於ケル受繼 —

〔理 由〕本條乃至第二百十九條ハ訴訟手續ノ受繼手續ヲ規定シタルモノニシテ中斷シタル訴訟手續ハ之ヲ受繼クヘキ義務アル者カ其ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論其ノ相手方ニ於テモ亦受繼ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲スチ適當トス本條ハ此ノ趣旨ヲ明ニス

第二百十七條 — 受繼ノ申立ト其ノ通知 —

〔理 由〕受繼ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ其ノ旨ヲ相手方ニ了知セシムルノ必要アリ仍テ本條ノ規定ヲ新設ス

第二百十八條 — 受繼ノ申立ト其ノ裁判 —

〔理 由〕受繼ノ申立ノ理由アリヤ否ヤハ裁判所職權ヲ以テ之ヲ調査シ理由ナシト認ムルトキハ申立却下ノ裁判ヲ爲シ、理由アリト認ムルトキハ其ノ儘訴訟手續ヲ續行スヘキモノトス第一項ハ其ノ趣旨ヲ明ニス
裁判ノ途途後中斷ヲ生シタル場合ニ於テ何レノ裁判所

〔理 由〕本條ハ裁判ニ依リ訴訟手續ヲ中止スヘキ場合ヲ規定ス現行法第八十四條ノ規定ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルニ過ス

第二百二十二條 — 訴訟手續ノ中斷中止ノ效力 —

〔理 由〕本條ハ訴訟手續ノ中斷又ハ中止ノ效力ヲ規定シタルモノニシテ現行法第八十六條ト同意旨ナリ

第二編 第一審ノ訴訟手續

第一章 地方裁判所ノ訴訟手續

第一節 訴

本節ハ現行法第二編第一章第一節ニ相當ス本節ニ於テ現行法ヲ改正シタル要點ハ法律關係ヲ證スル書面ノ眞否ノ確定ヲ目的トスル確認ノ訴ヲ認メタルコト、請求又ハ請求ノ原因ノ變更ハ請求ノ基礎ニ變更ナキ限り之ヲ許可シタルコト、妨訴抗辯ノ制度ヲ廢シタルコト等ナリ

第二百二十三條 — 訴提起ノ方式 —

〔理 由〕本條ハ訴訟提起ノ方法ヲ規定シタルモノニシ

テ現行法第九十條第一項ト同趣旨ナリ

第二百二十四條 — 訴狀ノ要件 —

〔理 由〕本條ハ訴狀ノ要件及其ノ他ノ記載事項ヲ定ム現行法第九十條ノ規定ト大體其ノ趣旨ヲ同シクス即チ當事者及法定代理人ノ表示並請求ノ趣旨及原因ノ記載ヲ以テ訴狀ノ要件ト爲シ其ノ他ノ記載事項添附書面ニ付テハ準備書面ニ關スル第二百四十四條、第二百四十五條ノ規定ヲ準用スヘキモノト爲シタリ

第二百二十五條 — 確認ノ訴ノ範圍 —

〔理 由〕本條ハ法律關係ヲ證スル書面ノ眞否ヲ確定スル爲ニモ確認ノ訴ヲ提起シ得ルモノト爲シ現行法ノ不備ヲ補足セリ

第二百二十六條 — 將來ノ給付ヲ求ムル訴 —

〔理 由〕將來ノ給付ニ付テモ豫メ訴ヲ提起スルノ必要アル場合少カラス現行法モ亦斯ル訴ヲ許ササル趣旨ニ非サレトモ明文ナキヲ以テ疑義ノ存スルヲ免レス仍テ本條ニ依リ之ヲ明定セリ

第二百二十七條 — 數個ノ請求ト一箇ノ訴 —

〔理 由〕適式ノ訴狀ニ依リ訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ口頭辯論期日ヲ定メ當事者ヲ呼出シテ審理ノ開始ヲ爲スコトヲ要ス本條ハ其ノ趣旨ヲ明ニス口頭辯論期日ノ指定ニ付現行法第九十四條ノ如キ規定ヲ設ケサルハ裁判長ヲシテ適當ニ之ヲ定メシムルヲ可トシタルニ因ル

第二百三十一條 — 權利拘束ノ效力 —

〔理 由〕本條ハ現行法第九十五條第一項及第三項第一號ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ訴狀ノ送達ニ因リ訴訟物ノ權利拘束ヲ生シ其ノ繼續中同一ノ訴訟物ニ付更ニ訴ヲ受ケタルトキハ被告ハ權利拘束ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ルモノト爲シタレトモ裁判所ニ繫屬セル事件ニ付當事者力更ニ訴ヲ提起シタル場合ノ如キハ抗辯ノ有無ニ拘ラス之ヲ許ササルモノト爲スヲ相當トスルヲ以テ本條ハ其ノ趣旨ヲ明ニセリ尙權利拘束ノ語ハ妥當ナラサルヲ以テ本案ニ於テ之ヲ避ケタリ

第二百三十二條 — 請求又ハ請求原因ノ變更 —

〔理 由〕本條ハ請求及其ノ原因ノ變更ニ關スル規定ニシテ現行法第九十五條第二項第三號及第九十六條ノ規定ニ依レハ一定ノ申立ノ變更ハ第九十六條第二

〔理 由〕本條ハ訴ノ客觀的併合ニ關スル規定ニシテ現行法第九十一條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス現行法ハ受訴裁判所カ各請求ニ付管轄權ヲ有スルコトヲ必要トスレトモ本案ニ於テハ第二十一條ノ規定ニ依リ他ノ請求ニ付テモ當然管轄權ヲ有スルヲ以テ特ニ之ヲ併合ノ條件トスルノ要ナシ

第二百二十八條 — 要件欠缺ノ訴狀ト其ノ補正 —

〔理 由〕本條ハ訴狀カ要件ヲ具備セサル場合ノ補正手續ニ關スル規定ニシテ現行法第九十二條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス但シ却下命令ニ對スル抗告ニ付テハ抗告狀ニ却下セラレタル訴狀ヲ添附セシムルヲ其ノ審理上便宜ナリト認メ本條末項ニ其ノ趣旨ヲ明ニシタリ

第二百二十九條 — 訴狀ノ送達 —

〔理 由〕第一項及次條ハ現行法第九十三條ト同趣旨ナリ
現行法ハ訴狀ノ送達不能ナル場合ニ於ケル處置ニ付規定ヲ缺クヲ以テ事件ノ整理上不便少カラス仍テ第二項ニ依リ前條ニシテ補正ヲ命シ期間内ニ補足スルコト能ハサル場合ニ於テハ訴狀ヲ却下スヘキモノト爲シタリ

第二百三十條 — 辯論期日ノ指定及呼出 —

號及第三號ノ場合ニ限リ又原因ノ變更ハ被告ノ同意アル場合ニ限リ之ヲ許シタレトモ請求又ハ其ノ原因ヲ變更スルモ請求ノ基礎ニ變更ナク而モ之レカ爲訴訟ノ延滞ヲ來タサル場合ナルニ於テハ寧ロ之ヲ許スヲ適當トス第一項ハ其ノ趣旨ヲ明ニセリ第二項及第三項ハ手續ノ規定タルニ過キス

第二百三十三條 — 請求又ハ請求原因變更ノ不許 —

〔理 由〕訴ノ變更ノ場合ニ於ケル事件處理ノ方法ニ付テハ現行法ノ現定明瞭ヲ缺クモノアリ本條ニ於テハ簡易ニシテ適切ナル處理方法ヲ定ムルヲ必要トシ裁判所カ變更ヲ不當ナリトスルトキハ決定ヲ以テ變更ヲ許ササル旨ノ裁判ヲ爲シ其ノ儘本案ノ審理ヲ續行スヘキモノタルヲ明ニシタリ

第二百三十四條 — 中間確認ノ訴ノ要件及方式 —

〔理 由〕本條ハ所謂中間確認ノ訴ニ關スル規定ニシテ現行法第二十一條ノ規定ト略其ノ趣旨ヲ同シクス唯現行法ニ於テハ被告カ此ノ訴ヲ爲スニハ反訴ノ方法ニ依ルコトヲ要スレトモ本條ニ於テハ必スシモ反訴ニ依ルヲ要セサルモノト爲シタリ又其ノ確認ノ訴カ他ノ裁判所ノ管轄ニ專屬スルトキハ固ヨリ之ヲ許スヘキニ非

サルヲ以テ但書ヲ以テ其ノ趣旨ヲ明ニシタリ

第二百三十五條 — 訴提起ノ效力 —

〔理 由〕 裁判上ノ請求ハ時効ノ中斷ノ效力ヲ有シ又除斥期間ノ定メアル權利ニ付テハ其ノ期間内ニ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス然ルニ裁判上ノ請求ハ如何ナル時ヨリ以上ノ效力ヲ生スルモノナリヤニ付テハ解釋上疑義ヲ生スル虞ナキニ非サルヲ以テ本條ハ訴ノ提起ノ時第二百三十二條第二項又ハ第二百三十四條第二項ノ書面ヲ提出シタル時ヨリ其ノ效力ヲ生スルモノト爲シタリ

第二百三十六條 — 訴ノ取下ト其ノ方式 —

〔理 由〕 本條及第二百三十七條ハ訴ノ取下ニ關スル規定ニシテ現行法第九十八條ニ依レハ訴ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下テ許シタルトモ結局判決アリタル時ト雖其ノ確定前ニ於テハ取下テ許ササルモノト爲ス理由ナキヲ以テ判決ノ確定ニ至ル迄ハ何時ニテモ訴ヲ取下クルコトヲ得ルモノト爲シ又現行法ニ於テハ口頭辯論ノ開始以前ニ於テハ訴ノ取下ニ付被告ノ同意ヲ必要トセスト雖被告カ準備書面ヲ提出出シ又ハ準備手續ニ於テ申述ヲ爲シタル場合ノ如ク既

ニ應訴行爲ニ著手シタル後ニ於テハ其ノ同意ヲ要スルモノト爲シタリ第一項ハ此ノ趣旨ヲ明ニス本條第二項及第三項ハ現行法第九十八條第二項及第三項ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第二百三十七條 — 訴取下ノ效力 —

〔理 由〕 本條ハ訴ノ取下ノ效力ヲ規定ス第一項ハ現行法第九十八條第四項ノ辭句ヲ修正シタルニ止マリ其ノ趣旨ヲ異ニセス本條第二項ハ終局判決後ノ訴ノ取下ノ效力ヲ規定シタルモノニシテ斯ル場合ニ再訴ヲ許スハ相當ニ非サルヲ以テ之ヲ許ササルノ趣旨ヲ明ニシタリ

第二百三十八條 — 休止ニ因ル訴ノ取下 —

〔理 由〕 本條ハ現行法第八十八條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ現行法ハ休止ノ期間ヲ一年ト爲スモ長キニ失スルヲ以テ之ヲ六月ニ短縮シタリ尙合意ノ休止ハ本條ノ認メサル所ナリ

第二百三十九條 — 反訴ノ提起及其ノ要件 —

〔理 由〕 本條乃至第二百四十一條ハ反訴ニ關スル規定ナリ本條ハ現行法第二百條及第二百一條ノ規定ヲ修正

シタルモノナリ

現行法ニ依レハ反訴ハ本訴ノ請求ト牽連關係ノ有無ヲ問ハサルモノト爲セトモ無關係ナル請求ニ付テハ反訴ヲ許スノ要ナキヲ以テ牽連關係アルコトヲ要件トスルト同時ニ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄之ヲ提起スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第二百四十條 — 反訴ノ手續 —

〔理 由〕 反訴モ亦訴ニ外ナラサルヲ以テ本訴ニ關スル規定ニ準據スヘキハ勿論ナリ現行法第二百二條亦同趣旨ナリ

第二百四十一條 — 反訴ノ取下 —

〔理 由〕 本條ハ反訴ノ取下ニ關スル特別規定ニシテ反訴ハ本訴ト牽連關係アルニ因リ之ヲ提起シタルモノナレハ本訴カ取下ケラレタル場合ニ於テハ反訴ノ取下ニ付同意ヲ得ルモノト爲スノ要ナシ之レ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第二節 辯論ノ準備

本節ハ現行法第一編第三章第一節及第二編第一章第四

改正案理由書 第一審： 地方裁判所： 辯論ノ準備

節ニ相當ス訴訟手續ノ遲延ハ訴訟準備ノ不足ニ基因スル場合頗ル多キヲ以テ本案ニ於テハ現行法ノ準備手續ノ制度ヲ擴張シ地方裁判所ノ事件ニ付テハ原則トシテ準備手續ヲ經ルコトヲ要スルモノトシ準備手續ニ於テハ訴訟ノ争點ヲ整理シ口頭辯論ニ於テ取調フヘキ總テノ證據ヲ申出ヲ爲サシメ準備手續ニ於テ當事者カ提出セザリシ攻撃防禦メ方法ハ原則トシテ口頭辯論ニ提出スルコトヲ禁シ以テ訴訟ノ促進ト審理ノ適正ヲ得ルコトヲ期シタリ

第二百四十二條 — 口頭辯論ノ準備 —

〔理 由〕 本條ハ辯論準備ノ通則ヲ定ム現行法第四百條ノ規定ト同趣旨ニシテ總テ口頭辯論ハ書面ヲ以テ準備スヘキモノタルヲ明ニス若シ夫レ準備手續ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ特別ニ依ルヘキハ勿論ナリ

第二百四十三條 — 準備書面ノ提出 —

〔理 由〕 本條ハ現行法第二百四條ノ辭句ヲ修正シタルニ止マリ其ノ趣旨ヲ異ニセス

第二百四十四條 — 準備書面ノ記載事項 —

〔理 由〕 本條ハ準備書面ノ形式並其ノ記載事項ヲ規定

ス現行法第百五條ト同趣旨ナリ

第二百四十五條 — 引用文書ノ謄本抄本—

〔理 由〕本條ハ準備書面ニ添付スヘキ書面ヲ規定ス現行法第百七條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第二百四十六條 — 引用文書ト原本ノ提示—

〔理 由〕準備書面ニ謄本ヲ添付シタル書面ハ相手方ノ請求ニ因リ其ノ原本ヲ閱覽セシムヘキモノトス是レ辯論準備ノ爲極メテ便宜トスル所ナリ

第二百四十七條 — 準備書面外ノ事實主張ノ制限—

〔理 由〕現行法第百五十二條ニ依レハ事實上ノ主張又ハ申立ヲ豫メ相手方ニ對シ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知セサル場合ニ於テハ開席判決ノ申立ハ之ヲ却下スヘキモノトス本案ニ於テハ開席判決ノ手續ヲ廢止シタリト雖準備書面ニ記載セサル事項ハ相手方ニ在延セサル場合ニ於テハ之カ主張ヲ許スヘキニ非サルコト勿論ナルヲ以テ本條ノ規定ヲ説ク

第二百四十八條 — 外國語ノ文書ト其ノ譯文—

〔理 由〕本條ハ現行法第百十五條第二項ノ規定ヲ修正

シタルモノニシテ外國語ヲ以テ作リタル文書ハ一般ニ其ノ譯文ノ添付ヲ必要トスルノ趣旨ヲ明ニセリ

第二百四十九條 — 準備手續—

〔理 由〕現行法ハ第百六十六條ニ於テ計算事件等ノ如キ法律カ特定シタル事件ニ付テノミ受命判事ニ依ル準備手續ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲シタルトモ本條ハ地方裁判所ノ訴訟ニ付テハ原則トシテ準備手續ヲ經ルコトヲ要スルモノトシ唯準備手續ヲ爲ササルコトヲ相當トスルモノニ限り直ニ辯論ヲ命スルコトヲ得ルモノトシ又訴訟ノ一部ニ付テノミ準備手續ヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ部分ニ付準備手續ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲シタリ其ノ理由トスル所ハ本節ノ冒頭ニ於テ説明シタル所ナリ

第二百五十條 — 準備手續ニ於ケル調書—

〔理 由〕準備手續ニ於テハ當事者ノ陳述ニ基キ主張ノ要領ヲ釋明シテ爭點ヲ整理シ且之ニ對スル證據調ノ申出ヲ明確ニスル調書ヲ作ルヲ以テ本旨トス第一項ハ此ノ義ヲ明ニス尤モ事誼ニ依リ準備書面代用ノ途ヲ開クハ固ヨリ相當ニシテ其ノ運用ハ受命判事ノ裁量ニ委スルヲ可トス是レ第二項ノ規定スル所ナリ

第二百五十一條 — 準備手續ト一方不出頭ノ場合—

〔理 由〕本條ハ準備手續ノ期日ニ當事者ノ一方カ開席シタル場合ニ於ケル手續遂行ノ方法ヲ規定ス現行法第百六十九條第一項ト同趣旨ナリ

第二百五十二條 — 準備手續ト準備書面ノ提出—

〔理 由〕準備手續ハ口頭陳述ニ依ルヲ本則トスレトモ受命判事ノ見込ニ依リ便宜準備書面ヲ用ユルハ固ヨリ妨ケナキ所ナリ本條ハ其ノ趣旨ヲ明ニス

第二百五十三條 — 當事者ノ懈怠ト準備手續ノ終結—

〔理 由〕當事者カ期日ニ出頭セス又準備書面提出ノ命ニ從ハサルトキハ受命判事ハ事誼ニ依リ其ノ程度ニ於テ準備手續ヲ終結スルヲ得ルモノトスルノ必要アリ本條ハ之ヲ明ニスルモノニシテ現行法第百六十九條第二項ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第二百五十四條 — 準備手續ノ結果ノ陳述—

〔理 由〕本條ハ現行法第百七十一條第一項ト同趣旨ニシテ準備手續ノ結果ハ口頭辯論ニ於テ之ヲ陳述セシムヘキモノトス

第二百五十五條 — 準備手續ト口頭辯論トノ關係—

〔理 由〕本條ハ準備手續ノ效力ニ關スル規定ニシテ現行法第百七十二條ノ規定ニ相當ス
當事者カ準備手續ニ於テ提出セザリシ攻撃防禦ノ方法其ノ他一切ノ事項ハ職權調査事項ニ係ルモノナル場合、訴訟手續ヲ遲延セシメサル場合又ハ過失ナクシテ之ヲ提出スルコト能ハサリシコトヲ疏明シタル場合ヲ除クノ外口頭辯論ニ於テ之ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス是レ準備手續ヲシテ實效アラシムル爲極メテ肝要ノコトナリ第一項ハ此ノ義ヲ明ニス

第一項ノ規定ニ依リ除外例トシテ口頭辯論ニ於テ主張ヲ許サレタル事項ト雖之カ主張ヲ爲スニハ第百四十七條ニ遵據スルコトヲ要スルハ勿論ナリ第二項之ヲ規定ス

訴狀又ハ準備手續前ノ準備書面ニ既ニ記載セラレタル事項ハ第一項ノ規定ニ拘ラス之ヲ主張スルヲ妨ケサルハ當然ノコトナリ是レ第三項ノ規定セル所ナリ

第二百五十六條 — 準備手續ト準備規定—

〔理 由〕準備手續ニ於ケル訴訟指揮、攻撃防禦ノ方法ノ提出其ノ他一切ノ手續ハ口頭辯論ニ於ケル準則ニ

依ラシムルチ相當トシ本條ノ規定ヲ設ク

第三節 證據

第一款 總 則

本款ハ現行法第五節ニ相當ス本款ニ於テ廣ク一般ノ證據ニ付職權主義ヲ加味シ疏明方法ニ關シ新ナル規定ヲ設ケタルコトハ現行法改正ノ主要ナル點ナリトス

第二百五十七條 — 證據ヲ要セサル事實—

〔理由〕本條ハ當事者力裁判所ニ於テ自白シタル事實及裁判所ニ於テ顯著ナル事實ハ證據調ヲ爲サスシテ直ニ之ヲ判斷ノ基礎トナスコトヲ得ル旨ヲ規定ス現行法第二百十八條ノ趣旨ヲ補足シタルニ過キス

第二百五十八條 — 證據ノ申出ト其ノ方式—

〔理由〕本條第一項ハ證據ノ申出ノ方法ノ通則ヲ定メタルモノニシテ現行法第二百九十一條、第三百二十三條及第三百五十七條ノ規定事項ヲ整理統一シタルモノナリ第二項ハ期日前ノ證據ノ申出ヲ認メタル規定ナリトス

第二百五十九條 — 證據調ノ限度—

〔理由〕本條ハ裁判所カ不必要ト認メタル證據ノ申出ニ付其ノ取調ヲ爲スノ職責ナキコトヲ明ニシタリ

第二百六十條 — 證據調ト不定期間ノ障礙—

〔理由〕本條ハ證據調ニ付不定期間ノ障礙アルトキハ裁判所ハ證據調ヲ爲スコトヲ要セサル旨ヲ規定ス訴訟ノ遲延ヲ防クノ目的ニ出テタルモノトス

第二百六十一條 — 職權ヲ以テスル證據調—

〔理由〕本條ハ當事者ノ申出テタル證據ニ因リ心證ヲ得ルコト能ハサル場合其ノ他必要アリト認ムル場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定ス、其ノ趣旨判斷ノ適正ヲ期セムトスルニ在リテ民事訴訟ノ取調ニ付職權主義ヲ加味シタル場合ノ一ニ屬ス

第二百六十二條 — 必要事項ノ調査ト其ノ囑託—

〔理由〕本條ハ官公署ニ對シ訴訟ノ審理上必要ナル調査ノ囑託ヲ爲シ得ルコトヲ規定シ以テ新ニ簡易ナル證據調ノ方法ヲ設ケタリ

第二百六十三條 — 證據調ノ施行ト當事者ノ在否—

〔理由〕本條ハ現行法第二百八十四條第一項ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第二百六十四條 — 外國ニ於ケル證據調—

〔理由〕本條ハ外國ニ於テ爲スヘキ證據調ノ手續ヲ規定ス第一項ハ現行法第二百八十一條ト同趣旨ナリ而シテ外國官廳ノ爲シタル證據調ハ其ノ國ノ法律ニ違背スルモ本法ニ違背セサルトキハ之ヲ有效ト認ムヘキモノナルヲ以テ第二項ヲ設ケ其ノ趣旨ヲ明ニス

第二百六十五條 — 囑託又ハ裁判所外ノ證據調—

〔理由〕本條ハ裁判所外ニ於ケル證據調ニ關スル規定ニシテ現行法第二百七十三條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス即チ本條ニ依レハ裁判所ハ必要ニ應シ自ラ裁判所外ニ於テ證據調ヲ爲シ或ハ受命判事若ハ受託判事ニ依リテ證據調ヲ爲スコトヲ得ヘク受託判事ハ更ニ證據調ノ轉囑ヲ爲スコトヲ得

第二百六十六條 — 受託判事ト證據調記録ノ送付—

〔理由〕本條ハ現行法第二百七十九條第二項ト略其ノ

趣旨ヲ同シクス

第二百六十七條 — 疏明ニ代フル保證又ハ宣誓—

〔理由〕本條ハ疏明ニ關スル規定ニシテ第一項ハ現行法第二百二十條ト其ノ趣旨ヲ同シクス第二項ハ新設ノ規定ニシテ保證金ノ供託又ハ宣誓ヲ以テ疏明ニ代フルコトヲ得ヘキモノトセリ第三項モ亦新設ノ規定ニシテ疏明ニ代フヘキ宣誓ノ方法等ニ關シ證人ノ宣誓ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百六十八條 — 疏明代用ノ保證金ノ沒收—

〔理由〕本條ハ保證金ヲ供託シテ疏明ニ代ヘタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ事實ヲ主張シタル場合ノ制裁ヲ規定シタルモノナリ

第二百六十九條 — 疏明代用ノ宣誓違背ノ制裁—

〔理由〕本條ハ疏明ニ代ヘ宣誓ヲ爲シタル當事者又ハ法定代理人カ虛偽ノ申述ヲ爲シタル場合ノ制裁ヲ規定ス

第二百七十條 — 前二條ノ裁判ニ對スル不服申立—

〔理由〕本條ハ前二條ノ裁判ニ對スル不服申立ノ方法

改正案理由書 第一書： 地方裁判所： 證據 證人訊問
ヲ規定シタルモノナリ

二七一條—二七八條 一七六

第二款 證人訊問

本款ハ現行法第六節ニ相當ス證人忌避ノ制度ヲ廢止シ
證言拒絕ノ場合ヲ制限シ且證人宣誓ノ式ヲ嚴肅ナラシ
メ以テ眞實ノ發見ヲ圖リタルハ本款ニ於ケル現行法改
正ノ要點ナリトス

第二百七十一條 | 裁判所ノ證人訊問權 |

〔理 由〕本條ハ何人タリトモ證人トシテ訊問セララル
義務アルコトヲ明ニシタル規定ニシテ現行法第二百八
十九條ト同趣旨ナリ

第二百七十二條 | 監督廳ノ承認ヲ要スル證人 |

〔理 由〕本條ハ官吏、公務員又ハ此等ノ職ニ在リタル
者ヲ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合ニ於テハ監督官廳
ノ承認ヲ得ルコトヲ要スル旨ヲ規定ス

第二百七十三條 | 勅許ヲ要スル證人 |

〔理 由〕本條ニ列舉スル官吏ニハ監督官廳ナキヲ以テ
此等ノ者ヲ證人トシテ職務上ノ秘密ニ付訊問スル場合

ニハ勅許ヲ得ルコトヲ要スル旨ヲ規定ス

第二百七十四條 | 議院ノ承認ヲ要スル證人 |

〔理 由〕帝國議會ノ議員又ハ議員タリシ者ヲ職務上ノ
秘密ニ付訊問スルニハ其ノ屬スル貴族院又ハ衆議院ノ
承認ヲ得ルモノトナスヲ相當トスルヲ以テ本案ニ於テ
ハ本條ノ規定ヲ新設セリ

第二百七十五條 | 證人訊問ノ申出 |

〔理 由〕本條ハ證人訊問ノ申出ノ手續ヲ規定ス現行法
第二百九十一條ト同趣旨ナリ

第二百七十六條 | 證人呼出狀ノ記載事項 |

〔理 由〕本條ハ證人ノ呼出狀ニ記載スヘキ事項ヲ規定
ス現行法第二百九十二條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第二百七十七條 | 證人不出頭ノ制裁 |

〔理 由〕本條ハ證人カ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル
場合ニ於ケル制裁ニ關スル規定ナリトス

第二百七十八條 | 證人ノ勾引 |

〔理 由〕本條ハ證人ノ勾引ニ關スル規定ニシテ第二項

ハ勾引ノ手續ヲ定メタルモノナリ

第二百七十九條 | 受命判事受託判事ノ證人訊問 |

〔理 由〕本條掲記ノ場合ハ受命判事又ハ受託判事ナシ
テ證人ノ訊問ヲ爲サシムルヲ相當トスルヲ以テ本條ハ
特ニ其ノ趣旨ヲ明ニシタリ

第二百八十條 | 證言ヲ拒絕シ得ル場合(一) |

〔理 由〕本條ハ證人カ證言ヲ拒ミ得ル場合ヲ規定ス現
行法第二百九十八條第三號ノ規定ト同趣旨ナリ
現行法第二百九十八條ハ當事者又ハ其ノ配偶者ト親族
關係ヲ有スル者、當事者ノ後見ヲ受クル者又ハ當事者
ノ雇人ハ總テ證言ヲ拒絕スルコトヲ得ルモノト爲シタ
レトモ此等ノ者ト雖一切ノ訊問事項ニ付證言ヲ拒絕シ
得ルモノト爲スハ相當ニ非サルヲ以テ本案ニ於テハ同
條ノ如キ規定ハ之ヲ設ケサルコトトセリ

第二百八十一條 | 證言ヲ拒絕シ得ル場合(二) |

〔理 由〕本條モ亦證言拒絕權ヲ規定シタルモノニシテ
現行法第二百九十八條第一號、第二號、第五號ト同趣
旨ナリ現行法ハ齒科醫師、藥劑師、辨理士、辯護人ヲ
遺脱シタルモ之等ノ者モ職務上知り得タル事實ニ付テ

ハ默秘スヘキ義務アルモノナルヲ以テ本條第二號ハ之
ヲ補足セリ

第二百八十二條 | 證言拒絕ト理由ノ疏明 |

〔理 由〕本條ハ證言拒絕ノ理由ハ之ヲ疏明スヘキモノ
ト爲ス現行法第三百條第一項ト同趣旨ナリ

第二百八十三條 | 證言拒絕ノ當否ノ裁判 |

〔理 由〕本條ハ證言拒絕ニ關スル裁判ノ手續並其ノ裁
判ニ對スル不服申立ノ方法ヲ規定ス現行法第三百一條
第一項及第三項ト同趣旨ナリ

第二百八十四條 | 證言拒絕ノ制裁 |

〔理 由〕本條ハ證言拒絕ヲ理由ナシトスル裁判ヲ受ケ
タル者カ正當ノ事由ナクシテ證言ヲ拒ミタル場合ノ制
裁ヲ規定ス現行法第三百二條第一項ト同趣旨ナリ

第二百八十五條 | 證人宣誓ノ時期 |

〔理 由〕本條乃至第二百八十八條ノ規定ハ證人ノ宣誓
ニ關スル規定ニシテ本條ハ宣誓ヲ爲サシムヘキ時期ヲ
規定ス現行法第三百六條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

改正案理由書 第一書：

地方裁判所：

證據

證人訊問

二七九條—二八五條

一七七

第二百八十六條 — 宣誓ノ執行—

〔理 由〕本條ハ宣誓ハ嚴肅ニ之ヲ行ハサルヘカラス是レ證言ノ眞實ヲ確保スル爲極メテ必要ノコトナリ仍テ本條ハ特ニ其ノ趣旨ヲ明ニス

第二百八十七條 — 宣誓ト諭示及警告—

〔理 由〕本條モ亦前條ト同趣旨ニ出ツ現行法第三百八條ノ規定ヲ補足シタルモノナリ

第二百八十八條 — 宣誓ノ形式—

〔理 由〕本條ハ宣誓ノ方法ヲ規定ス現行法第三百七條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ宣誓書ニ署名捺印セシムルハ其ノ規定ナキ現行法ノ下ニ於テモ慣例上裁判所ニ於テ實行セラレル所ナリ

第二百八十九條 — 宣誓ヲ爲サシメサル證人(一)—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百十條第一號及第二號ノ規定ト同趣旨ニシテ本條ニ列擧スル者ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ證人トシテ訊問スヘキモノト爲シタリ

第二百九十條 — 宣誓ヲ爲サシメサル證人(二)—

〔理 由〕第二百八十條ノ規定ニ依リ證言拒絕權ヲ有ス

第二百九十一條 — 宣誓ヲ拒ミ得ル場合—

ル者カ其ノ權利ヲ行使セザルトキハ之ヲ訊問スルニ付テハ宣誓ヲ爲サシメサルコトヲ得ルモノトス蓋シ此等ノ者ニ宣誓ヲ爲サシムルコトハ酷ニ失スル場合アルヲ以テナリ

第二百九十二條 — 無宣誓ノ事由ト調査ノ記載—

〔理 由〕現行法第二百九十八條第四號ニ依レハ證人又ハ證人ト親族關係アル者等ニ財産上ノ損害ヲ生セシムヘキ事項ニ關スル訊問ニ付テハ證言拒絕ノ權利ヲ認メタレトモ斯ル事項ニ付テハ證言ヲ拒絕セシムルコトナク唯宣誓ヲ拒ムコトヲ得シムルモノト爲スニ適當トスルヲ以テ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第二百九十三條 — 宣誓拒絕ニ準用スヘキ規定—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百十六條ト同趣旨ナリ

第二百九十四條 — 宣誓拒絕ニ準用スヘキ規定—

〔理 由〕本條ハ證人カ正當ノ事由ナクシテ宣誓ヲ拒ミタル場合ノ制裁、宣誓拒絕ノ理由ノ立證方法及宣誓拒絕ノ當否ノ裁判手續ニ付テハ證言拒絕ノ場合ノ規定ヲ準用スヘキモノトス現行法第三百九條ノ規定ト同趣旨ナリ

第二百九十四條 — 證人相互ノ對質—

〔理 由〕本條ハ證人ノ對質ニ關スル規定ニシテ現行法第三百十一條第二項ノ辭句ヲ修正シタルモノナリ

第二百九十五條 — 證人ノ手記其ノ他ノ行爲—

〔理 由〕證人ヲ訊問スルニ當リ證人ヲシテ文字ノ手記其ノ他行爲ヲ爲サシムルコトハ眞實ヲ探知スルニ付極メテ必要ナル場合アルヲ以テ本條ノ規定ヲ新設シタリ

第二百九十六條 — 訊問前ノ證人在廷ノ許否—

〔理 由〕現行法第三百十一條ハ證人ハ後ニ訊問スヘキ證人ノ在ラサル所ニ於テ各別ニ之ヲ訊問スヘキコトヲ規定スレトモ常ニ此ノ方法ニ依ラシムルコトヲ必要トスルモノニ非サルヲ以テ本案ハ必要アル場合ニ限リ後ニ訊問スヘキ證人ニ一時退廷ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第二百九十七條 — 書類ニ依リテ陳述スル證言—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百十四條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ證人ハ裁判長ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り書類ニ基キテ陳述ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ

第二百九十八條 — 陪席判事ノ證人訊問—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百十五條第一項ト同趣旨ナリ

第二百九十九條 — 當事者ノ證人訊問權—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百十五條第二項第三項ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ現行法ニ依レハ當事者ハ自ラ證人ニ問テ發スルコトヲ得サルモノナレトモ適當ニ之ヲ許スコトハ訊問ノ周到チ期スル上ニ於テ必要ナルヲ以テ本條ハ裁判長ノ許可アルトキハ自ラ證人ニ發問スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第三百條 — 證人訊問ト受命判事等ノ權限—

〔理 由〕本條ハ受命判事又ハ受託判事カ證人ヲ訊問スル場合ノ手續ヲ定メタル規定ニシテ現行法第三百九條第一項乃至第三項ノ規定ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第三款 鑑定

本款ハ現行法第七節ニ相當ス本案ニ於テハ官公署又ハ相當ノ設備ヲ有スル法人ニ囑託シテ鑑定ヲ爲サシムル

コトヲ得ルノ途ヲ開キタルハ改正ノ主要ナル點トス

第三百一條 — 鑑定ニ準用スヘキ規定—

〔理由〕本條ハ現行法第三百二十二條ト同趣旨ナリ

第三百二條 — 鑑定義務ト其ノ例外—

〔理由〕本條ハ鑑定ノ義務ヲ規定ス現行法第三百二十六條、第三百二十七條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百三條 — 鑑定人ノ勾引—

〔理由〕現行法第三百二十八條ト其ノ趣旨同シ

第三百四條 — 鑑定人ノ指定—

〔理由〕本條ハ現行法第三百二十四條及第三百三十一條ニ該當スル規定ナリ現行法ハ鑑定人ノ選定及其ノ員數ノ指定等ニ付詳細ノ規定ヲ設ケタレトモ本條ニ於テハ此等ノ事項ハ總テ之ヲ裁判所ノ裁量ニ一任セリ

第三百五條 — 鑑定人ノ忌避—

〔理由〕本條及第三百六條ハ鑑定人ノ忌避ニ關スル規定ニシテ本條ハ忌避ノ原因ヲ規定ス現行法ニ於テハ證人ニ付忌避ノ制度ヲ認メタルヲ以テ特ニ鑑定ニ付忌避

ノ規定ヲ設ケルノ必要ナカリシモ本案ニ於テハ證人ニ付忌避ノ制度ヲ認メサリシヲ以テ特ニ本條及次條ヲ設ケルノ必要ヲ生シタルモノトス蓋シ證人ハ他人ヲ以テ代フルコトヲ得サルモノナルニ反シ鑑定ニ付テハ之ト趣テ異ニスルモノアルヲ以テ本案ハ鑑定人ニ付忌避ノ制度ヲ認メタルモノトス

第三百六條 — 忌避ノ申立及其ノ裁判並不服申立—

〔理由〕本條ハ忌避ノ申立ノ手續及忌避ノ申立ニ關スル裁判ノ不服申立方法ヲ規定ス

第三百七條 — 宣誓ノ形式—

〔理由〕本條ハ鑑定人ノ宣誓ノ方法ヲ規定ス

第三百八條 — 鑑定人ノ意見ト陳述方法—

〔理由〕本條ハ現行法第三百三十條ニ該當スル規定ナリ本條ニ於テ現行法第三百三十條第三號第四號ノ如キ規定ヲ置カサリシハ此等ノ事項ハ本條及第二百六十一條等ノ規定ニ依リテ之ヲ處理スルコトヲ得ルモノト認メタルニ因ル

第三百九條 — 鑑定證人—

〔理由〕本條ハ鑑定、證人ニ關スル規定ニシテ現行法第三百三十三條ノ規定ト同趣旨ナリ

第三百十條 — 官公署等ニ對スル鑑定ノ囑託—

〔理由〕本條ハ官公署又ハ相當ノ設備ヲ有スル法人ニ對シ鑑定ノ囑託ヲナシ得ルコトヲ定メタル規定ニシテ本條ヲ新ニ設ケタル理由ハ從來ノ經驗ニ照シ鑑定ニ際シ官公署又ハ法人ノ事務ニ從事スル人及其ノ設備ヲ利用スルノ必要ヲ感スル場合尠カラズ而モ此ノ如キ場合ニハ寧ロ此等ノ官公署若ハ法人自體ニ對シ鑑定ノ囑託ヲ爲スヲ便宜ト爲スニ因ル

第四款書 證

本款ハ現行法第八節ニ相當ス訴訟ノ進行ノ圓滑ト判斷ノ適正ヲ期スルカ爲メ第三者ニ對シテモ文書ノ提出ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲シタルコト、第三者カ文書提出ノ命ニ從ハサル場合ニ於ケル制裁ノ規定ヲ設ケタルコト、文書送付ノ囑託ニ關スル規定ヲ設ケタルコト、公正證書又ハ檢眞ヲ經タル私署證書ノ眞否ノ確定ニ關スル規定及私署證書ノ檢眞ニ關スル規定ヲ廢止シタルコト等ハ現行法改正ノ主要ナル點ナリトス

第三百十一條 — 書證申出ノ方式—

〔理由〕本條ハ現行法第三百三十四條及第三百三十五條ニ該當スル規定ニシテ書證ノ申出方法ヲ定メタルモノトス本案ニ於テハ裁判所ハ第三者ニ對シテモ決定ヲ以テ文書ノ提出ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲シタル結果本條ニ於テモ書證ノ申出ハ獨リ文書ヲ所持スル相手方ニ對シテノミナラス廣ク文書ノ所持者ニ對スル提出命令ノ申立ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ

第三百十二條 — 文書所持者ノ提出義務—

〔理由〕本條ハ文書ノ所持者カ之ヲ提出スヘキ義務アル場合ヲ定ム現行法第三百三十六條及第三百四十三條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百十三條 — 文書提出ノ申立ノ要件—

〔理由〕本條ハ文書提出ノ申立ノ方式ヲ規定ス現行法第三百三十八條ト同趣旨ナリ

第三百十四條 — 文書提出ノ命令—

〔理由〕本條ハ現行法第三百三十九條ニ該當ス、現行法ト異ナリ苟クモ文書提出ノ申立カ理由アリト認メラ

ルル場合ニハ決定ヲ以テ其ノ提出ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲セリ而シテ文書提出ノ命令ハ獨リ相手方ニ對シテノミナラス第三者ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘク此ノ場合ニ於テハ第三者ヲ審訊シテ裁判ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ本案ニ於テハ本條第二項ノ規定ヲ設ケタリ

第三百十五條 | 文書提出ノ申立ノ裁判ト不服 |

〔理 由〕本條ハ文書提出ノ申立ニ關スル裁判ニ對シ即時抗告ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定ス

第三百十六條 | 文書提出ノ命ニ從ハサル效果 |

〔理 由〕本條ハ當事者カ文書ノ提出ニ關スル裁判所ノ命ニ從ハサル場合ノ制裁ヲ規定ス現行法第三百四十一條ノ規定ニ相應スル規定ナリ

第三百十七條 | 文書ノ使用ヲ不能ナラシメタル效果 |

〔理 由〕本條亦前條ト同趣旨ニ出ツ現行法第三百四十一條ニ相應スル規定ナリ

第三百十八條 | 文書提出ノ命ニ從ハサル第三者ノ制裁 |

〔理 由〕本條ハ新ニ設ケラレタル規定ニシテ證人ニ對

スル制裁ノ規定ト其ノ趣旨ヲ同シクス蓋シ裁判ノ適正ヲ得ルト否トハ事公益ニ關スルヲ以テ正當ノ理由ナキ限り第三者モ亦之カ協力ヲ拒ムコトヲ得サルヘキナリ此ノ點ニ於テハ證人タルト將又文書ノ所持者トチ別ツノ理ナキモノトス是レ本案ニ於テ本條ヲ新設シタル所以ナリトス尙本案ハ檢證ニ付テモ同趣旨ノ規定ヲ設ケタリ

第三百十九條 | 文書ノ送付ヲ囑託スヘキ申出 |

〔理 由〕文書ヲ所持スル當事者又ハ第三者ハ文書ノ提出ヲ拒マサル場合ナキニアラス斯ル場合ニ於テハ舉證者ハ強テ第三百十一條ノ規定ニ依リ提出命令ヲ求ムルノ要ナキヲ以テ本條ノ規定ヲ設ケ文書ノ送付ヲ囑託セムコトヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス然レトモ例ヘハ戶籍謄本等ノ如キ當事者カ文書ノ正本又ハ謄本ノ交付ヲ求メ得ル場合ニ於テハ特ニ送付ノ囑託ヲ求ムルノ要ナシ仍テ本條但書ハ其ノ趣旨ヲ明ニス

第三百二十條 | 提出又ハ送付文書ノ留置 |

〔理 由〕本條ハ現行法第三百五十四條ト略其趣旨ヲ同シクス

第三百二十一條 | 受託判事ノ證據調ト調書ノ記載 |

〔理 由〕本條ハ現行法第三百四十八條第二項ニ相應スル規定ナリトス現行法第二百四十八條第一項ノ如キ規定ヲ設ケサリシハ第二百六十五條ノ規定ヲ以テ足レリト爲シタルカ爲ナリトス

第三百二十二條 | 文書ノ提出又ハ送付ト其ノ種類 |

〔理 由〕本條ハ現行法第三百四十九條ノ規定ヲ修正シタルモノニシテ判決書ノ如ク原本ノ外ニ正本又ハ認證アル謄本ノ存スル場合ニ於テハ文書ノ提出ハ其ノ何レカニ依ルコトヲ得ヘキモ裁判所ハ必要ニ應シ特ニ原本ノ提出ヲ命スルコトヲ得ルモノトス但シ私文書ノ如ク正本又ハ認證アル謄本ノ存セサルモノニ付テ原本ヲ提出スルコトヲ要スルハ勿論ナリ第三項ハ當事者カ他ノ事件ノ訴訟記録ヲ證據トシテ引用シタル場合等ニ關スル規定ニシテ此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ謄本又ハ抄本ノ提出ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

第三百二十三條 | 公文書タルノ推定 |

〔理 由〕本條ハ公文書ノ成立ニ關スル推定ノ規定ナリトス蓋シ文書カ其ノ方式及趣旨ニ依リ官吏其ノ他ノ公務員ノ職務上ノ作成ニ係ルモノト認ムヘキモノナルトキハ一應其ノ成立ノ眞正ヲ推定スルハ蓋シ當然ノコト

ナルヲ以テ第一項ニ依リ其ノ趣旨ヲ明定シタリ第二項ハ公文書ノ眞否ニ付疑アル場合ノ職權調査ノ規定トス

第三百二十四條 | 外國公文書タル推定 |

〔理 由〕本條ハ外國ノ官公署ノ作成ニ依ルモノト認ムヘキ文書ノ成立ノ推定ニ關スル規定ニシテ前條ト其ノ趣旨ヲ等フス

第三百二十五條 | 私文書眞正ノ證明 |

〔理 由〕本條ハ私文書ノ成立ニ關スル規定ナリトス私文書ハ公文書ト異ナリ前述ノ如キ推定ヲ爲スニ適セサルヲ以テ私文書ノ眞否ニ付争アルトキハ舉證者ニ於テ其ノ成立ヲ立證スルコトヲ要スルモノトセリ

第三百二十六條 | 私文書眞正ノ推定 |

〔理 由〕私文書ト雖本人又ハ代理人ノ眞正ナル署名又ハ捺印アルモノニ在リテハ一應其ノ成立ノ眞正ヲ推定スルヲ相當トス是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第三百二十七條 | 文書眞否ノ證明方法 |

〔理 由〕本條ハ文書ノ眞否ニ關スル證據調ノ方法ヲ規定シタルモノニシテ文書ノ眞正ナリヤ否ハ一般ノ證據

方法ニ依ルノ外筆跡又ハ印鑑ノ對照ニ依リテモ之ヲ證スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定ス

第三百二十八條 — 文書ノ提出及送付ト準用規定—

〔理 由〕對照ノ用ニ供スヘキ筆跡又ハ印鑑ヲ具フル文書其他ノ物件ハ嚴格ナル意義ニ於テハ書證ナリト謂ヒ難キヲ以テ此ノ種ノ物件ニ付テハ書證ニ關スル規定ヲ準用スル必要アリ是レ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ、第三百十二條ヲ準用セザリシハ物件提出ノ義務ヲ同條列舉ノ場合ニ限定セサル趣旨ナリトス即チ本條第二項ノ規定ニ依リテ明ナル如ク物件ノ所持者ハ一般ニ正當ノ事由アル場合ニ限リ對照物件ノ提出ヲ拒ミ得ヘキモノトス本條第二項ハ第三百十八條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百二十九條 — 對照供用ノ文字ノ手記—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百五十三條第三項第五項ト其ノ趣旨ヲ同シクス第三者ニ對シテハ第二百九十五條ノ規定ニ依リ文字ノ手記ヲ命スルコトヲ得

第三百三十條 — 對照書類ノ原本、謄本等ノ添附—

〔理 由〕對照ノ用ニ供シタル書類ノ原本、謄本又ハ抄

實ノ開示ニ付規定セサルハ第二百五十八條ノ規定ヲ設ケタルカ爲ナリ

第三百三十四條 — 檢證現場ニ於ケル鑑定命令—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百五十八條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス受訴裁判所カ檢證ヲ爲スニ當リ鑑定ヲ命シ得ルハ當然ナルヲ以テ本條ハ此ノ點ニ關シ規定ヲ設ケス

第三百三十五條 — 證據物ノ提示及送付ト準用規定—

〔理 由〕本條ハ書證ニ關スル規定ヲ檢證ニ準用シタルモノニシテ其ノ趣旨ハ第三百二十八條ニ於テ説明シタル所ト同一ナリトス
本條第二項ハ檢證ニ關スル第三者ノ協力ノ義務ヲ認メタルモノニシテ第三百十八條第三百二十八條第二項等ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第六款 當事者訊問

本款ハ現行法第十節ニ相當ス當事者ヲ訊問スル場合ニ於テ之ヲ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトシ宣誓ヲ爲シタル當事者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ過料ノ制裁ヲ科スルモノト爲シタルコトハ本款ニ於ケル

改正案理由書 第一審： 地方裁判所： 證據 當事者訊問

本ハ之ヲ調書ニ添附シ置クヲ審理上便宜ナリトスルヲ以テ本條ノ規定ヲ設ク

第三百三十一條 — 故意ニ文書ノ真正ヲ爭ヒタル制裁—

〔理 由〕現行法第三百五十五條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百三十二條 — 權利ノ證據ト書證ノ規定—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百五十六條ト同趣旨ナリ

第五款 檢 證

本款ハ現行法第九節ニ相當ス本款ニ於テ當事者及第三者ニ對シ廣ク檢證ノ目的ヲ提示スルノ義務ヲ定メ正當ノ事由ナクシテ提示ノ命ニ應セサル當事者ニ對シ第三百十六條ノ規定ヲ準用シ同シク提示ノ命ニ應セサル第三者ニ對シ過料ノ制裁ヲ付シタルハ現行法改正ノ要點ナリトス

第三百三十三條 — 檢證申出ノ方式—

〔理 由〕本條ハ檢證ノ申出ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ現行法第三百五十七條ト同趣旨ナリ、證スヘキ事

改正ノ要點ナリ

第三百三十六條 — 當事者本人ノ訊問—

〔理 由〕裁判所カ證據調ニ依リ心證ヲ得ルコト能ハサル場合其ノ他必要ニ應シ當事者本人ヲ宣誓セシメテ直接ニ之ヲ訊問スルノ途ヲ開クハ審理ノ適正ヲ期スル上ニ於テ極メテ肝要メコトナリ仍テ本條ハ此ノ趣旨ニ於テ現行法第三百六十條ヲ補足シタリ

第三百三十七條 — 當事者本人ト對質—

〔理 由〕本條ハ當事者相互及當事者ト證人トノ對質訊問ニ關スル規定ナリトス現行法ノ不備ヲ補足シタルモノナリ

第三百三十八條 — 本人訊問ニ應セサル效果—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百六十三條ト同一趣旨ニ出ツ但シ本案ニ於テハ當事者カ正當ノ事由ナクシテ宣誓ヲ拒ミタル場合ニ於テモ裁判所ハ訊問事項ニ關スル相手方ノ主張ヲ眞實ト認ムルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第三百三十九條 — 虛偽ノ陳述ヲ爲シタル制裁—

〔理 由〕本條ハ宣誓シタル當事者カ虛偽ノ陳述ヲ爲シ

タル場合ノ制裁ヲ規定ス

第三百四十條 — 本人訊問ト其ノ調査—

〔理 由〕本條ハ當事者本人ノ訊問調査ニ記載スヘキ事項ヲ規定ス

第三百四十一條 — 法定代理人ノ訊問ト準用規定—

〔理 由〕當事者カ法定代理人ニ依リテ代表セラレル訴訟ニ於テハ其ノ法定代理人ヲ訊問スルノ要アルヘク本條ハ其ノ訊問ニ付テハ當事者本人訊問ノ規定ヲ準用スヘキモノトセリ然レトモ此ノ如キ場合ニ於テモ當事者本人訊問ヲ必要トスルコトアルヲ以テ本條但書ノ規定ヲ設ク

第三百四十二條 — 本人訊問ニ準用スヘキ規定—

〔理 由〕本條ハ當事者訊問ノ手續及宣誓ニ付證人訊問ノ手續及宣誓ニ關スル規定ヲ準用スヘキ旨ヲ定ム

第七款 證據保全

本款ハ現行法第十一節ニ相當ス職權ニ因ル證據保全ヲ認メタルコトハ現行法改正ノ主要ナル點ナリトス

第三百四十三條 — 證據保全ヲ許スヘキ場合—

〔理 由〕本條ハ證據保全ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ現行法第三百六十五條ト其ノ趣旨ヲ異ニセス

第三百四十四條 — 證據保全ノ申立ト管轄—

〔理 由〕本條ハ證據保全ノ管轄裁判所ヲ規定シタルモノニシテ現行法第三百六十六條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百四十五條 — 證據保全ノ申立ノ要件—

〔理 由〕本條ハ證據保全ノ申立ノ手續ヲ規定ス現行法第三百六十七條ト同趣旨ナリ

第三百四十六條 — 相手方ナキ證據保全ノ申立—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百七十二條ト略其趣旨ヲ同シクス

第三百四十七條 — 訴訟繫屬中職權ニヨル證據保全—

〔理 由〕本條ハ裁判所カ訴訟繫屬中必要ニ應シ職權ヲ以テ證據保全ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定ス本案ニ於テ職權ニ因ル證據調ヲ認メタル當然ノ結果ナリトス

第三百四十八條 — 證據保全ノ裁判ト不服申立—

〔理 由〕本條ハ證據保全ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得サル旨ヲ規定ス

第三百四十九條 — 證據調期日ノ呼出—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百六十九條ト同趣旨ナリ

第三百五十條 — 證據保全ニ關スル記録—

〔理 由〕本條ハ證據保全ニ關スル記録ハ之ヲ本訴訟ノ繫屬スル裁判所ニ送付スヘキ旨ヲ規定ス現行法第三百七十條第二項ノ規定ヲ修正シタルハ訴訟進行ノ便益ヲ圖ルニ出テタルモノトス

第三百五十一條 — 證據保全ニ關スル費用—

〔理 由〕證據保全ニ關スル費用ハ本訴訟ニ關シ生シタルモノナルヲ以テ本條ノ規定ヲ新設シ之ヲ訴訟費用ノ一部ト看做シタリ

第二章 區裁判所ノ訴訟手續

本章ハ現行法第二章第一節ニ相當ス被告カ地方裁判所

改正案理由書 第一審： 區裁判所：

ノ管轄ニ屬スル事件ヲ反訴トシテ提起シタル場合ニ於ケル移送ノ規定ヲ設ケタルコト區裁判所ノ判決書ノ記載事項ヲ特ニ簡易ト爲シタルコト等ハ本章ニ於ケル現行法改正ノ要點ナリトス

第三百五十二條 — 區裁判所ノ訴訟手續ト準用規定—

〔理 由〕本條ハ現行法第三百七十三條ト同趣旨ニシテ區裁判所ノ訴訟手續ニ付テハ本章ニ特別ノ規定ナキ限り地方裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノナルコトヲ明ニス

第三百五十三條 — 訴提起ノ方式—

〔理 由〕本條ハ區裁判所ニ對スル訴ハ口頭ヲ以テ提起シ得ヘキコトヲ規定ス現行法第三百七十四條ト同趣旨ナリ

第三百五十四條 — 訴提起ノ特別方式—

〔理 由〕本條ハ當事者ハ區裁判所ニ於テハ豫メ訴ヲ提起スルコトナクシテ直ニ裁判所ニ出頭シテ辯論ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定ス現行法第三百七十八條ト同趣旨ナリ

第三百五十五條 — 反訴ニ基ク事件ノ移送—

〔理由〕本條ハ被告カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ヲ反訴トシテ提起シタル場合ノ移送ノ手續ニ關スル規定ナリトス蓋シ反訴ノ被告ニ對シ本來管轄權ナキ裁判所ノ判決ヲ強フルカ如キ結果ナカラシムトスルニ出テタルモノトス

第三百五十六條 — 和解ノ申立ト其ノ效果—

〔理由〕本條ハ和解ノ申立ニ關スル規定ニシテ現行法第三百八十一條ノ規定ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百五十七條 — 口頭辯論ノ準備—

〔理由〕本條ハ現行法第三百七十五條第二項及第三百七十六條ニ該當スル規定ナリトス
本條第一項及第二項ハ區裁判所ニ於テハ準備書面ノ必要ナキコト但シ相手方カ準備書面ヲ爲スニ非サレハ即時ニ陳述ヲ爲スコト能ハサル事項ニ付テハ準備書面ヲ提出スルノ要アルコト、此ノ場合ニ於テモ當事者ハ直接相手方ニ其ノ事項ヲ通知シ之ヲ以テ準備書面ノ提出ニ代ルコトヲ得ル旨ヲ規定ス現行法ト略同趣旨ナリ
第三項ハ前述ノ通知ヲ爲ササル場合ニ於テ第二百四十

七條ノ準用アルヘキ旨ヲ規定ス固ヨリ當然ノコトナリ

第三百五十八條 — 準備手續ノ不適用—

〔理由〕區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ概シテ簡易ナルヲ以テ特ニ受命判事ニ因ル準備手續ヲ必要トセス是レ本條ヲ設ケタル所以ナリ

第三百五十九條 — 判決ノ事實理由ノ記載方—

〔理由〕本條ハ區裁判所ニ於ケル判決ノ記載事項ニ關スル規定ナリトス本條ニ依レハ區裁判所ニ於ケル判決ニハ請求ノ趣旨及請求ノ原因ノ要旨ヲ記載スル外單ニ請求原因カ存スルヤ否ヤ及請求ヲ排斥スル理由タル抗辯ノ一ノミニ付其ノ要旨ヲ記載スルヲ以テ足ルモノトス

第三編 上訴

第一章 控訴

本章ハ現行法第三編第一章ニ相當ス、控訴ヲ爲ササルコトノ合意ヲ認メ、控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額三百圓ニ滿タサルモノニ付控訴ヲ制限シ、原裁判所ニ

モ控訴狀ヲ提出スルコトヲ得セシメタルコトハ本案ニ於ケル現行法改正ノ要點ナリトス

第三百六十條 — 控訴ノ目的タル裁判—

〔理由〕本條ハ控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ニ付新ニ規定ヲ設ケタル外現行法第三百九六條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百六十一條

〔本條ハ議會ニ於テ削除セラレシモ確定法ニ其ノ條文ナキテ以テ參考トシテ掲出セリ〕

財産權上ノ請求ニ關スル判決ニ對シテハ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ價額カ三百圓ニ滿タサル場合ニ於テハ再審ノ事由アルニ非サレハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ハ訴訟ノ目的ノ價額カ三百圓以上ナル事件ニ付裁判所カ訴訟ノ一部ニ付爲シタル判決ニハ之ヲ適用セス
第一項ノ價額ハ控訴提起ノ時ヲ標準トシテ之ヲ定ム
控訴審ニ於テ擴張シタル請求ノ價額ハ第一項ノ價額ニ之ヲ算入セス
第一項ノ價額ヲ算定スルコト能ハサルトキハ其ノ價額

ハ三百圓ト看做ス第二十三條ノ規定ハ第一項ノ價額ノ算定ニ之ヲ準用ス

〔理由〕第一項ハ財産上ノ請求ニ關シ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ノ僅少ナル場合ニ付控訴ヲ許ササルノ趣旨ヲ規定ス、控訴ニ因リテ受クヘキ利益ハ訴訟ノ目的ノ價額ト其ノ意義ヲ異ニス例ヘハ一千圓ノ請求中八百圓ニ付原告勝訴ノ判決アリタル場合ニハ原告カ控訴ニ因リテ受クヘキ利益ハ二百圓ニシテ三百圓ニ滿タサルヘキヲ以テ原告ハ控訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス但シ判決ニ再審ノ事由アル場合ニ於テハ利益ノ多少ニ拘ラ

ス控訴ヲ許スヘキハ當然ナリ
訴訟ノ目的ノ價額カ三百圓以上ノ事件ニ付裁判所カ其ノ裁量ニ依リ一部判決ヲ爲シタルカ爲其ノ判決ニ付控訴ニ因リテ受クヘキ利益カ三百圓ニ滿タサルニ至リタル場合ニ於テ前項ニ依リ均シク控訴ヲ許ササルモノトスルハ妥當ニ非サルハ勿論ナリ仍テ第二項ハ此ノ趣旨ヲ明ニス、第四項ハ控訴審ニ於テ請求ヲ擴張シタルカ爲メ控訴ニ因リテ受クヘキ利益カ三百圓以上ト爲リタル場合ニ於テモ控訴ヲ許ササルノ趣旨ヲ規定ス、本條第三項及第五項ニ付テハ特ニ説明スヘキコトナシ
第三百六十二條（確定法第三百六十一條） — 費用ノ裁

判ニ對スル控訴

〔理由〕本條ハ現行法第八十三條ト其ノ趣旨ヲ同シクス
第三百六十三條（確定法第三百六十二條） 一 訴控訴審
ノ判斷ヲ受クヘキ裁判

〔理由〕本條ハ現行法第三百九十七條ト其ノ趣旨ヲ同
シクス
第三百六十四條（確定法第三百六十三條） 一 控訴ノ取下

〔理由〕本條ハ現行法第三百九十九條ニ相應ス、控訴
審ニ於ケル終局判決アリタル後ニ於テ控訴ノ取下ヲ許
ササルハ若シ之ヲ許ストキハ當事者ヲシテ原審判決ト
控訴審ノ判決トヲ選擇スルコトヲ得セシムルカ如キ結
果ヲ生スヘキヲ以テナリ
第三百六十五條（確定法第三百六十四條） 一 控訴權ノ
拋棄

〔理由〕本條ハ新設ノ規定ニシテ控訴權ノ拋棄ヲ爲シ
得ヘキ旨ヲ明定ス
第三百六十六條（確定法第三百六十五條） 一 控訴權拋
棄ノ方式

〔理由〕本條ハ控訴權拋棄ノ方法ニ關スル規定ニシテ

新ニ設ケラレタルモノナリトス
第二項ニ控訴提起後ニ於ケル控訴權ノ拋棄ハ控訴ノ取
下ト共ニ之ヲ爲スコトヲ要ストル規定シタルハ控訴權ノ
拋棄ト共ニ控訴審ニ於ケル手續ヲ終局セシメントスル
趣旨ニ出テタルモノトス
第三百六十七條（確定法第三百六十六條） 一 控訴提起
ノ期間

〔理由〕本條ハ現行法第四百條ニ相應ス現行法ニ於テ
控訴期間ヲ三十日ト爲シタルハ長キニ失スルヲ以テ本
條ニ於テハ之ヲ短縮セリ又現行法ニ於テハ判決ノ送達
前ニ提起シタル控訴ハ之ヲ無効トスル旨ノ規定アレト
モ必スシモ判決送達後ニ限リ控訴ノ提起ヲ許スノ理ナ
キヲ以テ本條ニ於テハ判決送達前ニモ控訴ヲ提起シ得
ヘキ旨ヲ明ニセリ
第三百六十八條（確定法第三百六十七條） 一 控訴提起
ノ方式

〔理由〕本條ハ現行法第四百一條第一項第二項ノ規定
ト大體ニ於テ其ノ趣旨ヲ同シクス唯現行法ニ於テハ控
訴狀ハ控訴裁判所ニ之ヲ提出スヘキモノトナセトモ本
條ニ於テハ控訴狀ハ原裁判所又ハ控訴裁判所ノ何レニ

モ之ヲ提出スルコトヲ得ルモノト爲シタリ

第三百六十九條（確定法第三百六十八條） 一 控訴狀ト
準備書面ノ規定

〔理由〕本條ハ現行法第四百一條第三項ト其ノ趣旨ヲ
同シクス既ニ控訴狀ニ準備書面ニ關スル規定ヲ準用ス
ル以上ハ現行法第四百一條第三項ニ規定セル事項ノ如
キハ控訴狀ニ之ヲ記載スヘキコト固ヨリ當然ナルヲ以
テ本條ハ特ニ此等ノ點ニ關シ詳細ナル規定ヲ設ケス

第三百七十條（確定法第三百六十九條） 一 控訴狀ノ提
出ト記録送付ノ請求

〔理由〕本條ハ控訴ノ提起アリタル場合ニ於ケル訴訟
記録ノ處理ニ付規定ス

本案ニ於テハ控訴狀ハ原裁判所ニモ亦之ヲ提出スルコ
トヲ得ルモノト爲シタルヲ以テ本條ハ此ノ場合ニ於ケ
ル訴訟記録ノ處理ニ付テモ亦規定ヲ設ケルタリ其ノ他
ハ現行法第四百三十一條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス
第三百七十一條（確定法第三百七十條） 一 控訴狀ノ
補正ト準用規定

〔理由〕本條ハ控訴狀ニ第三百六十八條第二項所定ノ

事項ノ記載ナキ場合、法律ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用セ
サル場合及控訴狀ノ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニハ
第二百二十八條ノ規定ヲ準用スヘキ旨ヲ規定ス本條ハ
大體ニ於テ現行法第四百二條ト其ノ趣旨ヲ同シクス唯
控記期間經過後ニ提起シタル控訴ニ付テハ第三百八十
四條ノ適用アリ

第三百七十二條（確定法第三百七十一條） 一 控訴狀ノ
送達

〔理由〕本條ハ控訴狀ノ送達ニ付特ニ明文ヲ設ケタリ
精神ニ於テ現行法ト異ルコトナシ

第三百七十三條（確定法第三百七十二條） 一 附帶控訴
ト其ノ時期

〔本條ハ確定法ト異ナル處アルヲ以テ掲出ス〕

被控訴人ハ控訴權消滅ノ後ト雖口頭辯論ノ終結ニ至ル
迄附帶控訴ヲ爲スコトヲ得附帶控訴ニ因リテ受クヘキ
利益ノ價額カ三百圓ニ滿タサルトキ亦同シ

〔理由〕本條前段ハ現行法第四百五條第一項ト其ノ
趣旨ヲ同シクス本條後段ハ本案ニ於テ控訴制限ノ規定
ノ規定ヲ設ケタル當然ノ結果ナリ又現行法第四百五條

第二項ノ如キ規定ヲ設ケサルハ關席判決ヲ認メサル當然ノ結果ナリ

第三百七十四條（確定法第三百七十三條） — 附帶控訴ノ失効 —

〔理 由〕本條ハ現行法第四百六條ト全ク其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百七十五條（確定法第三百七十四條） — 附帶控訴ト控訴ノ規定 —

〔理 由〕本條ハ新設セラレタル規定ナリトス然レトモ其ノ精神ニ於テ現行法ト異ル所ナシ

第三百七十六條（確定法第三百七十五條） — 一審判決ニ對スル假執行ノ宣言 —

〔理 由〕本條ハ現行法第五百九條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス上告ニ於ケル假執行ノ宣言ニ付テハ第三百九十七條ノ適用アリ

第三百七十七條（確定法第三百七十六條） — 假執行ノ裁判ト不服申立 —

〔理 由〕第一項ハ假執行ノ宣言ノミニ付先ツ控訴審ニ於テ裁判ヲ爲シタル場合及前條ノ規定ニ依リ控訴審ニ於テ不服ノ申立ナキ部分ニ付第一審判決ニ對シ假執行

ノ宣言ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ裁判ニ對シ不服ヲ申立ツルコト能ハサル旨ヲ規定ス現行法第五百十一條第三項ト略其ノ趣旨ヲ同シクス
第二項ハ新設ノ規定ニシテ前條ノ規定ニ依ル假執行宣言ノ申立ヲ却下スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ規定ス即チ此ノ點ニ付第二項ノ規定ハ第一項ノ規定ノ例外ヲ爲スモノトス

第三百七十八條（確定法第三百七十七條） — 控訴ノ辯論範圍 —

〔理 由〕本條第一項ハ現行法第四百十一條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第二項ハ現行法第四百十二條第一項ト其ノ趣旨ヲ同シクス現行法第四百十二條第二項ハ當然ノ事項ヲ規定シタルモノニ過キサルヲ以テ本案ニ於テハ特ニ此ノ種ノ規定ヲ設ケス

第三百七十九條（確定法第三百七十八條） — 控訴審ト地方手續ノ準用 —

〔理 由〕本條ハ控訴審ニ於ケル訴訟手續ハ特例ヲ定ムルモノノ外地方裁判所ノ訴訟手續ニ關スル規定ニ準スヘキモノナルコトヲ明ニス

第三百八十條（確定法第三百七十九條） — 一審ニ於ケル訴訟行為ノ效力 —

〔理 由〕第一審ニ於テ爲シタル訴訟行為ハ控訴審ニ於テモ當然其ノ效力ヲ有セサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリトス

第三百八十一條（確定法第三百八十條） — 一審ニ於ケル準備手續ノ效力 —

〔理 由〕第一審ニ於テ爲シタル準備手續モ亦當然控訴審ニ於テ其ノ效力ヲ有セサルヘカラス是レ本條ノ規定アル所以ナリ

第三百八十二條（確定法第三百八十一條） — 管轄權ニ關スル主張ノ制限 —

〔理 由〕假如第一審裁判所ノ管轄權ヲ有セサル場合ト雖控訴裁判所ヲシテ管轄權ヲ理由トシテ第一審判決ヲ廢棄スルコトヲ得セシムルハ第一審ノ審理ヲシテ徒勞ニ歸セシムルモノニシテ固ヨリ其ノ當ヲ得サルモノトス從テ本條ニ於テハ當事者ヲシテ控訴審ニ於テ第一審裁判所カ管轄權ヲ有セサル旨ヲ主張スルコトヲ得サラシメタリ但シ專屬管轄ニ違背シタル第一審判決ハ之ヲ

廢棄スヘキモノタルハ勿論ナリ

第三百八十三條（確定法第三百八十二條） — 控訴審ト反訴ノ提起 —

〔理 由〕現行法ニ依レハ反訴ハ原則トシテ答辯書差出期間内ニ限り之ヲ起スコトヲ得レトモ本案ニ於テハ反訴ハ第一審ノ口頭辯論ノ終結ニ至ル迄何時ニテモ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノト爲セリ
然レトモ控訴審ニ於ケル反訴ノ提起ハ審級ヲ棄ルコトトナルヲ以テ相手方ノ同意ナキ限りニ之ヲ許スヘキモノニ非ス本條ハ此ノ趣旨ヲ規定ス

第三百八十四條（確定法第三百八十三條） — 補正不能ノ控訴ノ却下 —

〔理 由〕本條ハ不適法ナル控訴ノ棄却ニ關スル規定ニシテ第二百一條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百八十五條（確定法第三百八十四條） — 控訴ヲ棄却スル場合 —

〔理 由〕本條ハ現行法第四百二十四條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス唯本條ハ第一審判決カ其ノ理由ニ於テ不當ナルモ結論ニ於テ正當ナル場合ニハ控訴ヲ棄却スヘキ旨ヲ明ニス

第三百八十六條（確定法第三百八十五條） — 第一審判決變更ノ限度 —

〔理 由〕本條ハ現行法第四百二十條、第四百二十五條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第三百八十七條（確定法第三百八十六條） — 第一審判決ノ取消（一） —

〔理 由〕本條ハ當然ノ規定ニシテ特ニ説明ヲ要セス

第三百八十八條（確定法第三百八十七條） — 第一審判決ノ取消（二） —

〔理 由〕本條ハ判決ノ言渡其ノ他判決自體ニ關スル手續力法律ニ違背シタル場合ニ控訴裁判所ニ於テ其ノ判決ヲ取消シ得ヘキ旨ヲ規定ス
蓋シ判決ノ手續力法律ニ違背シタル場合ニハ判決自體存在セス從テ判決ノ取消モ亦有り得ヘカラサル所ニ屬ストノ疑ヲ生スルノ餘地アルヲ以テ特ニ本條ヲ設ケテ其ノ疑ヲ避ケタルモノトス

第三百八十九條（確定法第三百八十八條） — 必要的差戻ノ判決 —

〔理 由〕訴ヲ不適法ナリトシテ却下シタル第一審判決

ヲ取消ス場合ニ若シ控訴裁判所ニ於テ自ラ判決ヲ爲ストキハ審級ヲ棄ルノ結果トナルヘキヲ以テ此ノ場合ニハ控訴裁判所ハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス本條ハ右ノ趣旨ニ出テタルモノトス

第三百九十條（確定法第三百八十九條） — 權能的差戻ノ判決 —

〔理 由〕本條ハ現行法第四百二十二條及第四百二十三條ニ相當スル規定ナリ
先ツ原因ノ争ノミニ付裁判所ノ爲シタル第一審ノ判決ヲ取消シタル場合ニ事件ニ付尙辯論ヲ爲ス必要アルトキノ如キ或ハ證據調ノ手續力違法ナリシ爲第一審ニ於ケル證據調ノ大部分方其ノ效ナキニ至リ而モ當該證據方法力第一審裁判所ノ管轄區域内ニ存スルトキノ如キニ在リテハ控訴裁判所ハ事件ヲ更ニ第一審裁判所ニ差戻スニ相當トスヘシ本條第一項ハ右ノ趣旨ニ出テタル規定ナリトス
現行法ニ於テハ第一審ニ於ケル訴訟手續力法律ニ違背シタルコトヲ理由トシテ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス場合ニハ控訴裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ廢棄セサルヘカラサルモ寧ロ法律ニ違背シタル此ノ種ノ手續ハ當然之ヲ無効ト爲スノ簡便ナルニ如カラサルヲ以テ本案ハ此

ノ趣旨ニ於テ本條第二項ノ規定ヲ設ケタリ

第三百九十一條（確定法第三百九十條） — 事件移送ノ判決 —

〔理 由〕管轄違ヲ理由トシテ判決ヲ取消ス場合ニハ訴ヲ却下スルコトナク事件ヲ管轄裁判所ニ移送スヘキモノトス第三十條ト其趣旨ヲ同クス

第三百九十二條（確定法第三百九十一條） — 控訴判決ト一審判決ノ引用 —

〔理 由〕本條ハ現行法第四百三十條ニ相當スル規定ニシテ控訴審ニ於ケル判決ノ事實ノミナラス理由ニ付テハ第一審判決ヲ引用スルコトヲ得ヘキ旨ヲ規定ス

第三百九十三條（確定法第三百九十二條） — 控訴完結後ノ記録ノ處置 —

〔理 由〕本條ハ現行法第四百三十一條第二項ニ相應ス、現行法ハ訴訟完結ノ後控訴判決ノ確定ヲ俟タスシテ訴訟記録ヲ第一審裁判所ノ書記ニ返還スヘキ旨ヲ規定スレトモ本條ハ控訴判決又ハ第三百七十一條ノ命令確定シタル後ニ於テ始テ訴訟記録ヲ第一審裁判所ノ書記ニ送付スヘキ旨ヲ規定ス蓋シ前示ノ裁判ニ不服ノ申

立アリタル場合ニハ控訴裁判所ヨリ直接上告裁判所ニ訴訟記録ヲ送付スルコトヲ得ルモノトシ以テ手續ノ簡易ナランコトヲ計リタルモノトス

第二章 上 告

本章ニ於ケル改正ノ主要ナルモノハ上告ノ制限アルノ

第三百九十四條（確定法第三百九十三條） — 上告ノ目的タル判決 —

〔理 由〕第一項ハ現行法第四百三十條ト其ノ趣旨ヲ同シクス、第三項ハ當事者カ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ控訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ爲シタル場合ニ第一審判決ニ對シ直ニ上告ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ定ム當然ノ規定ナリ
第一項ニ第三百六十條第一項ニ於ケルカ如ク但書ノ規定ヲ設ケサリシハ上告ニ付テハ上告ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ許ササルノ趣旨ナリトス

第三百九十五條（確定法第三百九十四條） — 上告提起ノ要件 —

〔理 由〕本條ハ現行法第四百三十四條ト其ノ趣旨ヲ同

シクス

第三百九十六條 (確定法第三百九十五條) | 法令ニ違背シタル判決 |

〔理 由〕現行法第四百三十六條ト略其ノ趣旨ヲ同シク
ス唯本條第一項第三號ハ現行法第四百三十六條第四號
ト稍趣ヲ異ニセリ即チ現行法ハ原判決力管轄ノ規定ニ
違背セル總テノ場合ニ付上告ヲ認メタルニ拘ラス本案
ハ原判決力專屬管轄ノ規定ニ違背セル場合ニ限リ上告
ヲ認メタリ蓋シ本案ニ於テハ原判決力不當ニ管轄ヲ認
メタル場合ニハ專屬管轄ニ關セサル限リ上訴ヲ認メス
(第三百八十二條)又原裁判所力不當ニ管轄違ヲ認メ
事件ヲ他ノ裁判所ニ移送シタル場合ニモ移送ノ裁判ニ
對シテ即時抗告ヲ認ムルヲ以テ(第三十三條)結局此
等ノ場合ニハ上告ハ許容セラレサルヘキナリ

第三百九十七條 (確定法第三百九十六條) | 上告及上告審ノ手續ト準用規定 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百四十四條ト略同趣旨ナリ

第三百九十八條 | 上告理由書ノ提出期間 |

〔本條ハ確定法ト異ナル處アルヲ以テ掲出ス〕

上告狀ニ上告ノ理由ヲ記載セザルトキハ運グトモ上告
期間満了ノ日ヨリ三十日內ニ上告理由書ヲ提出スルコ
トヲ要ス

〔理 由〕本條ハ新設ノ規定ニシテ第三百九十九條ト共
ニ上告理由書ニ關スル事項ヲ規定ス蓋シ上告審ハ専ラ
法律上ノ判斷ヲ爲スモノニシテ應當事者ノ提出シタル
書面ニ基キテ審理ヲ爲スヲ以テ便宜ト爲スコトアリ本
案ハ第四百一條ニ於テ上告審ニ付書面審理ヲ認メタル
結果本條及次條ニ於テ上告理由書ニ關スル規定ヲ新設
シタルモノトス

第三百九十九條 | 上告理由書不提出ノ效果 |

〔理 由〕本條ハ前述セル如ク前條ト共ニ上告理由書ニ
關スル規定ナリトス特ニ説明スヘキモノナシ

第四百條 | 答辯書提出ノ命令 |

〔理 由〕本案ハ前述セル如ク上告審ニ付書面審理ヲ認
メタル結果特ニ本條ニ於テ答辯書ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第四百一條 | 上告棄却ノ判決 |

〔理 由〕本條ハ上告審ニ於ケル書面審理ノ規定ナリト

ス

第四百二條 | 上告審査ノ範圍 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百四十五條ニ相當ス特ニ説
明スヘキモノナシ

第四百三條 | 原審確定ノ事實ノ羈束力(一) |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百四十六條ト其ノ趣旨ヲ同
シクス

第四百四條 | 原審確定ノ事實ノ羈束力(二) |

〔理 由〕本條ハ當事者カ上告ヲ爲ス權利ヲ留保シテ控
訴ヲ爲ササル旨ノ合意ヲ爲シタル場合ニ當事者カ第一
審判決ニ對シ上告ヲ爲シタルトキハ上告裁判所ハ第一
審裁判所力不適法ニ確定シタル事實ニモ絕對ニ羈束セ
ラルルコトヲ規定ス、蓋シ當事者カ既ニ控訴ヲ爲ササ
ル合意ヲ爲シタル以上第一審裁判所ノ判定シタル事實
ハ絕對的ニ確定シタルモノト解セサルヘカラサルナリ

第四百五條 | 原審確定ノ事實ノ羈束力(三) |

〔理 由〕本條ハ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ付テハ上
告裁判所へ前三條ノ規定ノ制限ヲ受クルコトナク原判

決ノ當否ヲ審理スルコトヲ得ル旨ヲ規定ス

第四百六條 | 原判決ニ對スル假執行ノ宣言 |

〔理 由〕本條ハ本案第三百七十六條ニ相應スル規定ナ
リトス上告裁判所ハ法律審ナルヲ以テ或ハ假執行ノ宣
言ヲ爲スコト能ハサルヤノ疑ヲ生スルコトナシトセス
是レ特ニ本條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリトス

第四百七條 | 差戻又ハ移送ノ判決ト其ノ效力 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百四十八條及第四百五十條
ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百八條 | 上告裁判所ノ自列スヘキ場合 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百五十一條ト略同趣旨ナリ
原判決力專屬管轄ノ規定ニ違背セル場合ニハ上告裁判
所ハ第三百九十一條ノ規定ニ依リ事件ヲ管轄裁判所ニ
移送スヘキモノトス是レ特ニ現行法第四百五十一條第
二號後段ノ如キ規定ヲ設ケサリシ所以ナリトス

第四百九條 | 差戻又ハ移送ト記録ノ送付 |

〔理 由〕本條ハ差戻又ハ移送ノ判決アリタル場合ニ於
ケル訴訟記録ノ處理ニ關スル規定ナリトス

第三章 抗 告

本章ニ於テハ抗告ノ手續ヲ簡易ナラシメタル外特ニ著キ改正ヲ爲シタルモノナシ

第四百十條 | 抗告ノ目的タル裁判(一) |

〔理 由〕本條ハ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ現行法第四百五十五條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百十一條 | 抗告ノ目的タル裁判(二) |

〔理 由〕本條ハ新設ノ規定ナリ判決ヲ爲スヘキ事項ニ付決定若ハ命令ヲ爲シタル場合ニ當事者カ右ノ裁判ニ對シ控訴上告ヲ爲スヘキヤ或ハ抗告ヲ爲スヘキヤハ疑ナキニ非ス是レ本條ヲ設ケタル所以ナリトス

第四百十二條 | 抗告ノ目的タル裁判(三) |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百六十五條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス
本條ニ於テ書記ノ處分ノ變更ニ付何等規定スル所ナカ
リシハ第二百六條ノ規定新設セラレタルカ爲ナリトス
第三項ノ規定ヲ設ケタルハ大審院ノ裁判ニ對シテハ抗

告ヲ爲スコト能ハス從テ第一項ノ規定ノ適用ヲ見ルコト能ハサルヘキヲ以テナリ

第四百十三條 | 再抗告ト其ノ理由 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百五十六條ノ規定ニ相應スルモノナレトモ右ノ規定ト其ノ趣旨ヲ異ニシ抗告裁判所ノ決定カ法令ニ違背シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ再抗告ヲ許スコトトセリ蓋シ上告ノ場合ト其ノ取扱チ一致セシメタルモノトス

第四百十四條 | 抗告及抗告審ニ準用スヘキ規定 |

〔理 由〕抗告ニ付テハ其ノ性質ニ反セサル限リ控訴ノ規定ヲ準用シ又再抗告ニ付テ均シク上告ノ規定ヲ準用スルヲ相當トス仍テ新ニ本條ヲ設ケテ其ノ趣旨ヲ明ニシタリ

第四百十五條 | 即時抗告ノ期間 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百六十六條第二項ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百十六條 | 抗告ノ方式 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百五十七條及第四百六十一

條ニ相應スル規定ナリトス

現行法ニ於テハ抗告ハ原裁判所ニ抗告狀ヲ提出シテ之ヲ爲スチ原則トシ特別ノ場合ニ限り抗告裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得セシメ又口頭ニ依ル抗告ヲ許ササレトモ本案ハ此等ノ制限ヲ撤廢シタリ

第四百十七條 | 抗告ヲ受ケタル原裁判所ノ職責 |

〔理 由〕現行法第四百五十九條ト其ノ趣旨ヲ異ニスル所ナシ

第四百十八條 | 抗告ト執行停止ノ效力 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百六十條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

現行法ハ各條ニ付即時抗告ノ效力ヲ規定スレトモ本案ハ本條ニ於テ一般的ニ即時抗告ノ效力ヲ規定セリ

第四百十九條 | 抗告ト審理ノ方法 |

〔理 由〕本條ハ現行法第四百六十二條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス
決定ヲ以テ完結スヘキ事件ニ付テ裁判所口頭辯論ヲ爲スヘキカ否カヲ定ムルコトヲ得ヘキハ第二百二十五條ノ規定スル所ナルヲ以テ現行法第四百六十二條第一項ノ

如キ規定ハ其ノ要ヲ見ス第二百二十五條第二項ノ規定ハ當事者ヲ審訊スルコトヲ得ル旨ヲ規定スルニ止マルヲ以テ本條ハ抗告裁判所ニ於テ特ニ當事者以外ノ利害關係人ヲモ審訊スルコトヲ得ル旨ヲ規定ス

第四編 再 審

本編改正ノ要綱ハ取消ノ訴及原狀回復ノ訴ノ別ヲ廢シタルコト、再審ノ訴ノ原因ニ付多少ノ修正ヲ加ヘタルコト、即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定又ハ命令ノ確定シタル場合ニ付廣ク再審ノ規定ヲ設ケタルコト等ニ存ス

第四百二十條 | 再審ノ訴ヲ提起シ得ル場合(一) |

〔理 由〕第一項及第二項ハ大體ニ於テ現行法第四百六十七條乃至第四百七十條ニ該當スル規定ニシテ第三項ハ現行法第四百七十一條ニ該當スル規定ナリトス
現行法ニ於テハ再審ニ付取消ノ訴及原狀回復ノ訴ノ兩者ヲ區別シタレトモ此ノ區別ハ之ヲ認ムルノ實益存セサルヲ以テ本案ニ於テハ之ヲ廢止セリ
本條ニ於テ認メラレタル再審ノ訴ノ事由ハ現行法第四百六十八條ニ於テ認メラレタル取消ノ訴ノ事由、第四

百六十九條ニ於テ認メラレタル原狀回復ノ訴ノ事由ト略其ノ撰チ一ニス唯現行法第四百六十九條第一項第四號ニ掲ケルモノノ外宣誓シタル當事者又ハ法定代理人ノ虚偽ノ陳述カ判決ノ證據ト爲リタル場合ヲ加ヘ(第七號)同第五號ニ掲ケルモノノ外判決ノ基礎ト爲リタル刑事上ノ判決以外ノ裁判及行政處分カ變更セラレタルトキニモ亦之ヲ再審ノ事由ト爲シ(第八號)又判決ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル事項ニ付裁判ヲ遺脱シタルトキ(第九號)ヲ新ニ再審ノ事由ト爲シタル如キハ本案ト現行法トノ相違ノ重ナル點ナリトス

第三項ハ既ニ控訴審ニ於テ本案ノ裁判アリタル以上ハ第一審判決ノ瑕瑾ハ控訴審ニ於テ補正セラレタルモノト認ムヘキヲ以テ右ノ判決ニ對シテハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サル旨ヲ規定ス

第四百二十一條 —再審ノ訴ヲ提起シ得ル場合(二)—

〔理由〕本條ハ判決カ他ノ裁判ニ根據セル場合ニ其ノ裁判ニ付再審ノ事由存スルトキハ之ニ對シ再審ノ訴ヲ爲スコトナクシテ直ニ當該ノ判決ニ對シ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定ス

本條ハ現行法第四百七十一條ニ規定セルカ如キ制限ヲ設ケルコトナシ

第四百二十二條 —再審ノ管轄—

〔理由〕本條ハ再審ノ訴ノ管轄ニ關スル規定ニシテ現行法第四百七十二條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第一項ニ付テハ特ニ説明スヘキモノナシ

第二項ハ同一事件ニ關スル控訴審及上告審ノ判決ニ付再審ノ事由アルカ如キ場合ニハ其ノ再審ノ訴ハ上告裁判所併セテ之ヲ管轄スヘキ旨ヲ規定ス

假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令カ確定シタル場合ニハ本案第四百二十九條ノ適用アリ從テ本條ニ於テハ現行法第四百七十二條第三項ノ如キ規定ヲ設ケス

第四百二十三條 —再審手續ト準用規定—

〔理由〕本條ハ現行法第四百七十三條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百二十四條 —再審ノ訴提起ノ期間(一)—

〔理由〕本條ハ現行法第四百七十四條第一項乃至第三項ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百二十五條 —再審ノ訴提起ノ期間(二)—

〔理由〕本條ハ現行法第四百七十四條第四項ニ該當ス

代理權ノ欠缺セル場合及判決ノ抵觸セル場合ニハ判決自體ハ絕對ニ其ノ效力ヲ有セシムヘキモノニ非サルヲ以テ再審ノ訴ノ提起ニ付期間ヲ設ケザリシナリ

第四百二十六條 —再審ノ訴狀ノ要件—

〔理由〕本條ハ現行法第四百七十五條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス(訴狀カ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ作ラルヘキハ本案第四百二十三條ノ規定ノ趣旨ニ照シ明ナリトス)

第四百二十七條 —再審本案ノ審判ノ範圍—

〔理由〕第一項ハ現行法第四百七十九條ト其ノ趣旨ヲ同シクス第二項ハ不服ノ理由ノ變更シ得ヘキ旨ヲ規定ス故ニ初ニ第四百二十條各號ニ設ケル一若ハ二以上ノ事由ニ基キ再審ノ訴ヲ提起シ其ノ後ニ至リ他ノ事由ヲ附加シ又ハ他ノ事由ヲ以テ前ノ事由ニ代フルコトハ毫モ妨ケナシ蓋シ再審ノ訴ハ確定判決ヲ變更スヘキ最後ノ手段ナルカ故ニ此ノ種ノ規定ヲ設ケタルモノトス

第四百二十八條 —再審ノ訴ヲ却下スヘキ場合—

〔理由〕本條ハ再審ノ訴カ理由アル場合ニ於テモ當該

第五編 督促手續

第四百二十九條 —決定命令ニ對スル再審—

〔理由〕本條ハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル決定又ハ命令カ確定シタル場合ニ於テ確定判決ノ場合ニ準シ再審ノ申請ヲ爲シ得ヘキ旨ヲ規定ス

第四百三十條 —督促手續ノ要件—

本編ニ於テ申請者カ反對給付ヲ爲スニ非サレハ其ノ請求ヲ主張スルコト能ハサル場合ニモ亦支拂命令ノ申請アリタルコト、支拂命令ニ對シ適法ナル異議ノ申立アリタルトキハ其ノ請求カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テモ當然該地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做シタルコト、支拂命令ニ對シ異議ノ申立ナク且債權者カ一定ノ期間内ニ假執行ノ申立ヲ爲ササルトキハ支拂命令ハ其ノ效力ヲ失フモノト爲シタルコト等ハ現行法改正ノ主要ナル點ナリトス

〔理由〕本條ハ現行法第三百八十二條ト略同趣旨ナ

リ、唯申請者カ反對給付ヲ爲スニ非サレハ其ノ請求ヲ主張スルコト能ハサル場合ニ於テモ廣ク支拂命令ノ申請ヲ許シタル點ニ於テ稍其ノ趣旨ヲ異ニセルノミ

第四百三十一條 — 督促手續ノ管轄 —

〔理 由〕本條ハ現行法第三百八十三條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百三十二條 — 支拂命令ノ申立ト訴ノ規定 —

〔理 由〕本條ハ支拂命令ノ申立ニ付其ノ性質ニ反セサル限リ訴ニ關スル規定ヲ準用スル旨ヲ規定シタルモノニシテ其ノ結果現行法第三百八十四條ノ規定ハ其ノ必要ナキニ至リタルモノトス

第四百三十三條 — 支拂命令ノ申立ノ却下 —

〔理 由〕本條ハ現行法第三百八十五條ト略同一ノ趣旨ナリ支拂命令ノ申立カ訴狀ニ準スヘキ要件ヲ具備セサル場合ニハ第二百二十八條ノ準用アルヘキヲ以テ本條ニハ此ノ點ニ付特ニ規定ヲ設クルコトナシ

第四百三十四條 — 支拂命令ノ裁判及異議申立 —

〔理 由〕本條ハ次條ト共ニ現行法第三百八十六條ニ該

當ス

第四百三十五條 — 支拂命令ニ掲グヘキ要件 —

〔理 由〕本條ハ前條ト共ニ現行法第三百八十六條ニ該當スル規定ニシテ其ノ趣旨ニ於テ現行法ト異ナル所ナシ

本條所定ノ期間ハ第五百十八條ノ規定ニ依リテ之ヲ伸縮スルコトヲ得ヘキカ故ニ本條ニ於テハ現行法第三百八十六條第三項ノ如キ規定ヲ設クルノ要ナシ

第四百三十六條 — 支拂命令ノ送達 —

〔理 由〕本條ハ現行法第三百八十七條ト略其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百三十七條 — 異議ノ申立ト其ノ效力 —

〔理 由〕本條ハ現行法第三百八十九條ト其ノ趣旨ヲ同シクス

第四百三十八條 — 支拂命令ト假執行ノ宣言 —

〔理 由〕本條ハ現行法第三百九十三條ト其ノ趣旨ヲ同シクス唯本案ニ於テハ執行命令ノ名稱ヲ廢止シタリ

第四百三十九條 — 支拂命令ノ失効 —

〔理 由〕本條ハ新設ノ規定ナリ蓋シ債務者カ支拂命令ニ對シ異議ノ申立ヲ爲サス而モ債權者カ假執行宣言ノ申立ヲ爲スコトナクシテ一定ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テハ最早支拂命令ノ效力ヲ存續セシムルノ必要ナキヲ以テ本條ニ依リ其ノ效力ヲ失フモノタルコトヲ明ニシタリ

第四百四十條 — 異議申立權ノ喪失 —

〔理 由〕本條ハ新設ノ規定ナリ本條ニ依レハ假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令ニ對シテハ其ノ送達ノ日ヨリ二週間内ニ限リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

第四百四十一條 — 不適法ナル異議ノ却下 —

〔理 由〕本條ハ現行法第三百九十四條後段及第三百九十五條ニ相應スル規定ナリトス

第四百四十二條 — 適法ナル異議申立ノ效力 —

〔理 由〕第一項前段ハ支拂命令又ハ假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令ニ對シ適法ナル異議ノ申立アリタルト

キハ異議アル請求ニ付支拂命令申立ノ時ニ於テ夫々區裁判所又ハ地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做ス旨ヲ規定ス
第二項ハ前項ノ規定ニ依リテ地方裁判所ニ訴ノ提起アリタルモノト看做サレタル場合ニ於ケル訴訟記録ノ處理方法ヲ定ム

第四百四十三條 — 異議申立ナキ支拂命令ノ效力 —

〔理 由〕本條ハ假執行ノ宣言ヲ附シタル支拂命令カ確定シタル場合ニ確定判決ト同一ノ效力ヲ有スル旨ヲ規定ス

本案ハ第一編乃至第五編ノ改正ヲ目的トシタルモノニシテ第五百十二條以下ノ規定ノ修正ハ第一編乃至第五編ノ改正ニ伴フ整理ノ意味ニ於ケルモノニ過キス特ニ説明スヘキモノナシ

書庫

昭和四年十一月二十八日 印刷
昭和四年十二月二日 發行
昭和七年十月十八日 五版

判決總攬・續民事訴訟法(奥附)

正價金八圓五十錢



編輯者 半田 健次郎

發行者 名古屋市東區關鍛冶町二丁目五番地
半田 正一

印刷者 名古屋市東區關鍛冶町二丁目五番地
判決例調査所印刷部
半田 賢一

發賣元

東京市本郷區
駒込淺嘉町五〇

電話小石川六三六八番
振替東京二四八九九番

酒井書店

取次店

東京神田
一橋通町 有斐閣

東京神田
朝鮮京城 巖松堂

大阪北區
會根崎 大同書院

發行所

名古屋市東區
關鍛冶町二丁目

電話東(4)區二二三二番
振替名古屋五九二番

判決例調査所

判例調查查所發行書目

判 決 總 攬 續 民 事 訴 訟 法	判 決 總 攬 民 事 訴 訟 法	判 決 總 攬 續 刑 法	判 決 總 攬 刑 法	判 決 總 攬 第 二 續 商 法	判 決 總 攬 續 商 法	判 決 總 攬 商 法	判 決 總 攬 第 二 續 民 法	判 決 總 攬 續 民 法	判 決 總 攬 民 法
版三	版三	版六	版七	版九	版五	版三	版三	版五	版五
金八圓五十錢	金四圓八十錢	金六圓五十錢	金二圓五十錢	金六圓五十錢	金六圓八十錢	金三圓五十錢	金十一圓	金六圓五十錢	金四圓五十錢
送料	送料	送料	送料	送料	送料	送料	送料	送料	送料
△七十五錢	△六十三錢	△六十三錢	△四十九錢	△六十三錢	△六十三錢	△四十九錢	△七十五錢	△六十三錢	△六十三錢

◎判決總攬

送料
 ◎印八內地
 △印八臺灣滿樺